新東京国際空港
埋蔵文化財発掘調査報告書XII

―十余三稲荷峰西遺跡（空港No.68遺跡）―

平成12年3月

新東京国際空港公団

財団法人　千葉県文化財センター

新東京国際空港
埋蔵文化財発掘調査報告書XII

—十余三稲荷峰西遺跡（空港No.68遺跡）—

序　文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県文化財センター調査報告第386集として、新東京国際空港公団の新東京国際空港建設事業に伴って実施した成田市十余三稲荷峰西遺跡（空港№68遺跡）の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、旧石器時代の多量の石器群や、縄文時代早期の土器群が出土するなど、この地域の旧石器時代から縄文時代の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また郷土の歴史を理解するための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成12年３月31日

財団法人千葉県文化財センター
理事長　中村　好成

凡　例

1　本書は、新東京国際空港公団による新東京国際空港建設に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書である。

2　本書に収録した遺跡は、千葉県成田市十余三稲荷峰151ほかに所在する十余三稲荷峰西遺跡（空港No.68遺跡）＜遺跡コード211-022＞である。

3　発掘調査から報告書作成に至る業務は、新東京国際空港公団の委託を受け、千葉県教育委員会の指導のもとに、財団法人千葉県文化財センターが実施した。

4　発掘調査及び整理作業の担当者、実施期間は、本文中に記した。

5　本書の執筆分担は以下のとおりである。

主任研究員　宮　重行　第1章第2節1、第3章第2節1・2、第4章、第5章第2・3節

室　　長　麻生正信　第1章第1節、第3章第1節

技　　師　永塚俊司　第1章第2節2、第2章、第3章第2節3、第5章第1節

6　発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁生涯学習部文化課、成田市教育委員会、（財）千葉県史料研究財団石橋宏克氏、盛岡市教育委員会神原雄一郎氏、（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、法政大学大学院米田　寛氏から多くの御協力・御指導をいただいた。

7　本書で使用した地形図は下記のとおりである。

第1図　国土地理院発行　1/25,000地形図　「新東京国際空港」（N1-54-19-10-1）

「成田」（N1-54-19-10-3）

第2図　新東京国際空港公団発行　1/2,500　新東京国際空港平面図5・8

8　周辺地形航空写真は京葉測量株式会社による昭和55年撮影のものである。

9　本書で使用した図面の方位は、すべて座標北である。

10　本書で呼称した遺構番号は、編集の都合上、調査時の番号と異なる。新番号は本文中に併記した。

本文目次

第1章　はじめに……1
　第1節　調査の概要……1
　　1　調査の経緯と経過……1
　　2　調査の方法……3
　第2節　遺跡の位置と環境……4
　　1　遺跡の位置と地理的環境……4
　　2　層序区分……7
第2章　旧石器時代……10
　第1節　第1文化層……10
　第2節　第2文化層……44
　第3節　第3文化層……51
　第4節　石器集中地点外の出土遺物……56
第3章　縄文時代……67
　第1節　遺構とその出土遺物……67
　　1　竪穴状遺構……67
　　2　土坑……67
　　3　炉穴……71
　　4　陥穴……73
　第2節　グリッド出土遺物……80
　　1　土器……80
　　(1) 分類……80
　　(2) 出土状況……80
　　(3) 各群の土器……80
　　2　土製品……110
　　3　石器……113
　　(1) 石器集中地点……113
　　(2) 石器集中地点以外の出土石器……129
　　(3) 礫石器……129
第4章　中・近世……137
　第1節　遺構とその出土遺物……137
　　1　炭窯……137
　　2　炭焼遺構……137
　　3　溝状遺構……137

第５章　まとめ……141
第１節　旧石器時代……141
第２節　縄文時代……142
第３節　中・近世遺構……143

挿図目次

第１図　調査区……1
第２図　グリッド呼称図……2
第３図　確認グリッドと下層本調査範囲……3
第４図　遺跡周辺地形図……5
第５図　基本層序……8
第６図　文化層別の石器集中地点……10
第７図　石器集中１の集中域と主要石器……12
第８図　石鏃集中１　出土状況……13
第９図　石器集中１　出土石器（１）……14
第10図　石器集中１　出土石器（２）……15
第11図　石器集中１　出土石器（３）……16
第12図　石器集中１　出土石器（４）……17
第13図　石器集中１　出土石器（５）……18
第14図　石器集中１　出土石器（６）……19
第15図　石器集中１　出土石器（７）……20
第16図　石器集中１　出土石器（８）……21
第17図　石器集中１　出土石器（９）……22
第18図　石器集中２の集中域と主要石器……24
第19図　石器集中２　出土状況……25
第20図　石器集中２　出土石器（１）……26
第21図　石器集中２　出土石器（２）……27
第22図　石器集中２　出土石器（３）……28
第23図　石器集中２　出土石器（４）……29
第24図　石器集中２　出土石器（５）……30
第25図　石器集中２　出土石器（６）……31
第26図　石器集中２　出土石器（７）……32
第27図　石器集中２　出土石器（８）……33
第28図　石器集中２　出土石器（９）……34
第29図　石器集中２　出土石器（10）……35
第30図　石器集中２　出土石器（11）……36
第31図　石器集中２　出土石器（12）……37
第32図　石器集中２　出土石器（13）……38
第33図　石器集中２　出土石器（14）……39
第34図　石器集中２　出土石器（15）……40
第35図　石器集中２　出土石器（16）……41
第36図　石器集中12　出土石器……43
第37図　焼土集中地点……43
第38図　石器集中３　出土状況……45
第39図　石器集中３　出土石器（１）……46
第40図　石器集中３　出土石器（２）……47
第41図　石器集中３　出土石器（３）……48
第42図　石器集中４　出土状況……49
第43図　石器集中４　出土石器……50
第44図　石器集中５　出土状況と出土石器……52
第45図　石器集中６　出土状況と出土石器……53
第46図　石器集中９　出土状況と出土石器……54
第47図　石器集中７・８・10・11　出土石器……55
第48図　石器集中13　出土状況と出土石器……57
第49図　石器集中地点外　出土石器……58
第50図　縄文時代以降の遺構配置図……65
第51図　竪穴状遺構と出土遺物……68
第52図　土坑と出土遺物……70
第53図　炉穴と出土遺物……72
第54図　１号～９号陥穴……75
第55図　10号～16号陥穴……77
第56図　17号～20号陥穴と陥穴出土遺物……79
第57図　グリッド出土土器分布図（１）……81
第58図　グリッド出土土器分布図（２）……82
第59図　グリッド出土　第Ⅰ・Ⅱ群土器……83
第60図　グリッド出土　第Ⅲ群土器（１）……89

第61図　グリッド出土　第Ⅲ群土器（2）……90
第62図　グリッド出土　第Ⅲ群土器（3）……91
第63図　グリッド出土　第Ⅲ群土器（4）……92
第64図　グリッド出土　第Ⅲ群土器（5）……93
第65図　グリッド出土　第Ⅲ群土器（6）……94
第66図　グリッド出土　第Ⅲ群土器（7）……95
第67図　グリッド出土　第Ⅲ群土器（8）……96
第68図　グリッド出土　第Ⅲ群土器（9）……97
第69図　グリッド出土　第Ⅲ群土器（10）……98
第70図　グリッド出土　第Ⅲ群土器（11）……99
第71図　グリッド出土　第Ⅳ群土器（1）……103
第72図　グリッド出土　第Ⅳ群土器（2）……104
第73図　グリッド出土　第Ⅳ群土器（3）……105
第74図　グリッド出土　第Ⅳ群土器（4）……106
第75図　グリッド出土　第Ⅴ・Ⅵ群土器 ……108
第76図　グリッド出土　第Ⅶ群土器 ……109
第77図　グリッド出土　第Ⅷ群土器（1）……111
第78図　グリッド出土　第Ⅷ群土器（2）……112
第79図　グリッド出土　土製品 ……112
第80図　剥片石器の分布と器種・石材組成グラフ…114
第81図　石器集中1・3・4・6　出土状況 …116
第82図　石器集中2・5　出土状況 ……117
第83図　石器集中1　出土石器 ……118
第84図　石器集中2　出土石器 ……119
第85図　石器集中3　出土石器（1）……120
第86図　石器集中3　出土石器（2）……121
第87図　石器集中3　出土石器（3）……122
第88図　石器集中4　出土石器（1）……123
第89図　石器集中4　出土石器（2）……124
第90図　石器集中5　出土石器（1）……124
第91図　石器集中5　出土石器（2）……125
第92図　石器集中5　出土石器（3）……126
第93図　石器集中6　出土石器（1）……127
第94図　石器集中6　出土石器（2）……128
第95図　石器集中地点外　出土石器 ……129
第96図　礫石器のグリッド別出土状況 ……130
第97図　礫石器の出土状況 ……131
第98図　出土礫石器（1）……132
第99図　出土礫石器（2）……133
第100図　出土礫石器（3）……134
第101図　炭窯・炭焼遺構……138
第102図　1号溝……139
第103図　2号・3号溝……140
第104図　縄文時代遺構の種別分布図……144

表目次

第1表　石器集中1　器種と石材の構成……11
第2表　石器集中2　器種と石材の構成……42
第3表　石器集中12　器種と石材の構成……42
第4表　石器集中3　器種と石材の構成……44
第5表　石器集中4　器種と石材の構成……44
第6表　石器集中5　器種と石材の構成……51
第7表　石器集中6　器種と石材の構成……51
第8表　石器集中7　器種と石材の構成……56
第9表　石器集中8　器種と石材の構成……56
第10表　石器集中9　器種と石材の構成……56
第11表　石器集中10　器種と石材の構成……56
第12表　石器集中11　器種と石材の構成……56
第13表　石器集中13　器種と石材の構成……56
第14表　石器集中1　観察表……59
第15表　石器集中2　観察表（1）……60
第16表　石器集中2　観察表（2）……61
第17表　石器集中2　観察表（3）……62
第18表　石器集中12　観察表……62
第19表　石器集中3　観察表……62
第20表　石器集中4　観察表……62
第21表　石器集中5　観察表……62
第22表　石器集中6　観察表……63
第23表　石器集中7　観察表……63
第24表　石器集中8　観察表……63

第25表　石器集中９　観察表……63
第26表　石器集中10　観察表……63
第27表　石器集中11　観察表……63
第28表　石器集中13　観察表……63
第29表　石器集中地点外　観察表……63
第30表　縄文時代　剥片石器観察表（１）……135
第31表　縄文時代　剥片石器観察表（２）……136
第32表　縄文時代　礫石器観察表 ……136

図版目次

図版１　遺跡周辺航空写真
図版２　石器集中１出土状況
　　石器集中４出土状況
　　縄文時代遺物包含層出土状況
図版３　石器集中１出土石器
図版４　石器集中２出土石器（１）
図版５　石器集中２出土石器（２）
　　石器集中12出土石器
図版６　石器集中３出土石器
　　石器集中４出土石器
図版７　石器集中５出土石器
　　石器集中６出土石器
　　石器集中７出土石器
　　石器集中８出土石器
　　石器集中９出土石器
　　石器集中10出土石器
　　石器集中11出土石器
　　石器集中13出土石器
　　石器集中地点外出土石器
図版８　１・２号竪穴
　　３・４・６～12号土坑
図版９　１～９号炉穴
　　５～10号陥穴
図版10　11・13～20号陥穴
　　２・３号炭焼遺構、１号溝
図版11　グリッド出土 第Ⅲ群土器（１）
図版12　グリッド出土 第Ⅲ群土器（２）
図版13　グリッド出土 第Ⅲ群土器（３）
　　第Ⅰ・Ⅱ群土器
図版14　グリッド出土 第Ⅲ群土器（４）
図版15　グリッド出土 第Ⅲ群土器（５）
図版16　グリッド出土 第Ⅲ群土器（６）
図版17　グリッド出土 第Ⅲ群土器（７）
図版18　グリッド出土 第Ⅲ群土器（８）
図版19　グリッド出土 第Ⅳ群土器（１）
　　１号竪穴 出土土器
図版20　グリッド出土 第Ⅳ群土器（２）
図版21　グリッド出土 第Ⅳ群土器（３）
図版22　グリッド出土 第Ⅳ群土器（４）
図版23　グリッド出土 第Ⅴ・Ⅵ群土器
　　２号竪穴、土坑・炉穴・陥穴出土土器
図版24　グリッド出土 第Ⅶ群土器
　　第Ⅷ群土器（１）
図版25　グリッド出土 第Ⅷ群土器（２）
　　土製品
図版26　石器集中１出土石器
　　石器集中２出土石器
　　石器集中３出土石器（１）（２）
　　石器集中４出土石器（１）
図版27　石器集中４出土石器（２）
　　石器集中５出土石器（１）
　　石器集中５出土石器（２）
　　石器集中６出土石器
　　石器集中地点外出土石器
図版28　礫石器

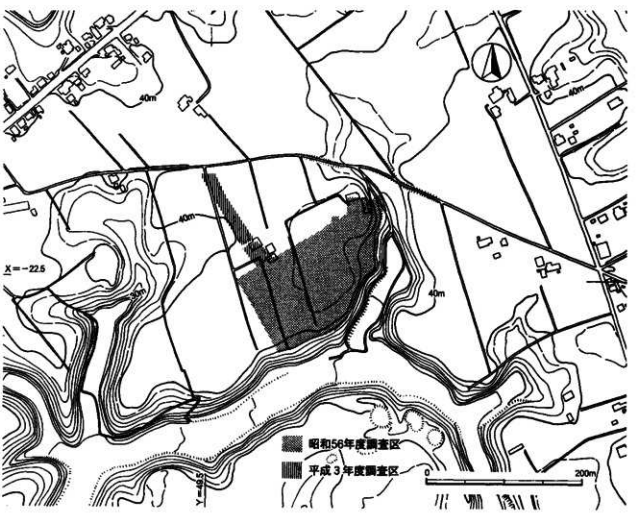
第1章　はじめに

第1節 調査の概要

1 調査の経緯と経過

財団法人千葉県文化財センターでは、新東京国際空港予定地内及び関連事業地内に所在する遺跡について、千葉県教育委員会の指導のもとに、新東京国際空港公団の委託により、昭和51年度から計画的・継続的に発掘調査を実施してきている。また、これらの発掘調査成果の一部は既に11冊までの報告書として刊行されているところである。

今回報告する十余三稲荷峰西遺跡（空港No.68遺跡）については、千葉県教育委員会が新東京国際空港公団と遺跡の取り扱いについて慎重に協議した結果、記録保存の措置がとられることとなった。発掘調査は、本体部分が昭和56年、工事用道路部分が平成３年度に実施され（第１図）、その後年度計画に基づき、昭和60･平成10･11年度にわたって整理作業を実施した。各年度毎の実施内容及び担当職員は次のとおりである。



第1図　調 査 区

（発掘調査）

昭和56年度

調査期間　昭和56年４月１日～昭和57年３月31日

調査対象面積　15,000㎡　確認調査　上層 1,200㎡、下層 1,200㎡

本調査　上層15,000㎡、下層 2,850㎡

調査担当者　調査部長　白石竹雄

班　長　西山太郎

調査研究員　雨宮龍太郎・糸川道行

平成３年度

調査期間　平成３年５月１日～平成３年５月31日

調査対象面積　3,000㎡　確認調査　上層 240㎡、下層 240㎡

本調査　なし

調査担当者　調査研究部長　天野　努

班　長　宮　重行

調査研究員　豊田秀治・四柳　隆

（整理作業）

昭和60年度

作業内容　昭和56年分の水洗・注記から復原まで

整理作業担当者　調査部長　鈴木道之助

班　長　高橋賢一

主任調査研究員　宮　重行

平成10年度

作業内容　昭和56年度分は実測から、平成３年度分については図面整理から原稿執筆の一部まで

整理作業担当者　調査部長　沼澤　豊

東部調査事務所長　三浦和信

室　長　麻生正信

研究員　平野雅一

技　師　永塚俊司

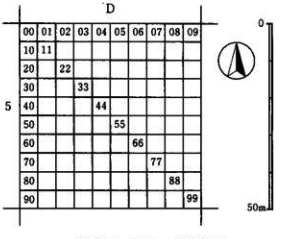
平成11年度

作業内容　原稿執筆の一部から報告書刊行まで

整理作業担当者　調査部長　沼澤　豊

東部調査事務所長　三浦和信

主任研究員　宮　重行



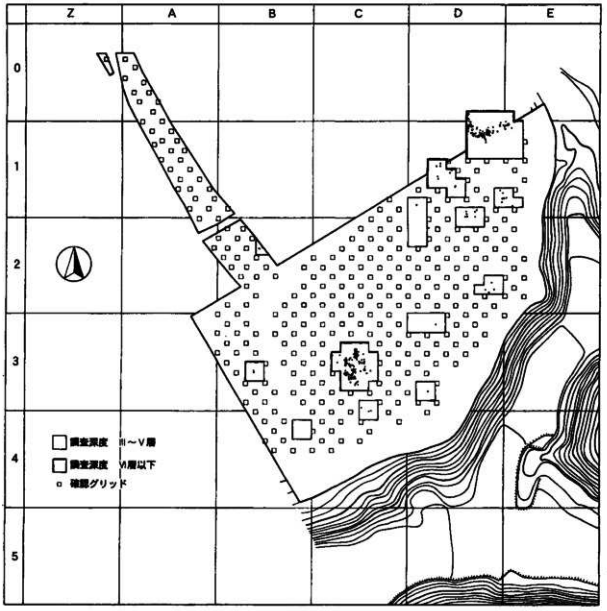
第２図　グリッド呼称図

2　調査の方法

発掘調査を始めるにあたり、調査対象区域に公共座標に合わせて、50m×50mの大グリッドを設定した。さらに、その大グリッド内を５ｍ×５ｍに分割し、100個の小グリッドとした。大グリッドは北から南へ０、１、２、３……、西から東へA、B、C……と記号をつけ、小グリッドについては北から南へ00、10、……、90、西から東へ00、01、……、09と番号をつけ、これ等を組み合わせて呼称することにした（第２図）。

なお、調査時に遺構番号は大グリッド毎に○○イ001の様に通し番号でつけていたが、本書では記載の都合上、遺構の種別ごとにふりなおしている。

調査は、上層・下層確認調査、上層本調査、下層本調査の順に実施した。上・下層とも確認調査は、２ｍ×２ｍのグリッドを基本とし、両年度合わせた対象面積18,000㎡の８％を設定して遺構と遺物の分布を



第３図　確認グリッドと下層本調査範囲

確認し、本調査範囲を決定した。その結果、昭和56年度においては、上層では縄文時代遺物包含層をはじめ、ほぼ全域に遺構の広がりが認められたため、対象面積15,000㎡の全域を本調査し、下層では12か所で石器の出土が認められたため、それらを含む約2,850㎡の本調査を実施した。平成３年度には対象面積3,000㎡の確認調査を行ったが、遺物が若干得られたものの、遺構は検出されず、本調査には至らなかった（第３・50図）。

第２節　遺跡の位置と環境

１　遺跡の位置と地理的環境（第４図、図版１）

千葉県北部の下総台地と呼ばれる広大な洪積台地は、大小の河川の浸食により樹枝状の谷によって深く刻まれており、複雑な地形を呈している。現行政区の成田市の東部に位置する新東京国際空港予定地内の本遺跡もこの下総台地上に位置する。この周辺は、利根川水系と太平洋水系との分水界に位置しており、開析の激しい下流域に比べると、標高40mのあまり開析を受けていない平坦で広い台地が広がるのが大きな特徴となっている。

今回報告する成田市十余三稲荷峰西遺跡（空港No.68遺跡）は、新東京国際空港事業地内に所在する遺跡群の北端部に位置する。利根川水系の根古名川支流である取香川に開析され、堀之内から北へさかのぼる支谷の奥部に南へ舌状に張り出している台地部分にある。また北側に荒海川、東側には尾羽根川の、いずれも根古名川から分かれた川の支谷が入り込んでいる。標高は約40mで、周囲の水田面との比高差は約13mである。小谷を挟んで当遺跡の東側に接し、支谷の最奥部には十余三稲荷峰遺跡（空港No.67遺跡）が位置している。

本遺跡の周辺には多くの遺跡が所在していることが知られており、特に、旧石器時代から縄文時代早期にかけての遺跡が多く見られることが大きな特徴である。

旧石器時代の遺跡では、まず隣接する十余三稲荷峰遺跡（空港No.67遺跡）[1]があげられる。立川ローム Ⅲ層～Ⅸ層中から複数の文化層が検出され、石器集中地点は大小30地点前後で構成される。なかでも、列島随一の資料数を誇る、黒曜石を素材とした稜柱形細石刃石核による細石刃石器群が特記される。十余三稲荷峰遺跡を挟んで東には尾羽根川の支谷に面して十余三稲荷峰東遺跡（空港No.66遺跡）がある。Ⅲ層中から珪質頁岩を主体とした周縁加工により整形された尖頭器を伴う良好な石器群と、稜柱形の細石刃石核が単独で検出されている。同水系をさらに南へ遡ると成田市天神峰奥之台遺跡（空港No.65遺跡）[2]がある。石器群は３つの文化層に分離され、台形様石器を主体とする第Ⅰ文化層（Ⅸ層下部）、珪質頁岩製の大形石刃を素材とする有樋石刃石器群が主体の第Ⅱ文化層（Ⅶ～Ⅵ層）、礫群を伴い切出形ナイフ形石器を主体とする第Ⅲ文化層（Ⅴ～Ⅳ層下部）がある。十余三稲荷峰東遺跡と分水嶺を挟んで、天神峰最上遺跡（空港No.64遺跡）が取香川支谷に面してある。ここでも、Ⅸ層中の局部磨製石斧を伴う台形様石器を主体とした石器群をはじめとして、Ⅲ層中の稜柱形細石刃石器群や尖頭器石器群（有舌尖頭器を伴うが、現在までのところ伴出する土器は見つかっていない）まで、複数の文化層で構成されることが分かっている。

さらに南方へ目を向けると、利根川水系の取香川と太平洋側に注ぐ高谷川の分水嶺上に多くの旧石器時代の石器群を包含する遺跡が見つかっている。そのなかで本遺跡を代表するⅨ層段階の石器群にのみ注目すると、東峰御幸畑西遺跡（空港No.61遺跡）で40地点に及ぶ石器集中地点が環状ブロックを形成する他、東峰御幸畑東遺跡（空港No.62遺跡）、成田市古込遺跡（空港No.14・55・56）[3]で石器集中地点が検出され

1．十余三稲荷峰西遺跡、2．十余三稲荷峰遺跡、3．十余三稲荷東遺跡、4．天神峰奥之台遺跡、5．天神峰最上遺跡、6．東峰西笠峰遺跡
7．取香和田戸遺跡、8．古込遺跡、9．東峰御幸畑西遺跡、10．東峰御幸畑東遺跡、11．一鍬田甚兵衛山遺跡、12．一鍬田甚兵衛山北遺跡
13．一鍬田甚兵衛山南遺跡、14．香山新田新山遺跡、15．香山新田中横堀遺跡、16．木の根拓美遺跡、17．天浪大里遺跡、18．天浪浪丘遺跡
19．台の田遺跡、20．駒井野荒追遺跡、21．駒井野城跡、22．長田砦跡、23．長田和田遺跡、24．野毛平木戸下遺跡、25．野毛平植出遺跡
26．長田雉子台遺跡、27．長田香花田遺跡、28．長田土上台遺跡、29．野毛平古墳群、30．四本木遺跡、31．稲荷峯遺跡

第4図　遺跡周辺地形図

ていることがわかっている。なお、古込遺跡（空港No.55遺跡）の石器群は一括で県指定有形文化財に指定されている。

縄文時代の遺跡としては、ほとんどの遺跡がこの地域特有の縄文土器（早期・前期）の包含層を伴っているものである。取香川水系の遺跡には、まず西接する十余三稲荷峰遺跡[4]があげられる。三戸式を中心とした沈線文系土器と条痕文系土器を伴う多数の住居跡を検出している。南側の天神峰最上遺跡では撚糸文土器を主体とする包含層を検出した。

更に南側、駒井野地区から東へ入る支谷の最奥部には成田市取香和田戸遺跡（空港No.60遺跡）[5]、古込遺跡[6]、東峰御幸畑西遺跡、東峰御幸畑東遺跡がまとまって所在している。取香和田戸遺跡では、類例の少なかった撚糸文期の竪穴住居跡が6軒検出され、住居形態が明らかになった。また焼けた礫群がまとまって出土し、炉穴や集石土坑との関連性がとらえられた。古込遺跡では、沈線文系土器を主体に分布する地区と条痕文系土器を主体とする地区に分かれ、後者の方に石鏃製作跡が存在していた。東峰御幸畑西遺跡では撚糸文期・沈線文期の住居跡、撚糸文系土器と沈線文系土器を主体とする包含層がみられた。東峰御幸畑東遺跡は古込遺跡に隣接しており、古込遺跡同様、条痕文系土器を主体とする包含層が得られている。

高谷川水系では、まず香取郡多古町一鍬田周辺の遺跡群があげられる。一鍬田甚兵衛山遺跡[7]では撚糸文期の住居が検出されている。その東側に接する一鍬田甚兵衛山北遺跡（空港No.11遺跡）[8]では撚糸文期を始めとする早前期の包含層が検出されている。さらに南側に連なる一鍬田甚兵衛山南遺跡（空港No.12遺跡）[9]では草創期隆線文土器が、多数の木葉形や有舌尖頭器とともに出土したことで知られている。山武郡芝山町香山新田新山遺跡（空港No.10遺跡）[10]では、中期初頭の土器を出土した。また多数の陥穴が検出された。香山新田中横堀遺跡（空港No.７遺跡）[11]では、早期前半（撚糸文期）の井草期と子母口期の竪穴住居跡が検出された。撚糸文系土器と沈線文系土器の包含層も検出されている。成田市木の根拓美遺跡（空港No.６遺跡）[12]では、井草式から花輪台式にかけての土器が大量に出土し、住居跡も検出されている。なかでも撚糸文期の沈線文土器に対しては「木の根式」の設定も提唱されている。また撚糸文期の、当時としては日本最古級の土偶が出土したことでも知られている。現在これらの遺物は県指定有形文化財となっている。

取香川の南端部、三里塚に近い地区には成田市天浪大里遺跡（空港No.18遺跡）[13]があり、撚糸文期と田戸上層期の竪穴住居跡が検出された。また天浪浪丘遺跡（空港No.19遺跡）[14]では、田戸上層期の住居跡が検出された。遺物も田戸上層式を中心に早期の土器が得られている。成田市台の田遺跡[15]では撚糸文期の包含層が検出されている。当遺跡西側の取香川に沿った地域では、成田市長田和田遺跡[16]で前期黒浜期・関山期の集落が検出されている。成田市野毛平木戸下遺跡[17]で縄文中期加曽利ＥⅢ期を中心とした住居跡が多数検出されており、集落を形成するものとみられる。野毛平植出遺跡[18]では田戸下層式土器や後期土器が出土した。長田雉子ヶ原遺跡[19]・長田香花田遺跡[20]は加曽利ＥⅢ・Ⅳ期の大規模な集落遺跡である。また長田土上台遺跡[21]では撚糸文期及び条痕文期の包含層が検出されている。

遺跡の北側は調査例が少ないため、明確ではない。荒海川に面しては野毛平古墳群[22]で早・前期の土器が若干出土した他、成田市四本木遺跡[23]で撚糸文系土器を出土している。尾羽根川沿いの成田市稲荷峯遺跡[24]では、早期末から前期初頭の住居跡が多数検出された。土器では田戸下層式、条痕文系土器が主で、前期繊維土器、中期の加曽利Ｅ式土器も出土した。

弥生時代の遺跡は空港予定地内では東峰御幸畑西遺跡・東峰御幸畑東遺跡で後期の集落跡が検出されている。ここは取香川最奥部で、谷の幅も狭く水田には不向きな場所と考えられる。取香川を下った、谷の広くなった地域では、長田和田遺跡で集落跡の検出がある。

古墳時代の遺跡は、弥生時代後期に引き続き、取香川に沿った地域に多く見られる。駒井野地区や野毛平・長田地区には古墳が存在し、集落跡は駒井野荒追遺跡[25]、長田和田遺跡でみつかっている。一方、広く台地の広がる空港事業地内地域では、東峰西笠峰遺跡（空港No.63遺跡）[26]や香山新田中横堀遺跡で住居単独の存在例がある程度で、現在までのところ遺跡の空白地帯に近い状態である。

奈良・平安時代には、一般に集落の規模・数とも増える傾向にあり、取香川流域の駒井野地区や野毛平地区、野毛平木戸下遺跡などでも集落がみつかっている。遺跡南側地域の分水界地帯では取香和田戸遺跡・東峰御幸畑西遺跡・一鍬田甚兵衛山北遺跡などの製鉄遺跡が所在することが特徴で、地域により土地利用に差が認められる。

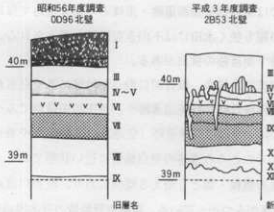
中世では駒井野城や長田砦跡の城郭跡が存在し、周辺に集落も伴っている。近世には、村落地域を除く平坦な台地上は広く牧として利用されている。空港地域は佐倉七牧のうち取香牧・矢作牧がかかっており、当遺跡は矢作牧の一部に当たっている。調査時点ですでに周囲に馬土手は見あたらなかったが、馬土手に伴うと見られる溝跡は東峰西笠峰遺跡をはじめ、各所で検出されており、当時は馬土手が遺跡近辺にも廻っていたと思われる。

2　層序区分（第5図）

本遺跡は昭和56年度の空港本体工事に伴う調査の後、ちょうど10年をあけて平成3年度年に工事用道路のための調査が行われている。その間に下総台地の立川ロームの層序区分には統一的な細分案が提言され[27]、現在に至っている。そのため、前後する調査においてローム層の細分について若干の「ズレ」が生じていることが分かった。すでに刊行されている空港関連の報告書でもこのような「ズレ」の修正が行われているが、ここで同一遺跡内での対比を行い、層名の変更を行う。

第3図に層序区分と層名を示した。旧層序区分と新層序区分と称してその対応関係について述べる。ソフトローム層に相当するⅢ層は新層序区分では下層との境界が顕著な波状を呈しているが、旧層序では波状部の上位の部分で比較的一律な分層がなされている。新層序区分ではⅤ層が認識されているが、旧層序では分層が困難であるためにⅣ・Ⅴ層と呼称し一括している。Ⅵ層は旧層序区分に比較して新層序区分では限定して薄く捉えている。旧Ⅶ層は第2黒色帯として認識されているが、新層序区分における第2黒色帯に相当するⅦ～Ⅸ層と比較して、かなり層厚は薄い。これは先に指摘した上位のⅥ層をかなり厚く抽出していることに原因がある。つまり旧層序区分で厚く捉えたⅥ層の下半部は第2黒色帯上半部（新Ⅶ層）に相当すると考えたい。ここで実際に土層断面図で両者の対応関係を見てみる。まず旧Ⅵ層の上半部に新Ⅵ層を当てると、ちょうど新Ⅷ層は旧Ⅵ層下半部に相当し、新Ⅸａ～ｃ層が旧Ⅶ層に対応することが明らかである。

第2黒色帯以下は、層名の変更だけで層序区分についてはおそらく特に問題はないと考える。



○工事用道路調査地区（平成３年度）

Ⅲ 層　ソフトローム層。

Ⅳ 層　赤色スコリアを含み、全体的に赤み帯びる。

Ⅴ 層　Ⅳ層と比較してやや黒い色調を呈するが、下層のＡＴの拡散により全体的には白み帯びている。第１黒色帯に相当する。

Ⅵ 層　ＡＴ包含層。

Ⅶ 層　ＡＴの拡散によりやや明るい色調であるが、第２黒色帯上半部に相当する。

Ⅸａ層　径10mm前後の黄色の粒子を多量に含む。第２黒色帯下半部上部に相当する。

Ⅸｃ層　黒色、緑色スコリアを含む。Ⅸａ層に見られる黄色の粒子はなく、もっとも黒い色調を呈する。第２黒色帯下半部下部に相当する。

Ⅹ 層　色調の違いにより上下２層に分別できる。武蔵野ロームとの境界は波状を呈する。立川ローム最下層。

Ⅺ 層　武蔵野ローム最上層。黄白色で粘性強、軟質である。

○本体調査部分（昭和56年度）

Ⅰ・Ⅱ層　耕作土、漸移層。

Ⅲ 層　ソフトローム層

Ⅳ・Ⅴ層　第１黒色帯は不明瞭でⅣ層との境界は不明である。

Ⅵ 層　ＡＴ包含層。

Ⅶ 層　第２黒色帯。

Ⅷ 層　立川ローム層最下層。

Ⅸ 層　武蔵野ローム最上層。

第５図　基本層序

注１　森本　和男　1992「コンピュータによる細石器遺跡の分析」「研究連絡誌」第34号　（財）千葉県文化財センター

２　横山　仁　1997「新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅹ 天神峰奥之台遺跡（空港No.65遺跡）」「千葉県文化財センター調査報告」第304集　（財）千葉県文化財センター

３　野口　行雄　1983「新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ No.14遺跡」（財）千葉県文化財センター

４　石橋　宏克　1988「新東京国際空港No.67遺跡出土の三戸式土器」「研究連絡誌」第22号　（財）千葉県文化財センター

５　宮　重行・新田浩三　1994「新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅷ 取香和田戸遺跡（空港No.60遺跡）」「千葉県文化財センター調査報告」第244集　（財）千葉県文化財センター

６　西野　元他　1971「三里塚」「新東京国際空港用地内の考古学的調査」（財）千葉県北総公社
注３文献

７　矢本　節朗　1997「多古町一鍬田甚兵衛山遺跡 刈り草置場埋蔵文化財調査報告書」「千葉県文化財センター調査報告」第305集　（財）千葉県文化財センター

８　新田　浩三　1995「新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅸ 一鍬田甚兵衛山北遺跡（空港No.11遺跡）」「千葉県文化財センター調査報告」第264集　（財）千葉県文化財センター

９　宮　重行他　1985「縄文時代（１）」「房総考古学ライブラリー ３」（財）千葉県文化財センター
鈴木道之助　1976「新東京国際空港No.12遺跡の有舌尖頭器をめぐって」「千葉県文化財センター研究紀要10」（財）千葉県文化財センター

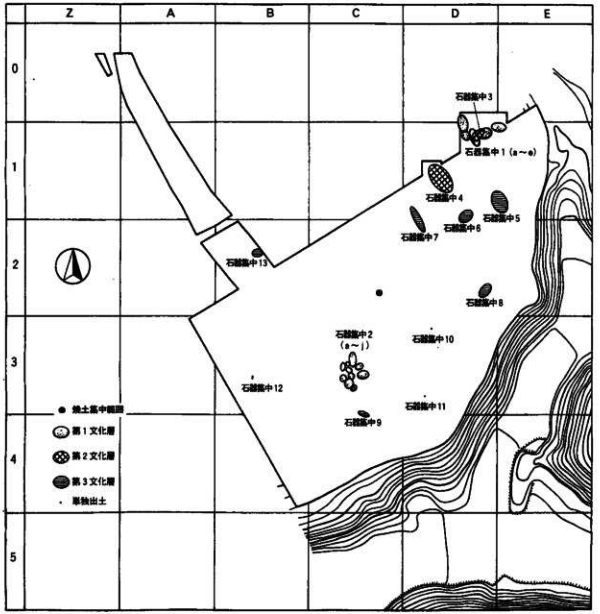
10 川島利道・雨宮龍太朗 1985「新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ No.２遺跡、No.10遺跡」(財)千葉県文化財センター
11 西川 博孝他 1984「新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ No.７遺跡」(財)千葉県文化財センター
12 宮 重行・池田大助他 1981「木の根」(財)千葉県文化財センター
池田大助 1984「北総台地における沈線文土器群の出現 木の根Ⅰ式及びⅡ式土器の提唱」「千葉県文化財センター研究紀要８」 (財)千葉県文化財センター
13 注６西野文献
14 注６西野文献
15 蜂屋孝之・矢本節朗 1995「成田市国際物流複合基地埋蔵文化財調査報告書１ 成田市台ノ田Ⅱ遺跡」「千葉県文化財センター調査報告」第302集 (財)千葉県文化財センター
16 喜多 圭介 1989「千葉県成田市長田和田遺跡 ニュー東京空港ゴルフ場造成地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅰ)」「財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書」第30集 (財)印旛郡市文化財センター
17 喜多圭介他 1990「千葉県成田市野毛平木戸下遺跡・野毛平向山遺跡・野毛平植出遺跡・野毛平千田ヶ入遺跡・長田舟久保遺跡・長田土上台遺跡 ニュー東京空港ゴルフ場造成地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅲ)」「財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書」第32集 (財)印旛郡市文化財センター
18 注17文献
19 喜多 圭介 1989「長田雉子ヶ原遺跡・長田香花田遺跡 ニュー東京空港ゴルフ場造成地内埋蔵文化財調査報告書(Ⅱ)」「財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書」第31集 (財)印旛郡市文化財センター
20 注11文献
21 注17文献
22 斎木 勝他 1985「東関東自動車道埋蔵文化財調査報告Ⅰ 成田地区」(財)千葉県文化財センター
23 注22文献
24 注22文献
25 林田 利之 1993「千葉県成田市駒井野荒追遺跡 マロウドインターナショナルホテル成田建設予定地内埋蔵文化財調査報告書」「財団法人印旛郡市文化財センター発掘調査報告書」第64集 (財)印旛郡市文化財センター
26 平野 雅一 1999「新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅺ 東峰西笠峰遺跡 (空港No.63遺跡)」「千葉県文化財センター調査報告」第363集 (財)千葉県文化財センター
27 鳥立桂・新田浩三・渡辺修一 1992「下総台地における立川ローム層の層序区分」『研究連絡誌』35(財)千葉県文化財センター

第２章　旧石器時代

本遺跡からは、単独出土を含め13地点から石器群が検出された。それらは、大まかに３つの時期に分離される。本報告では、出土層位毎に下層の石器群から第１文化層（Ⅸｃ層～Ⅹ層上部主体）・第２文化層（Ⅵ層主体）・第３文化層（Ⅲ層主体）と呼称し報告を行う。

第１節　第１文化層

第１文化層には石器集中１・２・12が所属する。出土層位の主体はⅨｃ層～Ⅹ層である。石器集中１・２は集中地点内にさらに小さな石器集中域が形成され、その形状が環状を呈するいわゆる「環状ブロック」



第６図　文化層別の石器集中地点

と呼ばれるものである。しかしながら、石器集中１は調査区の北端に当たり、環状ブロックの南半分のみが調査されただけである。集中域は５か所に分離できる。石器集中２は、南北20m・東西16mの南北にやや長い楕円形を呈した範囲に10か所の集中域が広がる。石器集中１も東西長が25mであるので、石器集中２に匹敵するか、ないしはさらに大きな「環状ブロック」を形成していた可能性がある。両石器集中からは、台形様石器・ナイフ形石器をはじめ、スクレイパー・石核・敲石等が出土した。この時期の特徴とされる、局部磨製石斧は検出されなかった。

石器集中12は下層確認グリッドから検出されたもので、これ以上の広がりは見られなかった。

また、石器集中地点から離れた地点において、Ⅸｃ層中から焼土粒の集中地点が一か所検出された。

石器集中１（第７図～17図、第１・14表、図版２・３）

出土状況　調査区の北端、小支谷の最奥部に面する台地縁辺に立地する。石器集中は５つの集中域に視覚的に分離される。集中域は「半環状」を呈し、本来的には「環状ブロック」の南半部を構成していたものと推測される。北半部は調査区外のため未調査である。石器集中の東から西へ集中域ａ～ｅと呼称する。

調査現状で東西15m、南北25mの範囲に集中域が広がり、「環状ブロック」としては少なくとも径約25mクラスのものであったと推定される。各集中域は径５～７mほどの範囲で分布しているが、濃密な分布状況を呈しているとは言い難い。

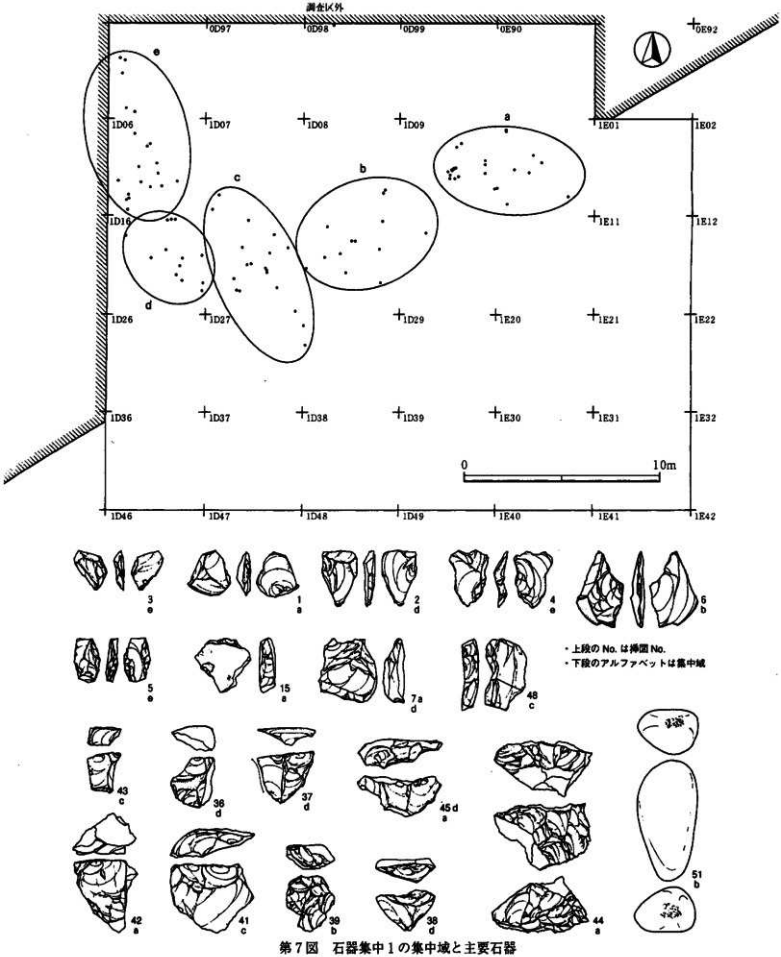
出土層位はⅨｃ層～Ⅹ層（旧Ⅶ～Ⅷ層）で、垂直分布から、中心はⅨｃ層下部に当たると考えられる。

出土石器　台形様石器４点（１～４）、ナイフ形石器１点（６）、スクレイパー４点（７ａ・15・48ａ＋ｂ）、楔形石器１点（５）、使用痕のある剥片６点（８・９・16・27）、剥片61点、砕片１点、石核９点（36～39・41～44・45ｄ）、敲石１点（51）等、

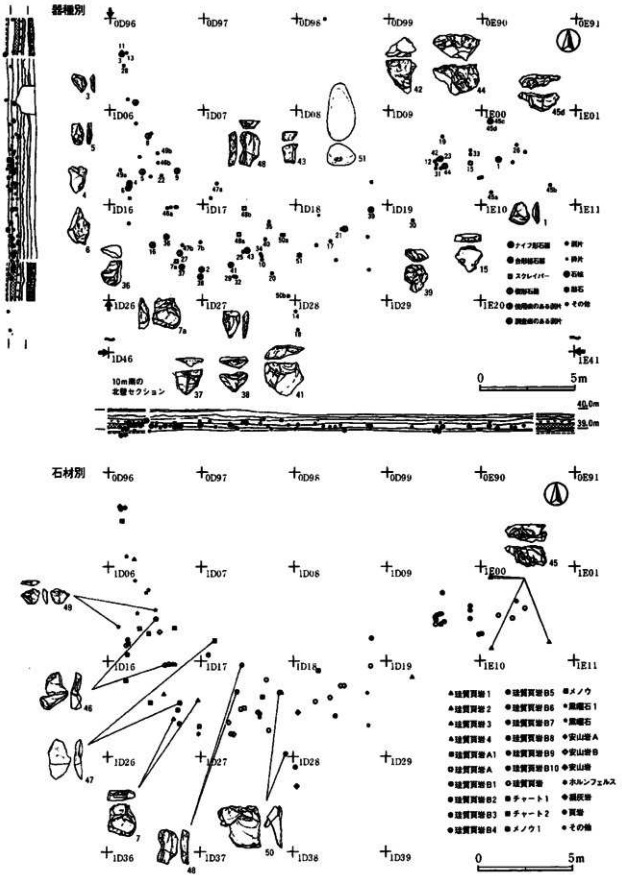
第１表　石器集中１　器種と石材の構成

	ナイフ形石器	台形様石器	スクレイパー	楔形石器	使用痕のある剥片	調整痕のある剥片	剥片	砕片	石核	敲石	その他	合計	組成比
珪質頁岩1							3		1			4	4.44
							14.42		13.39			27.81	3.45
珪質頁岩2			1				1					2	2.22
			23.28				1.90					25.18	3.12
珪質頁岩3							1		1			2	2.22
							1.45		12.07			13.52	1.68
珪質頁岩					1		2					3	3.33
					0.22		27.87					28.09	3.48
珪質頁岩A1							1	1				2	2.22
							1.44	0.10				1.54	0.19
珪質頁岩A									1			1	1.11
									5.29			5.29	0.66
珪質頁岩B1							4					4	4.44
							46.88					46.88	5.82
珪質頁岩B2							3					3	3.33
							15.09					15.09	1.87
珪質頁岩B3			2									2	2.22
			13.62									13.62	1.69
珪質頁岩B4							4					4	4.44
							18.98					18.98	2.36
珪質頁岩B5							1		2			3	3.33
							4.80		109.51			114.31	14.18
珪質頁岩B6							2					3	3.33
							4.30		9.50			13.80	1.71
珪質頁岩B7					1		1					2	2.22
					5.10		3.69					8.79	1.09
珪質頁岩B8							2					2	2.22
							11.30					11.30	1.40
珪質頁岩B9		2										2	2.22
		6.86										6.86	0.85
珪質頁岩B10			1				4					5	5.56
			13.56				10.53					24.09	2.99
珪質頁岩B	1	1				1	10		1			14	15.56
	7.73	5.69				1.21	83.19		16.38			114.50	14.21
チャート1					1		2					3	3.33
					7.88		12.07					19.95	2.48
チャート2					1		3					4	4.44
					1.62		13.31					14.93	1.85
メノウ1		1		1								2	2.22
		5.70		3.12								8.82	1.09
メノウ							2					2	2.22
							13.57					13.57	1.68
黒曜石1					1		6					7	7.78
					0.61		6.50					7.11	0.88
黒曜石							1					1	1.11
							0.34					0.34	0.04
安山岩A							1					1	1.11
							10.21					10.21	1.27
安山岩B							3		1			4	4.44
							43.40		32.62			76.02	9.43
安山岩							1					1	1.11
							19.54					19.54	2.42
ホルンフェルス							1		1			2	2.22
							1.06		8.98			10.01	1.24
凝灰岩							1			1		2	2.22
							3.90			109.86		113.76	14.11
頁岩							1					1	1.11
							2.50					2.50	0.31
その他											2	2	2.22
											18.94	18.94	2.44
合計（点数）	1	4	4	1	5	1	81	1	9	1	2	90	100.00
合計（重量）	7.73	18.55	50.46	3.12	15.43	1.21	372.42	0.10	207.72	109.86	18.94	806.54	100.00
組成比（点数）	1.11	4.44	4.44	1.11	5.56	1.11	87.78	1.11	10.00	1.11	2.22	100.00	
組成比（重量）	0.96	2.30	6.26	0.39	1.91	0.15	46.19	0.01	25.76	13.63	2.44	100.00	

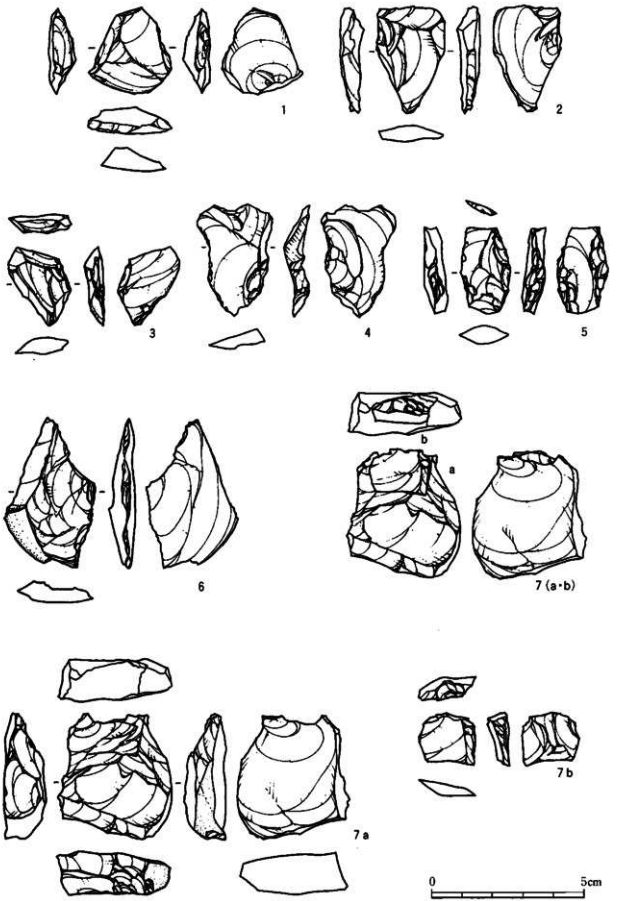
（上段：点数、下段：重量(g)）



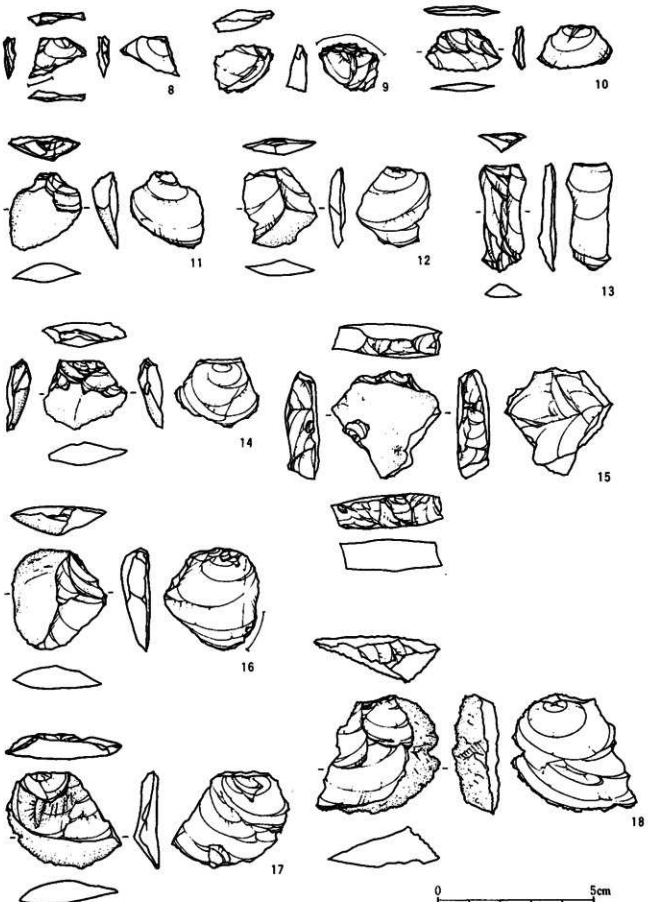
第7図　石器集中1の集中域と主要石器



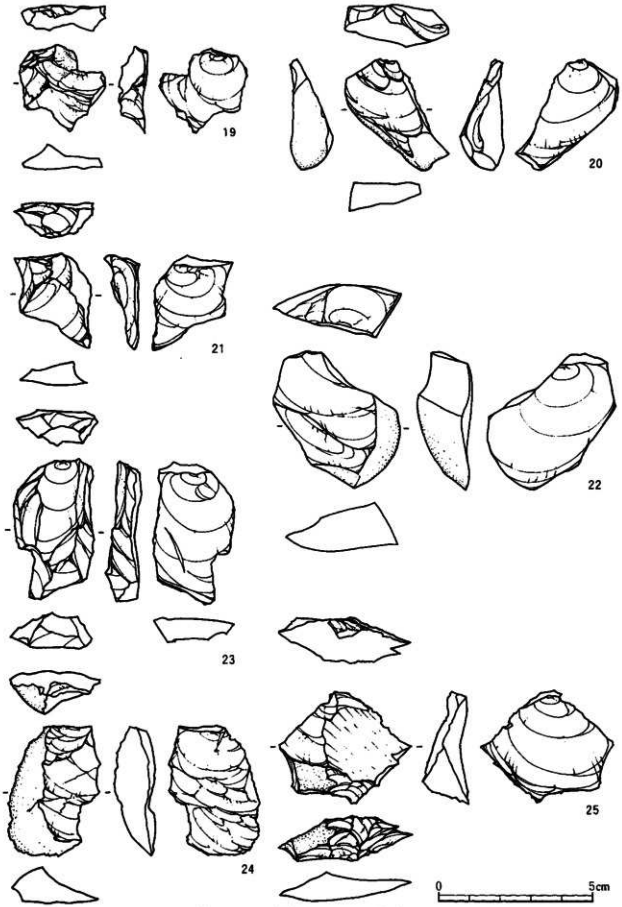
第８図　石器集中１　出土状況



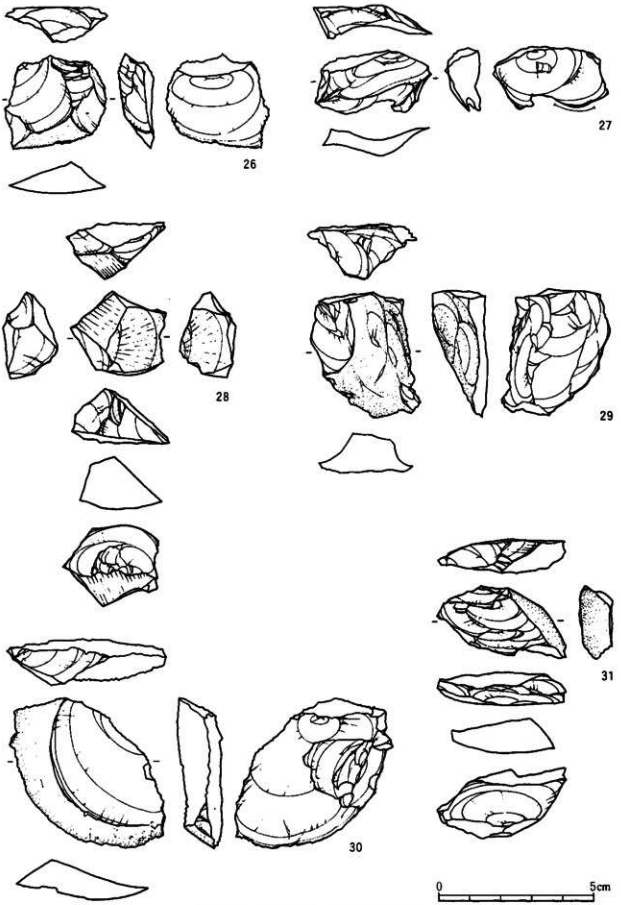
第9図　石器集中1　出土石器（1）



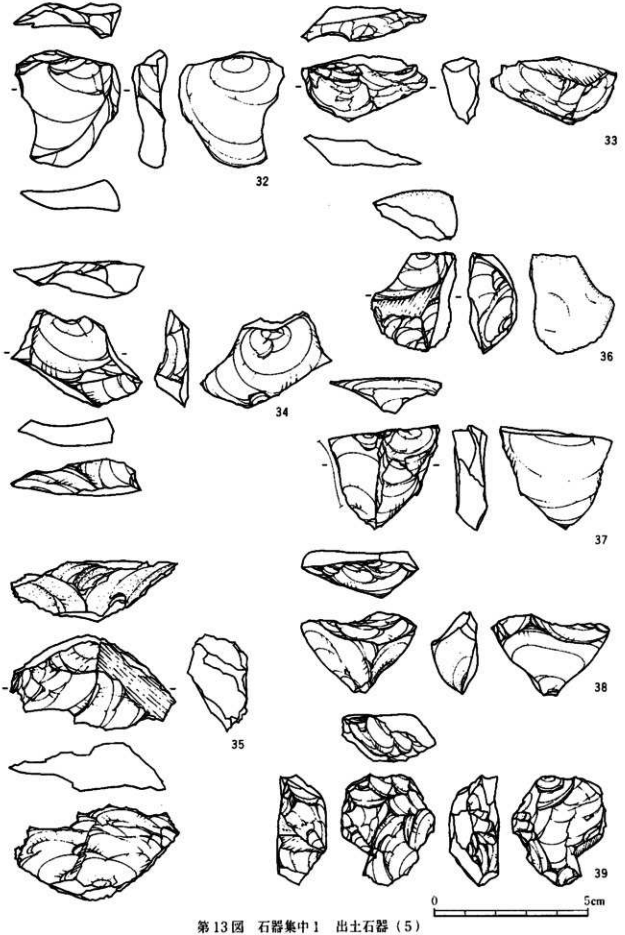
第10図　石器集中1　出土石器（2）



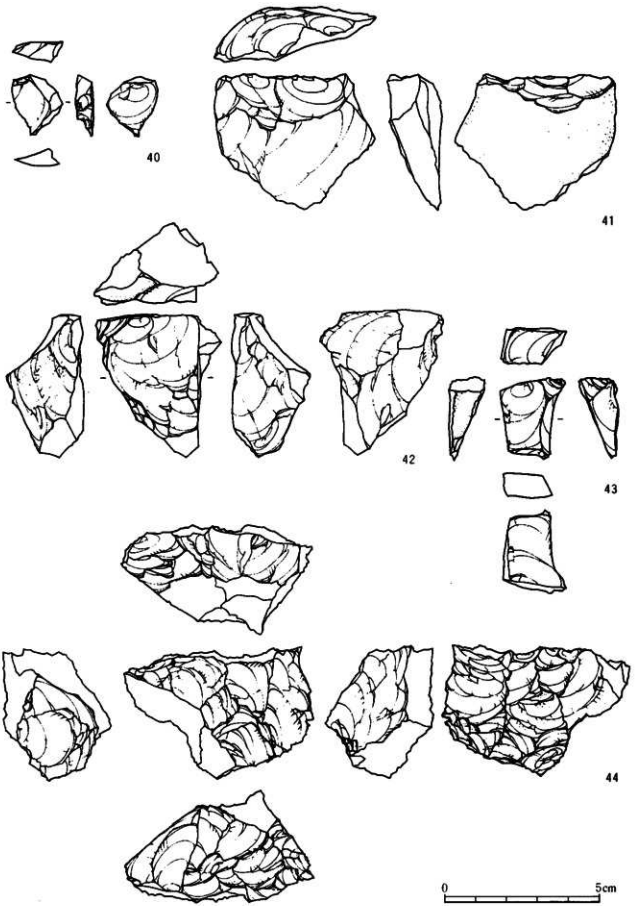
第11図　石器集中1　出土石器（3）



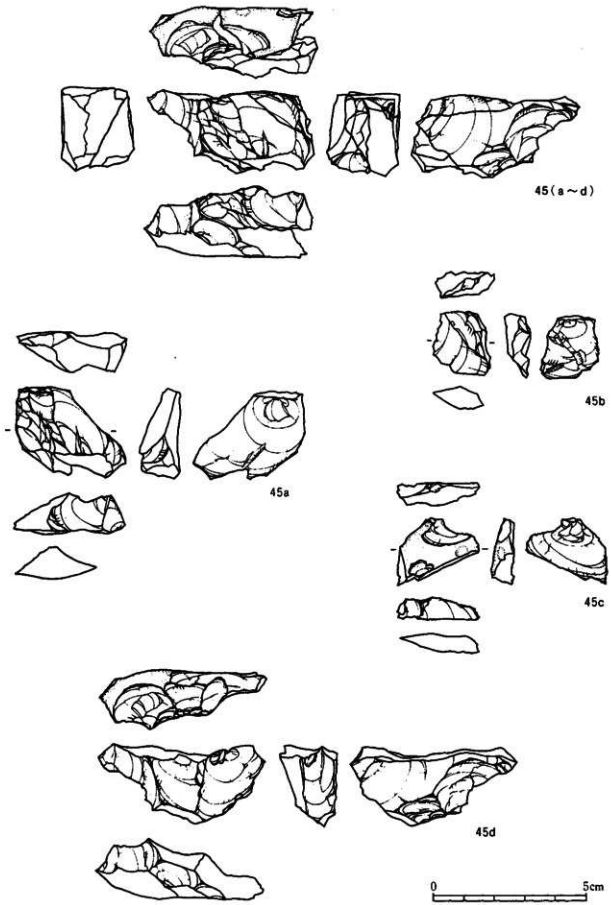
第12図　石器集中1　出土石器（4）



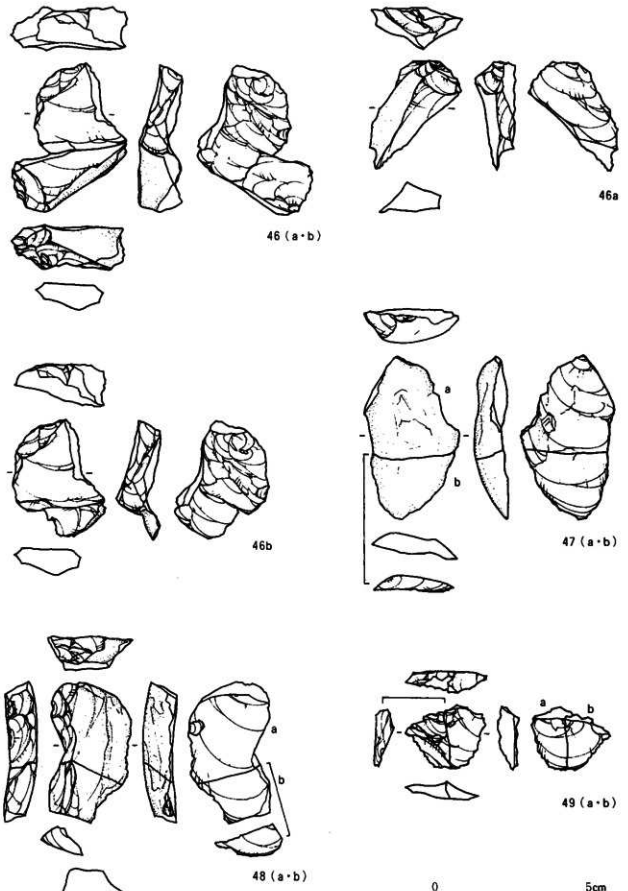
第13図　石器集中1　出土石器（5）



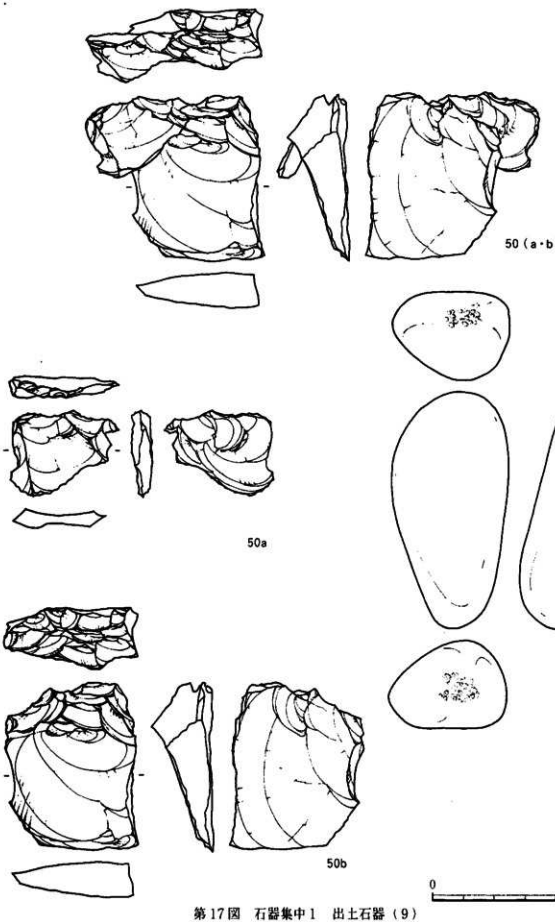
第14図　石器集中1　出土石器（6）



第15図　石器集中1　出土石器（7）



第16図　石器集中1　出土石器（8）



第17図　石器集中1　出土石器（9）

総点数90点で構成される。

台形様石器・ナイフ形石器・楔形石器・スクレイパーの各器種は集中域c・d・eに集中し、石核は集中域aと集中域c・dの2ヶ所に偏在する。

台形様石器は幅広寸詰まりの剥片を素材として、剥離軸を縦位に設定するもの（1・3）と、横位に設定するもの（2・4）がある。1は両側縁を折断により整形し、折断面に細調整が施されている。4は主要剥離面の打瘤を挟るように平坦剥離が施されている。5は楔形石器である。6は幅広の剥片を素材とし直線的な縁辺を刃部に設定したナイフ形石器である。右側縁に不揃いなブランティングが観察される。

剥片類は背面に自然面をもつものが目立ち、打面状況は調整の施されない平坦打面が多い。形態的には縦長のものはほとんどなく、寸詰まりなものが多い。

石核は9点が出土した。裏面に自然面や素材となった剥片の主要剥離面を残す資料（36～39・41・43・45d）と、42・44の様に打面転位を繰り返し柱状を呈する資料がある。

接合資料は6個体を確認できた。接合関係は集中域内でほとんど収まり、一部隣接する集中域にまたがるものはあるが大きく離れたものは見あたらない。第14図45a～dは石核と剥片の接合資料である。石核（45d）は分割面が裏面に見られ、剥片もしくは分割礫を素材として剥片剥離を行っていることが分かる。46～49は折断面同士、50は剥離面同士の接合関係である。

石材構成　珪質頁岩Bが主体を占め、10母岩に細分された（珪質頁岩Bは原礫面が黄土色を、風化剥離面は青灰色～緑灰色を呈するもので、チャートに類似し、分類困難な資料もある。以下同様）。他には、珪質頁岩・チャート・メノウ・黒曜石・安山岩・ホルンフェルス・凝灰岩・頁岩などが数点づつ加わる。

石材別の分布状況は、各集中域全般的に珪質頁岩Bがひろがり、その比率は集中域a・bがある石器集中東側の方が特に高い。石器集中西側の集中域c・d・eには珪質頁岩Bの他に黒曜石やチャート・安山岩・メノウ・ホルンフェルスといった石材も混じりバラエティーに富む。

石器集中2（第18図～35図、第2・15表～17表、図版4・5）

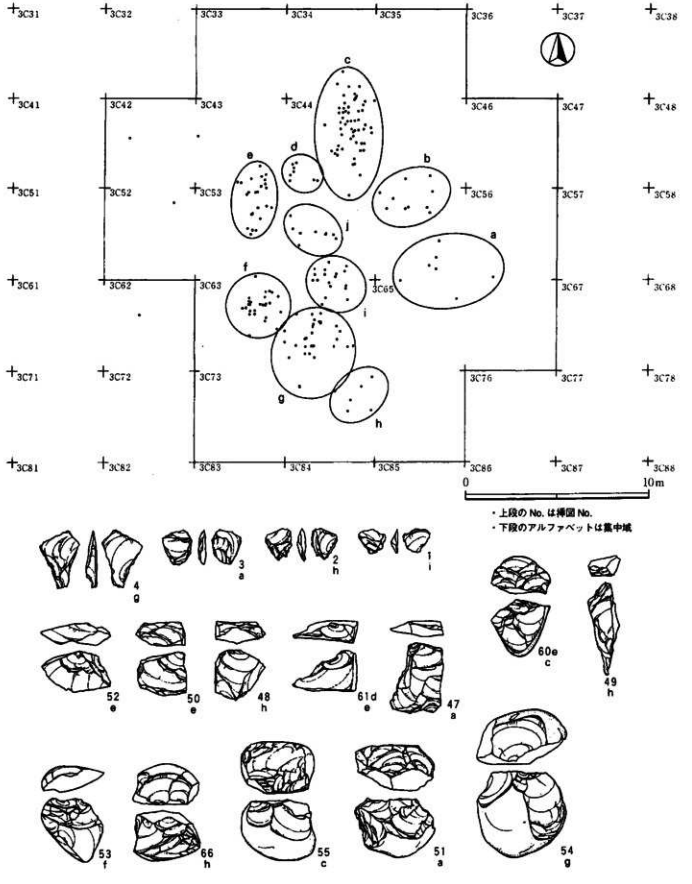
出土状況　調査区南側に位置し、台地縁辺からはやや離れた平坦面に立地している。10か所の集中域から構成され、その形状は一部に開口部が存在するものの、「環状ブロック」と呼ばれるものに相当すると考えて良いであろう。10か所の集中域のうち8か所で環状を形成し、2か所は中央部を充填している。石器集中の東側から時計と逆方向に集中域a～jと呼称する。分布範囲は南北20m・東西16mであり、下総台地の「環状ブロック」のなかではやや小振りといえようか。各集中域は径約2mの小規模のものから径約5mのものがあり、分布密度も各集中域で異なる。

出土層位は、Ⅸc層（旧Ⅷ層）を中心に、一部Ⅷ層・X層に広がる。中心はⅨc層中部～下部にあたり、石器集中1よりも若干上位に位置するようである。

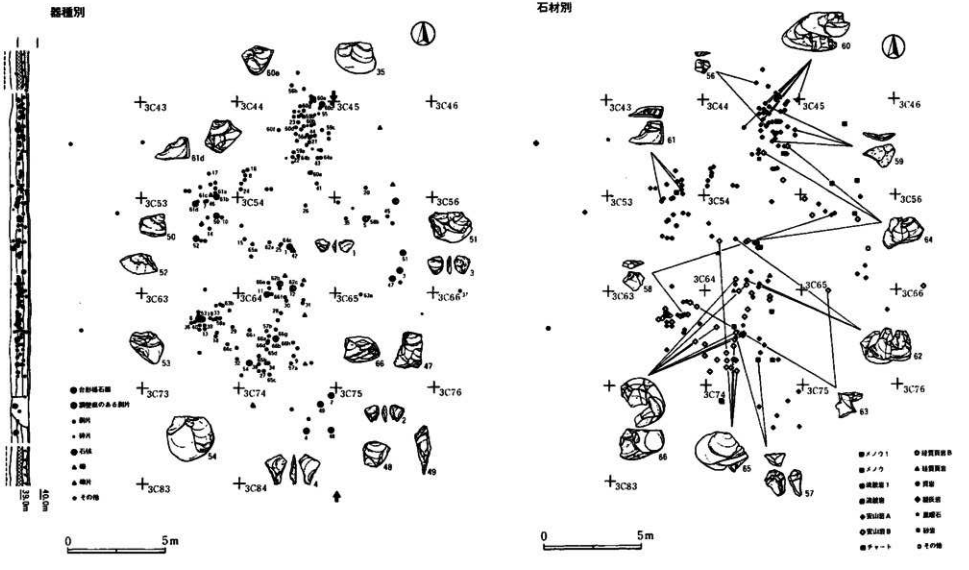
出土石器　台形様石器4点（1～4）、調整痕のある剥片5点（5・6・62b・62c）、剥片147点、砕片13点、石核14点（46～55・60e・61d・66h）、礫・礫片14点等、総点数199点で構成される。

器種別の分布は、台形様石器が石器集中東側にやや偏り、石核は中心部分よりは石器集中の周縁の各集中域毎に数点づつ加わるといった傾向を示している。

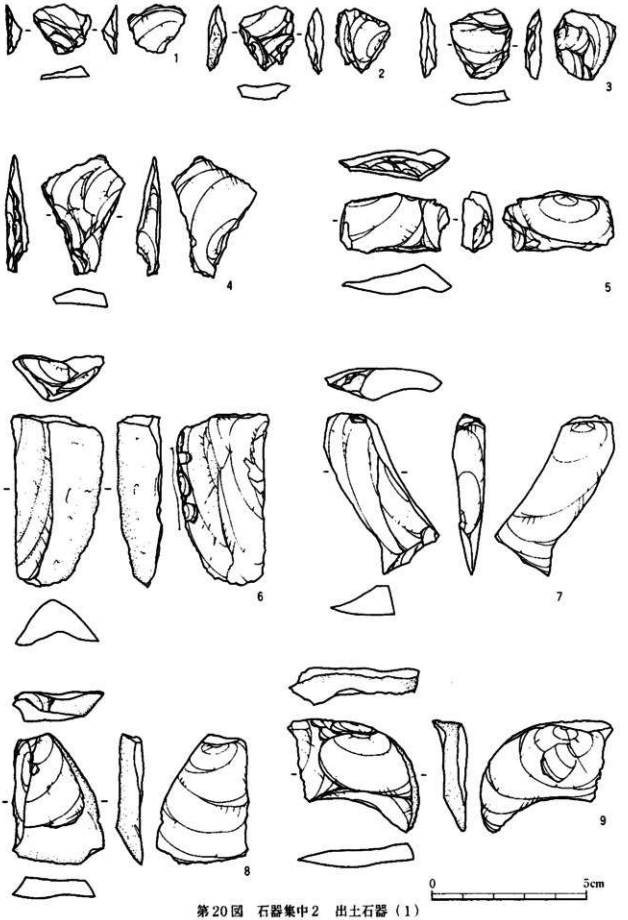
1～4は台形様石器である。幅広寸詰まりの剥片の剥離軸を横位に設定し、片側縁を中心に調整を施している。4は折断により両側面が大きく整えられ、左側縁は折断面から素材剥片背面側へ調整が施されている。



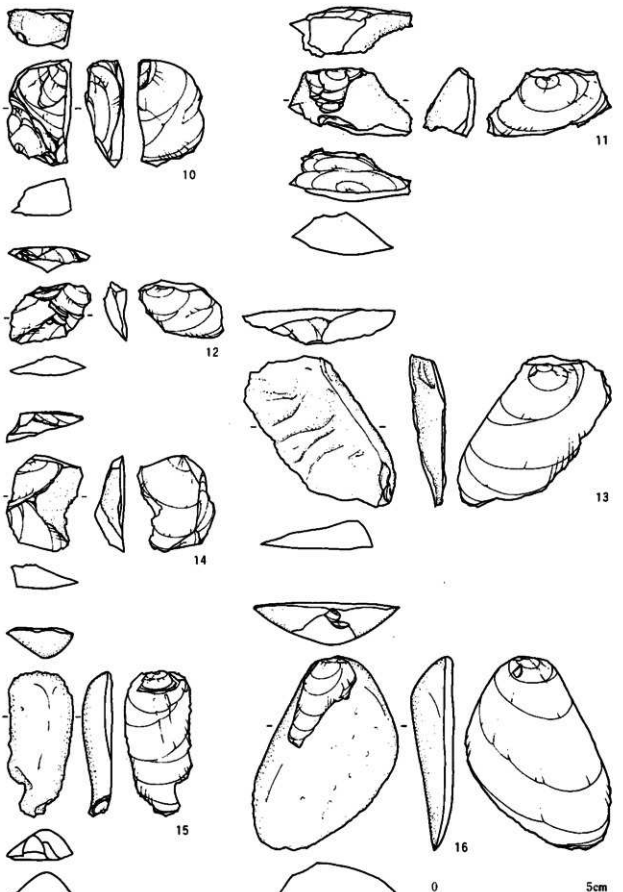
第18図　石器集中2の集中域と主要石器



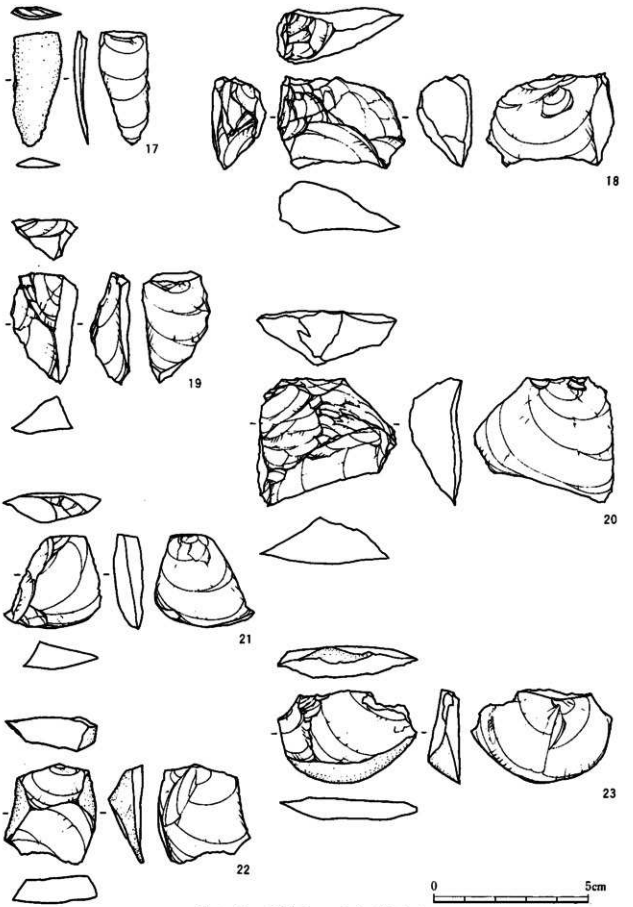
第19図　石器集中2　出土状況



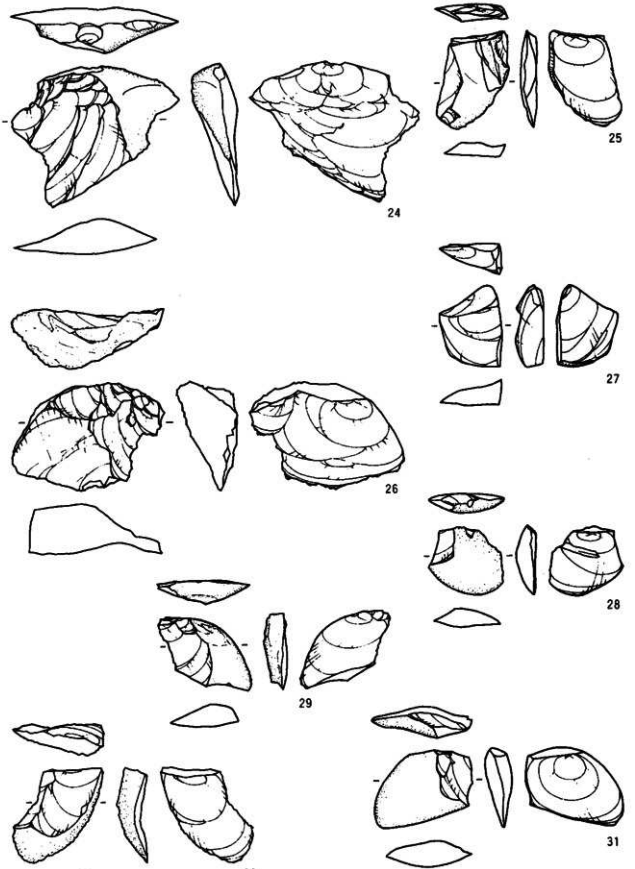
第20図　石器集中2　出土石器（1）



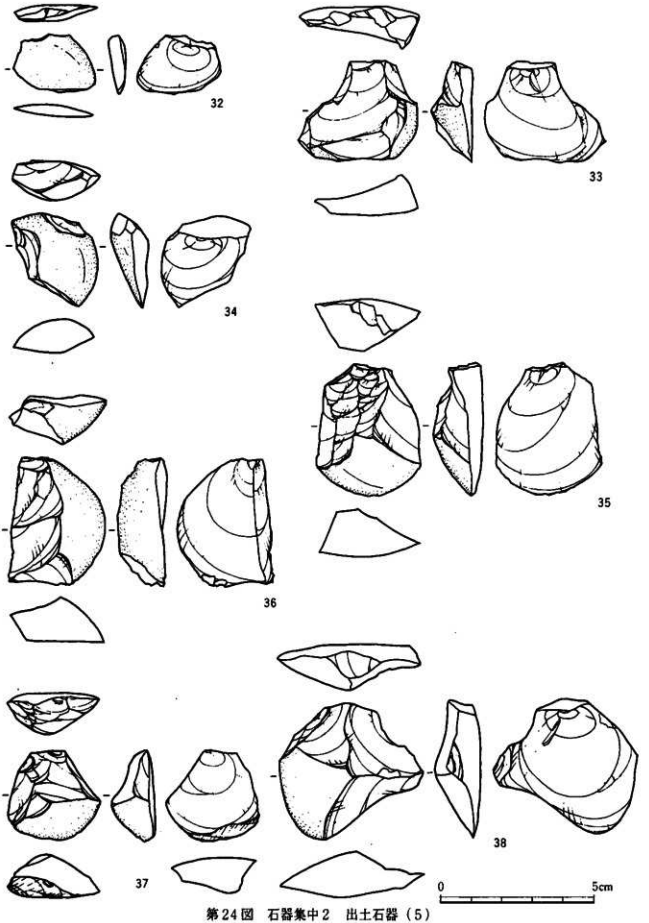
第21図　石器集中2　出土石器（2）



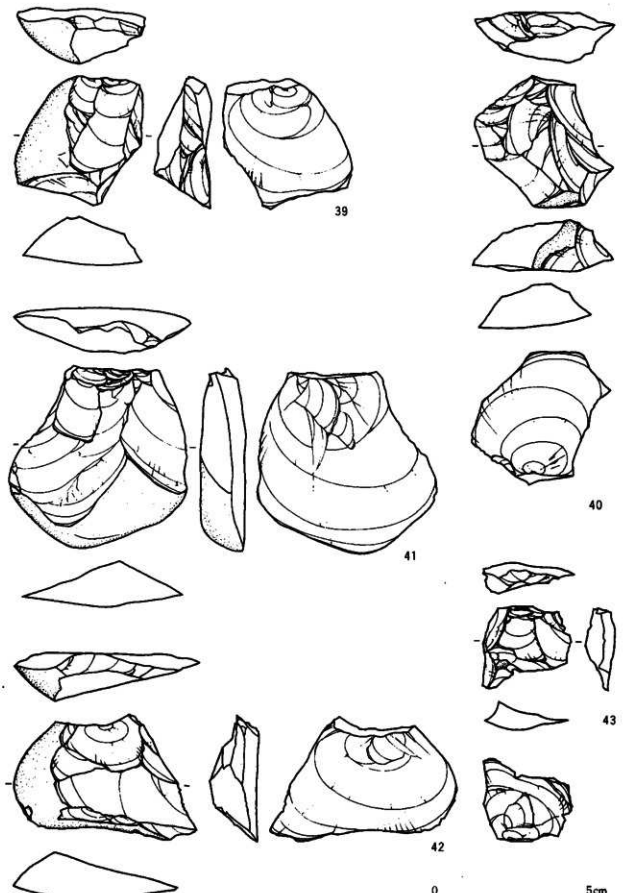
第22図　石器集中2　出土石器（3）



第23図　石器集中2　出土石器（4）

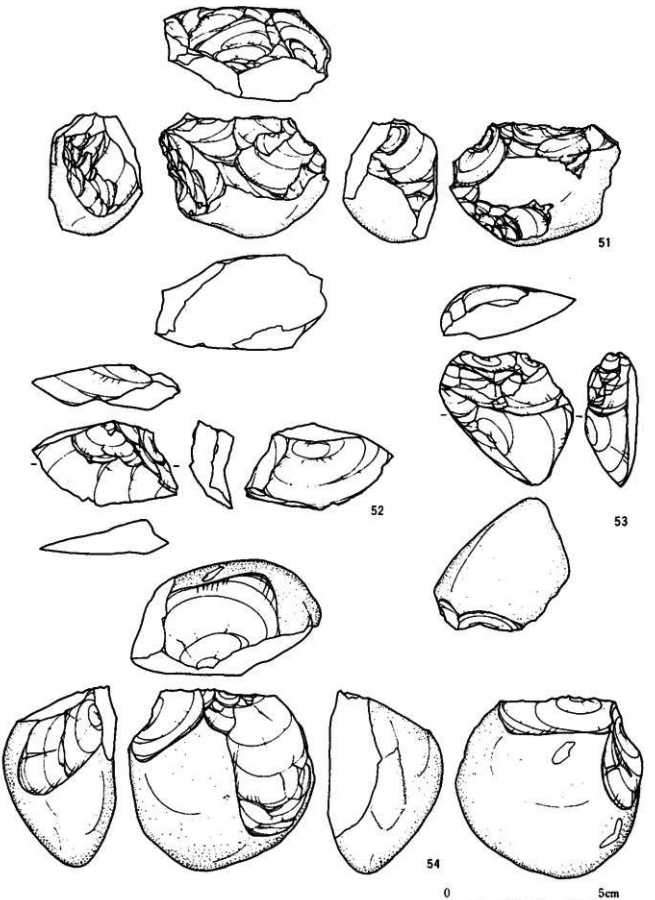


第24図　石器集中2　出土石器（5）

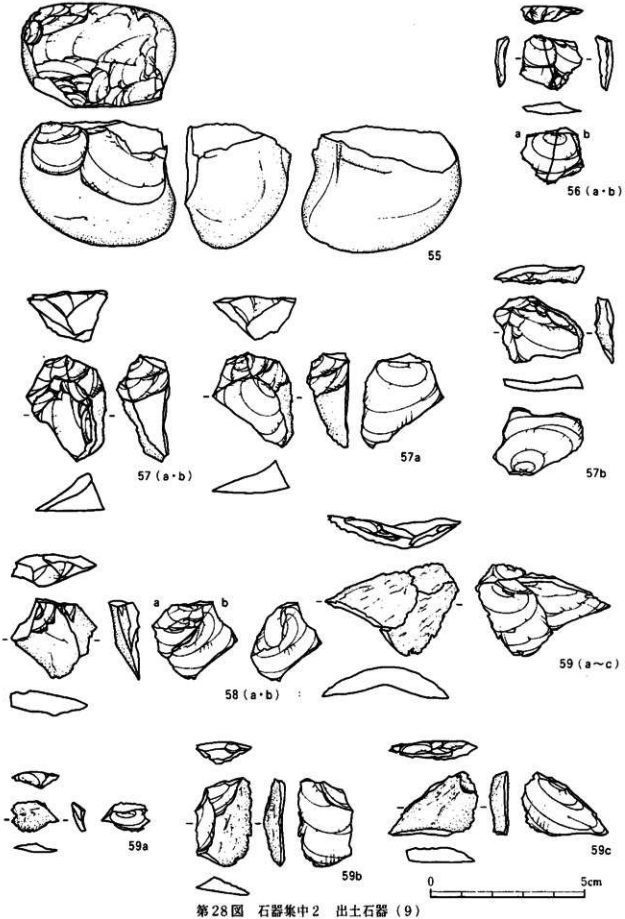


第25図　石器集中2　出土石器（6）

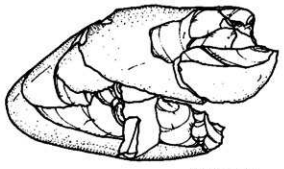
第26図　石器集中2　出土石器（7）



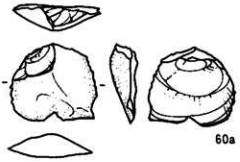
第27図　石器集中2　出土石器（8）



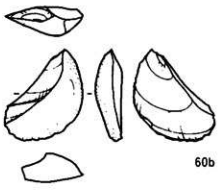
第28図　石器集中2　出土石器（9）



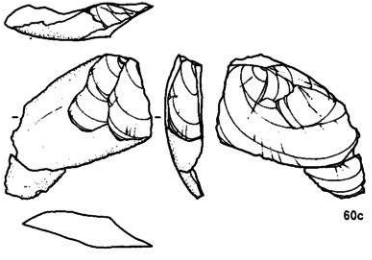
60 (a～g)



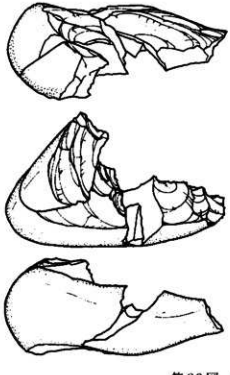
60a

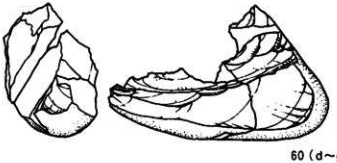


60b



60c

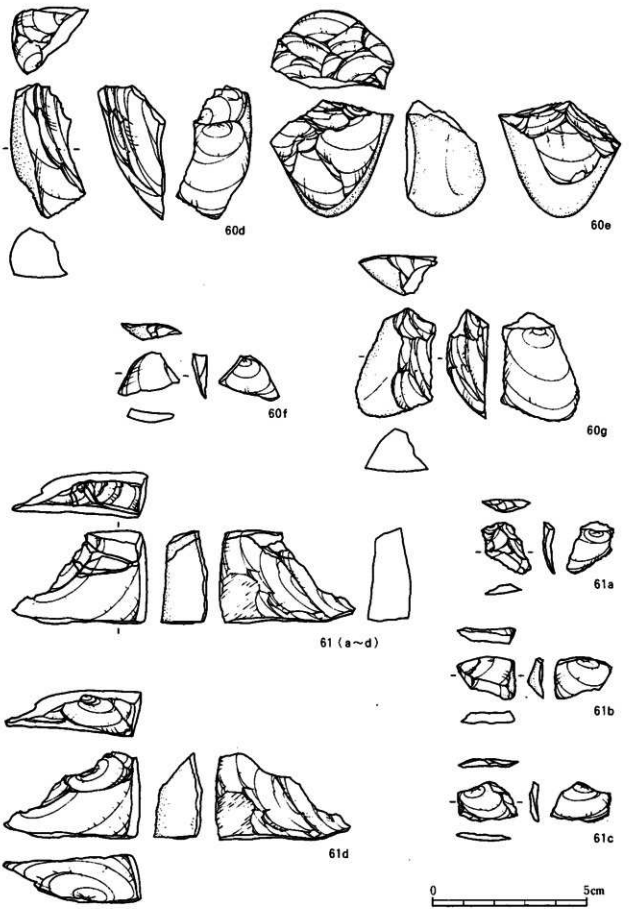




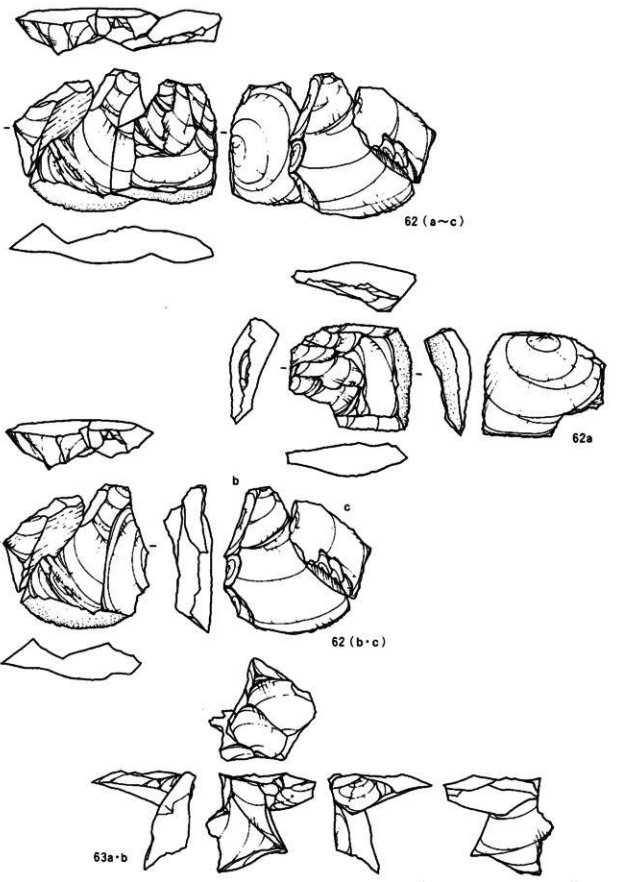
60 (d～g)

0 5cm

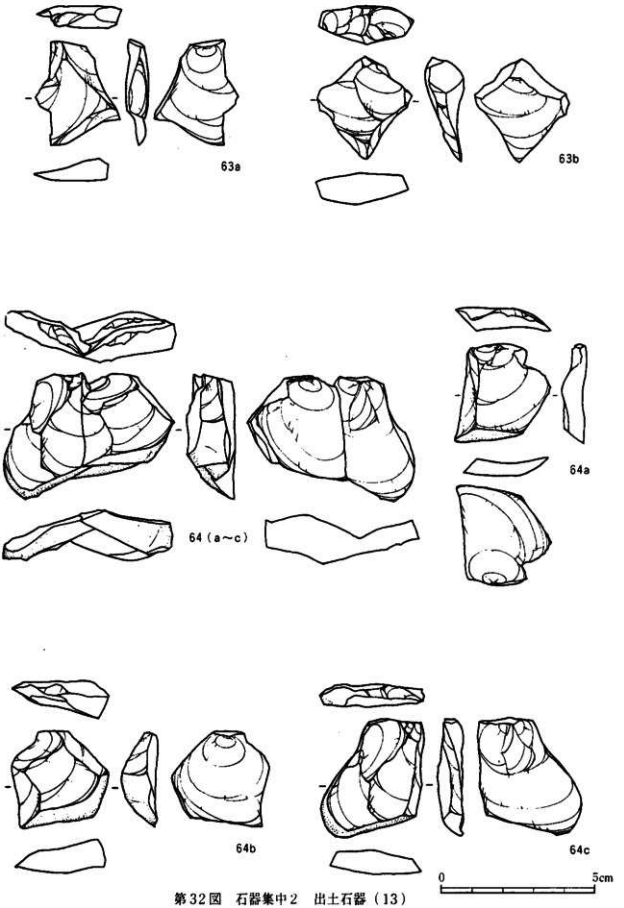
第29図　石器集中2　出土石器（10）



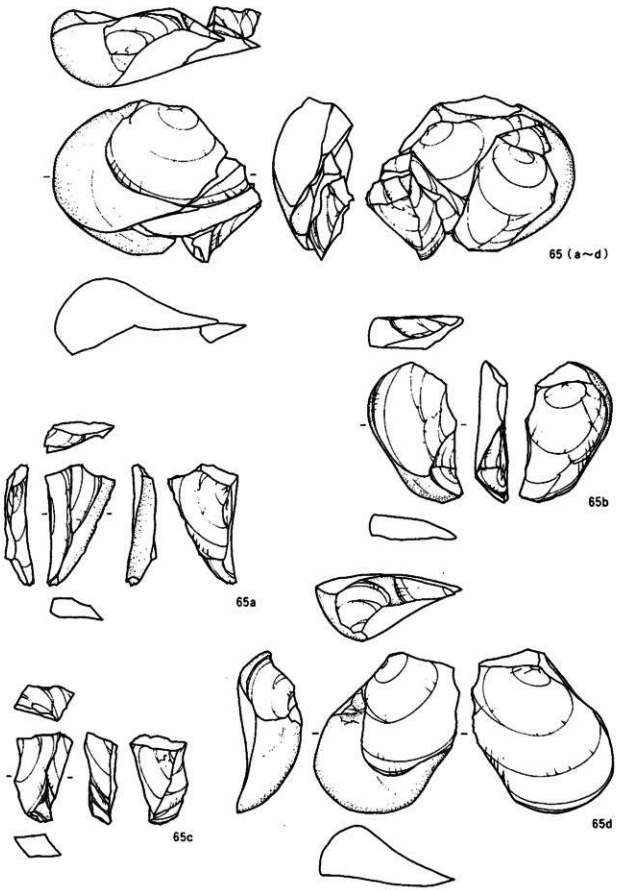
第30図　石器集中2　出土石器（11）



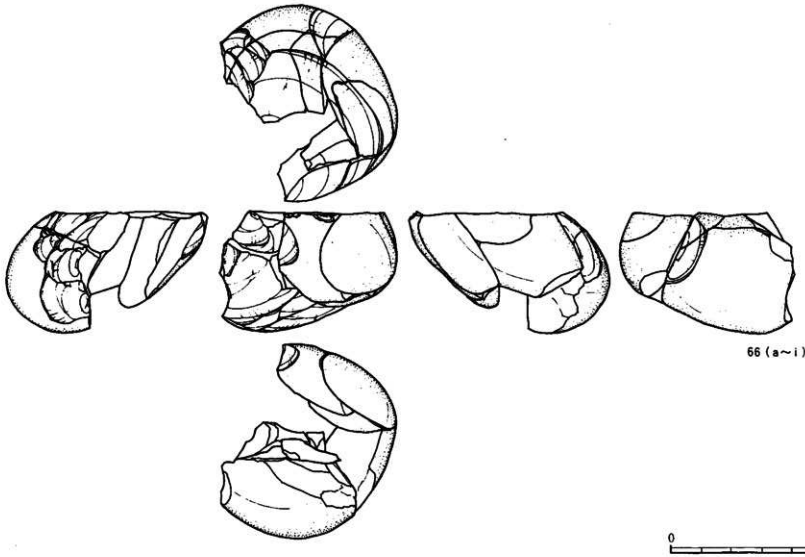
第31図　石器集中2　出土石器（12）



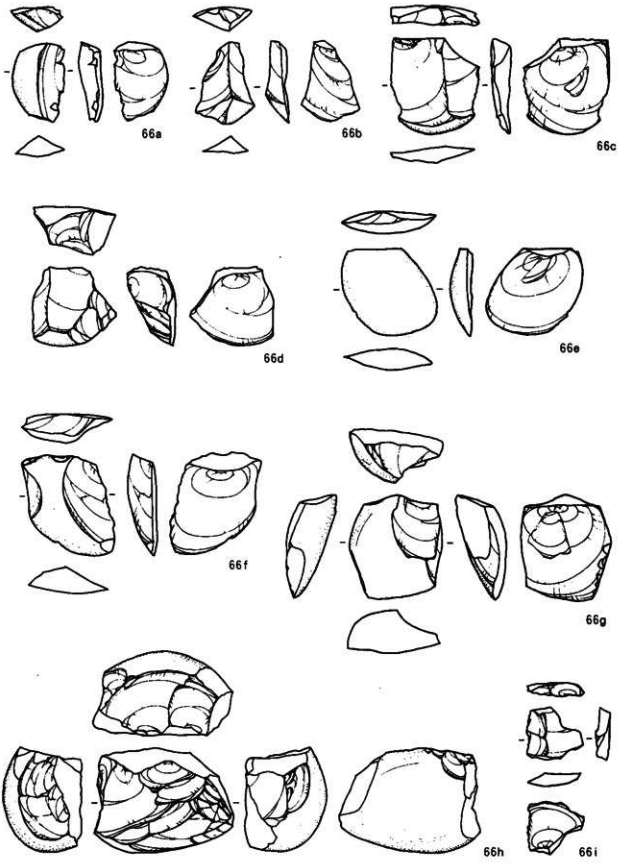
第32図　石器集中2　出土石器（13）



第33図　石器集中2　出土石器（14）



第34図　石器集中2　出土石器（15）



第35図　石器集中2　出土石器（16）

石核は剥片素材のものと、円礫を素材としたものの２種類がある。前者は比較的大きく分厚い剥片を用いて、各剥片の形状により主要剥離面側、背面側、剥片の小口にそれぞれ作業面を設けている（46～50・52・53）。後者は拳大より小さな礫を素材とし、礫面を除去しながら打面を形成し剥片剥離を行うもので、裏面には礫面を残すものが多い（51・54・55）。

接合資料は比較的豊富である。特に礫素材の石核と剥片の接合資料は注目される（60・66）。また石核とは接合していないが剥片同士の接合資料も多く、これらは本遺跡では相対的に大形の剥片が主体を占める（62～65）。61は剥片を素材とした石核に剥片が接合したものである。

石材構成　安山岩Ａが点数比で全体の約60％、安山岩Ｂが約25％を占め、他にメノウ・チャート・流紋岩・珪質頁岩が加わる（安山岩Ａはガラス質黒色安山岩を、安山岩Ｂはいわゆるトロトロ石を指す。以下同様）。

石材分布は安山岩Ａ・Ｂについて明確な偏在性を指摘できる。安山岩Ａは集中域ｃ・ｄ・ｅ・ｆの石器集中北西部に、安山岩Ｂは集中域ｇにまとまって分布している。

石器集中12（第36図、第３・18表、図版５）

下層確認グリッドの３Ｂ64グリッドから、石器が２点検出された。石器分布は周辺には広がらない。出土層位はⅨｃ層（旧Ⅶ～Ⅷ層）である。出土石器は安山岩製の台形様石器１点（１）、剥片１点（２）である。

台形様石器は幅広の剥片を横位に用い、剥片の末端は切断され、基部に調整が施されている。

第２表　石器集中２　器種と石材の構成

	台形様石器	調整痕のある剥片	剥片	砕片	石核	礫	敲石	その他	合計	組成比
メノウ			4						4	2.01
			17.85						17.85	1.11
メノウ						1			1	0.50
						0.66			0.66	0.06
流紋岩1			2						2	1.01
			25.66						25.66	1.59
流紋岩							1		1	0.50
							17.03		17.03	1.06
安山岩A	4	5	91	12	6		1		122	61.31
	11.37	59.83	428.45	1.28	295.71		0.27		764.99	47.50
安山岩B			48		3				48	24.62
			399.81		233.30				622.81	38.68
チャート						4	5		9	4.52
						12.04	5.47		17.51	1.09
珪質頁岩B					1				1	0.50
					71.62				71.62	4.45
珪質頁岩			1				1		3	1.51
			0.54		53.69		0.58		54.81	3.40
頁岩			1			1			2	1.01
			0.41			5.53			5.94	0.37
凝灰岩			1						1	0.50
			0.66						0.66	0.04
黒曜石			1						1	0.50
			0.44						0.44	0.03
砂岩				1					1	0.50
				0.09					0.09	0.01
その他								2	2	1.01
								8.84	8.84	0.62
合計(点数)	4	5	147	13	14	6	8	2	199	100.00
合計(重量)	11.37	59.83	871.84	1.28	614.32	19.55	23.35	8.84	1610.35	100.00
組成比(点数)	2.01	2.51	73.87	6.53	7.04	3.02	4.02	1.01	100.00	
組成比(重量)	0.71	3.72	54.13	0.08	38.15	1.15	1.45	0.55	100.00	

（上段：点数、下段：重量(g)）

第３表　石器集中12
器種と石材の構成

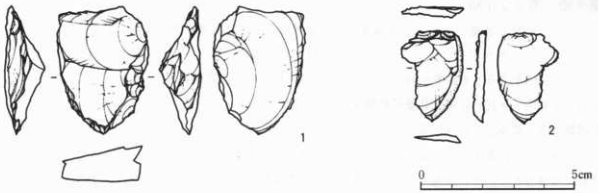
	台形様石器	剥片	合計	組成比
安山岩A	1	1	2	100.00
	15.23	1.99	17.22	100.00
合計(点数)	1	1	2	100.00
合計(重量)	15.23	1.99	17.22	100.00
組成比(点数)	50.00	50.00	100.00	
組成比(重量)	88.44	11.56	100.00	

（上段：点数、下段：重量(g)）

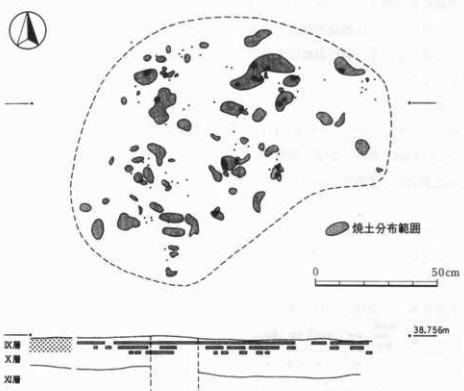
焼土集中地点（第37図）

Ⅸｃ層中から焼土の集中地点が１か所検出された。層位的に本文化層に所属する。２Ｃ77グリッドに位置し、周辺からは石器等の遺物は検出されていない。調査時に掘り込みは確認されておらず、焼土の分布範囲のみを確認面から２㎝毎にスライスすることで、合計３面の焼土分布範囲が記録されている。

分布範囲は、南北1.1m・東西1.3mに広がり、深さは確認面から約0.04～0.05mと浅い。



第36図　石器集中12　出土石器



第37図　焼土集中地点

第２節　第２文化層

第２文化層は石器集中３・４が所属する。出土層位の主体はⅥ層である。両石器集中とも珪質頁岩Ａ（チョコレート色を呈した頁岩を指す。以下同様）を主体的に利用した石器群で、楔形石器・スクレイパー・石錐等がある。石器集中外から出土したナイフ形石器に珪質頁岩Ａを用いた石刃素材のものが２点ある（第49図９・10）。本文化層に所属するものと思われる。

石器集中３（第38図～41図、第４・19表、図版６）

出土状況　石器集中３は石器集中１の一部と分布範囲が重なる。出土層位がⅥ層のものを抽出し、本文化層に帰属させた。また試掘時に、Ⅲ層出土とされた資料についても分布域が重複し利用石材も共通することから本石器集中中に含めた。垂直分布では、若干浮いてしまっているように見えるが、地形的な傾斜が影響したものと考えたい。分布範囲は、南北５ｍ・東西６ｍに広がり、東西２か所に集中域が分かれる。

出土石器　スクレイパー１点（16ａ）、楔形石器１点（１）、使用痕のある剥片４点（４・９・10・17）、剥片22点、石核２点（14・16ｂ）の総点数30点で構成される。

第38図１は楔形石器である。剥片を素材とし、上下両端に両極剥離が施されている。２～13は剥片・使用痕のある剥片であるが、２・７などは「小石刃」と称される有舌石刃から剥離されたものとよく類似する。14は厚手の剥片を素材とした石核である。打面転位を繰り返すことで柱状を呈している。16は石核と剥片の接合資料である。16ａは礫面の除去を目的として剥離されたものと考えられ、剥離後、縁辺に調整が施され刃部を形成している。剥片剥離は平坦面を打面に設定しながら打面転位を繰り返している。石核の形態は柱状を呈する。

石材構成　珪質頁岩Ａを主体としている。珪質頁岩Ａ１・Ａ２は石核・剥片類が伴っており、遺跡内で剥片剥離が行われたことが分かる。その他、珪質頁岩Ｂ・黒曜石・ホルンフェルス・緑泥片岩等が加わる。

石器集中４（第42・43図、第５・20表、図版６）

出土状況　南北約12ｍ・東西約10ｍの範囲に散漫に広がる。出土層位はⅥ層である。

出土石器　スクレイパー２点（４・６）、石錐１点（１）、使用痕のある剥片５点（２・３・５・７）、剥片２点の総点数10点で構成される。ここでも石器集中３と同様に、代表的な利器であるナイフ形石器等の器種は見あたらない。

第４表　石器集中３　器種と石材の構成

	スクレイパー	楔形石器	使用痕のある剥片	剥片	石核	合計	組成比
珪質頁岩A1	1 10.98			7 40.01	1 52.30	9 102.99	30.00 58.87
珪質頁岩A2		1 2.84	2 1.81	3 2.83	1 14.73	7 22.01	23.33 12.58
珪質頁岩A			1 6.00	3 5.99		4 11.99	13.33 6.84
珪質頁岩B				5 12.89		5 12.89	16.67 7.37
緑泥片岩1				2 4.78		2 4.78	6.67 2.73
黒曜石			1 14.20			1 14.20	3.33 8.12
メノウ				1 0.70		1 0.70	3.33 0.40
ホルンフェルス				1 5.40		1 5.40	3.33 3.09
合計(点数) 合計(重量) 組成比(点数) 組成比(重量)	1 10.98 3.33 6.11	1 2.84 3.33 1.51	4 22.01 13.33 12.58	22 72.57 73.33 41.48	2 67.03 6.67 38.32	30 174.93 100.00 100.00	100.00 100.00

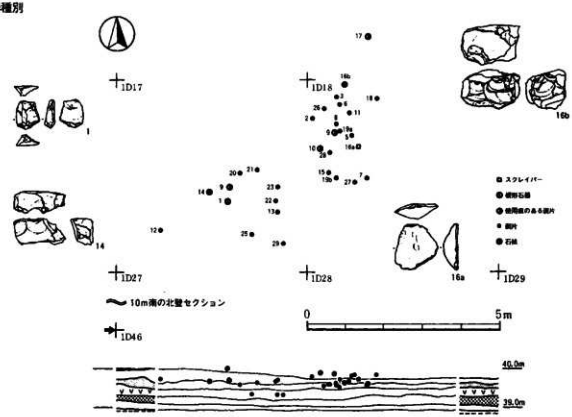
（上段：点数、下段：重量(g)）

第５表　石器集中４　器種と石材の構成

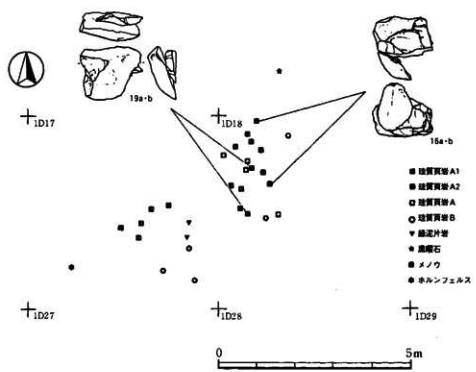
	スクレイパー	石錐	使用痕のある剥片	剥片	合計	組成比
珪質頁岩A1	1 7.84		2 8.29		3 16.13	30.00 25.90
珪質頁岩A2	1 10.75		1 1.69		2 12.64	20.00 20.29
珪質頁岩A		1 4.65			1 4.65	10.00 7.47
片岩1			1 4.40	1 4.81	2 9.21	20.00 14.79
安山岩B				1 4.84	1 4.84	10.00 7.77
メノウ			1 14.82		1 14.82	10.00 23.79
合計(点数) 合計(重量) 組成比(点数) 組成比(重量)	2 18.59 20.00 29.84	1 4.65 10.00 7.47	5 29.40 50.00 47.20	2 9.65 20.00 15.49	10 62.29 100.00 100.00	100.00 100.00

（上段：点数、下段：重量(g)）

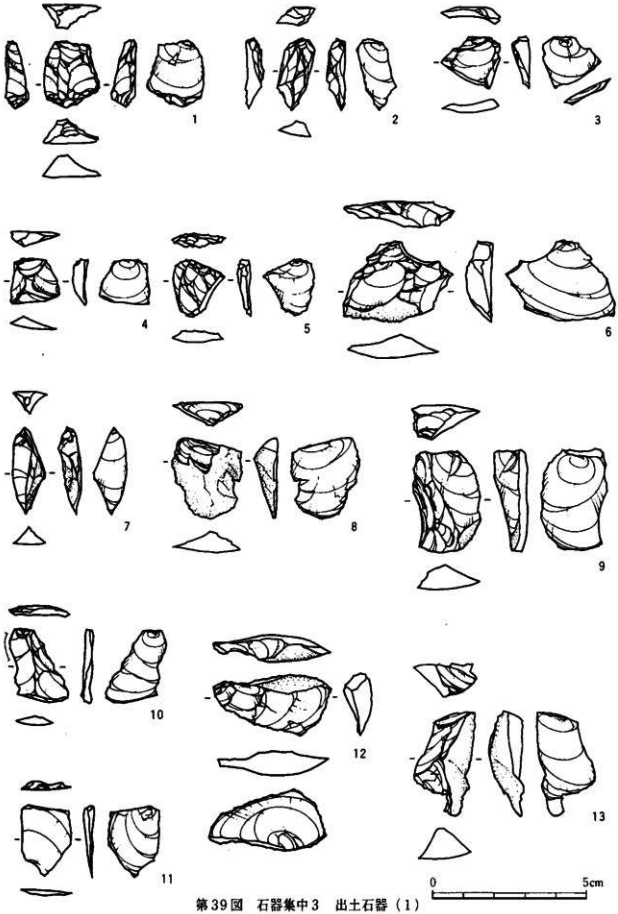
器種別



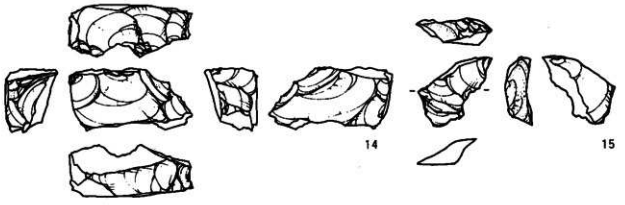
石材別

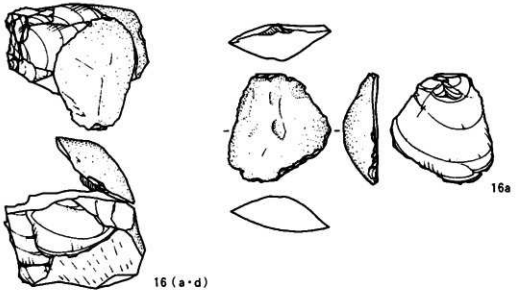


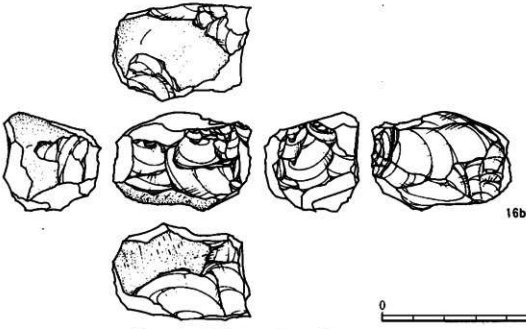
第38図　石器集中3　出土状況



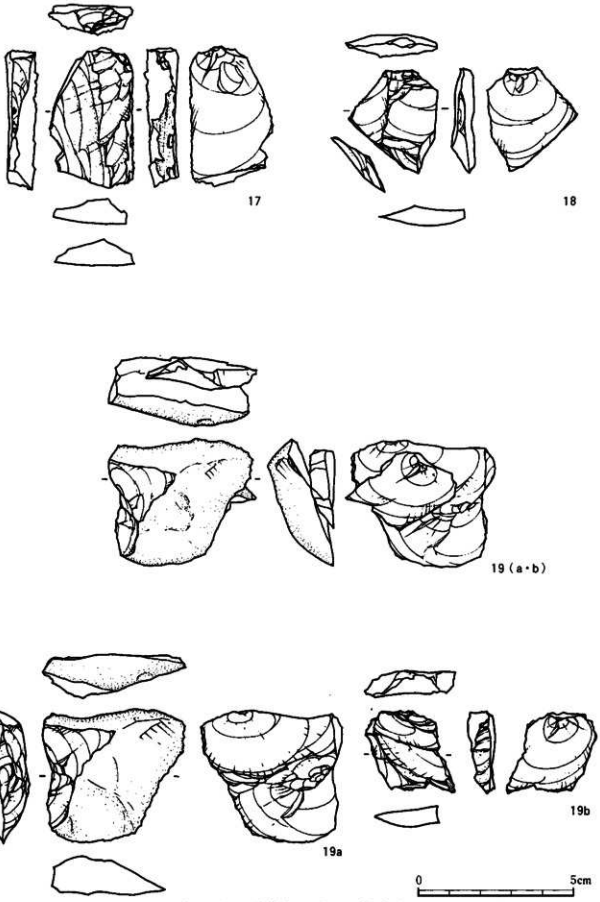
第39図　石器集中3　出土石器（1）



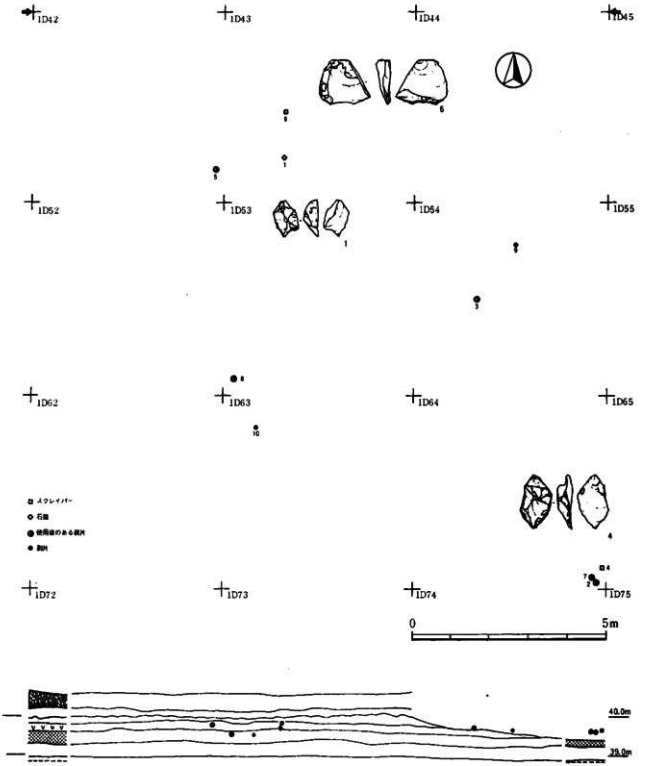




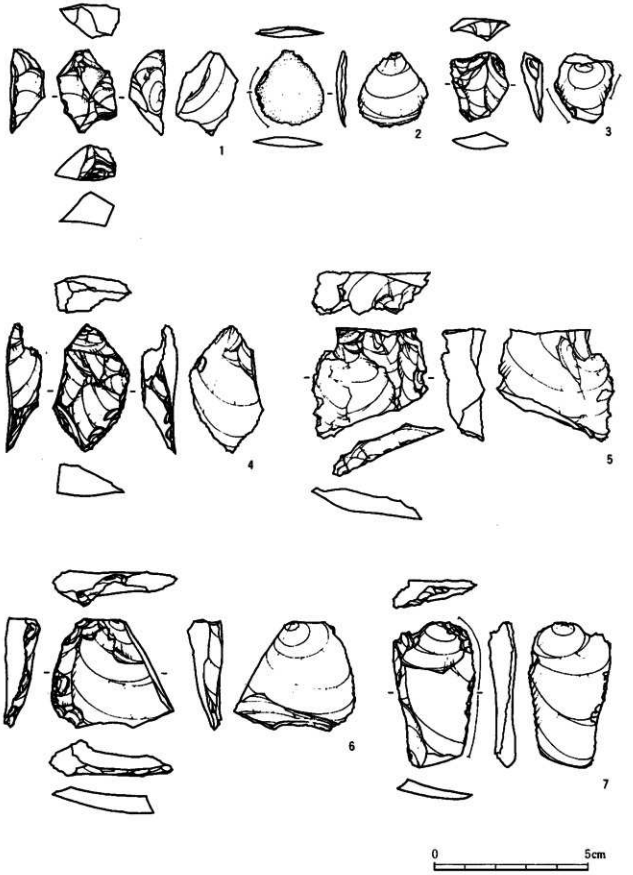
第40図　石器集中3　出土石器（2）



第41図　石器集中3　出土石器（3）



第42図　石器集中4　出土状況



第43図　石器集中4　出土石器

1はやや厚めの剥片を素材とした石錐である。明確に抉り部を作り出し先端部を整形している。4は剥片縁辺に調整痕を施したスクレイパーである。ただ、左側面には剥片剥離痕が見られ、彫刻刀形石器として理解することもできよう。

石材構成　珪質頁岩Aを主体としている。珪質頁岩A1とA2の2母岩が抽出できた。石器集中3にある珪質頁岩Aと外観はよく類似するが、同一母岩は存在しない。

第3節　第3文化層

第3文化層は石器集中5～11・13が所属する。出土層位の主体はⅢ層である。石器集中5以外は総点数10点以下の小規模な石器集中地点である。それらの内容については、質量ともに貧弱で不明のところが多い。なお、石器集中13は工事用道路建設に伴う調査で検出されたものである。

石器集中5（第44図、第6・21表、図版7）

出土状況　南北9m、東西7mの範囲に散漫に広がる。出土層位はⅢ層である。

出土石器　ナイフ形石器2点（1・2）、使用痕のある剥片1点（6）、剥片3点、石核1点（3）、礫片8点等、総点数16点を数える。1・2は、調整が台形様石器にみられるような平坦なものではなく、急角度調整によるものであることからナイフ形石器とした。小型で幅広の剥片を素材とし、剥片を横位に用いている。3は裏面に礫面を残した石核である。打面は平坦面で構成され、細かな打面調整は施されない。

石材構成　珪質頁岩Aを主体とし、黒曜石・頁岩が伴う。礫片にはチャート・砂岩・流紋岩がある。

石器集中6（第45図、第7・22表、図版7）

出土状況　南北3m、東西6mの範囲に散漫に広がる。出土層位はⅢ層下部である。

出土石器　剥片2点、石核2点（1b・2）、礫片2点の総点数6点の零細な石器集中である。

1は石核と剥片の接合資料である。楕円形の扁平礫を短軸方向に分割して打面を形成している。打面調整が施されており、礫面には顕著な敲打痕も観察される。敲石との兼用が想定される。2は剥片を素材とした石核である。主要剥離面の打点側を剥片剥離している。縁辺には微細な剥離痕が観察される。

石材構成　砂岩・メノウ・黒曜石があり、礫片はチャートである。

第6表　石器集中5　器種と石材の構成

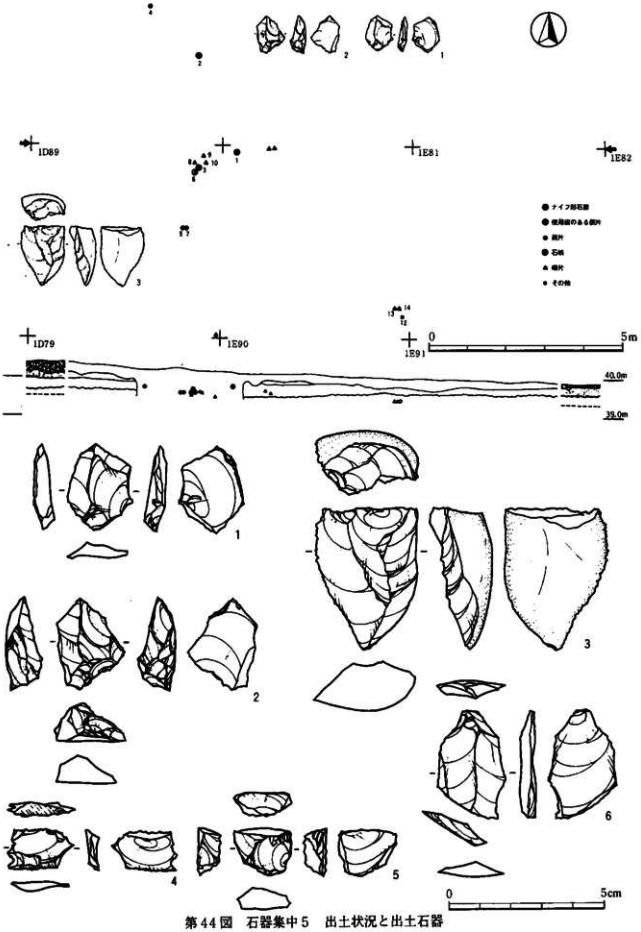
	ナイフ形石器	使用痕のある剥片	剥片	石核	礫片	その他	合計	組成比
珪質頁岩A	1		1				2	12.50
	4.66		0.87				5.72	7.81
珪質頁岩	1	1					2	12.50
	2.95	3.81					6.66	3.39
チャート					2		2	12.50
					35.56		35.56	18.07
砂岩					2		2	12.50
					32.72		32.72	16.62
流紋岩					2		2	12.50
					70.80		70.80	35.96
黒曜石			1				1	6.25
			2.08				2.08	1.06
メノウ			1				1	6.25
			1.40				1.40	0.71
頁岩				1			1	6.25
				25.86			25.86	13.15
その他					2	1	3	18.75
					13.84	2.06	15.62	8.09
合計(点数)	2	1	3	1	6	1	16	100.00
合計(重量)	7.71	3.81	4.35	25.86	152.62	2.06	196.75	100.00
組成比(点数)	12.50	6.25	18.75	6.25	50.00	6.25	100.00	
組成比(重量)	3.92	1.94	2.21	13.15	77.72	1.06	100.00	

(上段:点数、下段:重量(g))

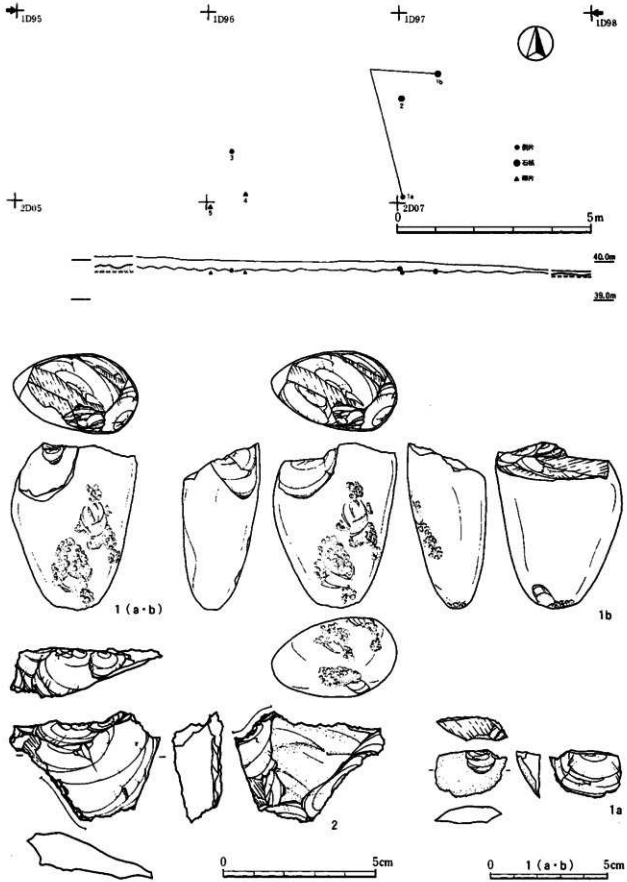
第7表　石器集中6
器種と石材の構成

	剥片	石核	礫片	合計	組成比
チャート			1	1	33.33
			28.31	28.31	13.89
砂岩	1	1		2	33.33
	5.57	150.30		155.87	77.00
メノウ		1		1	16.67
		16.66		16.66	8.23
黒曜石	1			1	16.67
	1.58			1.58	0.78
合計(点数)	2	2	1	6	100.00
合計(重量)	7.15	166.96	28.31	202.42	100.00
組成比(点数)	33.33	33.33	33.33	100.00	
組成比(重量)	3.53	82.48	13.99	100.00	

(上段:点数、下段:重量(g))



第44図　石器集中5　出土状況と出土石器



第45図　石器集中6　出土状況と出土石器

石器集中７（第47図１・２、第８・23表、図版７）

出土石器は安山岩製のナイフ形石器１点（１）、黒曜石製の楔形石器１点（２）の合計２点のみである。石器は10m以上離れた位置から検出されており、石器集中として認定するのは困難であるが、調査時に石器集中として認識されていたため、そのまま報告することとした。出土層位はⅢ層である。

石器集中８（第47図３、第９・24表、図版７）

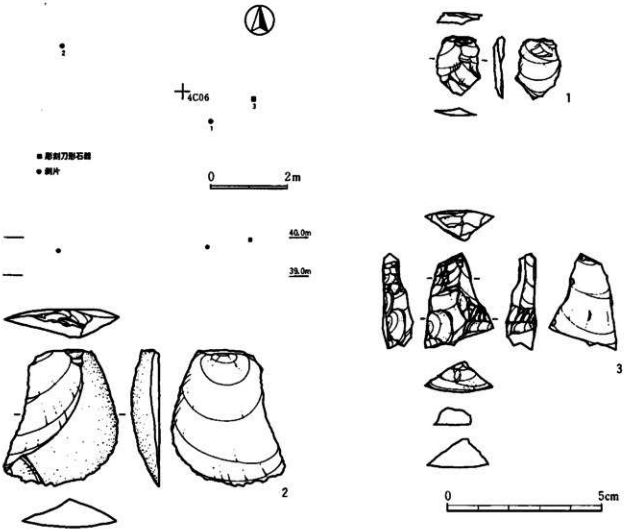
調査時検出された石器は４点あったが、そのうち３点は整理中確認できなかった。南北５m、東西５mの範囲に散漫に広がる零細な石器集中である。出土層位はⅢ層である。

３は珪質頁岩製の石核である。分厚い剥片を素材とし、側面を打面に設定し主要剥離面側に剥片剥離を行っている。一見削片剥離によって打面形成がなされたように見えるが、切り合い関係から打面は素材剥片剥離後に形成されたものではない。

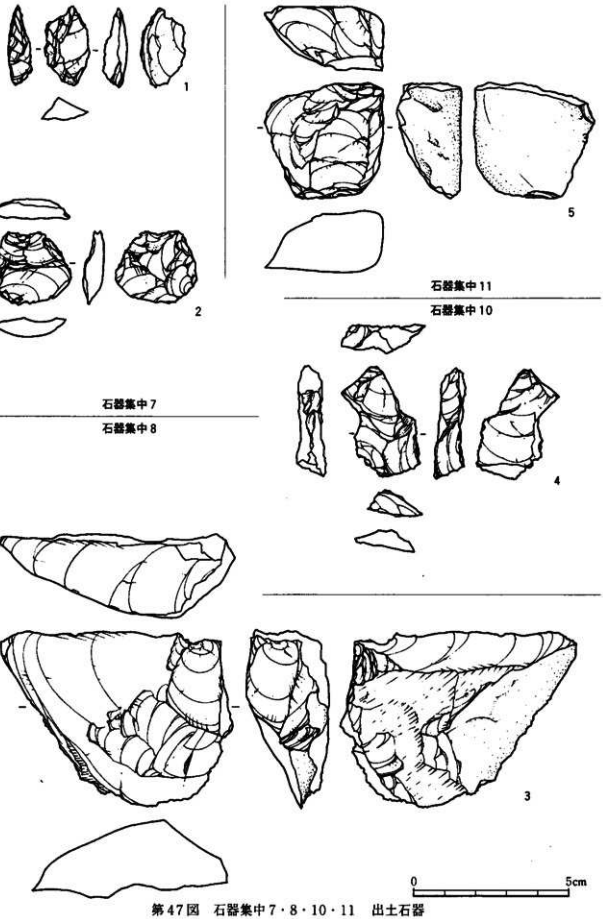
石器集中９（第46図、第10・25表、図版７）

南北２m、東西５mの範囲に３点の石器が検出された。

３は珪質頁岩製の彫刻刀形石器である。剥片の打面側を折断し、折断面を打面として剥片の側縁に彫刻



第46図　石器集中９　出土状況と出土石器



第47図　石器集中7・8・10・11　出土石器

刀面を作出している。剥片の両側面には急角度調整が施されている。

1は珪質頁岩、2は安山岩製の剥片である。

石器集中10・11（第47図4・5、第11・12・26・27表、図版7）

下層確認グリッドから旧石器時代のものと思われる石器が単独で検出されている。便宜的に石器集中No.を付し報告する。出土層位はいずれもⅢ層である。

石器集中10は3D13に位置し、チャート製の楔形石器が検出された。

石器集中11は3D82に位置し、チャート製の石核が検出されている。

石器集中13（第48図、第13・28表、図版7）

2B34グリッドから3点の石器が検出された。出土層位は耕作土中である。石器はすべて安山岩製で、同一母岩と推測される。そのうち2点に接合関係が認められる。

1bは幅広の分厚い剥片を素材とした削器である。刃部は荒々しい大きな剥離痕で構成される。

第8表　石器集中7
器種と石材の構成

	ナイフ形石器	楔形石器	合計	組成比
安山岩A	1		1	50.00
	2.31		2.31	44.42
黒曜石		1	1	50.00
		2.89	2.89	55.58
合計(点数)	1	1	2	100.00
合計(重量)	2.31	2.89	5.20	100.00
組成比(点数)	50.00	50.00	100.00	
組成比(重量)	44.42	55.58	100.00	

（上段：点数、下段：重量(g)）

第9表　石器集中8
器種と石材の構成

	石核	合計	組成比
珪質頁岩	1	1	100.00
	90.18	90.18	100.00
合計(点数)	1	1	100.00
合計(重量)	90.18	90.18	100.00
組成比(点数)	100.00	100.00	
組成比(重量)	100.00	100.00	

（上段：点数、下段：重量(g)）

第10表　石器集中9
器種と石材の構成

	楔形石器	剥片	合計	組成比
珪質頁岩A	1	1	2	66.67
	5.19	0.67	5.86	33.43
安山岩A		1	1	33.33
		12.21	12.21	67.57
合計(点数)	1	2	3	100.00
合計(重量)	5.19	12.88	18.07	100.00
組成比(点数)	33.33	66.67	100.00	
組成比(重量)	28.72	71.28	100.00	

（上段：点数、下段：重量(g)）

第11表　石器集中10
器種と石材の構成

	楔形石器	剥片	合計	組成比
チャート	1	1	2	100.00
	6.61	1.98	8.59	100.00
合計(点数)	1	1	2	100.00
合計(重量)	6.61	1.98	8.59	100.00
組成比(点数)	50.00	50.00	100.00	
組成比(重量)	76.95	23.05	100.00	

（上段：点数、下段：重量(g)）

第12表　石器集中11
器種と石材の構成

	石核	合計	組成比
チャート	1	1	100.00
	36.87	36.87	100.00
合計(点数)	1	1	100.00
合計(重量)	36.87	36.87	100.00
組成比(点数)	100.00	100.00	
組成比(重量)	100.00	100.00	

（上段：点数、下段：重量(g)）

第13表　石器集中13
器種と石材の構成

	削器	剥片	合計	組成比
安山岩A	1	2	3	100.00
	66.59	10.52	78.11	100.00
合計(点数)	1	2	3	100.00
合計(重量)	66.59	10.52	78.11	100.00
組成比(点数)	33.33	66.67	100.00	
組成比(重量)	85.70	13.50	100.00	

（上段：点数、下段：重量(g)）

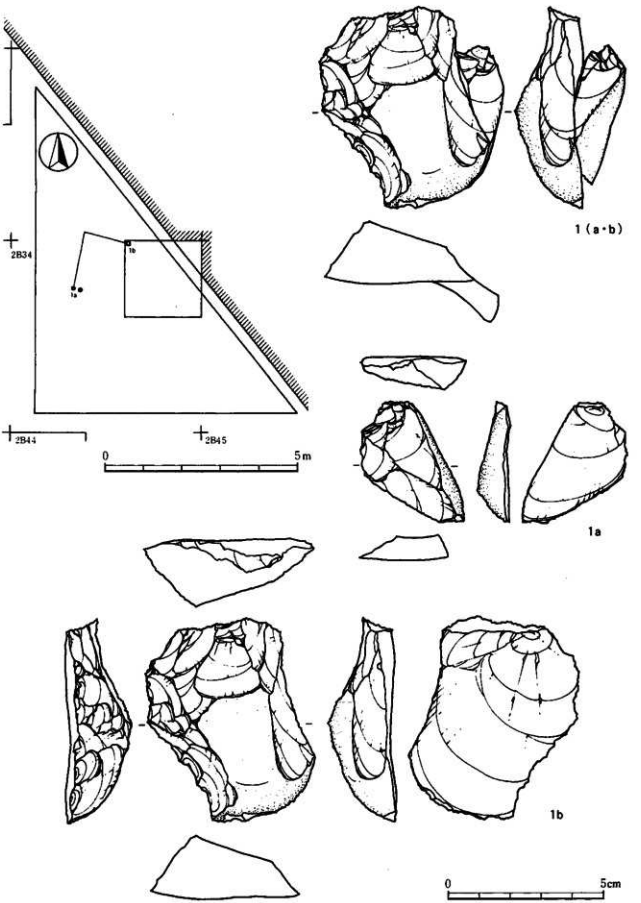
第4節　石器集中地点外の出土遺物（第49図、第29表、図版7）

上層遺構精査時に検出されたグリッド一括資料の中から旧石器時代に属すると思われる資料を掲載した。分布傾向は台地の南東側に延びる谷に沿って3地点に分かれているようにも見える。利用石材の特徴から同一時期のものの存在も指摘できるが、所属時期が明らかに異なるものも見られ、見かけの分布として認識した方がよいと思われる。

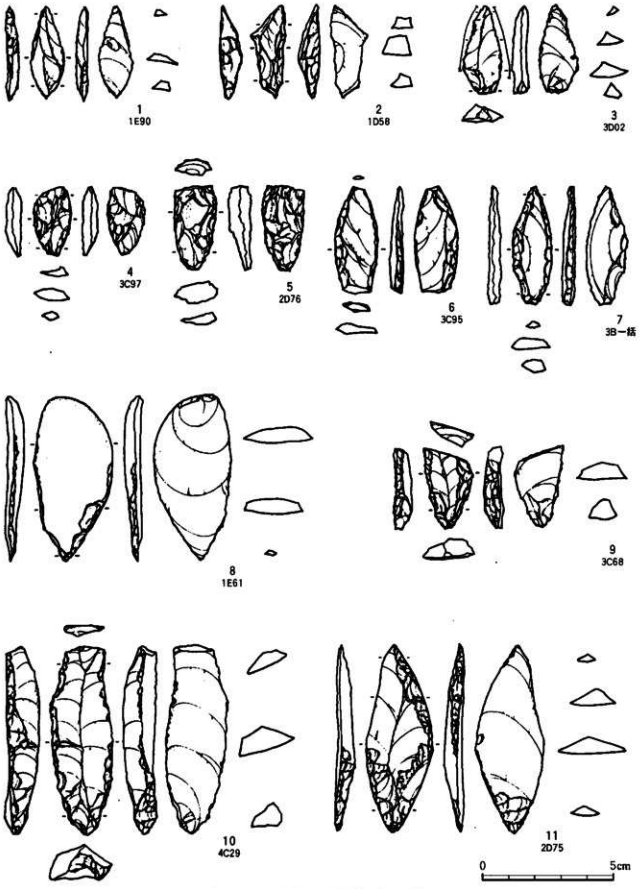
1～3・9～11はナイフ形石器である。2は素材剥片を横位に用いた切出形のナイフ形石器である。9・10はチョコレート色を呈した珪質頁岩を用い、石刃を素材としたナイフ形石器である。第2文化層に伴う可能性が高い。11は先端右側縁と基部左側縁に平坦な剥離により調整が施された優美なナイフ形石器である。基部裏面にも平坦剥離が見られる。

4～7は尖頭器である。4は台形様石器と形態的によく似ているが、切り合い関係から尖頭器の欠損品として理解した。5・6は周縁加工が施された尖頭器である。

8は背面に礫面を残した、先端の尖る削器である。



第48図　石器集中13　出土状況と出土石器



第49図　石器集中地点外　出土石器

第14表　石器集中1　観察表

挿図No.	分布No.	グリッド	遺物番号	器種	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	打面形状	折面部位	末端	自然面	背面構成	石材	層位	X座標	Y座標	Z座標	備考
1	1	01E00	0002	台形様石器	27.7	27.2	8.6	5.99	I	L	H		d	珪質頁岩B	Ⅶ~Ⅷ層	-22402.598	49700.924	39.012	
2	2	01D16	0002	台形様石器	35.4	22.1	7.4	5.70	1	T	H		a	メノウ1	Ⅶ~Ⅷ層	-22408.394	49684.917	39.221	
3	3	00D96	0005	台形様石器	26.1	18.8	5.1	2.35		H·R	F		d	珪質頁岩B9	Ⅶ~Ⅷ層	-22398.996	49680.605	38.727	
4	4	01D06	0006	台形様石器	36.0	24.8	7.5	4.51	1(1)	T	F		d	珪質頁岩B9	Ⅶ~Ⅷ層	-22403.891	49681.080	39.371	
5	5	01D06	0003	横形石器	16.5	28.3	5.9	3.12						メノウ1	Ⅶ~Ⅷ層	-22403.276	49681.703	39.211	尖頭器？
6	6	01D06	0012	ナイフ形石器	48.8	30.3	7.6	7.73			H	○	c	珪質頁岩B	Ⅶ~Ⅷ層	-22404.188	49680.961	39.048	
7a	7a	01D16	0008	スクレイパー	39.8	37.9	13.5	23.28	I		O	○	c3	珪質頁岩2	Ⅶ~Ⅷ層	-22407.979	49683.549	39.211	
7b	7b	01D16	0003	剥片	17.8	19.7	6.2	1.90	2		H		a	珪質頁岩2	Ⅶ~Ⅷ層	-22407.008	49684.850	39.441	
8	8	01D06	0001	使用痕のある剥片	11.8	20.3	3.8	0.61	1	L			b	黒曜石1	Ⅵ層	-22401.398	49682.015	39.485	
9	9	01D06	0015	使用痕のある剥片	14.8	21.0	7.3	1.62		T			b	チャート2	Ⅶ~Ⅷ層	-22403.231	49683.569	39.161	
10	10	01D17	0023	剥片	13.6	23.7	3.5	1.05	L		H		c	ホルンフェルス	Ⅶ~Ⅷ層	-22407.894	49688.182	39.461	
11	11	00D96	0001	剥片	25.5	23.5	8.1	3.90	P		F	○	a	凝灰岩	Ⅵ層	-22398.848	49680.585	39.164	
12	12	01D09	0004	剥片	25.2	22.5	4.7	2.23	I		F	○	a	珪質頁岩B8	Ⅶ~Ⅷ層	-22402.709	49697.538	38.898	
13	13	00D96	0004	剥片	34.7	14.8	4.5	2.50		H	F		c	頁岩	Ⅶ~Ⅷ層	-22398.942	49680.860	38.716	
14	14	01D28	0005	剥片	22.7	27.2	7.4	3.83	I	L	H		d	珪質頁岩B2	Ⅶ~Ⅷ層	-22410.580	49690.045	38.986	
15	15	01D09	0013	スクレイパー	33.5	33.8	10.1	13.56		L·R		○		珪質頁岩B10	Ⅶ~Ⅷ層	-22402.790	49699.425	39.116	
16	16	01D16	0009	使用痕のある剥片	32.3	30.8	8.7	7.88	C		H	○	a	チャート1	Ⅶ~Ⅷ層	-22407.119	49682.288	39.191	
17	17	01D18	0021	剥片	30.0	39.1	8.3	6.52	I		F	○	a	珪質頁岩B	Ⅶ~Ⅷ層	-22406.911	49681.913	39.106	
18	18	01D28	0004	剥片	36.6	44.8	12.5	19.54	2		H	○	a	安山岩	Ⅶ~Ⅷ層	-22411.544	49690.141	39.086	
19	19	01D09	0009	剥片	28.3	27.9	8.2	4.80	1		F		a1	珪質頁岩B5	Ⅶ~Ⅷ層	-22401.400	49697.948	39.097	
20	20	01D17	0024	剥片	36.6	33.6	12.2	9.71	1		O	○	a	珪質頁岩B	Ⅶ~Ⅷ層	-22406.608	49688.695	38.985	
21	21	01D18	0023	剥片	32.9	24.5	10.6	5.35	I		H		a1	珪質頁岩B	Ⅶ~Ⅷ層	-22406.289	49682.502	39.207	
22	22	01D06	0014	剥片	43.2	41.5	14.8	21.84	I		H	○	a1	安山岩B	Ⅶ~Ⅷ層	-22403.472	49682.764	39.099	
23	23	01D09	0006	剥片	46.3	28.7	10.6	11.73	I	T			c1	安山岩B	Ⅶ~Ⅷ層	-22402.524	49697.924	39.046	
24	24	00D96	0001	剥片	41.9	29.5	12.8	12.51	2		H	○	a	メノウ	Ⅶ~Ⅷ層	-22395.100	49691.528	39.121	
25	25	01D17	0015	剥片	36.2	43.8	13.6	12.69	1		O	○	c2	珪質頁岩B	Ⅶ~Ⅷ層	-22407.490	49687.157	39.310	
26	26	01E00	0009	剥片	33.7	33.0	10.5	10.21	I		F	○	a	安山岩A	Ⅶ~Ⅷ層	-22401.854	49701.883	39.055	
27	27	01D16	0005	使用痕のある剥片	21.4	39.1	9.4	5.10	2		F		c3	珪質頁岩B7	Ⅶ~Ⅷ層	-22407.547	49683.733	39.181	
28	28	00D96	0002	剥片	28.3	31.1	17.4	12.05	I		O		c3	チャート2	Ⅵ層	-22397.628	49680.711	39.026	
29	29	01D17	0012	剥片	41.7	33.4	16.5	18.50	2		F		a	珪質頁岩B	Ⅶ~Ⅷ層	-22408.763	49686.639	39.169	
30	30	01D19	0004	剥片	46.3	50.6	13.4	27.47	I		H	○	a	珪質頁岩	Ⅶ~Ⅷ層	-22405.851	49690.371	39.099	
31	31	01D09	0001	剥片	22.1	42.4	11.0	9.27	I	T		○	a	珪質頁岩B8	Ⅶ~Ⅷ層	-22403.074	49697.859	39.310	
32	32	01D17	0013	剥片	38.2	35.1	9.5	9.83	I		F		c	安山岩B	Ⅶ~Ⅷ層	-22408.790	49686.793	39.123	
33	33	01D09	0012	剥片	21.2	42.1	8.6	7.41	I	T			a	珪質頁岩B10	Ⅶ~Ⅷ層	-22402.352	49699.413	39.111	
34	34	01D17	0022	剥片	28.0	43.0	11.3	8.77	I		F		c2	珪質頁岩B2	Ⅶ~Ⅷ層	-22407.628	49688.095	39.279	
35	35	01D17	0019	剥片	29.8	55.4	19.7	24.44	S		H		c	珪質頁岩B	Ⅶ~Ⅷ層	-22405.952	49688.538	39.131	
36	36	01D16	0008	石核	32.3	27.6	15.1	12.07						珪質頁岩3	Ⅶ~Ⅷ層	-22406.730	49683.007	39.191	
37	37	01D16	0007	石核	31.5	36.8	10.0	9.50						珪質頁岩B6	Ⅶ~Ⅷ層	-22406.267	49683.853	39.201	
38	38	01D16	0001	石核	14.7	37.8	25.4	8.96						ホルンフェルス	Ⅶ~Ⅷ層	-22406.768	49684.868	39.181	
39	39	01D18	0028	石核	35.4	31.3	15.6	18.38						珪質頁岩B	Ⅶ~Ⅷ層	-22405.272	49694.117	39.147	
40	40	01D17	0020	剥片	19.1	16.6	6.1	1.44	I		H		a3	珪質頁岩A1	Ⅶ~Ⅷ層	-22406.870	49688.327	39.498	打面再生剥片
41	41	01D17	0014	石核	44.9	54.6	17.1	32.82						安山岩B	Ⅶ~Ⅷ層	-22408.186	49686.490	39.261	
42	42	01D09	0007	石核	45.6	39.7	25.1	32.94						珪質頁岩B5	Ⅶ~Ⅷ層	-22402.572	49697.827	38.888	
43	43	01D17	0016	石核	27.6	21.4	11.9	5.29						珪質頁岩A	Ⅶ~Ⅷ層	-22407.423	49687.365	39.326	
44	44	01D09	0008	石核	43.6	60.1	33.8	76.57						珪質頁岩B5	Ⅶ~Ⅷ層	-22402.958	49699.048	39.120	
45a	45a	01E00	0001	剥片	29.8	35.0	13.3	8.93	I		F	○	c3	珪質頁岩1	Ⅵ層	-22404.389	49700.558	39.346	
45b	45b	01E00	0005	剥片	20.6	19.0	7.6	2.61	I		H		c2	珪質頁岩1	Ⅶ~Ⅷ層	-22403.987	49703.670	38.909	
45c	45c	01E00	0007	剥片	22.9	26.5	6.4	2.88	I		O	○	d	珪質頁岩1	Ⅶ~Ⅷ層	-22400.519	49700.484	39.164	
45d	45d	01E00	0008	石核	24.3	54.4	18.8	18.39						珪質頁岩1	Ⅶ~Ⅷ層	-22400.619	49700.487	39.164	
46a	46a	01D16	0012	剥片	36.4	29.2	12.4	7.56	1		H	○	b	珪質頁岩B4	Ⅶ~Ⅷ層	-22405.212	49683.074	39.171	
46b	46b	01D06	0008	剥片	37.9	30.0	14.0	9.39	I	R·T		○	a	珪質頁岩B4	Ⅶ~Ⅷ層	-22402.822	49682.588	39.381	
47a	47a	01D07	0002	剥片	33.5	28.5	9.6	9.07	P	T		○	a	チャート1	Ⅶ~Ⅷ層	-22403.920	49685.714	39.121	
47b	47b	01D16	0004	剥片	22.0	27.3	6.2	3.00		H	F	○		チャート1	Ⅶ~Ⅷ層	-22407.159	49683.872	39.271	
48a	48a	01D17	0017	スクレイパー	22.2	23.5	9.2	3.81		H·T		○	c	珪質頁岩B3	Ⅶ~Ⅷ層	-22406.599	49686.917	39.045	
48b	48b	01D17	0018	スクレイパー	33.8	26.5	10.0	9.81		H·T		○		珪質頁岩B3	Ⅶ~Ⅷ層	-22405.215	49687.211	39.392	
49a	49a	01D06	0011	剥片	17.6	15.2	5.9	0.98	I	R	H		b	黒曜石1	Ⅶ~Ⅷ層	-22403.188	49680.540	39.138	
49b	49b	01D06	0009	剥片	20.4	13.2	6.0	1.07	I	L	H		a	黒曜石1	Ⅶ~Ⅷ層	-22402.303	49682.514	39.171	
50a	50a	01D17	0021a	剥片	27.2	34.5	6.3	5.98	2(1)		H		c	珪質頁岩B1	Ⅶ~Ⅷ層	-22406.623	49689.238	39.456	遺物ダブリ
50b	50b	01D17	0028	剥片	53.9	43.8	17.4	36.32	7(3)		H		c	珪質頁岩B1	Ⅶ~Ⅷ層	-22409.810	49689.627	39.191	
51	51	01D18	0019	敲石	75.8	38.1	28.1	109.86						凝灰岩	Ⅶ~Ⅷ層	-22407.652	49690.172	39.189	
	52	00D96	0003	使用痕のある剥片	12.6	7.5	2.4	0.22		H·T			a	珪質頁岩	Ⅵ層	-22399.641	49691.350	39.246	
	53	00D96	0006	剥片	13.8	11.1	4.3	0.53		H	H	○		黒曜石1	Ⅶ~Ⅷ層	-22399.470	49680.927	38.751	
	54	01D06	0002	剥片	16.3	17.3	3.7	0.85	P	TR			a	黒曜石1	Ⅶ~Ⅷ層	-22401.267	49682.173	39.291	
	55	01D06	0004	剥片	17.5	17.0	11.8	2.67	3	T		○	c	黒曜石1	Ⅶ~Ⅷ層	-22402.485	49681.575	39.351	
	56	01D06	0005	剥片	10.9	13.2	4.2	0.55	P		H		c	珪質頁岩B4	Ⅶ~Ⅷ層	-22404.675	49681.043	39.171	
	57	01D06	0007	剥片	10.5	18.7	5.7	0.72	2(1)		H		a	チャート2	Ⅶ~Ⅷ層	-22404.076	49681.090	39.321	
	58	01D06	0010	剥片	13.3	9.3	2.5	0.40		H·T				黒曜石1	Ⅶ~Ⅷ層	-22400.751	49681.378	38.956	
	59	01D06	0013	剥片	11.9	20.5	4.2	1.06	1		H	○	a	メノウ	Ⅶ~Ⅷ層	-22403.526	49682.173	38.911	
	60	01D07	0001	剥片	20.9	31.1	6.3	2.56		H·T			c	珪質頁岩B6	Ⅶ~Ⅷ層	-22404.669	49685.388	39.417	
		01D08	0002	遺物不明										遺物不明		-22403.659	49694.255		遺物不明　台帳なし
	61	01D08	0003	剥片	14.5	20.0	8.0	1.72		H	H		a2	珪質頁岩B6	Ⅶ~Ⅷ層	-22403.822	49694.148	39.171	
	62	01D09	0002	剥片	7.9	15.2	3.4	0.29		H·R	F	○		珪質頁岩B	Ⅶ~Ⅷ層	-22403.070	49697.588	38.841	
	63	01D09	0003	剥片	21.4	28.0	7.2	3.98	3		H		a	珪質頁岩B1	Ⅶ~Ⅷ層	-22402.877	49697.622	38.898	
	64	01D09	0005	剥片	11.0	17.0	3.0	0.60		H·T			c	珪質頁岩B1	Ⅶ~Ⅷ層	-22402.621	49697.679	39.121	
		01D09	0010	遺物不明										遺物不明	Ⅶ~Ⅷ層	-22401.216	49698.177	38.940	遺物不明
	65	01D09	0011	剥片	18.0	8.7	4.6	0.63	P	R			c	珪質頁岩B10	Ⅶ~Ⅷ層	-22402.139	49699.417	39.218	
	66	01D09	0014	剥片	12.0	21.6	6.2	1.76		H·T			a	珪質頁岩B10	Ⅶ~Ⅷ層	-22403.597	49699.902	38.948	
		01D09	0015	遺物不明										遺物不明	Ⅶ~Ⅷ層	-22402.528	49697.907	39.043	遺物不明
		01D09	0016	遺物不明										遺物不明	Ⅶ~Ⅷ層	-22402.673	49697.727	39.058	遺物不明
	67	01D16	0010a	剥片	12.7	22.5	9.2	1.45	C		H	○	c	珪質頁岩3	Ⅶ~Ⅷ層	-22405.166	49683.480	39.341	遺物ダブリ
	68	01D16	0010b	剥片	10.5	15.0	3.4	0.34	P	T			d	黒曜石1	Ⅶ~Ⅷ層	-22405.166	49683.480	39.341	遺物ダブリ
	69	01D16	0011	剥片	18.7	17.4	6.2	1.48	I		F		a	珪質頁岩B4	Ⅶ~Ⅷ層	-22405.169	49683.271	39.211	
	70	01D16	0013	剥片	10.0	12.5	5.8	0.54	I	T			c	チャート2	Ⅶ~Ⅷ層	-22406.005	49680.988	39.031	
	71	01D17	0021b	剥片	7.0	14.8	4.8	0.40		H	H		a	珪質頁岩A1	Ⅶ~Ⅷ層	-22406.623	49689.238	39.456	遺物ダブリ
	72	01D17	0025	剥片	16.8	22.0	7.9	1.89	2(1)		F	○	a	珪質頁岩B2	Ⅶ~Ⅷ層	-22407.721	49688.158	39.241	
	73	01D18	0020	剥片	13.0	18.8	4.7	0.78	2	T			c	珪質頁岩B	Ⅶ~Ⅷ層	-22407.111	49691.118	39.284	
	74	01D18	0022	砕片	8.8	8.8	3.0	0.10	P		F		a2	珪質頁岩A1	Ⅶ~Ⅷ層	-22405.552	49691.254	39.427	
	75	01D18	0024	調整痕のある剥片	10.0	22.8	4.3	1.21		H·T			c	珪質頁岩B	Ⅶ~Ⅷ層	-22406.280	49692.699	38.833	
	76	01D18	0025	剥片	27.4	16.7	11.3	3.68	L	T			c1	珪質頁岩B7	Ⅶ~Ⅷ層	-22407.879	49692.212	39.117	
	77	01D18	0026	その他				3.12						その他	Ⅶ~Ⅷ層	-22406.391	49694.028	39.150	
	78	01D18	0027	その他				16.52						その他	Ⅶ~Ⅷ層	-22406.884	49693.945	39.181	
	79	01E00	0003	剥片	25.2	19.3	5.2	1.57		H	F	○	a	珪質頁岩B	Ⅶ~Ⅷ層	-22402.758	49701.673	39.086	
	80	01E00	0004	剥片	14.9	29.5	9.2	3.34		H	H	○	a	珪質頁岩B	Ⅶ~Ⅷ層	-22402.231	49702.324	39.148	
	81	01E00	0006	剥片	16.2	9.7	4.9	0.71		H	F		a1	珪質頁岩B10	Ⅶ~Ⅷ層	-22403.564	49700.051	38.955	

第15表　石器集中2　観察表(1)

挿図No.	分布No.	グリッド	遺物番号	器種	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	打面形状	折面部位	末端	自然面	背面構成	石材	層位	X座標	Y座標	Z座標	備考
1	1	03C54	0008a	台形様石器	15.8	18.5	3.8	1.15						安山岩A	Ⅶ層	-22527.551	49622.640	38.710	遺物ダブリ
2	2	03C74	0001	台形様石器	16.7	17.7	6.0	2.18						安山岩A	Ⅵ層	-22535.339	49624.816	39.260	
3	3	03C55	0008	台形様石器	22.0	19.4	4.9	2.40						安山岩A	Ⅵ層	-22528.784	49628.366	39.203	
4	4	03C74	0007	台形様石器	38.8	27.6	7.4	5.64						安山岩A	Ⅶ~Ⅷ層	-22537.212	49623.502	38.800	
5	5	03C55	0002	調整痕のある剥片	19.6	36.0	10.1	7.04	4(2)	T		○	c	安山岩A	Ⅶ層	-22526.104	49626.636	39.082	
6	6	03C63	0017	調整痕のある剥片	54.2	31.5	14.1	22.48		H	F	○		安山岩A	Ⅶ層	-22531.327	49617.943	39.000	
7	7	03C53	0002	剥片	40.9	38.3	9.8	11.27	1		H		c1	安山岩A	Ⅶ層	-22525.200	49618.303	39.140	
8	8	03C44	0004	剥片	40.2	30.3	7.6	12.01	1	L	F	○	a	安山岩A	Ⅶ層	-22523.854	49620.421	39.031	
9	9	03C64	0022	剥片	31.6	40.6	9.1	10.90	C		H	○	d	安山岩A	Ⅶ~Ⅷ層	-22533.302	49622.865	38.840	
10	10	03C53	0006	剥片	34.9	21.1	11.1	10.58		R		○	b	安山岩A	Ⅶ層	-22526.024	49619.186	38.980	
11	11	03C54	0012	剥片	22.0	40.3	14.9	12.45	1	T		○	a	安山岩A	Ⅶ層	-22529.727	49621.621	39.000	
12	12	03C54	0015	剥片	17.1	28.7	7.0	2.79	4(2)		F		c	安山岩A	Ⅶ層	-22529.858	49622.773	39.000	
13	13	03C63	0013	剥片	48.1	48.1	10.1	19.19	1		H	○		安山岩A	Ⅶ層	-22531.866	49618.275	38.980	
14	14	03C53	0004	剥片	29.5	22.1	7.9	5.17		H・L・T		○	c	安山岩A	Ⅶ層	-22528.621	49618.557	38.980	
15	15	03C54	0002	剥片	46.2	21.9	8.5	9.84	L		H	○		安山岩A	Ⅶ層	-22527.149	49620.389	39.000	
16	16	03C44	0006	剥片	61.0	49.7	13.0	35.58	C		H	○	a	安山岩A	Ⅶ層	-22523.573	49620.545	39.070	
17	17	03C43	0011	剥片	37.8	16.4	4.0	2.22		H	F	○		安山岩A	Ⅶ層	-22523.765	49618.549	39.063	
18	18	03C63	0011	剥片	29.8	41.2	16.5	20.49	P		F		d1	安山岩A	Ⅶ層	-22532.245	49618.846	39.070	
19	19	03C63	0022	剥片	34.2	21.1	12.8	7.52	1		O		c1	安山岩A	Ⅶ層	-22531.300	49618.570	38.880	
20	20	03C45	0002	剥片	40.3	46.5	16.2	23.19	L		H		c1	流紋岩1	Ⅶ層	-22524.482	49626.658	39.030	
21	21	03C44	0023	剥片	29.7	32.0	8.5	7.75	1		H		a2	安山岩A	Ⅶ層	-22522.116	49623.739	39.053	
22	22	03C44	0012	剥片	31.8	32.0	9.3	7.77			F	○	b	安山岩A	Ⅶ層	-22522.890	49622.847	39.106	
23	23	03C44	0024	剥片	29.9	45.3	8.8	13.11	C		H	○	c	安山岩A	Ⅶ層	-22520.806	49622.927	39.046	
24	24	03C44	0001	剥片	44.8	55.6	13.9	22.30	C		H	○	c	安山岩A	Ⅵ層	-22524.582	49620.195	39.256	
25	25	03C54	0006	剥片	30.1	27.0	5.0	3.67	1		H	○	a	安山岩B	Ⅶ層	-22527.488	49622.199	38.930	
26	26	03C54	0007	剥片	37.2	50.1	17.9	25.99	C		F		d	安山岩A	Ⅶ層	-22525.398	49623.519	38.930	
27	27	03C64	0020	剥片	25.3	20.3	9.0	4.15	P		O	○	a1	安山岩B	Ⅶ層	-22534.096	49621.337	38.910	
28	28	03C64	0006	剥片	22.8	23.9	6.4	3.07	2(1)		H	○	a	安山岩B	Ⅶ層	-22531.025	49622.229	39.010	
29	29	03C63	0006	剥片	20.5	33.1	7.4	4.75	C	T		○	a	安山岩A	Ⅶ層	-22531.765	49619.719	38.050	
30	30	03C64	0002	剥片	31.5	30.0	7.5	5.75		H	F	○	a	安山岩A	Ⅶ層	-22530.381	49622.500	38.930	
31	31	03C64	0004	剥片	25.4	30.8	8.0	4.94	1		H	○	a	安山岩B	Ⅶ層	-22530.510	49623.338	38.970	
32	32	03C63	0009	剥片	19.1	26.3	5.1	2.56	1		H	○		安山岩B	Ⅶ層	-22533.438	49619.965	39.170	
33	33	03C63	0023	剥片	33.6	39.3	12.0	13.20	1		F	○	a1	安山岩B	Ⅶ層	-22531.361	49618.727	38.880	
34	34	03C64	0017	剥片	29.8	28.5	11.7	8.05	1	T		○	d	安山岩B	Ⅶ層	-22533.659	49621.574	39.030	
35	35	03C55	0001	剥片	43.0	35.1	16.5	22.64	1		H	○	a	安山岩B	Ⅶ層	-22528.096	49625.617	38.974	
36	36	03C63	0016	剥片	41.0	32.2	15.5	19.60		L	F	○	a2	安山岩B	Ⅶ層	-22531.495	49617.794	38.970	
37	37	03C56	0001	剥片	26.6	29.0	14.0	8.55	L		H	○	a	安山岩B	Ⅶ層	-22529.875	49631.494	39.090	
38	38	03C64	0019	剥片	44.8	47.5	14.9	19.12	1		H	○	c	安山岩B	Ⅶ~Ⅷ層	-22533.706	49621.104	38.830	
39	39	03C63	0015	剥片	42.3	41.7	17.1	27.32	1		F	○	a2	安山岩B	Ⅶ層	-22531.673	49618.264	38.860	
40	40	03C63	0018a	剥片	42.7	45.2	18.4	25.05	1		F	○	d	安山岩B	Ⅶ層	-22531.331	49619.031	39.000	遺物ダブリ
41	41	03C44	0045	剥片	58.3	57.5	14.6	46.98	2(1)		O	○	a	安山岩B	Ⅶ層	-22524.271	49624.116	38.986	
42	42	03C54	0009a	剥片	41.2	60.5	14.1	28.35	1		F	○	c1	安山岩B	Ⅶ層	-22527.777	49622.792	39.110	遺物ダブリ
43	43	03C44	0047	剥片	28.2	28.4	8.6	5.32			H		d2	メノウ1	Ⅶ層	-22522.930	49624.156	38.976	
44	44	03C44	0020	剥片	24.7	20.0	9.4	2.62	1		H		c	メノウ1	Ⅵ層	-22521.253	49623.840	39.261	
45	45	03C55	0005	剥片	22.0	25.3	5.7	2.49	1		H		a	流紋岩1	Ⅶ層	-22526.038	49627.852	39.151	
46	46	03C43	0010	石核	42.8	46.7	14.0	24.02						安山岩A	Ⅶ層	-22524.963	49618.893	38.961	
47	47	03C55	0010	石核	47.9	35.1	9.8	16.28						安山岩A	Ⅶ層	-22529.229	49627.984	38.972	
48	48	03C74	0003	石核	33.7	36.6	12.2	16.82						安山岩A	Ⅶ~Ⅷ層	-22537.173	49624.797	38.830	
49	49	03C74	0002	石核	63.5	18.4	11.6	12.29						安山岩A	Ⅶ~Ⅷ層	-22535.847	49624.256	38.810	
50	50	03C53	0005	石核	30.0	33.7	4.6	20.02						安山岩A	Ⅶ層	-22525.953	49618.906	38.990	
51	51	03C55	0007	石核	38.3	57.5	30.1	71.62						珪質頁岩B	Ⅶ層	-22527.879	49628.532	39.003	
52	52	03C53	0009	石核	27.9	43.5	13.2	14.75						安山岩A	Ⅶ層	-22527.144	49617.853	38.970	
53	53	03C63	0018b	石核	42.1	43.7	16.6	23.99						安山岩B	Ⅶ層	-22531.331	49619.031	39.000	遺物ダブリ
54	54	03C64	0013	石核	58.9	62.5	36.8	150.60						安山岩B	Ⅶ~Ⅷ層	-22533.649	49620.599	38.870	
55	55	03C44	0032	石核	40.0	50.1	34.7	103.91						安山岩A	Ⅶ層	-22520.171	49624.402	39.106	
56a	56a	03C44	0017	剥片	16.2	14.3	4.9	0.84		L	F		a	安山岩A	Ⅶ層	-22521.463	49623.299	39.001	
56b	56b	03C34	0007	剥片	18.9	10.5	5.3	0.94		R	H	○	c	安山岩A	Ⅵ層	-22519.198	49622.822	39.200	
57a	57a	03C64	0021	剥片	29.2	28.5	14.1	6.99			F	○	c1	メノウ1	Ⅶ層	-22533.686	49622.717	39.130	
57b	57b	03C64	0034	剥片	22.2	28.0	5.5	2.92	1		H	○	a	メノウ1	Ⅵ層	-22531.949	49621.490	39.326	
58a	58a	03C63	0005	剥片	16.3	17.6	6.2	1.16	1		H	○	a	安山岩A	Ⅶ層	-22531.305	49618.904	39.105	
58b	58b	03C55	0003	剥片	25.3	23.4	7.3	3.63	1	LT		○	c	安山岩A	Ⅶ層	-22526.020	49626.803	39.061	
59a	59a	03C44	0050	剥片	12.0	16.1	4.7	0.56	P	T		○		安山岩A	Ⅶ層	-22522.269	49623.587	39.026	
59b	59b	03C44	0029	剥片	29.4	18.7	6.9	3.36		H	H	○	a	安山岩A	Ⅶ層	-22520.491	49623.446	39.082	
59c	59c	03C44	0038	剥片	17.9	31.5	5.7	3.19		H	H	○	2	安山岩A	Ⅶ層	-22521.667	49624.733	39.144	
60a	60a	03C44	0044b	剥片	28.0	28.1	8.2	5.67	2		H	○	a	安山岩A	Ⅶ層	-22523.894	49623.733	39.196	遺物ダブリ
60b	60b	03C44	0028	剥片	31.2	27.1	9.0	5.56		L	F	○	a	安山岩A	Ⅶ層	-22520.812	49623.453	39.061	
60c	60c	03C44	0057	剥片	44.8	48.7	11.0	20.27	1		H	○	a	安山岩A	Ⅶ層	-22520.117	49624.916	39.156	
60d	60d	03C44	0018	剥片	48.2	21.1	22.7	17.02	3(3)		F	○	c	安山岩A	Ⅶ層	-22521.085	49623.145	38.994	
60e	60e	03C34	0006	石核	36.1	41.1	25.1	41.20						安山岩A	Ⅶ層	-22519.868	49623.932	39.005	
60f	60f	03C44	0046	剥片	11.4	20.4	4.7	0.89	P	R	H	○	c	安山岩A	Ⅶ層	-22521.500	49622.135	38.943	
60g	60g	03C44	0030	剥片	37.1	24.9	13.2	10.16	1		F	○	a	安山岩A	Ⅶ層	-22520.255	49623.247	39.081	
61a	61a	03C43	0007	剥片	18.9	13.7	3.9	0.61	2		F		a	安山岩A	Ⅶ層	-22524.525	49618.839	39.089	
61b	61b	03C43	0006	剥片	12.8	18.7	4.4	1.28	1		F	○	c	安山岩A	Ⅵ層	-22524.758	49618.841	39.393	
61c	61c	03C43	0004	剥片	12.5	18.6	2.5	0.60	1		F		a	安山岩A	Ⅶ層	-22524.457	49618.076	39.091	
61d	61d	03C53	0013	石核	14.3	48.7	28.1	18.42						安山岩A	Ⅶ層	-22525.319	49617.807	38.900	
62a	62a	03C54	0004	剥片	34.5	39.6	11.0	17.31	1		H	○	c	安山岩A	Ⅶ層	-22527.333	49621.633	38.930	
62b	62b	03C54	0014	調整痕のある剥片	48.7	39.2	11.3	20.69		L	F	○	c	安山岩A	Ⅶ層	-22529.469	49622.192	38.990	
62c	62c	03C54	0016	調整痕のある剥片	35.5	18.4	11.7	6.86		R		○	a1	安山岩A	Ⅶ層	-22529.710	49622.846	39.000	
63a	63a	03C65	0001	剥片	34.8	28.2	8.9	4.37	1		H		a3	安山岩B	Ⅶ層	-22530.061	49626.392	39.129	
63b	63b	03C63	0002	剥片	34.0	30.4	11.4	7.91	3(2)		F		c	安山岩B	Ⅶ層	-22530.634	49619.223	39.125	
64a	64a	03C44	0049	剥片	31.9	30.3	6.4	6.02	1		H	○	a	安山岩B	Ⅶ層	-22522.539	49624.355	39.176	
64b	64b	03C44	0014	剥片	31.2	32.0	9.8	8.59	1		F	○	a	安山岩B	Ⅶ層	-22522.845	49623.132	39.061	
64c	64c	03C54	0005	剥片	39.5	33.5	8.0	9.96	2		H	○	c	安山岩B	Ⅶ層	-22527.428	49622.247	38.920	
65a	65a	03C54	0019	剥片	34.9	34.0	8.0	5.29	1	L	H	○	c	安山岩B	Ⅶ層	-22527.408	49620.781	38.780	
65b	65b	03C64	0016	剥片	40.5	29.0	10.0	15.60			H	○	c	安山岩B	Ⅶ層	-22533.658	49621.450	39.040	
65c	65c	03C64	0030	剥片	29.5	18.7	11.2	4.55	1	R	H	○	a	安山岩B	Ⅶ~Ⅷ層	-22534.261	49621.628	38.860	
65d	65d	03C64	0011	剥片	53.8	45.7	19.0	37.58	1		H	○	c	安山岩B	Ⅶ~Ⅷ層	-22532.956	49621.472	38.870	
66a	66a	03C64	0029	剥片	26.1	18.4	7.5	2.77	1		H	○	c	安山岩B	Ⅶ層	-22532.239	49621.812	38.930	
66b	66b	03C64	0009	剥片	26.9	18.3	7.0	2.19	1		F	○	c	安山岩B	Ⅶ~Ⅷ層	-22532.427	49621.967	38.860	
66c	66c	03C63	0007	剥片	31.8	29.1	6.4	4.56	1		H	○	a	安山岩B	Ⅶ層	-22532.677	49619.476	38.860	
66d	66d	03C64	0027	剥片	29.1	27.4	15.3	8.36	3(1)		H	○	c	安山岩B	Ⅶ層	-22532.623	49621.540	38.960	
66e	66e	03C54	0011	剥片	29.0	31.4	8.6	5.34	1		H	○		安山岩B	Ⅶ層	-22529.434	49621.610	38.800	
66f	66f	03C54	0013	剥片	32.3	29.0	8.8	6.57	1		H	○	a	安山岩B	Ⅶ層	-22529.726	49622.171	39.000	
66g	66g	03C64	0010	剥片	35.5	30.3	13.6	14.06	1		H	○	a	安山岩B	Ⅶ~Ⅷ層	-22532.350	49621.891	38.860	
66h	66h	03C64	0008	石核	30.1	45.7	26.8	48.71						安山岩B	Ⅶ~Ⅷ層	-22532.375	49621.976	38.860	
66i	66i	03C64	0035	剥片	18.3	18.4	3.5	1.05	1		H		c	安山岩B	Ⅶ~Ⅷ層	-22531.940	49620.595	38.716	
		03C34	0001	遺物不明										遺物不明	Ⅵ層	-22519.353	49624.087	39.211	遺物不明

第16表 石器集中2 観察表(2)

挿図No.	分布No.	グリッド	遺物番号	器種	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	打面形状	折面部位	末端	自然面	背面構成	石材	層位	X座標	Y座標	Z座標	備考
	67	03C34	0002	剥片	10.3	12.0	3.3	0.39	L	TR		○	a	安山岩A	VI層	-22519.732	49623.630	39.266	
	68	03C34	0003	剥片	13.1	10.2	3.5	0.27	1		F		a	安山岩A	VI層	-22519.356	49623.469	39.406	
		03C34	0004	遺物不明										遺物不明	VI層	-22519.828	49623.202	39.321	遺物不明
	69	03C34	0005a	礫	21.3	14.3	12.1	5.28						チャート	VII層	-22519.960	49623.881	39.000	遺物ダブリ
	70	03C34	0005b	礫	14.7	12.9	10.1	2.20						チャート	VII層	-22519.960	49623.881	39.000	遺物ダブリ
	71	03C34	0006	剥片	21.1	7.6	4.1	0.76		L		○	a	安山岩A	VII層	-22518.525	49623.155	38.910	
	72	03C42	0001	剥片	9.5	19.2	5.3	0.66		H	F			凝灰岩	VII層	-22522.232	49611.363	39.061	
	73	03C43	0001	剥片	16.0	9.0	3.1	0.44	P	R			b	黒曜石	VII層	-22522.112	49615.093	38.949	楔形石器剥片？
	74	03C43	0002	剥片	15.2	24.0	8.8	2.40	1		H	○		安山岩A	VII層	-22524.650	49617.297	39.106	
	75	03C43	0003	その他				6.06						その他	VI層	-22524.667	49617.514	39.430	
	76	03C43	0005	礫片	7.8	4.5	1.7	0.07						チャート	VII層	-22524.893	49616.606	39.062	
	77	03C43	0008	剥片	9.2	14.3	3.2	0.42		H・T			a	安山岩A	VII層	-22524.331	49618.831	39.111	
	78	03C43	0009	剥片	11.8	10.1	2.3	0.28	L	T			a	安山岩A	VII層	-22524.228	49618.672	38.960	
	79	03C44	0002	剥片	25.2	20.3	5.8	2.35	1	R	H		a	安山岩A	VII層	-22524.281	49620.210	39.171	
	80	03C44	0003	剥片	20.3	8.8	6.0	1.37		R	F		a	安山岩A	VII層	-22524.083	49620.398	38.931	
	81	03C44	0005	剥片	17.7	21.6	2.8	0.98	1		F	○	a	安山岩A	VII層	-22523.654	49620.346	39.091	
	82	03C44	0007	剥片	15.1	10.5	3.7	0.60		R	F	○	c	安山岩A	VII層	-22524.541	49621.524	39.172	
	83	03C44	0008	剥片	29.0	11.3	8.0	2.03	P		F		d1	安山岩A	VI層	-22524.572	49621.741	39.414	
	84	03C44	0009	砕片	8.5	5.5	1.9	0.09			F	○	a	砂岩	VII層	-22523.179	49622.868	38.971	
		03C44	0010	遺物不明										遺物不明	VII層	-22523.091	49622.695	39.006	遺物不明
	85	03C44	0011	砕片	7.2	9.9	2.0	0.20		H・L			a	安山岩A	VII層	-22522.951	49622.550	38.990	
	86	03C44	0013	剥片	19.3	21.0	10.5	2.84	1		F		a1	安山岩A	VII層	-22522.861	49622.910	39.128	
	87	03C44	0015	剥片	11.0	8.0	2.5	0.20	1		F		a	安山岩A	VII層	-22521.721	49623.027	38.968	
	88	03C44	0016	剥片	17.3	12.1	3.8	0.73	1		H	○	a	安山岩A	VII層	-22521.352	49623.036	39.078	
	89	03C44	0019	砕片	7.5	6.2	2.6	0.14						安山岩A	VI層	-22521.278	49623.624	39.309	
	90	03C44	0021	剥片	15.4	18.8	5.3	1.10	P		F		a	安山岩A	VI層	-22521.743	49623.629	39.256	
	91	03C44	0022	剥片	9.3	12.0	2.7	0.17		H			a	安山岩A	VI層	-22521.907	49623.730	39.241	
	92	03C44	0025	剥片	7.3	21.6	6.2	0.58		H	F		c	安山岩A	VII層	-22520.541	49622.947	39.198	
	93	03C44	0028	砕片	5.4	3.1	2.0	0.03						安山岩A	VII層	-22520.544	49623.195	39.151	
	94	03C44	0027	剥片	18.6	18.7	5.5	1.45	1		H		a	安山岩A	VI層	-22520.785	49623.172	39.246	
	95	03C44	0031	剥片	8.4	12.9	2.9	0.28			H		c	安山岩A	VI層	-22520.065	49623.612	39.233	
	96	03C44	0033	剥片	13.7	19.6	3.6	0.73	C		F		a	安山岩A	VI層	-22520.352	49624.295	39.281	
	97	03C44	0034	砕片	8.0	4.3	1.5	0.07						安山岩A	VI層	-22520.661	49624.260	39.263	
	98	03C44	0035	砕片	6.6	4.4	2.3	0.09						安山岩A	VI層	-22520.706	49624.027	39.299	
	99	03C44	0036	剥片	27.1	28.2	8.5	5.56	1		H		c	安山岩A	VII層	-22521.500	49624.400	39.131	
		03C44	0037	遺物不明										遺物不明	VI層	-22521.725	49624.328	39.256	遺物不明
	100	03C44	0039	剥片	25.4	12.7	6.4	1.87	P	R			a	安山岩A	VI層	-22521.946	49624.768	39.251	
	101	03C44	0040	砕片	9.8	6.6	2.0	0.14						安山岩A	VI層	-22522.536	49624.208	39.344	
	102	03C44	0041	砕片	7.5	2.5	1.0	0.02						安山岩A	VII層	-22522.477	49623.897	38.978	
		03C44	0042	遺物不明										遺物不明	VII層	-22523.361	49623.784	38.988	遺物不明
	103	03C44	0043	砕片	8.7	4.5	2.0	0.07						安山岩A	VII層	-22523.849	49623.841	39.198	
	104	03C44	0044a	剥片	38.5	20.6	10.1	6.05	P		F	○	3	安山岩A	VII層	-22523.694	49623.733	39.196	遺物ダブリ
	105	03C44	0046	剥片	13.1	4.3	3.0	0.14		L			a	安山岩A	VII層	-22522.917	49624.329	39.041	
	106	03C44	0051	剥片	15.6	10.9	3.5	0.55		H・T			a	安山岩A	VII層	-22522.050	49623.072	38.996	
	107	03C44	0052	剥片	6.5	16.3	3.0	0.16	1		H		d	安山岩A	VII層	-22521.827	49623.822	39.016	
	108	03C44	0053	剥片	10.2	11.3	1.1	0.14		H	F		a	安山岩A	VII層	-22521.790	49624.031	39.146	
	109	03C44	0054	砕片	5.0	6.0	1.6	0.04						安山岩A	VII層	-22521.212	49624.025	39.116	
	110	03C44	0055	剥片	5.0	10.8	2.2	0.13			F		a	安山岩A	VII層	-22521.294	49623.423	39.016	
	111	03C44	0056	剥片	26.5	11.7	4.9	1.68		L	F	○	a	安山岩A	VII層	-22520.713	49623.321	39.136	
	112	03C45	0001	礫片	35.7	22.4	20.7	17.03						流紋岩	VII層	-22521.406	49627.403	38.691	
	113	03C45	0003	礫	24.4	12.0	12.3	3.61						チャート	VII層	-22524.322	49628.013	38.630	
	114	03C52	0001	剥片	27.7	16.0	10.9	3.91		L			a2	安山岩A	VI層	-22525.789	49613.606	39.205	
	115	03C53	0001	剥片	19.3	2.3	7.8	1.76		H	F		c1	安山岩A	VI層	-22525.196	49617.937	39.295	
	116	03C53	0003	剥片	29.0	7.3	5.0	2.32		L・R・T			b	安山岩A	VII層	-22526.037	49618.435	38.870	
	117	03C53	0007	剥片	37.5	18.3	10.9	6.34		L・R・H			d	安山岩A	VII層	-22527.245	49618.330	39.140	
	118	03C53	0008	剥片	11.5	17.6	3.5	0.76	1			○		安山岩A	VI層	-22527.231	49618.113	39.260	
		03C53	0010	遺物不明										遺物不明	VII層	-22527.447	49618.047	38.950	遺物不明
	119	03C53	0011	剥片	13.6	19.8	4.4	1.27		H・L	F		a	安山岩A	VI層	-22529.784	49618.301	39.280	
	120	03C53	0012	剥片	8.6	14.7	2.9	0.39	1		H		a	安山岩A	VII層	-22525.177	49618.411	38.910	
	121	03C53	0014	剥片	27.7	20.4	8.7	3.24	1	R	F	○	a	安山岩A	VII層	-22526.399	49618.102	38.960	
	122	03C53	0015	礫	30.5	31.4	4.3	5.53						頁岩	VII層	-22526.327	49618.139	38.960	
	123	03C54	0001	剥片	17.6	11.8	5.8	1.04	C	R	H		a	安山岩A	VI層	-22526.458	49620.227	39.300	
	124	03C54	0003	剥片	18.6	10.8	3.6	0.54		LH	H		c	珪質頁岩	VII層	-22528.063	49620.701	39.000	
	125	03C54	0006b	礫片	15.1	6.0	7.5	0.72						チャート	VII層	-22527.551	49622.640	38.710	遺物ダブリ
	126	03C54	0009b	礫	17.3	11.9	2.9	0.95						チャート	VII層	-22527.777	49622.792	39.110	遺物ダブリ
	127	03C54	0010	礫片	8.0	9.2	3.2	0.27						安山岩A	VII層	-22529.052	49622.428	38.880	
	128	03C54	0017	剥片	14.3	14.8	4.4	0.74	2		F		a	安山岩A	VII層	-22529.551	49623.321	38.930	
	129	03C54	0018	礫片	16.0	7.2	4.0	0.58						珪質頁岩	VII層	-22529.286	49623.391	38.990	
	130	03C55	0004	調整痕のある剥片	24.7	23.1	4.8	2.76	1	L	F	○	a	安山岩A	VII層	-22525.190	49626.163	38.957	
	131	03C55	0008	剥片	8.4	20.1	3.4	0.65		H	H		a	安山岩B	VII層	-22526.335	49626.000	39.129	
	132	03C55	0009	剥片	19.3	13.5	4.4	1.22	C	R・T			a	安山岩A	VII層	-22529.419	49628.361	39.170	
	133	03C55	0011	砕片	5.4	8.0	1.5	0.05						安山岩A	VII層	-22525.560	49625.968	38.721	
	134	03C55	0012	剥片	12.4	13.3	2.5	0.38	L	T			a	安山岩B	VI層	-22525.250	49625.225	39.231	
	135	03C62	0004	剥片	15.0	10.8	1.6	0.41						頁岩	VI～VII層	-22531.924	49611.890	39.194	
	136	03C63	0001	剥片	26.6	14.4	6.5	1.89		T		○	a	安山岩B	VI～VII層	-22530.872	49619.564	38.855	
	137	03C63	0003	剥片	18.5	9.3	3.0	0.34	P	R	F		d	安山岩A	VII層	-22530.565	49619.074	39.120	
	138	03C63	0004	剥片	28.4	24.9	9.5	3.02	3		F		d	安山岩B	VII層	-22531.285	49619.105	38.880	
	139	03C63	0008	剥片	18.1	15.4	3.8	0.67	P		H	○	a	安山岩B	VII層	-22532.859	49619.970	39.150	
	140	03C63	0010	剥片	18.1	15.1	4.4	1.10	1		F		a	安山岩A	VII層	-22533.116	49617.999	38.990	
	141	03C63	0012	剥片	25.9	23.7	5.1	2.44		H	H		a	安山岩A	VII層	-22532.061	49618.896	39.070	
	142	03C63	0014	剥片	20.4	24.1	9.3	3.65		H	F	○		安山岩A	VII層	-22531.896	49618.002	39.120	
	143	03C63	0019	砕片	9.5	6.7	2.0	0.17	L		F	○	a	安山岩A	VII層	-22531.202	49618.080	38.890	
	144	03C63	0020	剥片	16.4	16.5	2.5	0.67	2	T		○		安山岩A	VII層	-22531.142	49617.963	38.880	
	145	03C63	0021	剥片	18.0	23.1	7.0	0.51	P		F	○	d	安山岩B	VII層	-22530.961	49617.963	38.870	
	146	03C63	0024	剥片	15.9	26.4	12.0	3.98		H・R	H		a	安山岩A	VII層	-22530.621	49618.869	38.890	
	147	03C63	0025	剥片	22.9	28.1	5.7	2.71		H・T			a	安山岩A	VII層	-22531.369	49618.663	38.900	
		03C63	0026	遺物不明										遺物不明	VII層	-22530.910	49618.840	38.925	遺物不明
	148	03C63	0027	剥片	16.3	15.5	5.5	1.11	1		H	○	a	安山岩A	VII層	-22531.685	49618.022	38.940	
	149	03C63	0028	剥片	25.8	18.1	3.4	1.46		H	F		a2	安山岩B	VI～VII層	-22531.543	49617.604	38.780	
	150	03C64	0001	剥片	15.6	25.1	4.9	1.12	1		H		c	安山岩B	VII層	-22530.184	49622.418	38.910	
	151	03C64	0003	剥片	16.7	11.1	3.9	0.66	2(1)	L	F			安山岩B	VII層	-22530.337	49623.372	39.040	
	152	03C64	0005	礫片	19.2	15.0	3.9	1.17						チャート	VII層	-22531.145	49623.452	38.960	
	153	03C64	0007	剥片	11.3	23.9	7.1	1.99		H・T	H	○		安山岩B	VI～VII層	-22531.404	49622.057	38.860	
	154	03C64	0012	剥片	15.5	22.0	5.7	1.74	1		H	○	c	安山岩B	VI～VII層	-22533.289	49621.080	38.860	
	155	03C64	0014	剥片	15.9	9.4	4.0	0.42		R			a	安山岩B	VI層	-22534.292	49620.200	39.210	
	156	03C64	0015	剥片	12.7	13.9	5.5	0.67		L		○	c	安山岩B	VI～VII層	-22534.071	49621.088	38.850	
	157	03C64	0016	遺物不明										遺物不明	VII層	-22533.245	49621.153	39.010	遺物不明
	158	03C64	0023	剥片	12.7	14.9	3.4	0.88		H・L	F		a	安山岩A	VII層	-22532.600	49622.844	39.120	
	159	03C64	0024	剥片	11.4	15.5	3.9	0.56	1	T			a	安山岩A	VI～VII層	-22532.895	49623.058	38.850	
	160	03C64	0025	礫片	16.6	11.8	3.2	0.82						チャート	VI～VII層	-22533.897	49623.472	38.840	

第17表　石器集中2　観察表(3)

挿図No.	分布No.	グリッド	遺物番号	器種	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	打面形状	折面部位	末端	自然面	背面類型	石材	層位	X座標	Y座標	Z座標	備考
	161	03C64	0026	剥片	16.3	46.5	8.7	4.40	1		F		c	安山岩A	Ⅵ層	-22533.652	49623.797	39.030	
	162	03C64	0028	剥片	8.0	18.0	4.1	0.54		H	O	○	c	安山岩A	Ⅵ～Ⅶ層	-22532.491	49621.569	38.830	
	163	03C64	0031	剥片	15.1	26.6	7.6	2.35	L		F		a2	安山岩B	Ⅵ層	-22530.053	49621.761	39.331	
	164	03C64	0032	石核	52.2	28.5	28.8	53.69						珪質頁岩	Ⅵ～Ⅶ層	-22530.047	49621.500	38.952	
	165	03C64	0033	その他				1.86						その他	Ⅵ～Ⅶ層	-22531.889	49621.964	38.860	
	166	03C65	0002	砕片	9.9	8.5	3.3	0.24	C	L	F		c	安山岩A	Ⅵ層	-22531.076	49629.500	38.996	
	167	03C74	0004	剥片	28.4	29.7	5.7	4.11		H・T			b	安山岩A	Ⅵ層	-22536.108	49622.772	38.940	
	168	03C74	0005	礫片	20.0	12.5	8.6	2.69						チャート	Ⅵ～Ⅶ層	-22535.888	49620.808	38.690	
	169	03C74	0006	礫	11.3	9.5	8.4	0.98						メノウ	Ⅵ～Ⅶ層	-22535.831	49620.777	38.685	
	170	03C74	0008	剥片	16.1	12.3	2.4	0.47	2(1)		F		a	安山岩A	Ⅵ～Ⅶ層	-22536.611	49623.842	38.820	

第18表　石器集中12　観察表

挿図No.	分布No.	グリッド	遺物番号	器種	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	打面形状	折面部位	末端	自然面	背面類型	石材	層位	X座標	Y座標	Z座標	備考
1	1	03B64	0004	台形様石器	40.3	29.1	11.1	15.23						安山岩A	Ⅵ～Ⅶ層	-22530.411	49570.076	38.922	
2	2	03B64	0005	剥片	29.5	20.3	3.8	1.99	L			○	a	安山岩A	Ⅵ～Ⅶ層	-22531.155	49570.057	38.948	

第19表　石器集中3　観察表

挿図No.	分布No.	グリッド	遺物番号	器種	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	打面形状	折面部位	末端	自然面	背面類型	石材	層位	X座標	Y座標	Z座標	備考
1	1	01D17	0001	楔形石器	21.8	18.1	7.3	2.64						珪質頁岩A2	Ⅲ層	-22408.152	49687.900	40.008	
2	2	01D18	0002	剥片	23.6	10.5	5.7	1.19	1		F		b	珪質頁岩A	Ⅲ層	-22406.026	49690.126	39.801	小石刃？
3	3	01D18	0012	剥片	16.7	19.4	2.9	0.86	1	T			a	珪質頁岩A1	Ⅵ層	-22405.488	49690.762	38.568	
4	4	01D17	0003	使用痕のある剥片	14.9	16.3	4.4	0.76	P		F		a	珪質頁岩A2	Ⅵ層	-22407.781	49687.960	39.703	
5	5	01D18	0006	剥片	17.3	16.5	4.4	1.14	1		H	○	c	珪質頁岩A1	Ⅵ層	-22408.463	49691.163	39.818	
6	6	01D18	0013	剥片	25.5	35.5	7.7	5.46	1		F	○	c	珪質頁岩A1	Ⅵ層	-22405.667	49690.846	39.533	
7	7	01D18	0010	剥片	27.8	10.7	7.1	1.37	P		F		b	珪質頁岩A	Ⅵ層	-22407.551	49691.560	39.576	被熱
8	8	01D18	0018	剥片	23.6	23.0	7.4	3.40		H	F	○	a	珪質頁岩A	Ⅵ層	-22406.174	49690.758	39.806	
9	9	01D18	0004	使用痕のある剥片	32.8	21.0	10.0	6.00	3(2)		H	○	c	珪質頁岩A	Ⅲ層	-22406.393	49690.721	39.875	
10	10	01D18	0003	使用痕のある剥片	23.9	19.8	2.9	1.05	1		H		d	珪質頁岩A2	Ⅲ層	-22406.802	49690.341	39.887	
11	11	01D18	0008	剥片	22.9	18.5	2.7	0.93	1	T			b	珪質頁岩A2	Ⅵ層	-22405.888	49691.100	39.680	
12	12	01D17	0011	剥片	19.9	38.5	8.8	5.40	1		H	○	c	ホルンフェルス	Ⅵ層	-22408.893	49686.154	39.731	
13	13	01D17	0008	剥片	33.8	19.0	10.8	4.24		H	F	○	c	珪質頁岩B	Ⅵ層	-22408.431	49689.220	39.333	
14	14	01D17	0002	石核	20.6	39.8	15.9	14.73						珪質頁岩A2	Ⅵ層	-22407.896	49687.434	39.681	
15	15	01D18	0015	剥片	23.2	23.0	8.0	2.38	1	R			a	珪質頁岩A1	Ⅵ層	-22407.409	49690.566	39.801	
16a	16a	01D18	0007	スクレイパー	35.7	32.8	11.3	10.68	1		F	○		珪質頁岩A1	Ⅵ層	-22406.756	49691.347	39.710	
16b	16b	01D18	0009	石核	30.2	43.2	30.3	52.30						珪質頁岩A1	Ⅵ層	-22405.130	49690.973	39.648	
17	17	01D08	0001	使用痕のある剥片	45.8	27.0	11.2	14.20	4(3)	T		○		黒曜石	Ⅵ層	-22403.855	49691.801	39.616	
18	18	01D18	0001	剥片	33.2	29.2	6.4	5.83	1	T			c	珪質頁岩B	Ⅲ層	-22405.508	49691.820	39.840	
19a	19a	01D18	0005	剥片	41.7	46.7	13.2	24.11	C	L	F	○	c	珪質頁岩A1	Ⅵ層	-22406.352	49690.855	39.725	
19b	19b	01D18	0016	剥片	25.4	29.1	7.8	5.44	1		F		d	珪質頁岩A1	Ⅵ層	-22407.542	49690.756	39.602	
	20	01D17	0004	剥片	13.2	13.3	5.2	0.63	L		F		a1	珪質頁岩A2	Ⅵ層	-22407.421	49688.229	39.592	
	21	01D17	0005	剥片	16.3	15.3	4.7	1.27			H		a	珪質頁岩A2	Ⅵ層	-22407.334	49688.881	39.643	
	22	01D17	0006	剥片	20.0	30.5	9.3	4.17	2(1)		H		a1	緑泥片岩1	Ⅵ層	-22408.134	49689.163	39.681	
	23	01D17	0007	剥片	16.2	8.7	2.7	0.61		H	F		a	緑泥片岩1	Ⅵ層	-22407.788	49689.220	39.708	
	24	01D17	0009	剥片	12.1	24.4	5.6	1.40	1		H		a	珪質頁岩B	Ⅵ層	-22409.257	49689.375	39.327	
	25	01D17	0010	剥片	13.3	27.0	5.2	1.18	1		H		a	珪質頁岩B	Ⅵ層	-22409.006	49688.543	39.344	
	26	01D18	0011	剥片	12.9	16.9	3.8	0.70		H・T				メノウ	Ⅵ層	-22405.776	49690.438	39.560	
	27	01D18	0014	剥片	21.5	7.5	2.0	0.26	P		H		c	珪質頁岩B	Ⅵ層	-22407.649	49691.248	39.840	
	28	01D18	0017	剥片	11.0	12.4	5.4	0.64	3(2)		H		b	珪質頁岩A1	Ⅵ層	-22406.896	49690.590	39.598	

第20表　石器集中4　観察表

挿図No.	分布No.	グリッド	遺物番号	器種	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	打面形状	折面部位	末端	自然面	背面類型	石材	層位	X座標	Y座標	Z座標	備考
1	1	01D43	0002	石核	27.0	21.4	10.3	4.65		H		○	b2	珪質頁岩A	Ⅵ層	-22423.821	49666.566	39.705	
2	2	01D64	0002	使用痕のある剥片	24.5	22.5	3.9	1.73	P		F	○		珪質頁岩A1	Ⅵ層	-22434.789	49674.784	39.624	
3	3	01D54	0002	使用痕のある剥片	22.5	18.1	6.6	1.89	1		H		a	珪質頁岩A2	Ⅵ層	-22427.505	49671.629	39.725	
4	4	01D64	0003	スクレイパー	41.2	25.5	11.0	7.84		L			d	珪質頁岩A1	Ⅵ層	-22434.428	49674.919	39.650	
5	5	01D42	0001	使用痕のある剥片	36.5	38.9	13.6	14.82	1	T		○	a	メノウ	Ⅵ層	-22424.141	49664.786	39.791	
6	6	01D43	0001	スクレイパー	35.7	40.3	7.2	10.75	1	T			a	珪質頁岩A2	Ⅵ層	-22422.633	49666.599	39.820	
7	7	01D64	0001	使用痕のある剥片	45.9	26.4	8.2	6.58	3(3)		H		b	珪質頁岩A1	Ⅵ層	-22434.660	49674.656	39.826	
	8	01D53	0001	使用痕のある剥片	20.9	32.6	5.6	4.40	L	T		○	a	片岩1	Ⅵ層	-22429.564	49665.281	39.535	
	9	01D54	0001	剥片	25.5	29.3	7.1	4.84	1		F	○	d	安山岩B	Ⅵ層	-22426.073	49672.623	39.680	
	10	01D63	0001	剥片	25.1	25.7	8.0	4.81		H	H	○		片岩1	Ⅵ層	-22430.821	49665.872	39.525	

第21表　石器集中5　観察表

挿図No.	分布No.	グリッド	遺物番号	器種	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	打面形状	折面部位	末端	自然面	背面類型	石材	層位	X座標	Y座標	Z座標	備考
1	1	01E80	0004	ナイフ形石器	27.4	21.5	5.0	2.85	2				d	珪質頁岩	Ⅲ層	-22440.175	49700.381	39.758	
2	2	01D79	0002	ナイフ形石器	29.2	22.5	11.3	4.86						珪質頁岩A	Ⅲ層	-22437.612	49699.323	39.685	
3	3	01D89	0003	石核	46.9	35.7	20.7	25.88						頁岩	Ⅲ層	-22440.576	49699.377	39.600	
4	4	01D79	0001	剥片	13.2	20.8	4.1	0.87	1		F		d	珪質頁岩A	Ⅲ層	-22436.316	49698.062	39.748	
5	5	01D89	0001a	剥片	14.8	19.3	7.2	2.08		H	O		c2	黒曜石	Ⅲ層	-22442.161	49699.002	39.801	遺物ダブリ
6	6	01D89	0002	使用痕のある剥片	34.9	22.1	5.5	3.81	1	T・R			a	珪質頁岩	Ⅲ層	-22440.702	49699.283	39.606	
	7	01D89	0001b	剥片	11.9	20.5	7.5	1.40	P		F		c3	メノウ	Ⅲ層	-22442.161	49699.002	39.801	遺物ダブリ
	8	01D89	0004	礫片	50.0	37.6	20.7	34.02						流紋岩	Ⅲ層	-22440.465	49699.286	39.535	
	9	01D89	0005	礫片	38.5	20.4	22.0	19.76						チャート	Ⅲ層	-22440.279	49699.510	39.620	
	10	01D89	0006	礫片	38.6	27.3	14.0	15.78						チャート	Ⅲ層	-22440.464	49699.572	39.586	
	11	01D89	0007	礫片	51.7	35.3	20.5	36.78						流紋岩	Ⅲ層	-22444.906	49699.917	39.488	
	12	01E80	0001	その他	23.2	20.0	8.7	2.08						その他	Ⅲ層	-22444.409	49704.813	38.907	
	13	01E80	0002a	礫片	24.8	24.9	23.4	9.92						その他	Ⅲ層	-22444.192	49704.734	38.906	遺物ダブリ
	14	01E80	0002b	礫片	25.7	17.3	13.0	3.92						その他	Ⅲ層	-22444.192	49704.734	38.906	遺物ダブリ
	15	01E80	0005	礫片	61.5	30.0	18.0	24.73						砂岩	Ⅲ層	-22440.076	49701.233	39.650	
	16	01E80	0006	礫片	39.5	16.4	10.0	7.99						砂岩	Ⅲ層	-22440.065	49701.369	39.583	

第22表　石器集中6　観察表

掲図No.	分布No.	グリッド	遺物番号	器種	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	打面形状	折面部位	末端	自然面	背面構成	石材	層位	X座標	Y座標	Z座標	備考
1a	1a	01D97	0003	剥片	21.2	31.8	10.2	5.57	1			F	○	a	砂岩	盲層	-22449.838	49865.141	39.731	
1b	1b	01D97	0001	石核	72.9	55.7	32.7	150.30							砂岩	盲層	-22446.606	49866.010	39.751	敲石転用
2	2	01D97	0002	石核	17.4	46.1	34.3	16.98							メノウ	盲層	-22447.278	49865.074	39.629	
	3	01D96	0001	石錐	20.0	12.8	3.3	0.72							安山岩B	盲層	-22447.231	49860.562	38.713	
	4	01D98	0002	剥片	26.8	18.0	3.9	1.58		R-L	F	○			黒曜石	盲層	-22446.664	49860.653	39.754	
	5	01D98	0003	剥片	36.4	34.3	14.8	15.90							チャート	盲層	-22449.760	49861.018	39.869	
	6	02D06	0004	剥片	25.9	25.1	15.5	12.41							チャート	盲層	-22450.121	49860.112	39.690	

第23表　石器集中7　観察表

掲図No.	分布No.	グリッド	遺物番号	器種	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	打面形状	折面部位	末端	自然面	背面構成	石材	層位	X座標	Y座標	Z座標	備考
1		02D12	0004	ナイフ形石器	25.8	14.9	7.1	2.31						安山岩A	盲層	-22455.716	49861.089	39.848	
2		01D80	0001	楔形石器	23.2	25.9	6.2	2.89						黒曜石	盲層	-22444.174	49854.765	40.500	

第24表　石器集中8　観察表

掲図No.	分布No.	グリッド	遺物番号	器種	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	打面形状	折面部位	末端	自然面	背面構成	石材	層位	X座標	Y座標	Z座標	備考
3		02D78	0004	石核	58.0	78.0	25.2	90.18						珪質頁岩	盲層	-22467.329	49895.615	39.305	
		02D98	0001	遺物不明										遺物不明	盲層	-22463.845	49894.400	39.184	遺物不明
		02D78	0001	遺物不明										遺物不明	盲層	-22467.346	49890.998	39.613	遺物不明
		02D78	0002	遺物不明										遺物不明	盲層	-22468.998	49892.928	39.656	遺物不明

第25表　石器集中9　観察表

掲図No.	分布No.	グリッド	遺物番号	器種	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	打面形状	折面部位	末端	自然面	背面構成	石材	層位	X座標	Y座標	Z座標	備考
1	1	04C06	0004	剥片	18.8	14.5	3.4	0.87	1	T			a	珪質頁岩A	盲層	-22550.758	49830.728	39.736	
2	2	04C06	0005	彫刻刀形石器	28.2	22.5	9.9	5.19						珪質頁岩A	盲層	-22550.164	49831.843	39.823	
3	3	03C95	0001	剥片	43.0	37.3	8.5	12.21	3(1)		F	○	c	安山岩A	盲層	-22548.824	49828.854	39.628	

第26表　石器集中10　観察表

掲図No.	分布No.	グリッド	遺物番号	器種	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	打面形状	折面部位	末端	自然面	背面構成	石材	層位	X座標	Y座標	Z座標	備考
4		03D13	0004a	楔形石器	35.8	25.2	7.9	6.61						チャート	盲層	-22505.985	49865.393	39.868	遺物ダブリ
		03D13	0004b	剥片	19.7	9.3	10.5	1.98	L				3	チャート	盲層	-22505.985	49865.393	39.868	遺物ダブリ

第27表　石器集中11　観察表

掲図No.	分布No.	グリッド	遺物番号	器種	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	打面形状	折面部位	末端	自然面	背面構成	石材	層位	X座標	Y座標	Z座標	備考
5		03D62	0004	石核	39.3	42.8	20.8	34.87						チャート	盲層	-22540.132	49861.942	39.918	同接

第28表　石器集中13(工事用道路部分)　観察表

掲図No.	分布No.	グリッド	遺物番号	器種	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	打面形状	折面部位	末端	自然面	背面構成	石材	層位	X座標	Y座標	Z座標	備考
1a	1a	02B34	0001	剥片	36.4	35.4	10.0	10.34	1			F	○	a	安山岩A	器作土中	-22466.280	49571.880	39.508	
1b	1b	02B34	0003	削器	66.3	56.6	20.0	64.59	1			F	○	a	安山岩A	器作土中	-22465.040	49573.050	39.550	
	2	02B34	0002	剥片	8.4	12.0	1.9	0.18	P			F	○	a	安山岩A	器作土中	-22466.300	49571.840	39.523	

第29表　石器集中地点外　観察表

掲図番号	グリッド	旧遺物番号	器種	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	打面形状	折面部位	末端	自然面	背面構成	石材	層位	X座標	Y座標	Z座標	備考
1	01E80	0005	0001	ナイフ形石器	35.2	13.1	4.5	2.17						安山岩A		-22447.043	49700.151	39.648	
2	01D58	0001		ナイフ形石器	35.7	13.7	8.9	3.52						安山岩A		-22428.488	49691.135	40.016	
3	03D02	0013	0001	ナイフ形石器	34.1	14.6	6.6	2.79						チャート		-22500.254	49684.856	40.300	
4	03C97	0023		尖頭器	25.4	14.8	6.4	2.22						珪質頁岩A		-22547.973	49639.333	40.253	
5	02D76	0006	0002	尖頭器	31.9	18.5	9.0	5.21						チャート		-22485.889	49684.298	39.994	
6	03C95	0047	0013	尖頭器	40.5	16.9	5.5	4.13						安山岩A		-22548.399	49626.469	39.169	
7	3B		0002	尖頭器	44.4	14.8	4.5	3.36						安山岩A					出土位置不明
8	01E81	0023	0015	削器	62.5	29.9	6.7	14.56						その他		-22433.805	49706.157	39.727	
9	03C98	0026		ナイフ形石器	31.0	19.0	7.6	4.65						珪質頁岩A		-22532.242	49643.721	40.198	
10	04C09	0001		ナイフ形石器	71.2	24.0	10.9	17.18						珪質頁岩A		-22540.982	49648.181	39.711	
11	03D73	0002	0001	ナイフ形石器	70.8	26.0	7.1	9.40						珪質頁岩A		-22489.019	49679.232	39.872	

観察表について

1．**挿図No.**　実測図を掲載した遺物の通し番号。

2．**分布No.**　平面分布図に付した番号。実測図を掲載したものについては挿図番号と一致する。実測図を掲載しなかったものについてはグリッド、遺物Ｎｏ．順に続けて番号を付した。

3．**最大長・最大幅・最大厚・打角**　計測方法については下図に示した。

4．**打面形状**　Ｃは自然面、Ｐは点状打面、Ｌは線状打面、１は平坦打面、２以上は複剥離打面を示し、括弧内はそのうちネガティブバブルの残る剥離面の数を示している。空欄は欠損等による打面なし、計測不可を示す。

5．**折面部位**　主要剥離面の剥離方向を基準とした折れ面の部位。Ｈ＝頭部側、Ｔ＝尾部側、Ｒ＝右側、Ｌ＝左側を示す。

6．**末端**　Ｆ＝フェザーエンド、Ｈ＝ヒンジフラクチャー、Ｏ＝ウートラパッセを示す。

7．**自然面**　背面に自然面が観察される資料について「○」で示した。

8．**背面類型**　主要剥離面の剥離方向を基準とし、背面を構成する剥離面の加撃方向を類型化したものである。ただし、変形度の高いもの（楔形石器等）は記さなかった。砕片はわかる範囲で記した。

ａ類：一方向　Ｈ
ｂ類：二方向　Ｈ＋Ｔ、Ｔ
ｃ類：二方向　Ｈ＋Ｒ、Ｈ＋Ｌ、Ｒ、Ｌ
ｄ類：三方向　Ｈ＋Ｒ＋Ｔ、Ｈ＋Ｒ＋Ｌ、
　　Ｈ＋Ｔ＋Ｌ、Ｒ＋Ｔ、Ｒ＋Ｌ、Ｔ＋Ｌ
ｅ類：四方向　Ｈ＋Ｒ＋Ｔ＋Ｌ、Ｒ＋Ｔ＋Ｌ

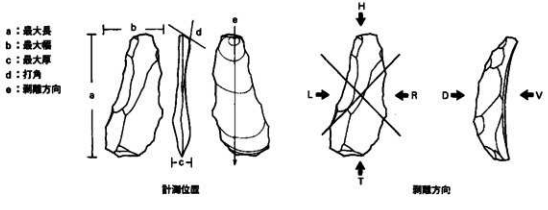
なお、後調整にみられるような背面側から（Ｄ）の剥離痕は１、腹面側から（Ｖ）のものは２、両方向から（Ｄ＋Ｖ）の剥離痕が観察される資料については３をアルファベットに付した。

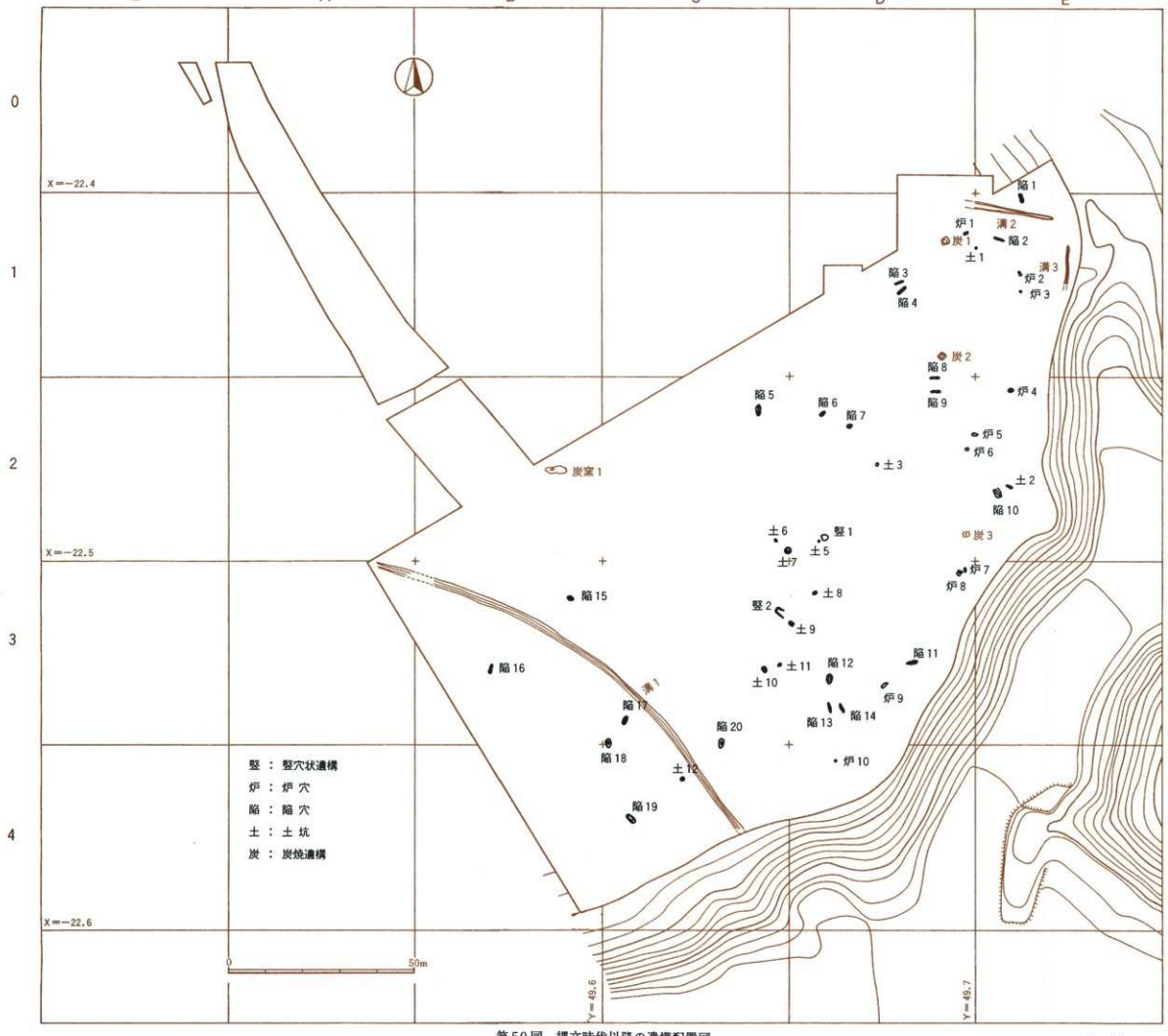
9．**石材**　石材名とその母岩番号を記した。母岩の大別をアルファベットで、細別を数字で記した。細別は基本的に複数の石器が帰属する母岩のみを分類したものである。したがって、単独個体のものや細別困難なものについては石材名のみ、もしくは大別のみを行っている。石材の大別については本文中に記載した。

10．**層位**　調査時の「旧層名」を記した。

11．**Ｘ座標・Ｙ座標**　測量原点からの位置関係を示す公共座標を示す。

12．**Ｚ座標**　標高を示す。





第50図　縄文時代以降の遺構配置図

第3章　縄文時代

第1節　遺構とその出土遺物

調査によって検出された遺構のうち、縄文時代に属するものは、竪穴状遺構2基、土坑12基、炉穴10基、陥穴20基である。台地縁辺部に炉穴が占地するほかは、他の遺構は台地上に散漫に検出された（第50図）。なお、調査時の遺構番号を（　）内に記した。

1　竪穴状遺構

1号竪穴（2Dイ008）（第51図、図版8）

2D81・91グリッドに位置する。平面プランは台形に近い不整円形を呈する。規模は、長軸1.94m、短軸1.79m、深さ約0.20mである。底面は平坦で、軟弱。なだらかに壁へ立ち上がる。西側の覆土上部で条痕文系土器の1個体が出土した。口縁を西壁に向け、つぶれて倒れかかった状態で、底部は欠損していた。土坑としては大きめで竪穴状遺構とした。

1号竪穴出土遺物（第51図1、図版19）

柱状突起を伴う4単位の波状口縁をなす深鉢形土器で、2段の隆起帯を持つ。口唇断面は角張り、両縁に刻みが入る。隆帯は波頂からも垂下し、上面に連続刺突文による刻みを有する。隆起帯で形成された内に条間隔の開いたRL斜縄文が充填されている。一部は方向を変えて羽状を呈する。原体は無節的な不明瞭な部分も多い。撚りが密で多条らしい部位もある。胴部は斜位条痕文が浅く施文されている。内面には条痕はみられない。下位は壁剥落が多い。胎土には繊維が多く認められる。

2号竪穴（3Cイ006）（第51図、図版8）

3C28・38グリッドに位置する。東側が確認坑で切られているが、平面プランは隅丸方形を呈するものとみられる。規模は、現存部の長軸（2.72）m、短軸1.72m、深さ0.20mである。推定の長軸長は3mほどになろう。主軸方位はN-61°-Wである。柱穴は見つからなかった。覆土上位から沈線文系土器が出土している。炉は持たないが、規模や形態からみて竪穴住居跡の可能性が高い。

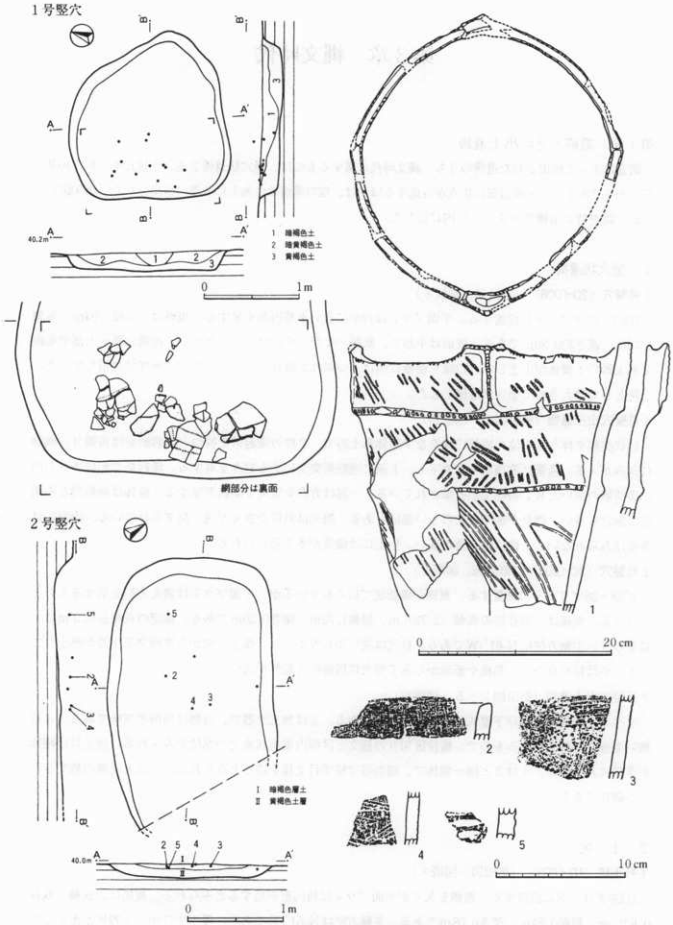
2号竪穴出土遺物（第51図2～5、図版23）

すべて三戸式から田戸下層式にかけての土器である。2は無文土器で、口唇は内削ぎ気味である。3は細い条線文が施文されるもので、横位区切りの施文と区画内鋸歯状施文の部位がみられる。胎土には細砂が多量にみられる。4は3と同一個体で、細条線で格子目文様を描くとみられる。5は太沈線の施文された小破片である。

2　土　坑

1号土坑（1Dイ003）（第52図、図版8）

1D39グリッドに位置する。西側を欠くが平面プランは楕円形を呈するとみられる。規模は、長軸（残存0.63）m、短軸0.64m、深さ0.08mである。主軸方位はN-61°-Eである。覆土中位から土器片が出土している。



第51図　竪穴状遺構と出土遺物

2号土坑（2Eイ003）（第52図、図版8）

2E60・61グリッドに位置し、10号土坑と近接する。平面プランは長楕円形を呈する。規模は、開口部での長軸1.95m、短軸0.61m、坑底での長軸1.50m、短軸0.16m、深さ0.20m～0.35mであり、斜面に沿って床が傾斜している。主軸方位はN-75°-Wである。浅い陥穴のような形態である。出土遺物はない。

3号土坑（2Dイ007）（第52図、図版8）

2D54グリッド杭直下に位置する。平面プランは略円形を呈する。規模は、長軸1.19m、短軸0.91m、深さ0.35mである。主軸方位はN-4°-Eである。擂鉢状の底面を有する。出土遺物はない。

4号土坑（3Dイ006）（第52図、図版8）

3D08グリッドに位置する。平面プランは楕円形を呈する。規模は、長軸0.67m、短軸0.42m、深さ0.21mである。主軸方位はN-23°-Wである。擂鉢状の断面形をなし、底面は小ピット状に深くなっている。

5号土坑（2Dイ009）（第52図、図版8）

2D91グリッドに位置し、4号土坑に近接する。平面プランは円形を呈するピット状のものである。規模は、径0.50m、深さ0.13mである。鍋底状の断面形を有する。出土遺物はない。

6号土坑（2Cイ002）（第52図、図版8）

2C98グリッドに位置する。平面プランは楕円形を呈する。規模は、長軸0.90m、短軸0.54m、深さ0.33mである。主軸方位はN-38°-Wである。擂鉢状の断面形を呈するピット状の土坑である。出土遺物はない。

7号土坑（2Cイ003）（第52図、図版8）

2C99グリッドに位置する。平面プランは楕円形を呈する。規模は、長軸1.68m、短軸1.50m、深さ0.85mである。主軸方位はN-2°-Wである。出土遺物はない。

8号土坑（3Dイ004）（第52図、図版8）

3D10・20グリッドに位置する。平面プランは略円形を呈する。規模は、長軸1.00m、短軸0.73m、深さ0.22mである。主軸方位はN-46°-Eである。擂鉢状の床を持つ。出土遺物はない。

9号土坑（3Cイ005）（第52図、図版8）

3C39グリッドに位置する。平面プランは楕円形を呈する。規模は、長軸1.43m、短軸0.83m、深さ0.39mである。主軸方位はN-62°-Wである。鍋底状の断面形を呈する。出土遺物はない。

10号土坑（3Cイ003）（第52図、図版8）

3C67グリッドに位置する。平面プランは不整楕円形を呈する。規模は、長軸1.86m、短軸1.16m、深さ0.28mである。主軸方位はN-30°-Wである。鍋底状の断面形で床は凹凸がある。出土遺物はない。

11号土坑（3Cイ004）（第52図、図版8）

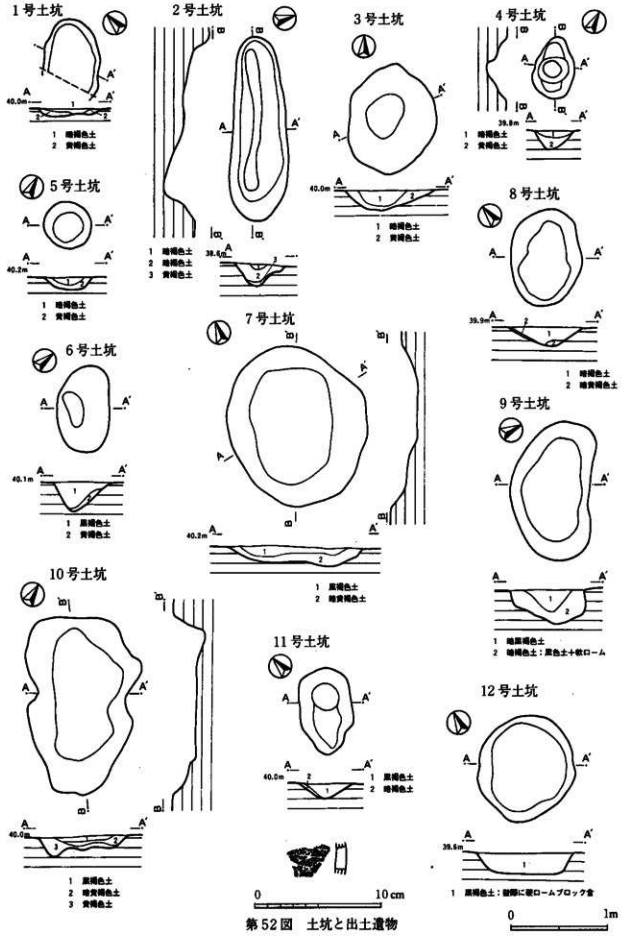
3C58グリッドに位置する。平面プランは楕円形を呈する。規模は、長軸0.90m、短軸0.55m、深さ0.15mである。主軸方位はN-40°-Eである。擂鉢状の断面を呈する。

11号土坑出土遺物（第52図、図版23）

斜行細沈線が施文されるもので、三戸式から田戸下層式にかけての土器であろう。

12号土坑（4Cイ003）（第52図、図版8）

4C23グリッドに位置する。平面プランは略円形を呈する。規模は、長軸1.10m、短軸1.02m、深さ0.24mである。主軸方位はN-34°-Eである。鍋底状の断面形を有する。覆土は暗褐色土である。出土遺物はない。



第52図　土坑と出土遺物

3 炉 穴

1号炉穴（1Dイ008）（第53図、図版9）

1D28グリッドに位置する。平面プランは円形の炉床面に一回り径の大きな円形の足場部となる張り出しを伴なった双円形を呈する。規模は、長軸1.04m、短軸は炉側0.57m、張り出し部側0.64m、深さは炉面で0.08m、張出し部0.13mである。主軸方位はN-63°-Eである。

炉床部は焼締まって硬化していた。掘込みはハードロームに達しており、しっかりしている。

出土遺物はない。

2号炉穴（1Eイ005）（第53図、図版9）

1E41グリッドに位置する。平面プランは円形の炉床面に舌状の張り出しを伴う双円形を呈する。規模は長軸1.35m、短軸炉床面0.58m、張り出し側0.64m、深さ炉床面で0.07m、張り出し側0.09mである。主軸方位はN-39°-Wである。炉床部は良く焼けており、赤化した硬化面が0.07mほどあった。出土遺物はない。

3号炉穴（1Eイ004）（第53図、図版9）

1E51グリッドに位置する。平面プランは円形の炉床部に舌状の張り出し部を伴う略楕円形を呈する。規模は長軸1.37m、短軸は炉部0.63m、張り出し部0.67m、深さ0.13mである。主軸方位はN-72°-Wである。炉床には0.05mほどの赤化した硬化面がみられた。。

3号炉穴出土遺物（第52図、図版23）

張り出し部の覆土中位で土器片が1点出土している。表裏に条痕文の施文された繊維を含む土器で、条痕文系土器である。

4号炉穴（2Eイ001）（第53図、図版9）

2E01グリッドに位置する。平面プランは円形を呈する。規模は、径0.65m、深さ0.13mである。南側が攪乱で切られているが、1・2号と同様に南東方向に張り出し部を持つ可能性がある。約0.10mの硬化部を含む焼土層があった。出土遺物はない。

5号炉穴（2Dイ004）（第53図、図版9）

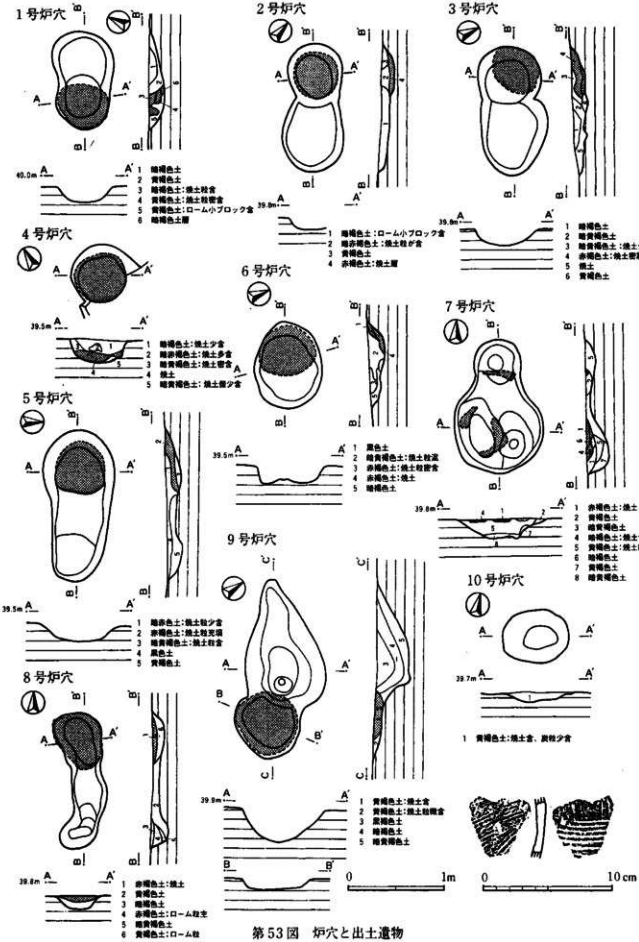
2D39グリッドに位置する。平面形は楕円形を呈する。掘り上がった平面プランは円形の炉床部に張り出し部がついた長楕円形を呈する。規模は、長軸1.55m、短軸長は炉床部0.75m、張り出し部0.5m、深さは炉床部0.17m、張り出し部0.15mである。炉床部には厚く焼土がみられ、特に西端部では検出面から床まで堆積していた。焼土下はよく焼き締まっている。主軸方位はN-87°-Wである。出土遺物はない。

6号炉穴（2Dイ005）（第53図、図版9）

2D48グリッドに位置する。平面プランはほぼ円形を呈する。規模は、長径0.89m、短径0.72m、深さ東半部で0.11m、西半部で一段深くなり0.16mである。主軸方位はN-84°-Wである。東半部は暗褐色の土の堆積があった。西半部には焼土層が堆積しており、その下の坑底は固く焼き締まって、また一部赤化もしていた。この炉穴は張り出し部は持たないが、炉床面はプラン西端に偏り、足場部分は確保されている。出土遺物はない。

7号炉穴（3Dイ007）（第53図、図版9）

3D08・18グリッドに位置する。平面プランは円形のプランの北側に小さな舌状張り出しの付いた洋梨形を呈する。規模は、長軸1.38m、幅南側0.92m、北側0.42m、深さ南側で0.18m、北側で0.12mである。主



第53図　炉穴と出土遺物

軸方位はN-2°-Eである。南側は底面にくぼみが2か所ある。焼土は南側の覆土上部を中心にブロック状にみられたのみである。焼土堆積を持つ土坑とした方が正確であるが、土坑と炉穴の重複の可能性もある。出土遺物はない。

8号炉穴（3Dイ005）（第53図、図版9）

3D08グリッドに位置する。炉床部に細長い張り出しが付いて、南側で小ピット状に落ち込む。逆「く」の字の平面形を呈している。規模は、長軸1.4m、幅は炉床側0.45m、張り出し側0.35m、深さは各々0.13m、0.07mである。主軸方位は、N-7°-Eである。焼土は炉部の上部に密に存在していた。壁・床は軟弱であった。出土遺物はない。

9号炉穴（3Dイ009）（第53図、図版9）

3D74グリッドに位置する。平面プランは円形の炉面に一回り大きな舌状の張り出しの付いた不整形を呈する。規模は、長軸1.86m、炉面側の径0.7m、張り出し部幅0.85m、深さ炉側0.08m、張り出し部では0.34mである。主軸方位はN-52°-Eである。焼土は炉面側に濃い分布が見られた。張り出し部は炉面側が深く、小ピットがある。東端部に向かい幅が狭くなり傾斜をもつ。出土遺物はない。

10号炉穴（4Dイ001）（第53図、図版9）

4D11グリッドに位置する。平面プランは楕円形を呈する。規模は、長軸0.69m、短軸0.54m、深さ0.10m、主軸方位N-79°-Eである。焼土・微細な炭化粒を含んだ覆土を持つ。炉穴の最下面と考えたいが断定はできない。焼土堆積があり、炉穴の分布圏内であるので、炉穴の類に含めた。出土遺物はない。

4　陥　穴

1号陥穴（1Eイ006）（第54図、図版9）

1E20グリッドに位置する。平面プランが長楕円形を呈する溝状のものである。規模は、開口部で長軸3.16m、短軸0.38m、坑底で長軸3.01m、短軸0.22m、深さはハードローム上面から0.75mである。主軸方位はN-76°-Wである。底面はほぼ平坦である。覆土の大部分は風化したローム粒で占められているが、最下層は黒色土が薄く堆積していた。出土遺物はない。

2号陥穴（1Eイ007）（第54図、図版9）

1E01グリッドに位置する。平面プランが長楕円形を呈する溝状のものである。規模は、開口部で長軸2.58m、短軸0.82m、坑底で長軸2.92m、短軸0.40m、深さはハードローム上面から1.26mである。主軸方位はN-17°-Wである。底面は短軸方向は「U」字形、長軸方向はほぼ平坦で、端部で袋状を呈している。覆土はほぼ風化したローム粒で占められ、最下層に薄く黒色土が堆積していた。

3号陥穴（1Dイ009）（第54図、図版9）

1D55グリッドに4号陥穴と並列して位置する。平面プランが長楕円形を呈する溝状のものである。下層確認調査グリッドで東側の一部が失われてしまった。規模は、開口部で長軸3.06m、短軸0.29m、坑底で長軸2.86m、短軸0.09m、深さはハードローム上面から0.58mである。東端は浅くなる。短軸断面は「U」字形である。周囲のロームより黒ずんだローム崩壊土で坑内がほぼ充填され、坑底直上にわずかに暗黄褐色土が堆積していた。主軸方位はN-68°-Eである。出土遺物はない。

4号陥穴（1Dイ010）（第54図、図版9）

1D55グリッドに位置し、3号土坑の南側に並列する。平面プランが長楕円形を呈する溝状のものである。

規模は、開口部で長軸2.54m、短軸0.34m、坑底で長軸2.34m、短軸0.10m、深さはハードローム上面から0.65mである。中央から北東壁に向かい浅くなる。壁はほぼ垂直に立ち上がっている。主軸方位はN-52°-Eである。周囲のロームより黒ずんだローム崩壊土で坑内がほぼ充填され、坑底直上にわずかに暗黄褐色土が堆積していた。出土遺物はない。

5号陥穴（2Cイ001）（第54図、図版9）

2C17・27グリッドに位置する。平面プランが長楕円形を呈する溝状のものである。断面は短軸方向で「V」字形、長軸方向は下部がやや袋状を呈し、上部は皿状に開く。規模は開口部で長軸3.10m、短軸1.43m、坑底で長軸2.45m、短軸0.13m、深さ1.50mである。床面は長軸方向でほぼ水平である。主軸方位はN-89°-Eである。上部は黒色土、中位はローム崩落土主体、最下部の床面状には黒色土が堆積している。出土遺物はない。

6号陥穴（2Dイ013）（第54図、図版9）

2D20・21グリッドに位置する。平面プランは隅丸方形を呈する。規模は、開口部で長軸1.51m、短軸0.82m、坑底で長軸1.38m、短軸0.56m、深さ0.74mである。主軸方位はN-40°-Eである。壁はほぼ垂直に落ち込み。底面は平坦で、2か所の小ピットがある。北側のものは浅く不整形であったが、南側のものは上端径約0.20mの円形を呈し、0.40mの深さがある。覆土は上部が黒色系の土が主で、下部には暗黄褐色土の単一層であった。上下位から土器片が1点ずつ出土した。

6号陥穴出土遺物（第56図1・2、図版23）

同一個体の土器である。1は半截竹管による沈線のみられる口縁部で口唇断面が角張り、上面に刺った竹管の刺突による刻みが入る。2は半截竹管による沈線がみられる。条痕文系土器に属する。

7号陥穴（2Dイ006）（第54図、図版9）

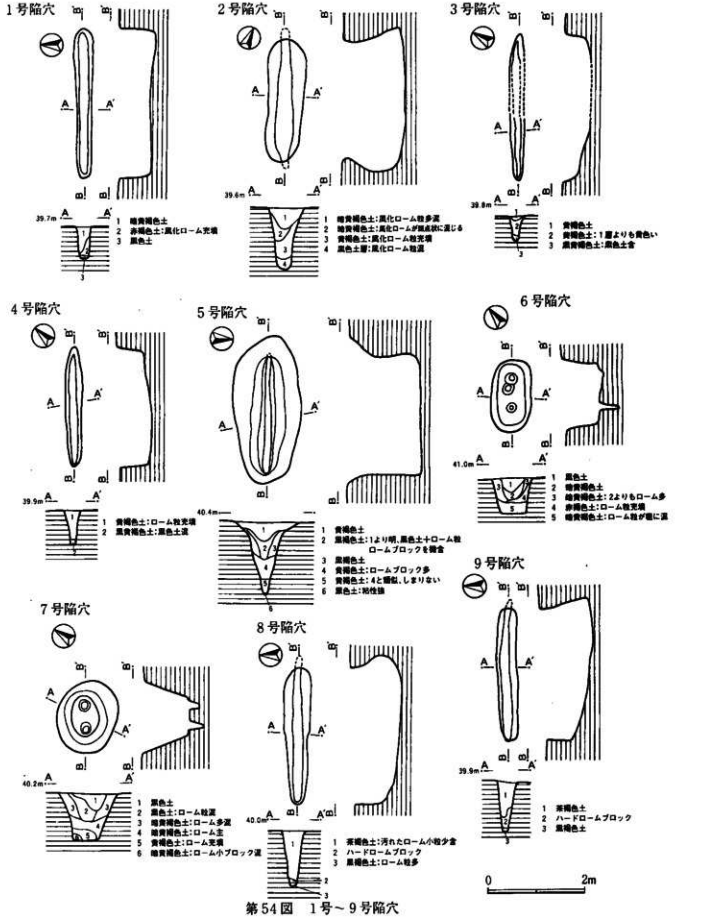
2D22グリッドに位置する。平面プランは楕円形を呈する。規模は、開口部での長軸1.44m、短軸1.26m、坑底での長軸0.82m、短軸0.60m、深さ0.90mである。主軸方位はN-63°-Eである。断面はバケツ状を呈している。底面は平坦だが中心部がややくぼむ。長軸上に並んで2か所、上端径約0.20m、深さ0.25m～0.30mの小ピットがある。覆土は上部は黒色土主体、下部はローム充填土となっている。出土遺物はない。

8号陥穴（2Dイ011）（第54図、図版9）

2D06・07グリッドに位置し、9号陥穴と並列する。平面プランは長楕円形を呈する溝状のものである。規模は、開口部で長軸1.40m、短軸0.28m、坑底で長軸1.48m、短軸0.12m、深さはハードローム上面から1.13mである。主軸方位はN-86°-Eである。床面は西側にやや下がっており、西端部の壁が強くオーバーハングしている。短軸断面は「V」字形を呈している。覆土はほぼ茶褐色を呈するローム土で占められ、最下層にロームブロック土、床面直上に黒色土が薄く堆積する。出土遺物はない。

9号陥穴（2Dイ012）（第54図、図版9）

2D06・07グリッドに位置し、8号陥穴の南側にある。平面プランは長楕円形を呈する溝状のものである。規模は、開口部で長軸2.70m、短軸0.40m、坑底で長軸2.86m、短軸0.20m、深さは確認面から1.12mである。主軸方位はN-89°-Eである。床面は西側にやや下がっており、西端部の壁が強くオーバーハングしている。短軸断面は「V」字形を呈している。覆土は上部が茶褐色を呈するローム土、下層にロームブロック土、床面直上に黒色土が薄く堆積する。出土遺物はない。



第54図　1号～9号陥穴

10号陥穴（2Eイ002）（第55図、図版９）

2E60グリッドに位置し、谷に近い緩傾斜面に位置する。北東部が確認グリッドで切られてしまった。平面プランは長楕円形を呈する。規模は、開口部で長軸3.10m、短軸1.80m、底面で長軸1.80m、短軸3.16m、深さは確認面から1.46mである。主軸方位はN-43°-Wである。底面は平坦で、壁は短軸断面が「V」字を呈し、長軸断面は西側遺存部が袋状になっている。覆土は上部に暗褐色土主体であり、中位以下はローム充填土、黒色土を含む層が重なっている。上半部は軟質で、下半部は固く締まっている。出土遺物はない。

11号陥穴（3Dイ008）（第55図、図版10）

3D55・56グリッドに位置する。平面プランは長楕円形を呈する。規模は、開口部で長軸2.73m、短軸0.98m、坑底で長軸2.98m、短軸中央で0.15m、東端部で0.36mと両端で幅が広くなる。深さは確認面から1.79mである。主軸方位はN-77°-Eである。長軸方向の断面は袋状を呈する。短軸方向は「V」字形に急傾斜に立ち上がる。上部は皿状に開口する。覆土は上部に暗褐色土、中位に黒褐色土、下半は壁際にロームの崩れを伴う黄褐色土があり、最下層にロームブロックを含む黒色土があった。出土遺物はない。

12号陥穴（3Dイ001）（第55図、図版10）

3D61グリッドに位置し、谷に直交する。南側へ５mのところには、14・15号陥穴がある。平面プランは開口部楕円形、底面で長楕円形を呈する。規模は、開口部で長軸2.48m、短軸1.65m、坑底で長軸2.64m、短軸0.54m、深さは2.21mである。主軸方位はN-1°-Eである。長軸方向の断面は袋状を呈する。短軸方向は「V」字形に急傾斜に立ち上がる。底面は平坦かつほぼ水平である。覆土は上位が黒褐色系、中位以下は黄褐色土と黒褐色系の土の互層になる。下部は非常に締まっている。底面直上には黒色土が堆積していた。出土遺物はない。

13号陥穴（3Dイ010）（第55図、図版10）

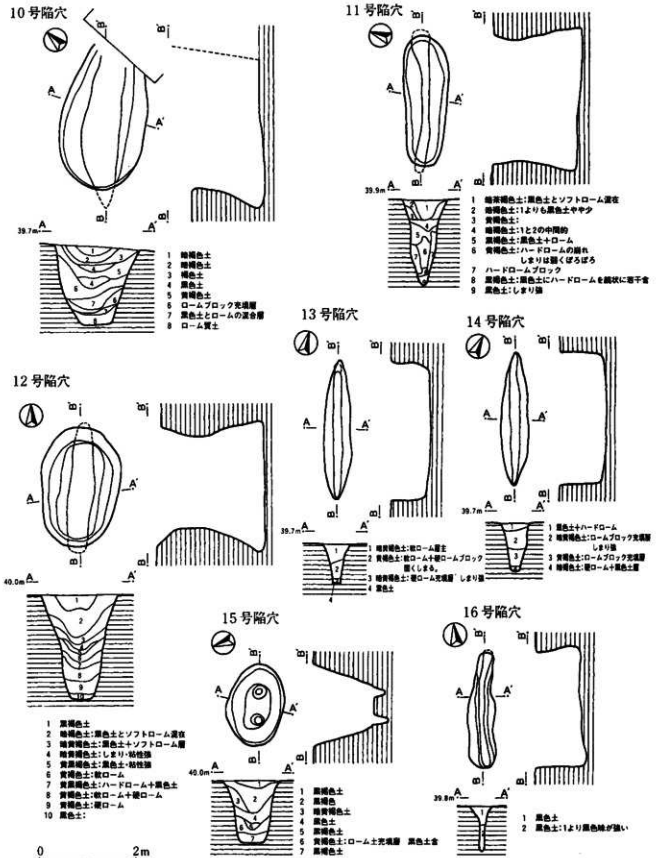
3D81グリッドに位置し、谷に直交する。４m西には15号土坑が並列する。平面プランは長楕円形を呈する溝状のものである。規模は、開口部で長軸2.90m、短軸0.54m、坑底で長軸2.54m、短軸0.24m、深さはハードローム面から0.84mである。主軸方位はN-15°-Wである。長軸方向の断面は袋状気味である。短軸方向は「V」字形に急傾斜に立ち上がる。覆土はほぼ暗黄褐色土で充填されており、下半部はよく締まっている。床面直上には薄く黒色土が堆積していた。出土遺物はない。

14号陥穴（3Dイ011）（第55図、図版10）

3D82グリッドに位置し、14号土坑に並列する。平面プランが長楕円形を呈する溝状のものである。規模は、開口部で長軸2.74m、短軸0.60m、坑底で長軸2.70m、短軸0.24m、深さはハードローム面から0.97mである。主軸方位はN-22°-Wである。長軸断面はほぼ垂直に、短軸方向は「V」字形に急傾斜に立ち上がる。覆土はほぼ暗黄褐色土で充填されており、中位はよく締まっている。床面直上には薄く黒色土を多く含む層が堆積する。出土遺物はない。

15号陥穴（3Bイ001）（第55図、図版10）

3B27グリッドに位置する。平面プランは楕円形を呈する。規模は、開口部で長軸1.60m、短軸1.11m、坑底は不整楕円形で長軸1.52m、短軸1.01m、深さは1.22mである。主軸方位はN-67°-Wである。バケツ状の断面形をなす。床は平坦である。底面には主軸に沿って径0.20m～0.27m、深さ0.30mほどの小ピットが2個みられる。上部から中位にかけレンズ状に黒色土系の土がみられ、下部は黒色土混じり黄褐色土が



第55図　10号～16号陥穴

堆積する。自然堆積であろう。出土遺物はない。

16号陥穴（3Bイ002）（第55図、図版10）

調査区西端、3B63グリッドに位置する。平面プランはやや弧状の長楕円形を呈する溝状のものである。規模は、開口部で長軸2.38m、短軸0.56m、坑底で長軸2.38m、短軸0.12m、深さは0.95mである。主軸方位はN-9°-Eである。底面は平坦だが、南端部に向かい若干深くなり傾斜する。壁は長軸北端はオーバーハングし、長軸南端、短軸断面は垂直に立ち上がる。上部から下部まで黒色味の強い土が堆積していた。壁の崩落はあまりなく、ロームブロックの包含は少ない。出土遺物はない。

17号陥穴（3Cイ001）（第56図、図版10）

3C80・90グリッドに位置する。平面プランは長楕円形を呈する。規模は、開口部で長軸2.76m、短軸1.64m、坑底で長軸1.56m、短軸0.15m、深さは2.44mである。主軸方位はN-18°-Eである。断面は長軸方向はバケツ状の断面形をなす。短軸方向は「V」字形に急傾斜で立ち上がる。底面は細くほぼ水平である。上部はレンズ状に黒色系の土が堆積、中下部は壁の剥落によるロームブロックが厚く堆積し、下部は薄い黒色土、黄褐色土、黒色土の順に堆積していた。出土遺物はない。

18号陥穴（4Bイ001）（第56図、図版10）

4B09グリッドに位置する。平面プランは、開口部で長軸2.38m、短軸1.44mの楕円形を、坑底で長軸1.02m、短軸0.38mの長方形を呈する。深さは1.76mである。主軸方位はN-16°-Wである。断面形はバケツ形を呈する。底面はややくぼむ。北側に径0.05m、深さ0.20mほどの、南側に向け斜めに入るピットがある。上層は黒色土主体の土、中位以下はローム充填土、最下層にはローム混じりの黒色土が堆積していた。底面近くで土器が1点出土した。

18号陥穴出土遺物（第56図3、図版23）

無文土器で、内面は平滑になっている。時期は不明である。

19号陥穴（4Cイ002）（第56図、図版10）

4C40グリッドに位置する。平面プラン・規模は、開口部で長楕円形を呈し長軸3.25m、短軸1.64m、坑底では長方形を呈し長軸2.50m、短軸0.62m、深さは1.62mである。主軸方位はN-52°-Wである。上位は暗褐色系の土で自然堆積を示す。中位以下はロームの崩れた土と黒色土が互層になっており、特に断面図の6の層は床面と見誤るほど良く締まっていた。断面は長軸方向南東側は床近くまで60度の傾斜と緩やかで、北西端はやや袋状を呈し切り立っている。短軸方向は「V」字形に急傾斜で立ち上がるものだが、一部壁が崩れて袋状を呈している。南東端部の壁は傾斜が緩やかであり、下位にロームブロックが流れ込んでおり、人為的に崩されたものと見られる。床は割合平坦である。出土遺物はない。

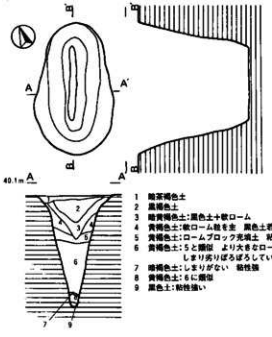
20号陥穴（4Cイ004）（第56図、図版10）

4C05グリッドに位置する。平面プランは長楕円形を呈する。規模は、開口部で長軸2.46m、短軸1.30m、坑底で長軸0.92m、短軸0.12m、深さは2.29mである。主軸方位はN-7°-Eである。壁は「V」字形に急傾斜で立ち上がる。床は細く短い。上部が黒色系の土である。覆土中から土器が1点出土した。

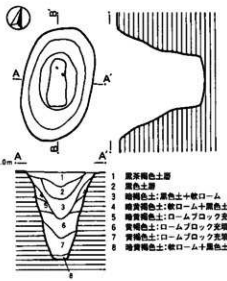
20号陥穴出土遺物（第56図4）

細かい条痕文が施文されている。三戸・田戸下層式のものであろう。

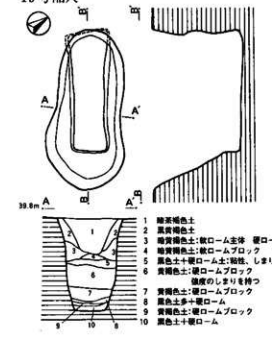
17号陥穴



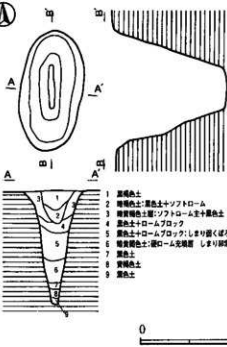
18号陥穴

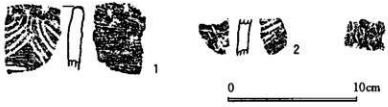


19号陥穴



20号陥穴





第56図　17号～20号陥穴と陥穴出土遺物

第2節　グリッド出土遺物

1　土　器

（1）分類

当遺跡では、縄文時代早期から晩期までの各時期の土器が出土しているが、記載の便宜上、現在までの考古学的成果に基づき、以下のように大別した。

第Ⅰ群土器　早期撚糸文系土器
第Ⅱ群土器　早期押型文土器
第Ⅲ群土器　早期沈線文系土器
第Ⅳ群土器　早期条痕文系土器
第Ⅴ群土器　前期の繊維土器
第Ⅵ群土器　前期の浮島・興津式土器
第Ⅶ群土器　前期末～中期初頭の土器
第Ⅷ群土器　後・晩期の土器

（2）出土状況（第57・58図）

表土（耕作土）下の暗褐色土（Ⅱ層）中で、台地縁辺部にあたる約11,250㎡に遺物包含層が存在した。調査総面積の約7割にあたる。出土総点数は4,600点あまりにのぼる。

第Ⅰ群土器　23点とわずかな出土であり、調査区南よりの台地縁辺部、4D00区を中心にまとまりがみられた。

第Ⅱ群土器　第Ⅰ群土器の集中地区のすぐ西側、3C95区で1点出土したのみである。

第Ⅲ群土器　無文のものを含め、総数約2,300点の出土であり、出土総数の半数にのぼる。調査区南側の台地縁辺部にまとまって見られた。

第Ⅳ群土器　調査区のほぼ全域にかけて、台地縁辺部を中心に総数約1,900点が出土した。出土総数の約4割であり、第Ⅲ群土器に次ぐ量で、両者をあわせて9割を占める。

第Ⅴ群土器　計54点の出土である。調査区南側台地縁辺部で、大きくみて3ブロックに分かれて分布していた。

第Ⅵ群土器　調査区中央南より、3D91区を中心に半径20mの範囲に集中して、計54点が出土した。

第Ⅶ群土器　台地縁辺部の1E、3D北側、3D南側から4D北側の3ブロックで計79点が出土した。第Ⅵ群土器と分布がほぼ重なる。

第Ⅷ群土器　計173点の出土をみた。台地縁辺部、全般的に見て1D東・1E西、4D00近辺に集中がみられる。称名寺式の大破片は1E30区、堀之内式は2E区、加曽利B式復原個体は1E39区に、安行式は1D99区を中心に集中が見られた。

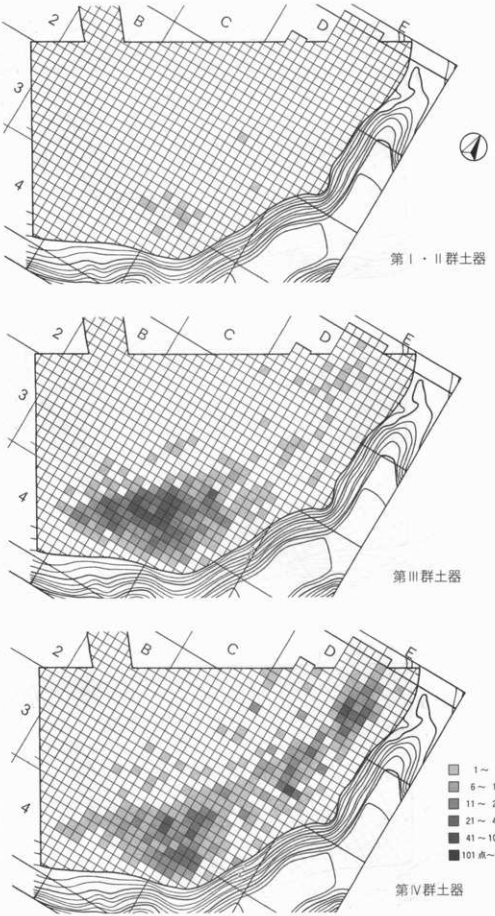
（3）各群の土器

第Ⅰ群土器（第59図、図版13）

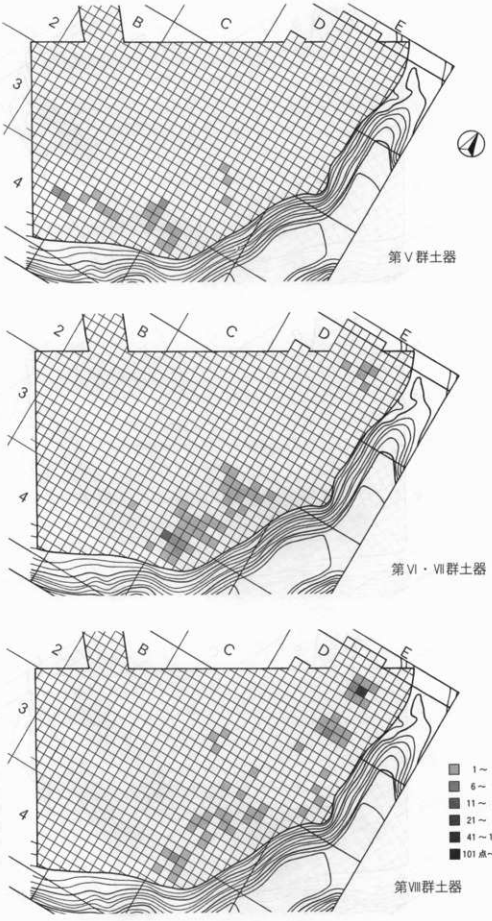
早期前葉の撚文系土器である。細砂が胎土内に目立つ。

1～4は縄文施文のものである。原体無節Rしの縦縄文である。4は底部付近になる。

5～18は撚糸文施文のものである。5～9は細く深いR撚糸文が施文されている。内面に削痕を残すものがある。10～18は原体は太めのRである。胎度に細砂粒を含む。



第57図　グリッド出土土器分布図（1）



第58図　グリッド出土土器分布図（2）

19は無文の小型個体で、径が10cm程度の口縁が外傾する鉢形土器になろう。口縁、内面はナデが行われているが、器面に接合痕が消され切れずに残されている。

第Ⅱ群土器（第59図、図版13）

20の1点のみである。端部で外反して開く器形になるとみられ、外面に横位の山形押型文がみられる。口唇部にも浅い沈線状の施文があり、押型文の可能性がある。内面は平滑になでられている。暗褐色を呈し、胎土に白色・黒色の砂粒を多く含む。砂粒の白色のものは長石粒主体である。

第Ⅲ群土器（第60図～70図、図版11～18）

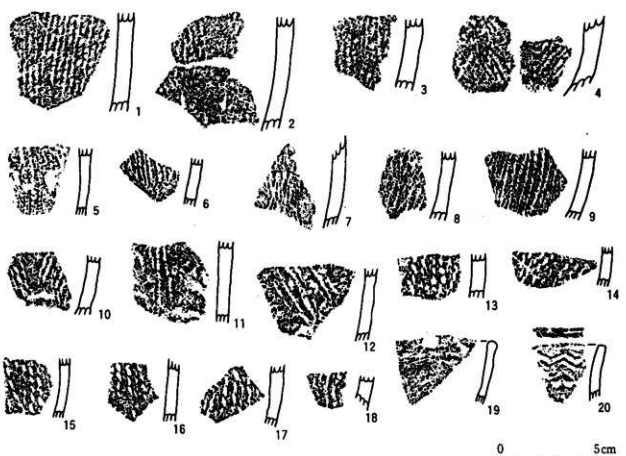
第1類（第60図～63図、図版11・12・14・15）

三戸式土器のうち、沈線ないし条線文を主文様とするものである。

a種（1～3・7・26～53）

横位条線により区切られる横位文様帯が重畳して施文されている。

1は口径36.0cmである。口唇内削ぎ状を呈す。口縁上端に縦太条線が施文され、縦長の隆帯を3条貼付している。横条線、縦短条線を交互に施文したキャタピラ状文で横位文様帯を区切る。文様帯内には沈線と連続刻文で鋸歯状ないし菱形に施文している。胴下半部からは斜削痕（ケズリ調整時の砂粒移動痕）が残されている。内面は平滑に調整されるが、器面のあれが激しい。胎土には細砂粒を多量に包含している。



第59図　グリッド出土　第Ⅰ・Ⅱ群土器

2は口径15.6cmのものである。縦短条線、横位条線で上下を挟み、横位文様帯に斜条線・片斜格子目沈線に連続刺突文を添えて鋸歯状施文する。口唇内削ぎ。胎土に白色礫を含む。

3は口径18.0cmである。横位条線・連続刺突文で上下を挟み、横位文様帯に条線に連続刺突文を添えて鋸歯状施文する。口唇内削ぎで、口縁内面上部に削痕を残す。胴下部内面はよくナデが行われている。胎土に繊維を含む。

7は口径38.4cmの大型土器である。口唇内削ぎ状を呈する。横位に角押し状の連続刺突文（2条）、条線を重ねて上部を区切る。文様帯内は平行沈線間に連続して刻文を施すキャタピラ文（一部格子目になる）を横位・斜位に平行施文している。内面はナデで平滑に調整され、白色礫が胎土に多くみられる。

26～34は横位条線を介し、口縁縦太条線、三角形刻文、キャタピラ状をなす刻文列を添えた鋸歯状条線が重ねられる。胎土に砂粒は少なく、堅緻な質である。35～39は縦短条線、横位沈線を順に重ねて施文する、薄手で小型の個体である。40は口縁縦太条線、下位に横位沈線と2列の角押し連続刺突文で文様を重ねている。41・42は35～39に似るが横位沈線から文様が始まる。43～47は口縁縦太条線、下位に横位キャタピラ状の刻文列、さらに下位の胴部に、刻文列を添えた斜行・縦位の沈線が施される。胎土に砂粒を多く含む。48～53は刻文列を添えた鋸歯状条線のみられる胴部である。胎土・施文は7に近似する。

b種（4～6・8～10・54～71・91・102～105）

横位条線等により上下を区切り、横位文様帯を形成している。

4・5は区切りが細条線で、文様帯が1段のものである。

4は口径18.0cmである。横位条線で上下を挟み、貝殻腹縁文を鋸歯状文ないし、菱形文のパターンで施文している。口唇内削ぎで、外縁に刻みを持つ。未貫通の補修孔あり。胎土にスコリアを含む。内面ミガキがある。茶褐色を呈する。

5は口径15.5cm、高さも15cm強でほぼ径と同じで、三戸式としては高さがない。横位条線で上下を挟み、片斜格子目沈線を鋸歯状に配している。底部近は無文である。口唇内削ぎで、外縁に刻み目を有する。胎土に砂粒を多量に含む。内面ナデ調整がみられる。

6は口径17.4cmである。口唇は内削ぎで、上面にミガキが入っている。口縁上端を太縦条線、以下を横位太条線で区切り、横位文様帯に細沈線で鋸歯状施文する。胎土に砂が少ない。

8は口径24.0cmのもので、口唇内削ぎを呈する。口縁直下を縦太条線を配し、以下の体部に横位条線で上下区切りをした、文様帯内に条線で鋸歯状ないし菱形施文している。

9は口径12.0cmである。高さは21cmほどで小型である。太沈線を用い、上下を区切った横位文様帯に、鋸歯状・菱形の条線を施しており、口縁は内削ぎである。底部付近は無文になっている。

10は口径27.6cmである。口唇内削ぎ状に角張る。浅い太条線で口縁上部・胴下部を区切り、区画内に同様の条線で上部は斜行施文、下位は逆位の条線を加えて斜格子施文する。内面はナデ調整が行われ、一部削痕を残す。胎土には白色礫が目立つ。

54は口径10cm程度のもので、口唇外縁に刻み目を有し、横位条線、斜位太条線文が施文されている。55・56は口縁上部に二列の押引連続刺突文を配し、以下に太条線で横位、斜位に重ねた文様を持つ。胎土に微細砂が目立つ。57は太条線が口縁上端縦位、以下横位にみられる。肉厚で大型になる。58～60は口径10cmほどの小型品の破片である。内湾する器形で、口唇刻み目を有し、以下に横位条線、斜格子文を重ねた文様が見られる。文様が重畳する可能性もある。61～63は羽状沈線、横位条線、斜格子文が段になって施文され

ている。文様が重畳する可能性もある。

64は口径12cmの小型品である。内削ぎ口唇で、横位条線・斜行条線と重ねられた文様を持つ。

65～68は同一個体と思われる。胎土にスコリアを含む。口唇の内削ぎ度が強い。65は口縁横位、胴部鋸歯状の条線文を持つ。66・67は横位沈線と斜沈線を組み合わせている。内面に縦擦痕を有する。68は片斜格子目沈線を鋸歯状に配し、爪形の短刻線を連続して添えている。

69は斜格子目文が施文されたもので、下部に横位沈線がみられる。6の文様に類似している。70・71は横位沈線と斜沈線を組み合わせた文様がみられる。

91は胎土に微細砂がめだつ胴部で、横位条線と鋸歯状条線が施文されている。88～90と胎土が似ており、同一のものの可能性が高い。

102～105は口縁横位、胴部縦鋸歯状の太条線文が施文されたもので、同一個体である。内面は磨かれている。胎土に砂粒は目立たない。

c種（72～77）

横位条線文を地文にした文様帯がみられるものである。

72は口縁がかるく外反する器形をとる。口径は9.6cmの小型品である。横位条線を地文に鋸歯状条線が施文される。73・74は内削ぎ口唇を持ち、横位条線を地文に鋸歯状条線が施文される。胎土にスコリアを含む。75～77は粗い横走条線を地に鋸歯状条線文が施文されている。上部は斜短条線が施文されている。

d種（11～16・78～101・106～121）

横位文様帯の区切りがなく、口縁から同じ文様が連続する。

11は口径14.4cmである。横位の斜条線を方向変えて、上から下へ複数段施文し、綾杉文を構成している。口唇は内削ぎである。器面のあれが激しい。胎土に微細砂が多くみられる。

12は細長い器形になる。縦の条線と斜条線を組み合わせて施文しており。縦長の斜格子文にみれる個所もある。接合しないが、口縁は65である可能性が高い。胎土にスコリアを混える。

13は上部縦条線、以下に横位斜行条線を、段ごとに方向を変えて綾杉状に施されている。胎土にスコリアを含んでいる。

14は口径24.0cmである。全体に斜行太条線文が施文されている。横位に帯状施文される様である。

15は斜行太条線文が横位に帯状施文されている胴部片である。14に共通するところが多いが、厚さが異なる。

16は口径17.0cmである。内削ぎ口縁を持つ。斜太条線を縦位に帯状施文する。胎土にスコリアを混える。

78～80は斜格子沈線文を有する。78は内削ぎ口縁で、補修孔がある。胎土には砂が少ない。79は縦長、80には横長の斜格子沈線が施文されている。

81は異方向の斜条線を接させた文様がみられる。胎土には細礫が多くみられる。

82～96は横位細条線文を持つものである。82・83は口唇はなでられて円頭状をなしており、口縁横位沈線の下位は削痕が残されているのみである。胎土に白色礫を含む。84・85は口縁の内削ぎが顕著である。口唇・内面はミガキが入っている。86は口径8cm程度の小型品で、口縁がやや内削ぎの尖頭になる断面を呈する。胎土にスコリアを含む。87は小型品で、口唇が角頭で平坦である。胎土に微細砂がめだつ。88～90は口唇角頭で、胎土に微細砂がめだつ。91が同一個体の可能性が高いので、あるいは横位文様帯があって、b種になるかもしれない。92～96は胎土に繊維や粒状のものが抜けた跡があり、多孔質のものである。92・

93の口縁はやや外反する。95・96は胴部である。

97～99は横位の浅い太条線文の施文されたものである。条線文は浅いので、凹線文ともいえる。内削ぎ気味の口縁で、胎土に雲母・長石・石英礫を含む。

100・101は横位太条線がみられる。100は口縁で、内削ぎ気味の角頭状口唇になる。101は口唇が円頭状を呈する。

106・107は口縁縦位、以下斜行の施文をしている。口唇内削ぎで、胎土にスコリアを含んでいる。

108～117は斜行の太条線文をもつものである。108は外縁に刻みを持つ内削ぎの口唇を有し、直立的な口縁をなす。口径は16.1cmである。斜行の短条線を何段か重ねて施文する。口唇・内面は磨かれている。109は斜行の短沈線を有する。口唇内削ぎで、胎土にスコリアを含んでいる。110・111は斜行の太条線が施文されている口縁部である。口唇が軽い内削ぎを呈する。胎土に微細白色砂が目立つ。112～113は斜行の太条線が施文されている。出土地点は105・106と重なる。胎度にスコリアを含む。114～116は斜行の条線施文のものである。

118～120は縦位の条線施文のものである。121は交差する太条線を有するものである。

第2類（第64図、図版16）

田戸下層式に含められるものである。

a種（20～23・136・137）

口縁に縦ないし鋸歯状条線が施文され、横位細条線を有する。

20は口縁部で軽く外反する器形をとる。口径31.8cm、推定高は50cm程度になる。口縁縦細条線、胴部横条線文様区切りをもつ。文様帯内は斜区切りされ、区画内に渦巻き・同心円を中心とする弧状条線を充填している。口唇部は外削ぎで、斜条線が施文されている。胴部下半部以下は底面まで太沈線が横位施文される。底部は尖底だが先端が平たくなっている。

21は20に似た文様構成・器形をとる。口径は22.6cmである。口縁部に垂下刺突文込みの縦位太条線を持ち、横位条線で文様帯の段区切りをなし、その横位文様帯内には太沈線での弧状充填文を配している。口唇は外削ぎで、斜条線施文である。

22は口径27.0cmである。口縁縦位太条線を持ち、口縁部から胴上部、連続刺突文、条線を重合わせて横位に平行・弧状に線を施文する。胴下半部は細条線横位施文である。

23は口径24.8cmほどである。口縁縦太条線、以下横位細条線を施文する。口唇は角頭をなす。胎土にスコリアを含む。

136・137は軽く外反する口縁で、外削ぎの口唇を呈する。横位沈線で区切る口縁文様帯内に縦鋸歯状太条線が施文されており、垂下爪形文が添えられている。口唇には条線が施文されている。内面はよく磨かれている。

b種（24・25）

横位沈線・条線文を主体とするもの。斜行沈線文・刺突文が加わるものも含む。

24は胴上部細沈線、太沈線の斜行施文、胴下半部には横位太条線が施文される。底部付近は無文である。25は横位細条線の施文された胴下半部である。下部は無文になる。

c種（122～135）

横位条線文で横位の文様帯を区画し、区画内に貝殻腹縁文を充填する文様を配するもの。

122～127は直立に近い口縁をなし、口縁上端と胴部を横位沈線で区切った文様帯に斜行沈線施文するものと見られる。口径13.2cmである。文様の基本パターンは三角形区画の組み合わせであろうか。垂下刺突文を有する。胎土に繊維が少量含まれる。

128～134は4C07区付近出土である。口縁は直立し、胴部は徐々にすぼまる器形である。口径は31.3cmである。横位文様帯に斜沈線・縦沈線を施して区切り、区画内を細かい貝殻腹縁文を充填する。斜位沈線間には爪で摘んだ刺突列が並ぶ。口唇は角頭で斜刻みの沈線が加えられ、胎土に白色礫が含まれる。内面は磨かれている。

135は沈線と腹縁文の施文されるもので128～134とは別個体である。石英・長石礫を含む。内面は磨かれている。

d種（138～147）

横位沈線・条線に刺突文・短刻線が組み合わされている。

138～141は横位ないし斜条線に短刻線列が添えられる文様を持つもので、同一個体である。胎土に繊維が含まれている。内面はよく磨かれている。142は口唇角頭を呈し、口唇・内面がミガキ調整されている。横位条線を口縁直下に配し、垂下刺突文で区切り、斜太沈線・貝殻腹縁文を施文している。143は沈線と爪形文が施文されている。内面は磨かれている。144～147は鋭い工具で細沈線を弧状、水平に施文しており胎土に砂粒が目立つ。

e種（148～161）

太沈線の施文される胴下部片である。

148は斜行沈線を持つものである。149は鋸歯状線が加えられている。150は縦線が入り、梯子形をなす文様のみられるものである。152は横位線間に連続爪形文が施文される。

152～161は横位施文されるものである。153～155は太条線と細条線がみられる。156は上部に縦沈線がみられる。

第3類（第63・68図、図版17）

沈線文系土器のうちの条痕文土器である。

17は口径は20.0cm、高さは40cmほどで細長い器形になる。口縁は上部に向かい薄くなり、口唇が角張っている。細かい条痕文が縦方向に施文されており、上部は縦長の格子目パターンを呈する。胎土に繊維が少量含まれている。

162・163は鋸歯状ないし格子目条痕文が施文されるもので、口唇に斜条線が施文されている。石英粒他の礫が多く含まれている。164は鋸歯状施文になるとみられる。口唇が尖頭状になり、刻みが入る。165～172は縦長の格子目状に条痕が施文されている。165・166は胎土に繊維を含む。171にも繊維が含まれている。173・174は横長の格子目に条痕文を施文する。175はランダムな格子目状条痕文を持つ。胎土にスコリアを混じえる。

176～180は横方向の条痕文のみられる口縁部で、176～178では口唇部に刻み目を有する。181は縦・横に条痕文を施文する口縁部である。182～187は斜行条痕文を持つ口縁部であり、186には繊維が含まれている。188・189は斜位の条痕文施文のもので、胎土に繊維を含む。190には横方向の条痕文がみられる。191は斜

方向の擦痕に近い施文がある。わずかに繊維を含む。子母口式的な個体である。192～199は縦方向の条痕文施文のものである。

第4類（第63・69図、図版12・18）

無文土器である。

a種（200～214）

胎土に石英長石粒が多く含まれる群で、器表に削痕（ケズリ調整時の砂粒移動痕）が残されているものが多い。

200は口径28.2cmである。外面に斜方向のケズリ調整痕的な削痕が残されている。口縁は円頭をなす。内面・口唇にはミガキ調整が施されている。

201は横位の削痕文を持つ。口唇角頭気味で、口唇・内面にナデ（ミガキ）調整が入る。202・208は外面ナデ調整でわずかに削痕が残る。口唇は角頭で、口唇上面・内面ミガキ調整を受けている。203は外面に削痕文を有する。204は内外面にミガキ調整を受けている。205・206・210～214は削痕文を残す胴部片である。

b種（18・19・215～222）

内削ぎの口唇を持つ。

18は口径10.8cm、高さ13～14cmほどの小型品である。底部は鋭い尖底である。外面は平滑になっており、横方向の削痕がみられる。胎土にはスコリアがみられる。

19は口径11.8cm、高さ17cmほどの小型品である。17より厚手で胎土には微細砂が目立つ。あまり器面調整はされていない。

215は口径16.0cmである。胎土にスコリアを含む。補修孔を持つ。216は口径18.0cmである。内削ぎの口縁を持ち、内外面がナデ調整されている。補修孔を持つ。

217は外面削痕を持つ。218は外面ケズリ、内面ミガキ調整されている。219～222は内外削痕を持つ。同一個体であろう。

c種（223～227）

口唇が内削ぎでない。胎土には繊維を含まない。

223は小型のもので、器面調整がぞんざいである。224は外面ミガキがされている。225は薄手で、両面ミガキがされている。226は全面ミガキがされている。227は小型品である。

d種（228～233）

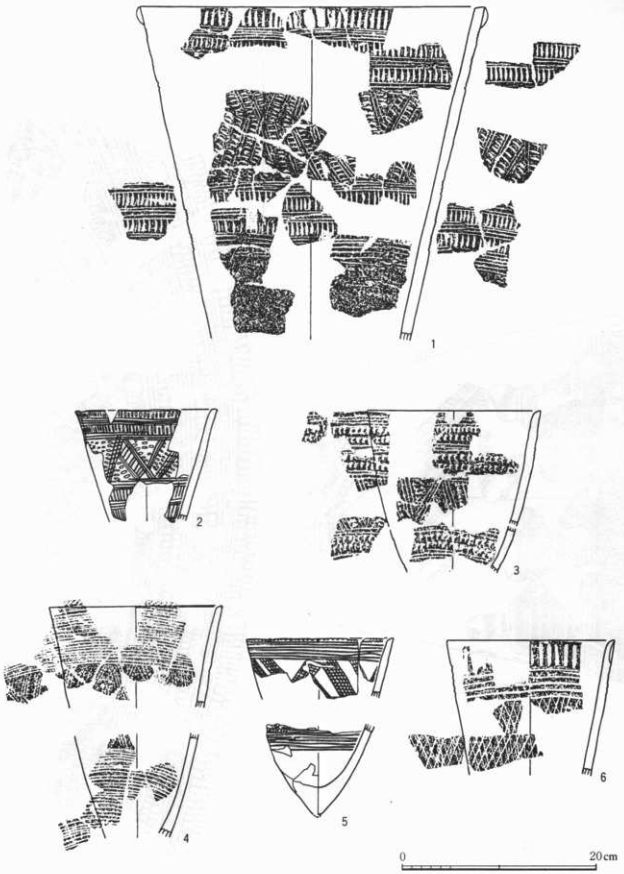
胎土に繊維が混入された類である。

228は小型品である。口縁は尖頭である。229～233は同一個体で、内外面に横方向の擦痕を有している。

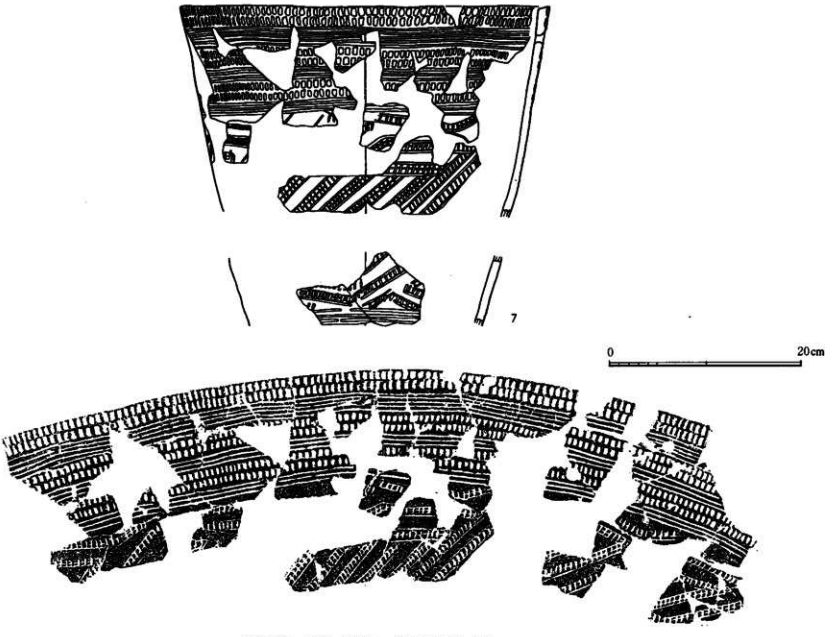
底部（第70図）

a種（234・235・255）

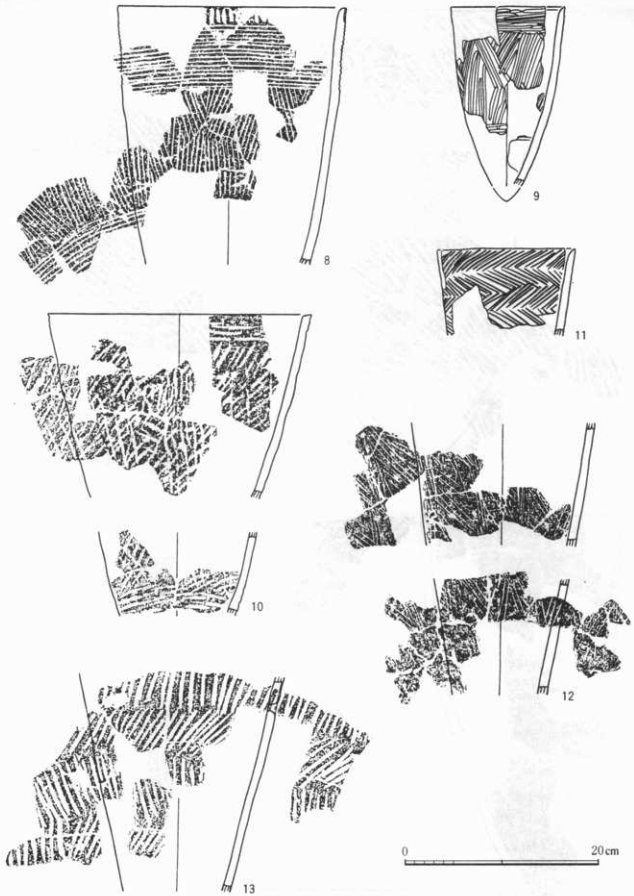
鈍角な尖底のものである。234は不整な尖底で、やや丸みがある。条痕が施文され、胎土に若干繊維を含む。235はあまり調整がない。255は丸みを帯びている胴下半部で、先端部を欠くが、丸底に近い底部になると思われる。器面に凹凸が有り、わずかに繊維を含む。



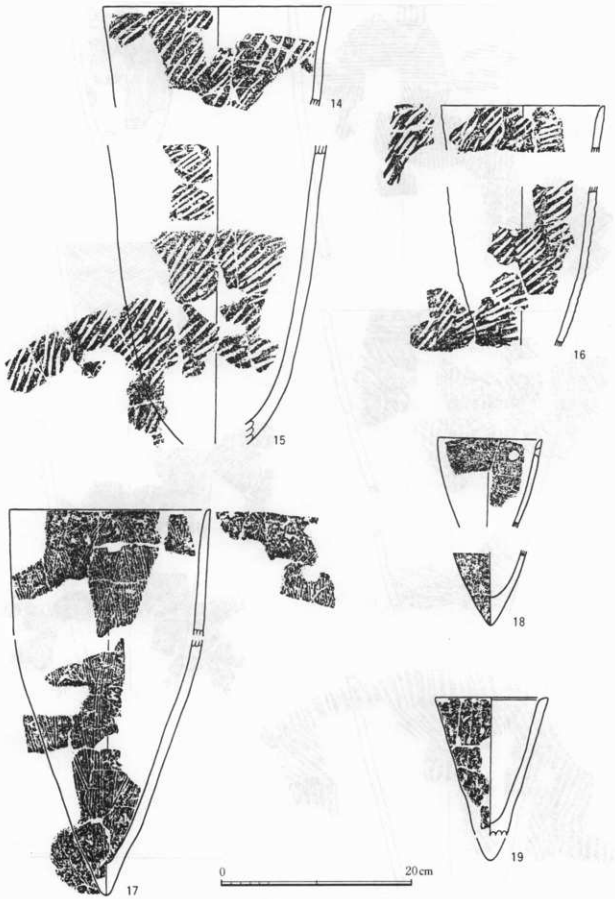
第60図　グリッド出土　第Ⅲ群土器（1）



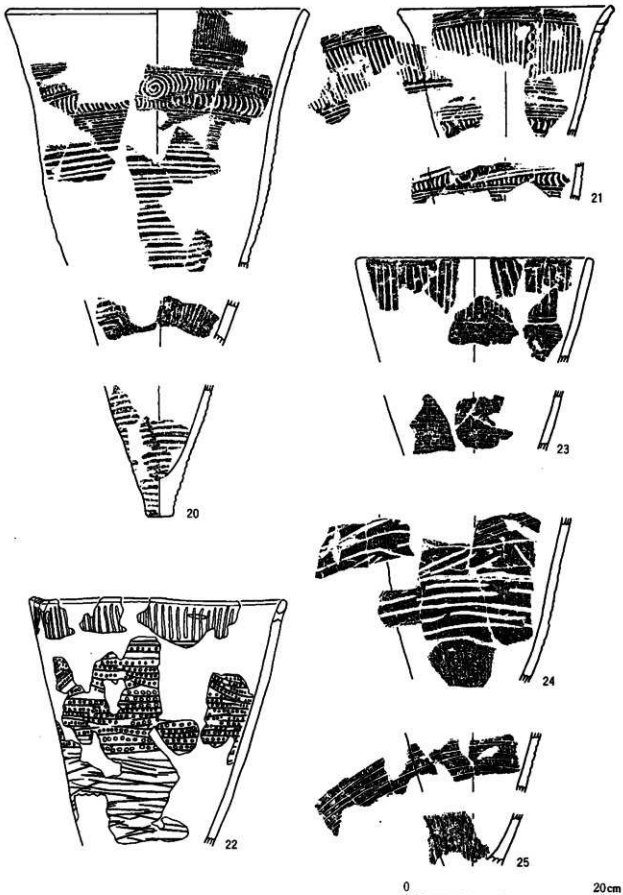
第61図　グリッド出土　第Ⅲ群土器（2）



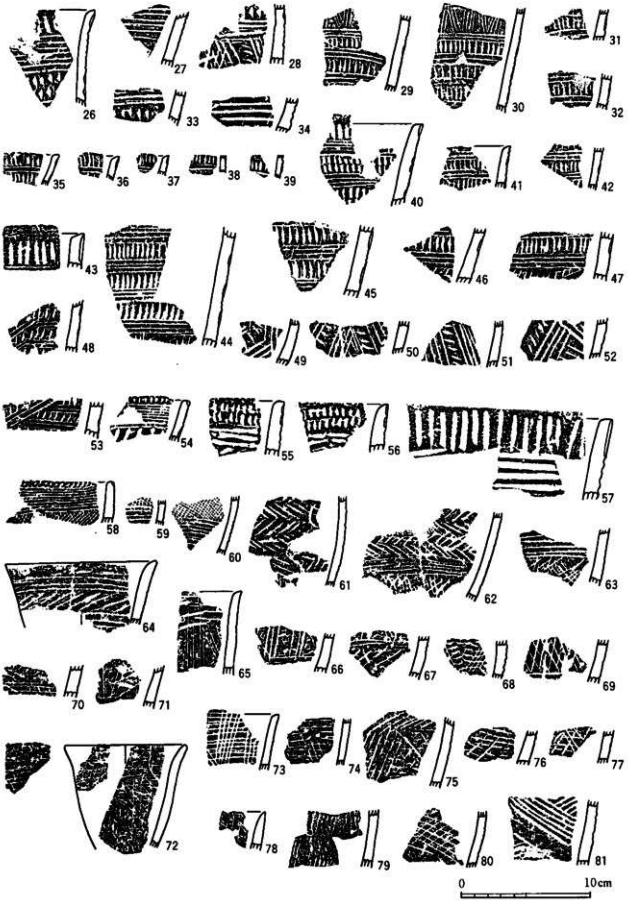
第62図　グリッド出土　第Ⅲ群土器（3）



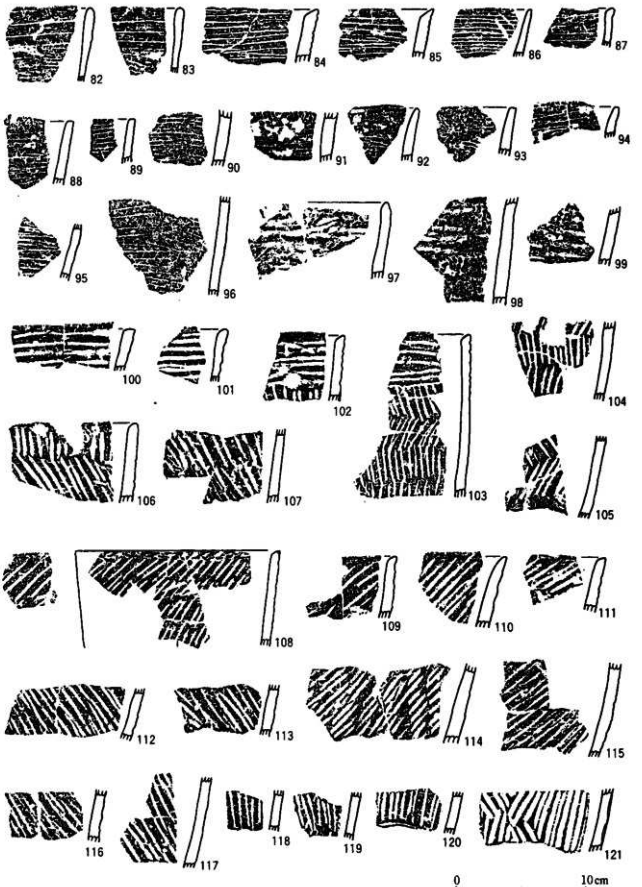
第63図　グリッド出土　第Ⅲ群土器（4）



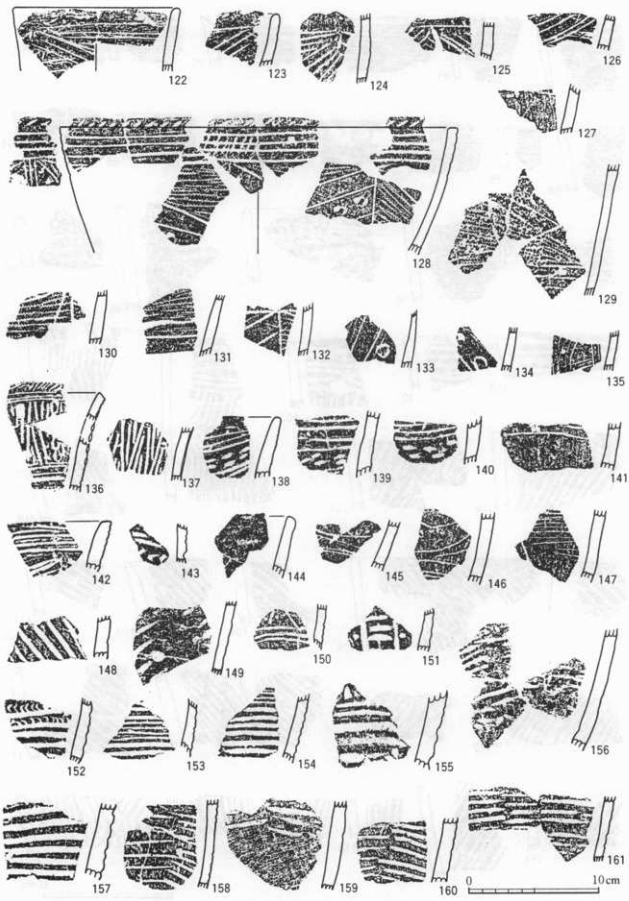
第64図　グリッド出土　第Ⅲ群土器 (5)



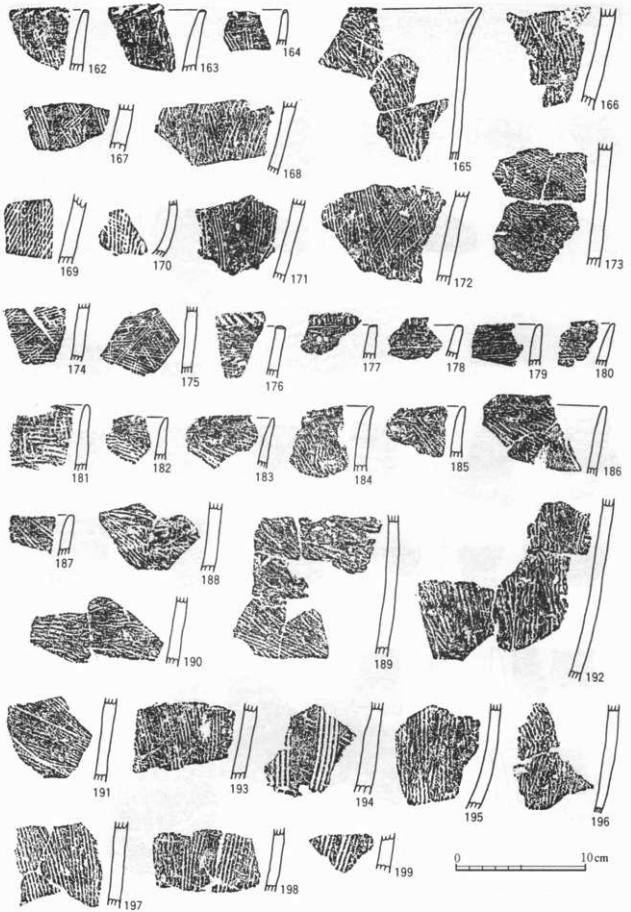
第65図　グリッド出土　第Ⅲ群土器（6）



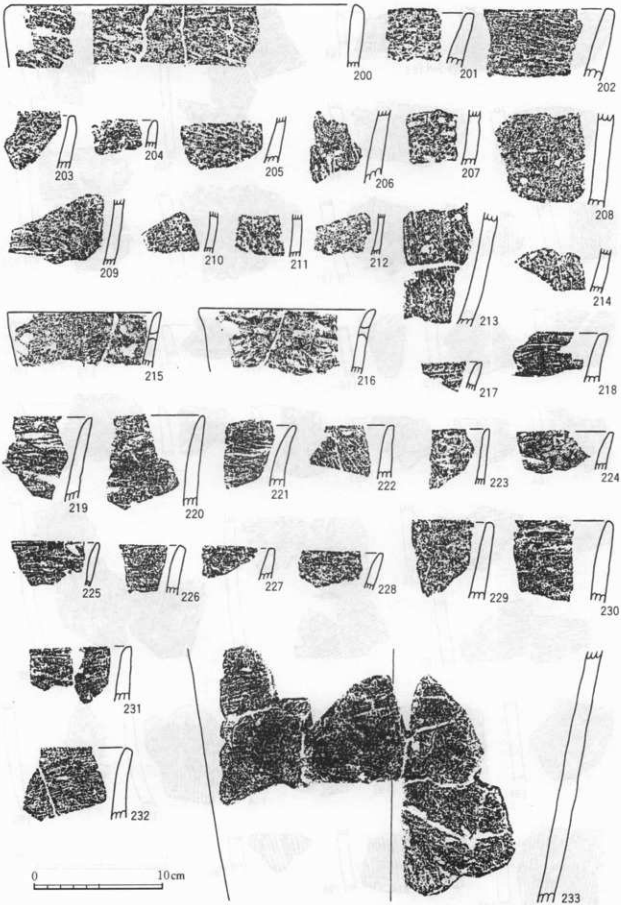
第66図　グリッド出土　第Ⅲ群土器（7）



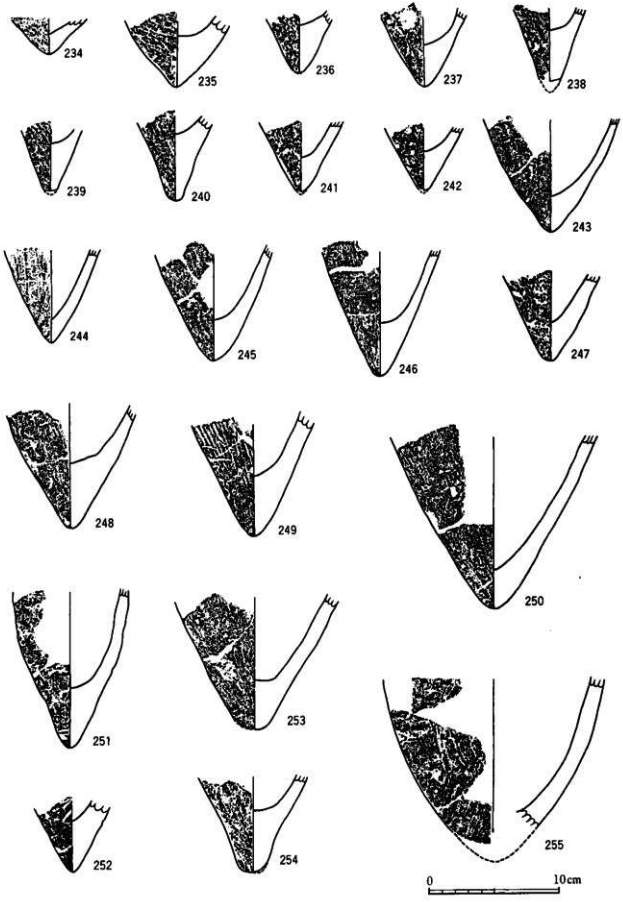
第67図　グリッド出土　第Ⅲ群土器（8）



第68図　グリッド出土　第Ⅲ群土器（9）



第69図　グリッド出土　第Ⅲ群土器（10）



第70図　グリッド出土　第Ⅲ群土器（11）

b種（236～254）

鋭角な尖底になるものである。

236・237は削痕文のもので、胎土に白色礫を混える。237は、外面に軽いミガキ調整がされている。

238～243は外面に縦ナデ痕が目立つ。238は胎土に白色砂を多く混ぜている。外面の器面のあれが激しい。先端部を欠く。239は胎土に繊維が多量みられる。

247は擦痕を有する。繊維が微量認められる。

244～246はミガキに近いナデがされている。きめが細かい胎土である。248・249は外面上部条痕文がみられる。250は削痕を持つ。胎土にスコリアを含む。251は外面の器面調整があまりされず、凹凸が多い。

252は上部に斜太沈線がみられるもので、胎土にスコリアを含んでいる。2類の太斜条線を持つものの底部であろう。

253・254は底端部が平らに近くなるものである。253は縦削痕を持つ。先端は摩滅している。254は底部が突出気味である。胎土にわずかに繊維を含む。

第Ⅳ群土器（第71図～74図、図版19～22）

縄文早期後葉の条痕文系土器である。地文の貝殻条痕文、胎土に含まれる繊維で象徴される。

第1類（4～7）

微隆起線を主文様とする類で、野島式の古い段階の土器である。

4～7は横位の微隆起線を特徴とする。4は外削ぎの口縁部で口唇部上面に絡条体圧痕文が施文されている。内外面に浅く細かい条痕文が施文されている。暗褐色を呈し、胎土に繊維少量、長石・石英粒多量に含む。

第2類（2・8～29）

文様区画に隆起線が用いられる類である。鵜ヶ島台式に含まれる。

2は算盤形の器形をした胴部破片で、ほぼ半周する。推定最大胴部径35.2cmである。屈曲部の隆帯に上下を区切られた横位文様帯に二本組の隆起線で縦区切りをし、鋸歯状条線区画を配して幾何学文を構成している。内外に横位条痕文を施文し、胎土に若干繊維が含まれる。

8～11は隆起線を文様帯の横位区画に用いている。8は口唇が尖頭となるもので、11と同様の斜行隆起線がみられる。9では口唇部に刻み目がある。11は上部に縦区画隆起線と斜行の微隆起線がみられ、沈線区画内には太条線充填文が加えられている。隆起線上には刻み目がみられる。下部は沈線区画内太条線充填文である。内面には横方向の条痕文が顕著にみられる。

12～14・16は隆起線で区画した幾何学文内に太条線が施文されており、区画の交点には刺突文が加えられるもので、同一個体である。口縁部の12は内削ぎになる。15は横位文様区切りの隆起線の部位で屈曲して内湾する胴部で、沈線区画内に太条線充填文がみられる。文様は異なるが、同一個体の下位の部分であろう。胎土に細砂が多量にみられる。

17～20は刻み目を持つ隆起線に浅い条線が組み合わせられている。屈曲部を持つ器形になる。胎土には細砂が多くみられる。21は太い沈線で文様を区画し、線の縁が微隆起状に盛り上がって微隆起線の効果を出している。区画内は太条線で充填される。22は弧状隆起線と太条線を組み合わせた文様を持つ。無文区画

内には刺突文がみられる。あまり砂粒が少なく、焼成が良い。23～26は縦隆起線と鋸歯状太条線が組み合わさる文様があり、内面には細かい条痕文がみられるもので、隆起線上には刻み目がみられる。

27は弧状の隆起線に押し引き条線が組み合わさるもので、隆起線上に円形刺突文がみられる。28・29は地点が離れて出土したが同一のものとみられる。屈曲を伴う隆帯を有し、隆起条線で鋸歯状文を施文する。地文に横方向の条痕文施文がみられる。胎土に石英粒が多くみられる。

第3類（1・30～57）

沈線で文様を区画し、太条線を充填するものである。鵜ヶ島台式に含まれる。

1は口径約18cm、現存高約20cmを測り、器高は推定で25cm程度になろう。二段の屈曲部を持つ深鉢形土器である。残存度は6割ほどとなろう。口縁は平縁で、胴部にかけ直立しており、下半部は急激にすぼまる。文様は、間に無文帯を挟む二段の横位文様帯に、太めの沈線・条線で幾何学文を施文するものである。上段は、二本組沈線を用い、4単位の縦区切りに鋸歯状線を組み合わせ、条線を施文して綾杉状文を構成する。下段は鋸歯状の条線区画が形成されている。内外面に横位の条痕文がみられる。胎土は繊維を少量、砂粒を多量に含む。暗褐色を呈し、下半部の器面は二次焼成のためとみられる細かい剥落がみられる。

30～37は口唇に太い刻み目を持つ。胴部で屈曲している。内外面には横位の条痕文がみられる。胎土に細砂が目立つ。38～40は区画の沈線が細い。内外面に横位条痕文が施され、口唇部に刻み目を有する。文様帯の区切りがかるくくびれる。刺突文のあるものがみられる。

41～48は口縁部片で、41～44は屈曲部である。49～53は、太めの沈線・条線を使用している。54～57は明瞭な隆起線を伴う、薄手のもので、縦方向への隆起線もみられる。

第4類（58～75）

隆帯を持つもので、茅山下層式になろう。

58～62は口縁に垂下隆帯、頸部に横位隆帯を有するもので、小波状口縁をなす。口縁には幅広の半截竹管による弧状の沈線が連続的に施文されている。横位隆帯下にも沈線がある。くびれは複数段ありそうである。口唇、隆帯上に刻み目を有している。

63は口縁に垂下隆帯、頸部に横位隆帯を有するものである。文様は口縁部に太短沈線が密に施文されている。沈線が弧状になる個所もあるが、破片なのでパターンは不明である。内削ぎの口縁をなし、内外縁、隆帯上に細かい刻み目を有している。

64・65は小波状の口縁をなすとみられる。縦方向と横位の隆帯が組み合わされ、横位隆帯上と口唇には刻み目、縦隆帯上には指頭状の圧痕が施文されている。補修孔を持つ。地文に横位条痕があり、胎土には細砂粒が多量に含まれている。

66～71は縦位に貝殻腹縁文が施文されており、波状口縁になる。68は波頂部で先端が平らに面取りされており、垂下隆起帯が付される。69は筒型把手で、隆起帯が垂下している。隆帯上、口唇部外縁には刻み目が施されている。胎土に微細砂が多くみられる。

72～75は絡条体が方向を変えて斜めに数条施文されており、鋸歯状平行線パターンになるとみられる。胎土に砂粒が多く含まれている。

第５類（３・76～127）

内外面に条痕文のみが施文されたものである。

３は口径26cm、現高22.5cmである、口唇に刻み目を持つ平縁の深鉢形土器である。外面口縁部横位、胴部斜位、内面全体に縦位の貝殻条痕文が施文されている。茶褐色を呈し、胎土に繊維を少量、細砂を多く含む。

76～78は口唇に刻み目を持つ口縁部である。内外横条痕文を有する。79～84は内外面に粗い条痕を持つもので同一個体である。外面の条痕は口縁部に近い部位が横施文、下位が縦施文になっている。81は底部近くのもので、下位は斜めに施文されている。

85～89は同一個体のものである。斜位の貝殻条痕文が、内外面に施文されている。やや薄手で、口縁上端がかるく外反している。90～93は口唇角頭で刻み目、内外面に横位条痕文を有し、口縁上部に深い円形刺突文がみられる。刻み目を持つ隆帯を有する部位がある。黒色を呈し、微細砂を胎土に含む。

94～96は同一個体のもので、条痕文の方向は外面が口縁部横位、胴部斜位となり、内面は横位から軽い斜めである。胎土に細砂が目立っている。97・98は細かい貝殻条痕文を有する。口唇には爪形の刻み目がつき、やや細かい波をうっている。方向は外面が斜位から横位、内面は口縁が横位で以下が縦方向である。

99～103は薄手のもので、同一個体である。口唇にヘラ状の工具による鋭い刻み目を有する。浅い条痕文が施文されており、方向は外面口縁が斜位ないし横位、胴部が斜位、内面は横位である。胎土に細砂が多く含まれている。

104～108は口縁部で、106は口唇に殻表圧痕文が押圧されている。107は小型で口唇が尖頭になる。109・110は条痕文の明瞭な胴部片である。109は104と同一とみられる。110は94～98の群に類似している。111～113は細砂を多量に含む個体で、口唇部に刻み目を有する。

114～116は胎土に雲母・長石・石英の砕細礫が多量にみられる。繊維はほとんど見られない。条痕文は不明瞭である。

第６類（117・118）

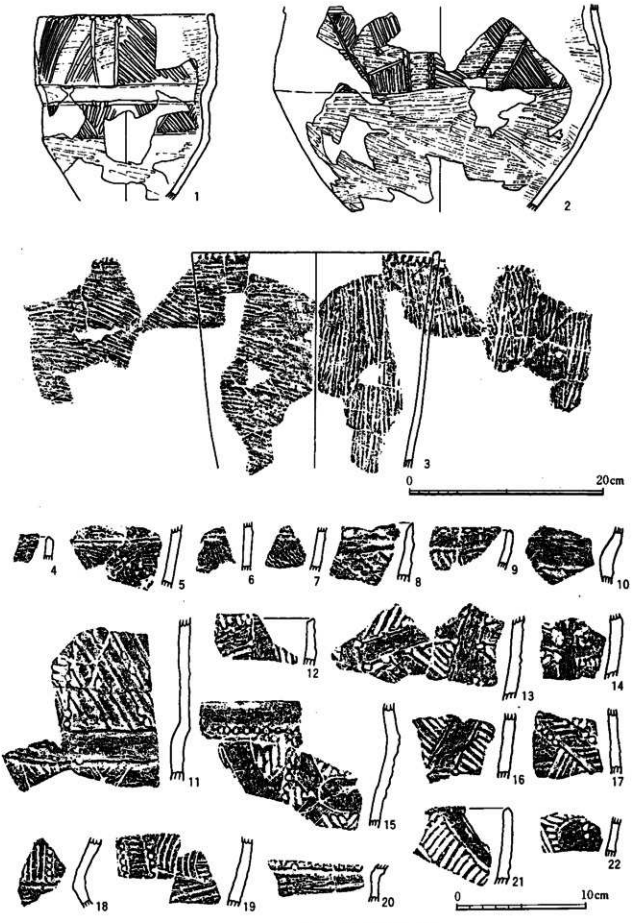
擦痕を有する類で、子母口式土器とみられる。117・118は内外面に擦痕を有するものである。117は口縁部で、口唇が尖気味である。118は内外面に擦痕を有する胴部片である。

第７類（119～121）

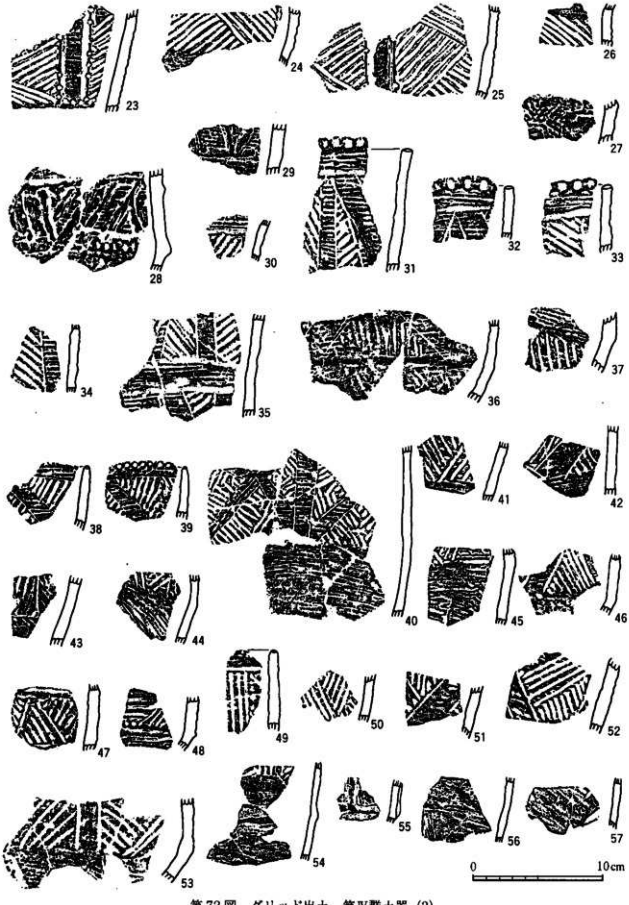
無文ないし無文気味なものである。120は横位隆帯を持つ。121は無文の胴部片で、屈曲部があり、隆帯をなしている。胎土に微細砂が目立つ。

底部（122～126）

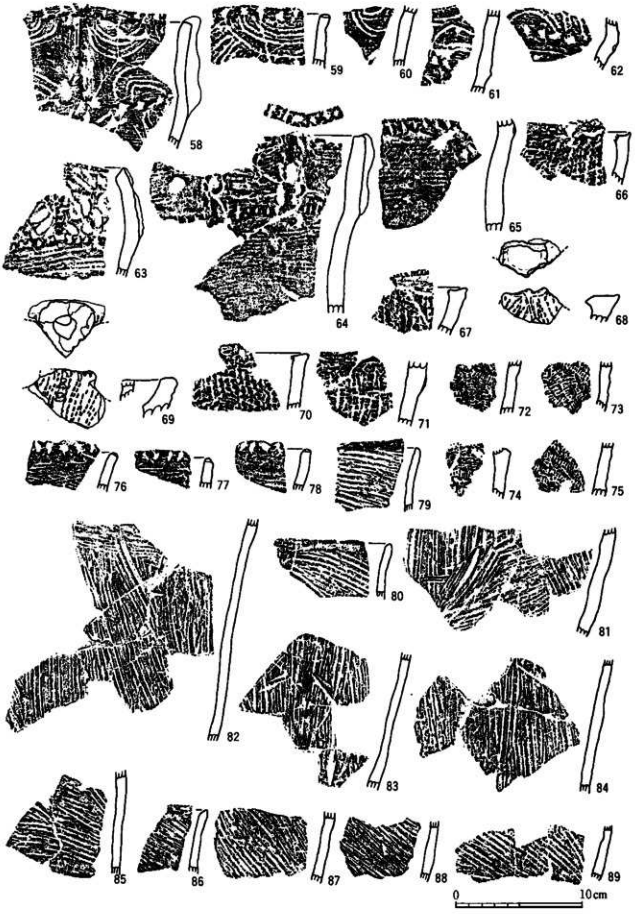
底部片である。122は丸底になりそうである。不明瞭な条痕文が施文されている。123～125は平底であり、125は外面縦条痕を有し、内面は剥落が激しい。126は丸底で、内外面に条痕文が施文されている。胎土に微細砂が目立つ。



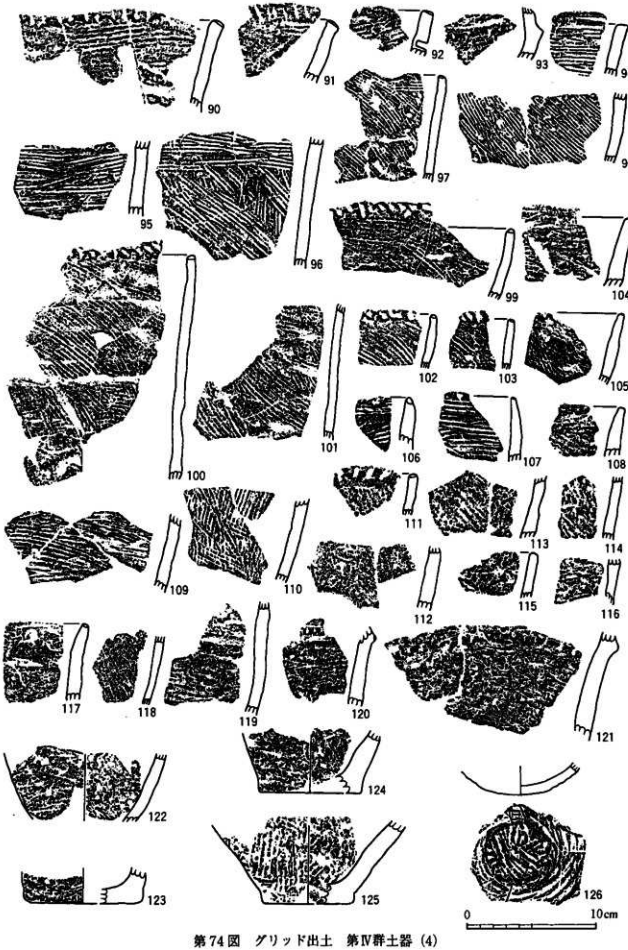
第71図　グリッド出土　第Ⅳ群土器 (1)



第72図　グリッド出土　第Ⅳ群土器 (2)



第73図　グリッド出土　第Ⅳ群土器（3）



第74図　グリッド出土　第Ⅳ群土器（4）

第Ⅴ群土器（第75図、図版23）

繊維を含み、内面が磨かれることを特徴とするもので、前期中葉の黒浜式土器であろう。

1～3は斜縄文に半截竹管の沈線文の加わるものである。1は口縁部で、口唇直下に横位に結節沈線文、波状沈線文がめぐらされている。4～7は斜縄文施文のもので、4は羽状になる。6は口縁部で、口唇にも施文されている。8は付加条縄文の施文されたものである。9～11は撚糸文の施文されたものである。12～14は細い沈線文の施文される小型の個体である。

第Ⅵ群土器（第75図、図版23）

前期後半の浮島式・興津式である。

15は斜位の半截竹管連続刺突文が施文されているもので、胎土に細かい砂が多くみられる。内面はあれている。16～21は三角文及び変形爪形文が施文されたもので、16～18は口縁上端に縦刻文が見られる。22・23は貝殻腹縁文の押し引きが見られるものである。

24は口縁部縦位、胴部横位の細い二本組沈線が施文されている。胎土に砂粒が多く、内面はあれている。29～34は口縁上端に縦条線、以下にやや波状を呈する条線文を有するものである。条線は幅広の二本組沈線による。口唇には指頭でつまみ上げたとみられる刻みがみられる。内面はミガキに近く平滑化されている。胎土には細砂を多く含む。35～39は縦条線文の施文されているもの。細砂が胎土に多くみられる。35は口唇に刻み目を有するもので、36・37と同一個体である。37は内面があれている。条線は櫛歯状工具による。38・39は同一個体で、幅広の半截竹管による条線とみられる。40～43は細い半截竹管による大柄な斜格子状沈線文がみられる。40は内面があれており、二次焼成を受けているとみられる。42～43は内面が滑沢である。

44～46は底部である。44・45は底面が糸巻き状に外方へ張り出す。

第Ⅶ群土器（第76図、図版24）

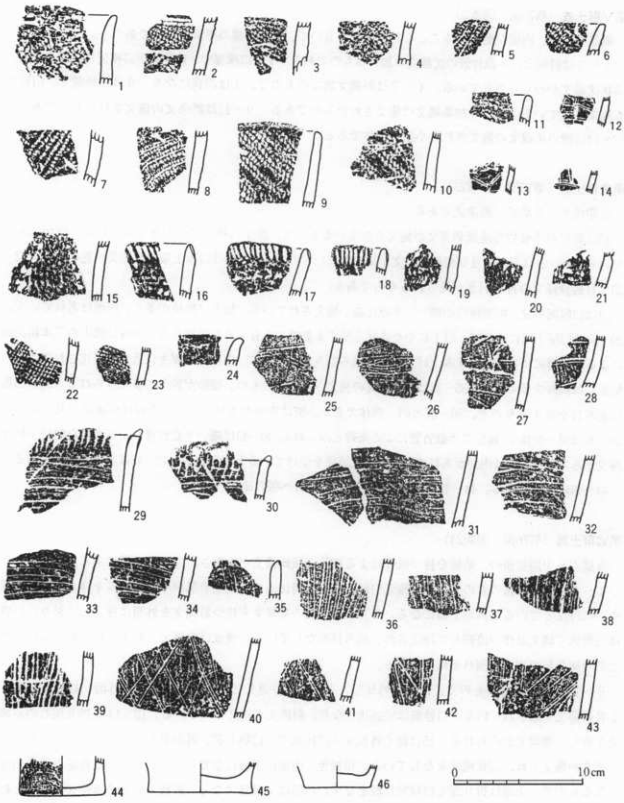
前期末～中期初頭の、結節を持つ原体による横位の綾繰縄文が施文されている土器である。

1～5は同一個体のものである。復元口径28cm、現高16cmで、胴上半部がやや膨らみを持ち、口縁は緩やかに外反している深鉢形土器になる。ＬＲ単節縄文の綾繰文を持つ斜縄文を外面に施文しており、口唇は尖頭状で縄文原体が連続して押圧され、刻み目をなしている。焼成は良好で、胎土には砂が少ない。粘土帯の接合部で水平に割れる傾向がある。

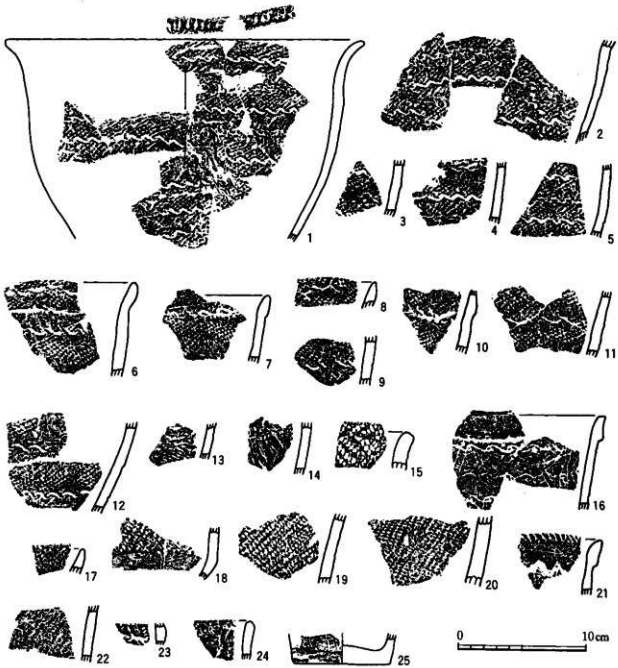
6～12は同一個体のもので、口縁が外反し、上端は折り返し口縁的に段がつく。外面に綾繰文のあるＬＲ斜縄文が施されている。口唇部は尖頭状になり、斜縄文が施文されている。13・14は撚り戻しの斜縄文を有し、綾繰文がみられる。15は軽く外反する口縁部で、口唇ＬＲ、外面ＲＬ・ＬＲ（一部）の節の太い縄文が施文され、羽状縄文をなしている。橙褐色で内面は平滑になでられている。16は極端な波状口縁になるもので、上端は折り返し口縁的に段をなす。口唇は尖頭状になる。綾繰りのある横位Ｒ斜縄文と縦位置に配された鋸歯状沈線文が併せて施されている。内面は磨かれている。17～20は横位の斜縄文をもつものである。18は上部にＬＲ斜縄文が施文されて、下部が内側にくの字に内湾し、無文となっている。内面は磨かれている。鉢形土器であろう。

21は口縁に横位に三角形彫刻文が連続している。口唇部には細かい刻み目が入れられている。

22は縦方向の斜縄文が施文されている。胎土には石英・長石粒が多量に認められる。23は横位隆起帯上



第75図　グリッド出土　第Ⅴ・Ⅵ群土器



第76図　グリッド出土　第Ⅶ群時

に斜縄文があり、下位に鋸歯状？沈線が添えられている。胎土には白色礫が含まれている。24はやや外反する口縁部である。縦位の綾繰り文斜縄文がみられる。胎土には白色礫が含まれている。25は一部斜縄文の見られる底部である。

第Ⅷ群土器（第77・78図、図版24・25）

後・晩期の土器である

1～8は厚手で径が40cmほどの大型深鉢形土器である。口縁下を横位沈線で区切り、下位に大柄な斜格子沈線文を施す。7・8をみると沈線は底部近くで施文されなくなるとみられる。内面から、口唇、口縁外面にかけてミガキが入る。暗褐～茶褐色を呈し、胎土に細砂粒を多く含んでいる。9～12は細かい条線文の施文されるもので、厚手である。底面から大きく傾いて開く。底部外面・底裏はミガキが入る。胎土に細砂を多量に含む。平滑に内面はなでられているが、砂が多いため一部はざらついている。鉢形ないし浅鉢形土器になると思われる。称名寺式から堀之内式にかけてのものと思われる。

13～16は堀之内2式の口縁部である。口縁下に紐線・円形貼付文をめぐらせ、縄文を地文に条線で幾何学的に施文している。内面上端に横位沈線を有する。16は胴部で斜条線は下部で終わっている。17・18は堀之内式から加曽利B式の粗製土器にみられる粗い斜縄文が施文される土器で、17は口縁で内面に沈線がある。

19は加曽利B式の小型の深鉢形土器である。上部で口縁がくの字に外曲しているが接合部で欠損している。現高11.5cm、径12.0cmである。胴上半部に斜縄文を地文に太い沈線で、横位条線上に間隔を開けて縦波状沈線を重ねた文様が描かれている。口縁内面、胴下半部から底面に磨かれる。

20～24は斜縄文土器を施文された土器で、22は底部で下部が無文となる。堀之内式から加曽利B式のものであろう。25・26は加曽利B式の無文浅鉢形土器である。口縁下に稜を形成し、内面と口縁部はミガキがはいり、体部には削痕が残されている。

27～37は安行Ⅱ式の帯縄文系の波状口縁深鉢形土器である。27は板状をした把手の先端になる。28～29は波底部で、口唇に小突起を持ち、隆起帯ががが枠形に構成され刻みの入る瘤、豚鼻の瘤が配されている。口縁隆起帯上には斜縄文、下位の区画隆起帯には刻み目が見られ、刻文帯をなす。33～35は胴部で、刻文帯を有し、弧線と斜縄文が一部みられる。36・37は隆起帯上に斜縄文が施文される。36は貼り瘤を有しており、波底部と思われる。胎土にはあまり細砂がみられず堅緻である。

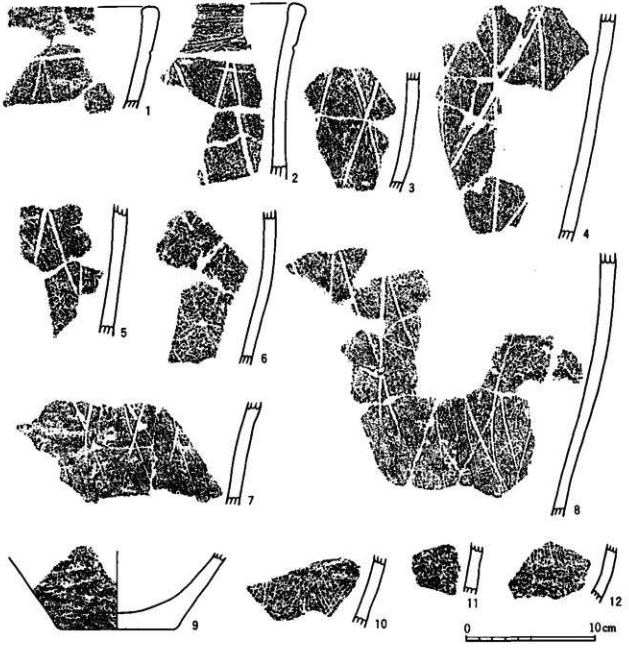
38・39は安行Ⅲa式の平縁の深鉢形土器である。口縁上端で外反し、口唇にはB字突起がみられる。口縁は隆起帯を形成せず、斜縄文施文のみで、以下を沈線で横位区切り、入組文・縄文を施文している。

40～46は安行Ⅲa式の薄手胴部破片である。40～44は沈線と細かい斜縄文の施文されたもの、45は斜縄文施文土器である。46は条線文の施文されたもので、胴下部になろう。

47～51は後期安行式及び晩期土器胴部片である。47は上部に細い隆起帯上縄文があり、以下に縦条線文が施文されているものであり、内面は横ナデ痕が残されている。胎土・焼成等からみて36・37の胴部とみられる。48・49は細かい斜縄文が施文されている。内面の縦ミガキが顕著である。細砂が胎土に目立つ。50・51は斜撚糸文施文のものである。

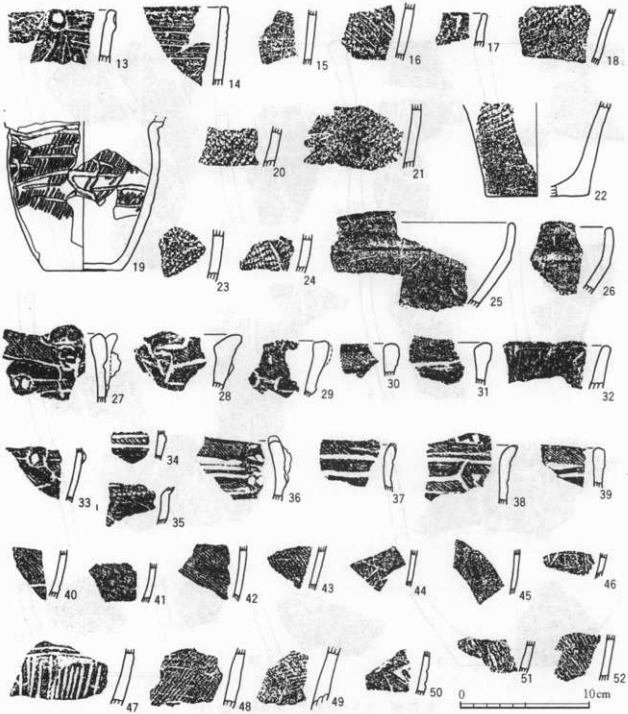
2　土製品（第79図、図版25）

1・2は土器片を再利用したものである。1は縄文施文の撚糸文系土器の破片の周囲を擦って円形にしてある。一部欠損している。径2.6cm、厚み0.5cm、現状での重量3.4gである。2は長楕円形の斜縄文土器の破片を利用し、両端の丸い部分が擦られている。長径4.6cm、短径2.7cmである。重量は16.1gである。施文されている縄文は粒が大きく明瞭で後期の土器と思われる。

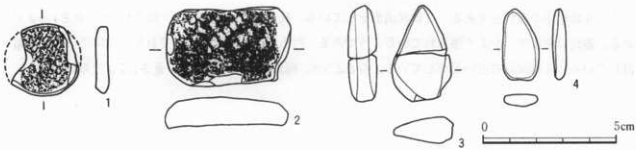


第77図　グリッド出土　第Ⅷ群土器（1）

3・4は扁平な板状品である。3は涙滴形をしている。長さ3.0cm、幅2.2cm、厚さ1.0cm、重さ4.6gである。器面は平滑で、かるく擦られているようである。胎土にスコリアを含んでおり、三戸式のものに類似している。4は涙滴に近い形をしている。長さ2.5cm、幅1.3cm、厚さ0.4cm、重さ1.7gである。



第78図　グリッド出土　第Ⅷ群土器（2）



第79図　グリッド出土　土製品

3　石器

本遺跡では、縄文時代の土器分布に重なるように石器群も同様に検出されている。出土遺物には石鏃、楔形石器、削器、石錐、打製石斧・磨製石斧、磨製石製品、剥片類、敲石、凹石、磨石、台石、礫、礫片等がある。ここで検討の対象となるのは、Ⅰ～Ⅱc層中に包含される石器群で、明らかに旧石器時代などの他時期に所属すると思われる資料を除いたものである。

調査は小グリッド毎に層位別に遺物を取り上げており、基本的にはすべての出土遺物に対して分布図が作成されている。ただ、層位的な時間幅を捉えることができるほど層厚はなく、石器群の‘顔つき’を見ても時期的な分離は困難である。そこで、平面分布をおさえることにより石器集中を視覚的に分離し、石器群を概観していくこととする。

本報告では、斧関連石器（石斧・石斧調整剥片）を加えた剥片素材の石器（以下「剥片石器」と呼称する）と、敲石・磨石・礫器等を含む礫素材の石器（以下、加工、使用の痕跡をとどめない礫・礫片を含めて「礫石器」と呼称する）を分離し、石器群の様相を検討する。

なお、遺物№は層位毎に付けているために、番号の重複するものがあったため、必要に応じて上層から番号を振り替えた。観察表（第30表～32表）にある「旧遺物番号」は変更前の遺物番号である。

（1）石器集中地点（第80図～94図、図版26・27）

分　布　剥片石器はほぼすべての出土位置が記録されているので、出土状況を第80図に示した。視覚的にいくつかの石器集中に分離可能である。ここでは6つの集中地点を抽出し、北東方向から南西方向に向かって各集中地点を石器集中1～6と呼称した。

石器集中1・2は散漫な出土状況を示し、石器集中3・4・6は比較的集中する状況が分かる。石器集中5はもっとも規模が大きく、広い分布範囲の中にバラエティーに富んだ多くの石器が分布している。各石器集中の出土層位は特に上下差を認めることが出来ない。層位的には1層～Ⅱc層に広がり、耕作によって移動した遺物が分布範囲を広めていると思われる。

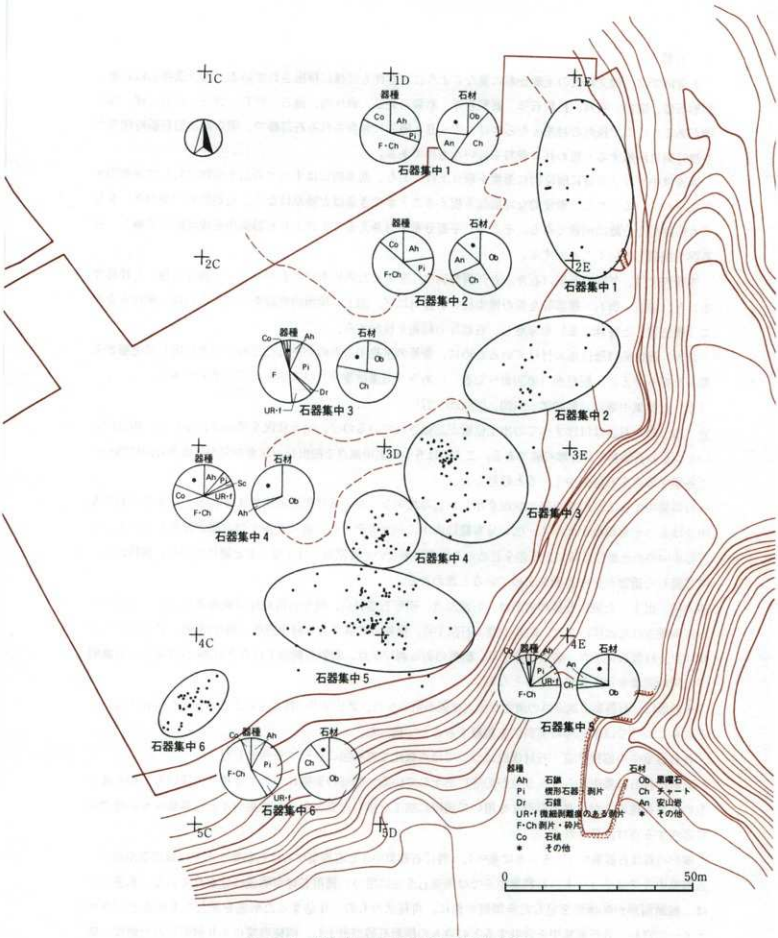
器　種　出土した剥片石器の内訳は、石鏃23点、楔形石器41点、楔形石器剥片（両極剥離により楔形石器から剥離された剥片）5点、削器1点、石錐1点、微細剥離痕のある剥片23点、剥片136点、砕片21点、石核17点、打製石斧1点、磨製石斧3点、磨痕のある剥片7点、磨製石製品1点の合計280点である。石鏃製作と両極剥離を示す資料が中心となる。

その他に、石器集中地点外の遺物や出土位置不明のもの、グリッド一括のものがごく僅かに存在するが、それらについては第94図に実測図を掲載することで補った。

各石器集中の器種構成・石材構成については点数比で第80図にグラフを作成した。

石鏃は各石器集中から3～5点が均等に出土している。基部の形態については抉りの浅いものから深いものまで各種あるが、薄手の剥片を用いて周縁に加工を施した資料が、石器集中4と石器集中6に特徴的に存在する点は注目される。

楔形石器は石器集中3・5・6に集中し、特に石器集中3と石器集中6は石器集中内での組成率が高い。石器集中3ではチャート、石器集中6では黒曜石を主に用い、利用石材が明確に分かれている。形態的には、縦断面形が紡錘形を呈した典型例の他に、角柱状のもの、寸詰まった形態を呈したものなどバラエティーに富む。各石器集中を合計すると41点もの楔形石器が出土し、両極剥離により剥がされた剥片・砕片を含めると、同剥離技法に関連する遺物が数的に剥片石器の中核をなしているということが分かる。



第80図　剥片石器の分布と器種・石材組成グラフ

石核は17点が出土している。そのうち12点が黒曜石製で、これにチャート、メノウ、砂岩、珪質頁岩Aが加わる。黒曜石製のものの多くがサイコロ状を呈し、残核として理解できる。石器集中4・6の資料（第88図13・15、第93図14）は、本遺跡のなかではやや大きめのもので、厚めの寸詰まりの剥片を利用して小型剥片を剥離している。

また、石器集中2の第84図8は、本遺跡の旧石器時代第2文化層に主体的に用いられているチョコレート色を呈した珪質頁岩製の石核であり、旧石器時代の所産とも考えられるが、分布域が離れているため、ここでは一応縄文時代の石器として扱った。

いずれにしても、黒曜石以外の石材では、両極剥離以外の一般的な剥片剥離については余り積極的に行われていなかったことが明らかであるとともに、黒曜石についても石鏃製作を意図した剥片剥離というよりは、小型剥片の生産を意図しており、それらの一部は両極加撃を施すための素材剥片として利用されているようである。

磨痕のある剥片は、石器集中4からのみ7点が出土した（第89図16～23）。粘板岩製である。接合によって2個体に分かれているが、同一母岩である。薄く板状に剥離された（剥がれた）もので、自然面を有する剥片の一部に擦痕状の磨痕が観察されるものを一括した。17はその一部にスクレイパー状に刃部を設けている資料である。磨痕は自然面の縁辺付近に集中しているが、19～22では主要剥離面側にも一部観察される。自然面の湾曲具合から、かなり大きな礫から剥がされたものと思われるが、本遺跡ではその中心部分となる礫片は見つかっていない。

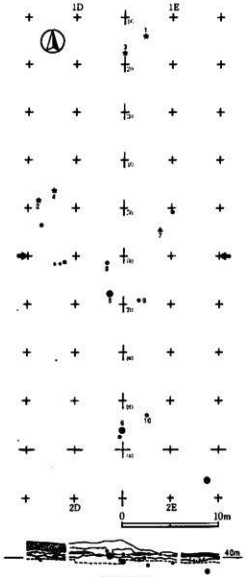
磨製石製品は石器集中3から出土している（第86図23）。板状に整形され、外湾する縁辺はほぼ直角に仕上げられ、ごく細い面取り痕が観察される。一方、内湾する縁辺は円形に仕上げられ、なめらかな面で構成される。実測図下端部は折れ面で、ここにも面取り痕が見られる。垂飾の一部であるのか、用途は不明である。

打製石斧は石器集中3から出土している（第87図24）。粘板岩製で、おそらく基部端に当たる資料と考えられる。

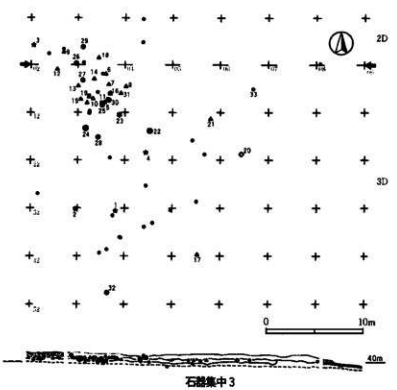
磨製石斧は石器集中5から3点が出土している（第92図27～29）。29は他の2点とは趣が異なる。石斧が破損した後、折れ面と片方の側面を調整し、敲打を繰り返した後に再び研ぎ直しているものである。緑色の凝灰岩を用いている。

石　材　利用石材の内訳は、黒曜石157点、チャート56点を主体として、安山岩A（ガラス質黒色安山岩）・粘板岩・珪質頁岩等で構成される。石器集中毎に黒曜石、チャートの比率が異なり、黒曜石がチャートを上回る石器集中4・5・6と、チャートが黒曜石を上回る石器集中1・3の2者がある。石器集中2のみが両石材の比率が拮抗している。

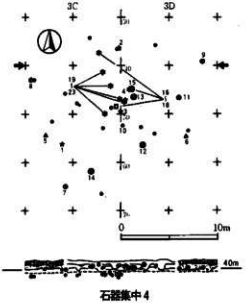
器種との関係でいえば、石鏃は23点中13点が黒曜石、5点がチャート、楔形石器は41点中18点が黒曜石、17点がチャート、石核は17点中12点までが黒曜石を利用している。黒曜石を用いた石鏃のうち、第84図3はやや赤み帯びたものであり、剥片類を含め同一母岩は見られない。楔形石器については石器集中3ではチャート、石器集中5・6のでは黒曜石、というように利用石材が石器集中毎で大きく異なっている。



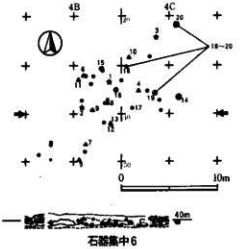
石器集中1



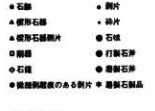
石器集中3



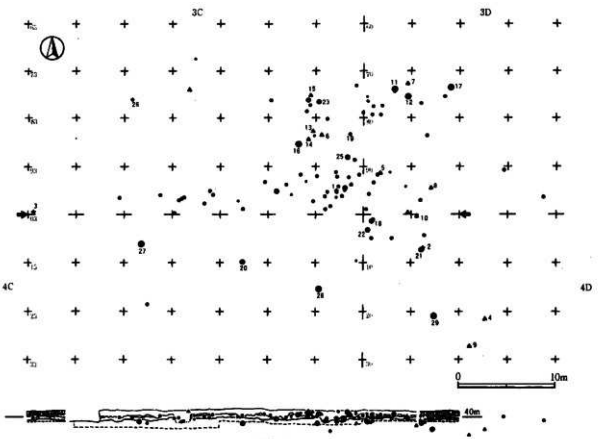
石器集中4



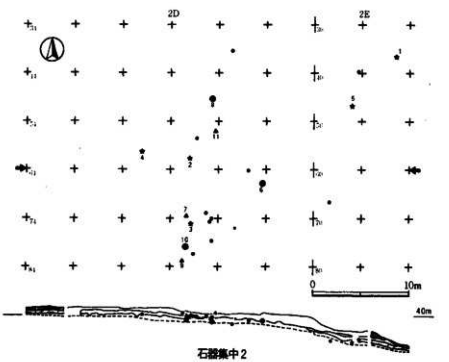
石器集中6



第81図　石器集中1・3・4・6　出土状況



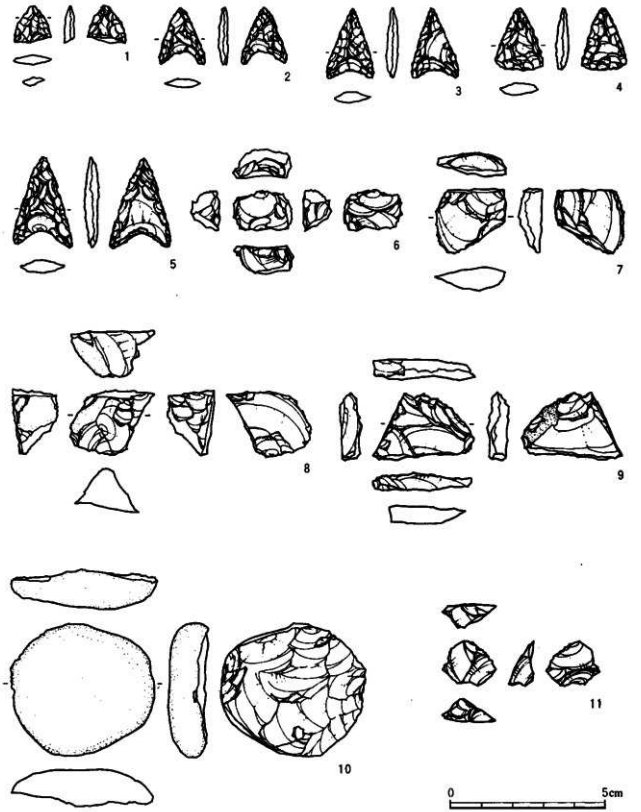
石器集中5



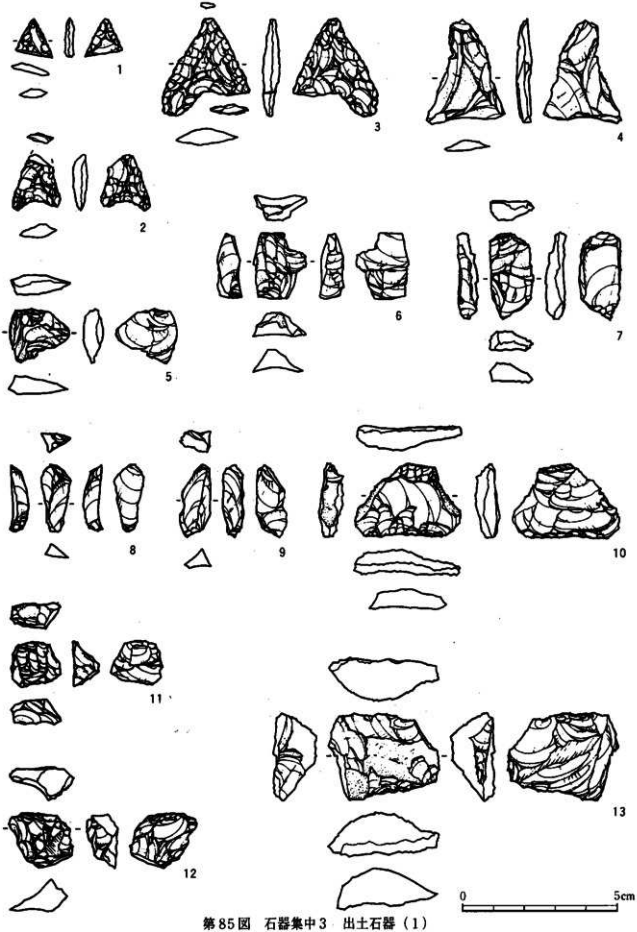
石器集中2

第82図　石器集中2・5　出土状況

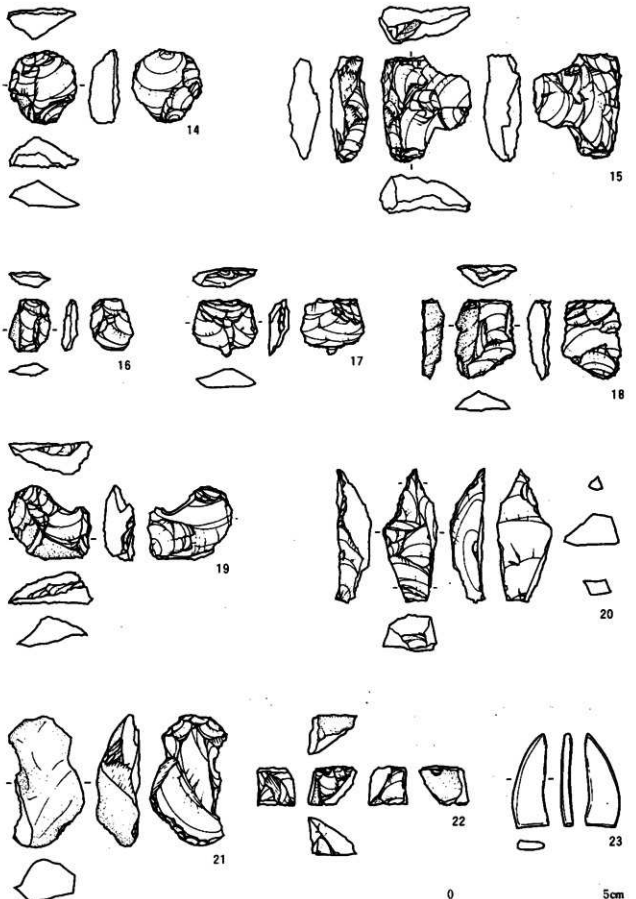
第83図　石器集中1　出土石器



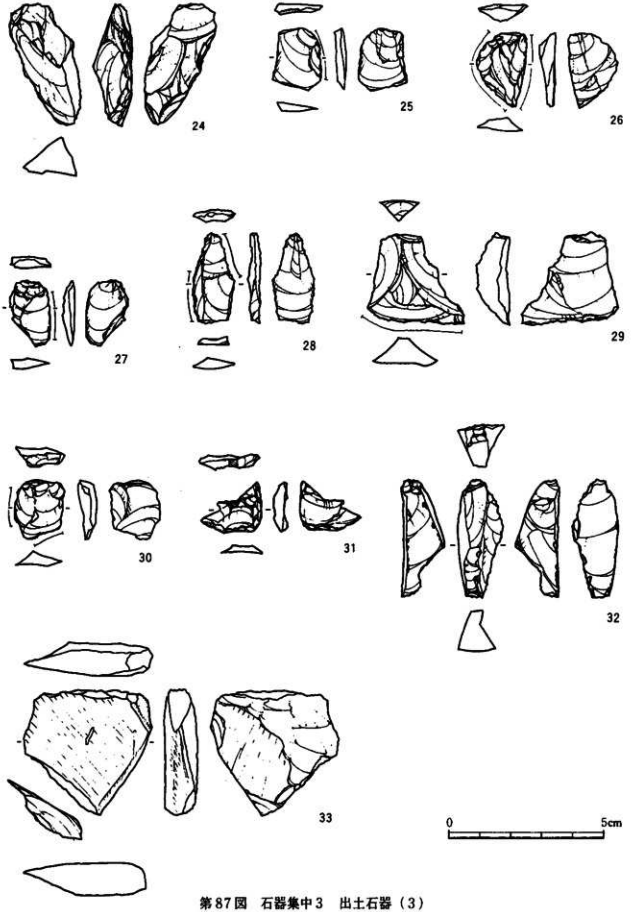
第84図　石器集中2　出土石器



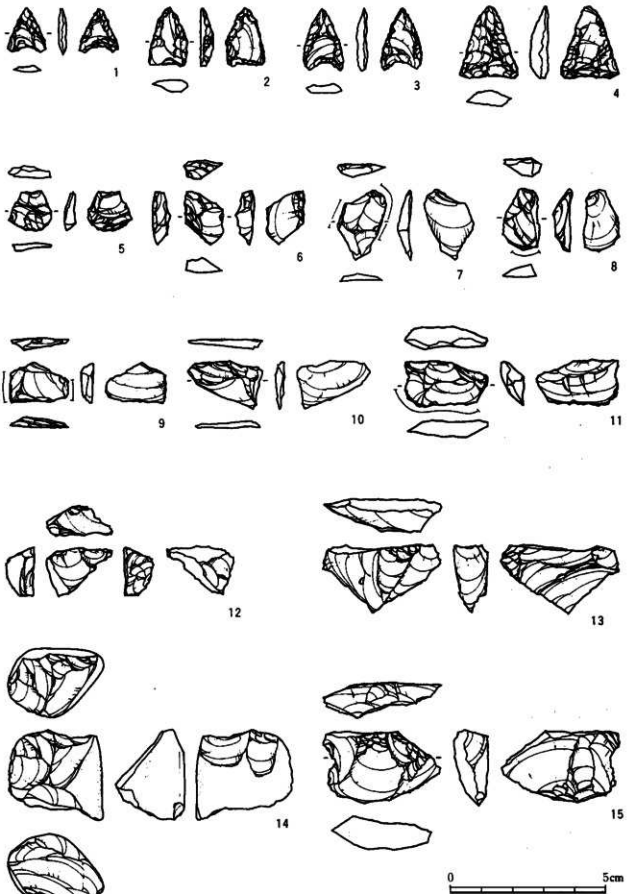
第85図　石器集中3　出土石器（1）



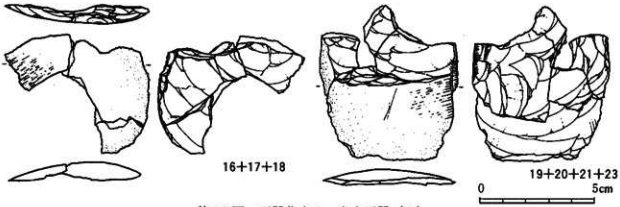
第86図　石器集中3　出土石器（2）



第87図　石器集中3　出土石器（3）

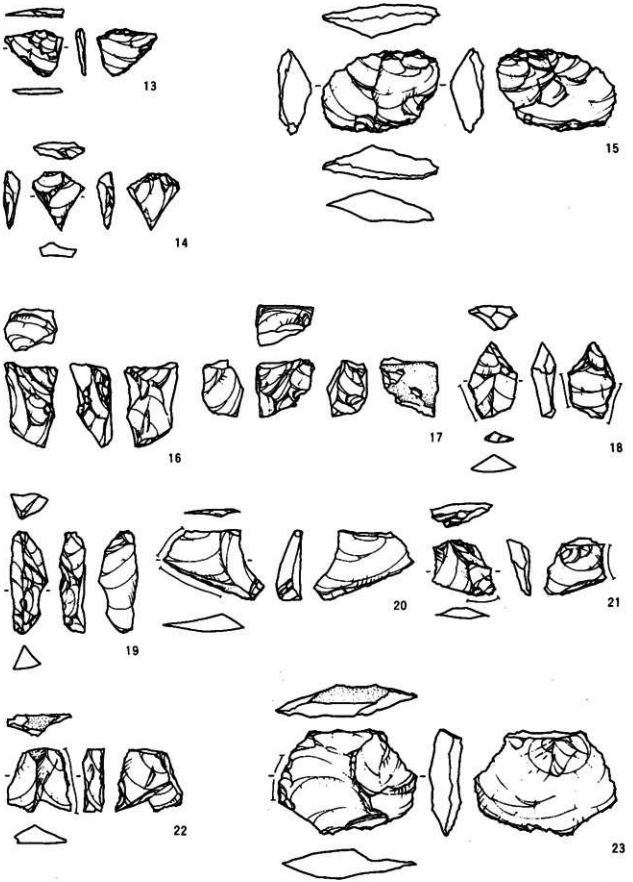


第88図　石器集中4　出土石器（1）

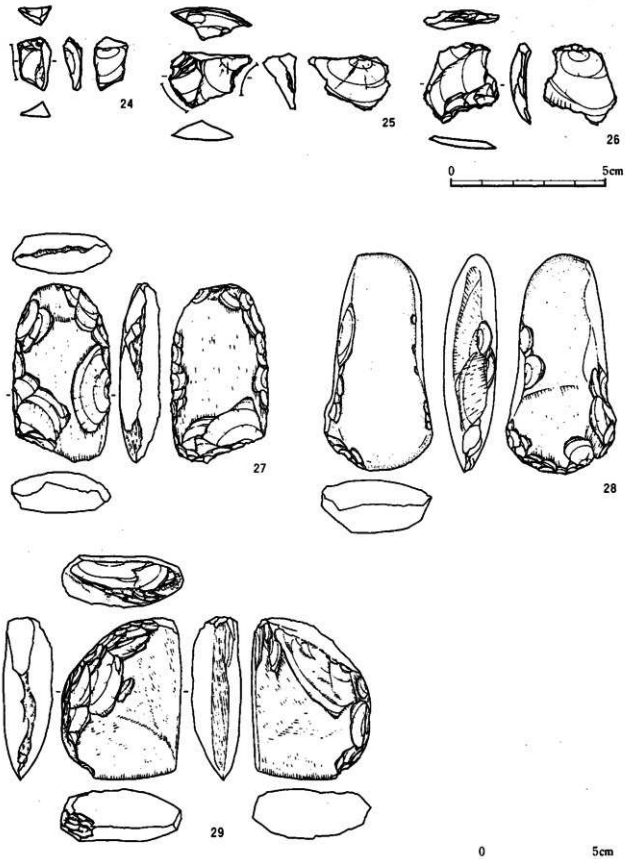


第89図　石器集中4　出土石器（2）

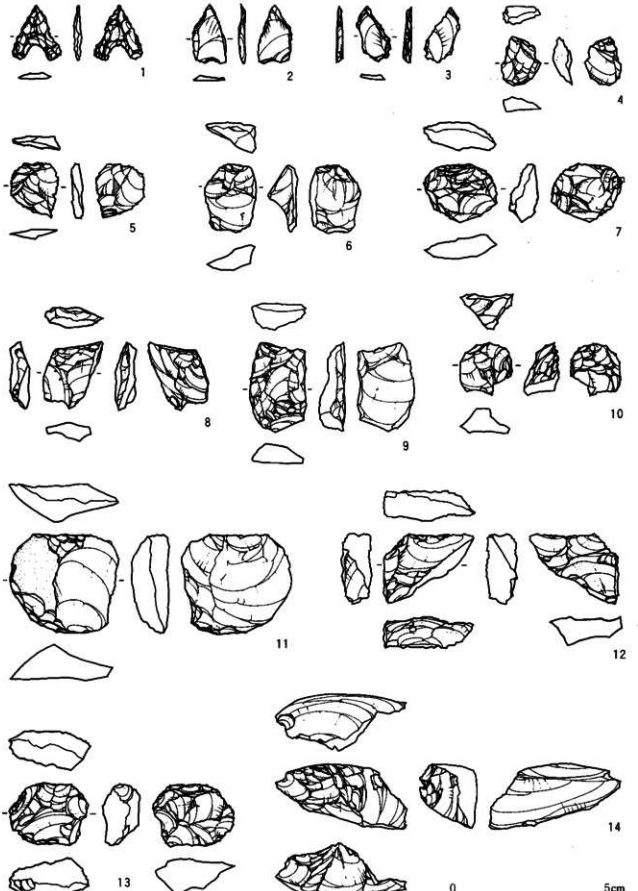
第90図　石器集中5　出土石器（1）



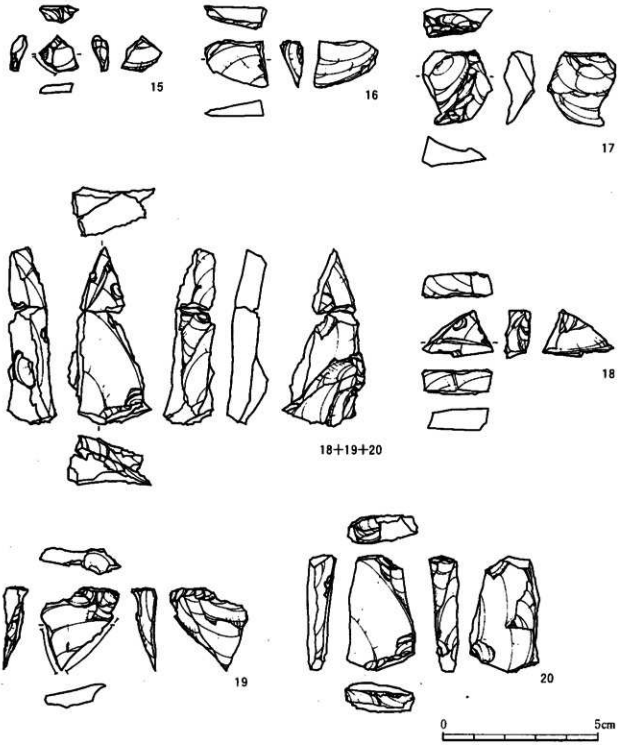
第91図　石器集中5　出土石器（2）



第92図　石器集中5　出土石器（3）



第93図　石器集中6　出土石器（1）

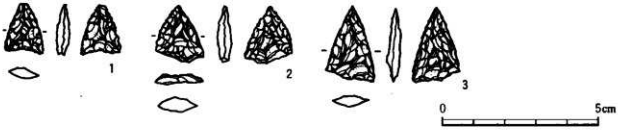


第94図　石器集中6　出土石器（2）

（2）石器集中地点外の出土石器（第95図、図版27）

石器集中地点外から出土した遺物として石鏃3点を掲載した。

1・2は2D区から採集された。3は工事用道路調査時のものである。1・3がチャート、2が黒曜石製である。



第95図　石器集中地点外　出土石器

（3）礫石器（第96図～100図、図版28）

分　布　敲石・磨石・礫器を含む礫石器と礫・礫片についても、多くの資料で出土位置が記録されている。しかしながら、グリッド一括で取り上げられている資料も少なからず存在し、無視することが出来ない。そこで、礫石器の場合は小グリッド毎に重量と点数を数えることで、その分布傾向を把握することにした（第95図）。

点数・重量ともに調査範囲の南半の方が密度が高く、いくつかの集中域が存在する。4C19グリッド周辺、4C23・33グリッド周辺、3C95グリッド周辺の3つの集中域が確認できる。礫・礫片の多くは被熱したものが多く、これらの集中域は被熱礫を主体とする礫群を構成していたものと考えられる。

剥片石器との関係でいえば、3C95周辺のものが石器集中5に重なるが、残り2つの集中域は石器集中5の北側周囲に位置する。いずれも石器集中5との関係が注意される。

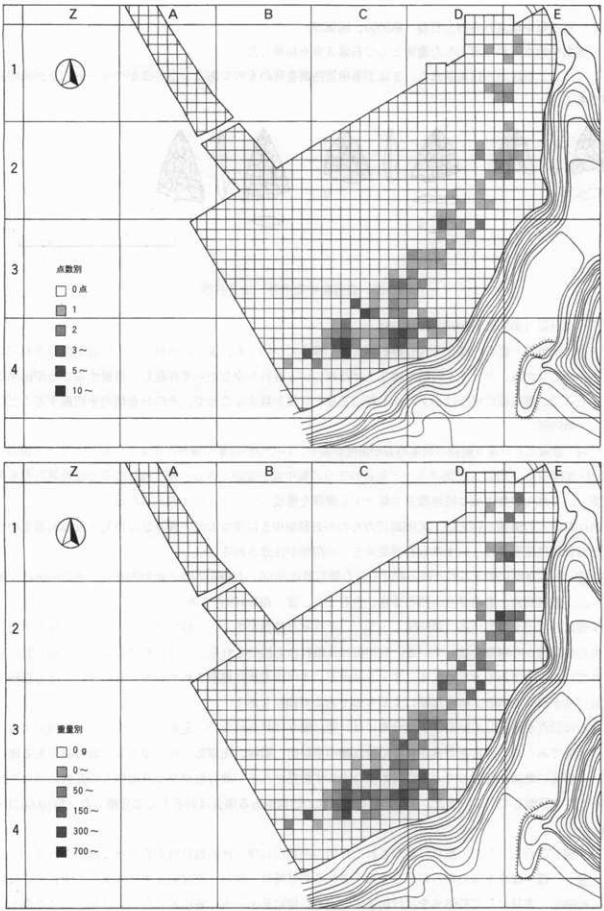
器　種　本遺跡に搬入された礫・礫片を含む礫石器は210点、16986.29gと比較的多い。その内訳は、礫器5点、敲石13点、磨石9点、凹石2点、台石2点、礫・礫片179点である。

礫器は5点出土している（第98図1～5）。それぞれ特徴があり、一様ではない。1は楕円礫を半割したものの周縁から剥離を施している。自然面には敲打痕も観察される。2はいわゆるスタンプ形石器と呼ばれているものであると思われる。3・5は両刃、4は片刃状に整形されている。5については刃部縁上に敲打痕が観察される。両極加撃によるものである可能性もある。

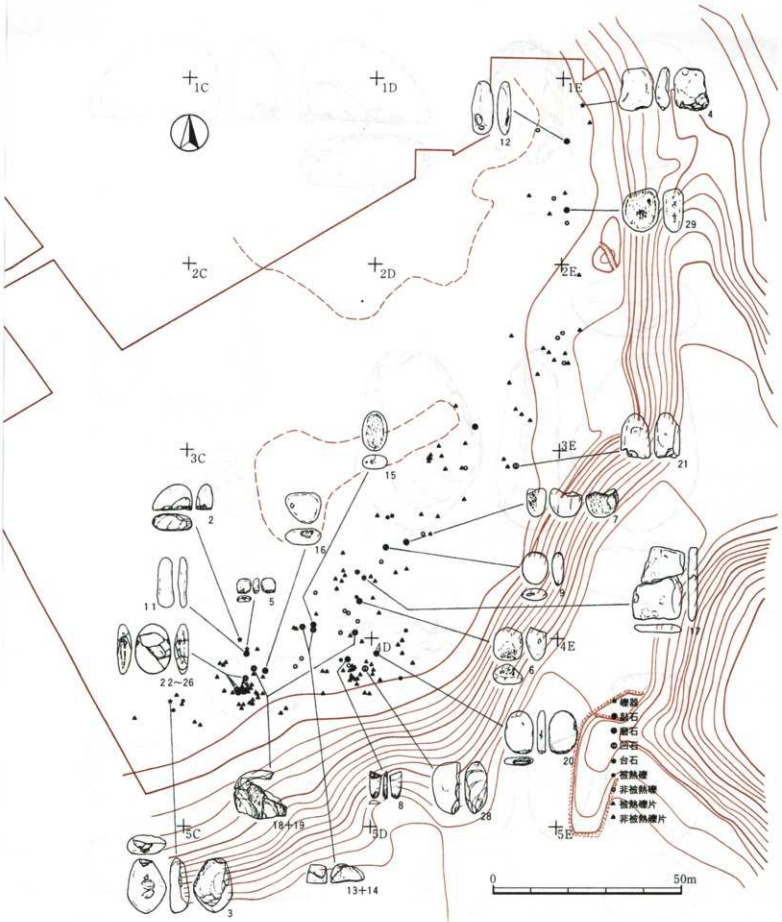
敲石は13点が出土している。平面分布には、特に偏りは見られない。定形化したものとして抽出することは困難であった。敲打痕が残される位置は礫の平坦面、周縁、先端部と様々である。敲打痕のある礫には、平坦面に磨面が残されている資料も少なからず散見される。敲打痕がなく磨面のみの資料については磨石として分類している。また、礫平坦面に窪み状の凹面がある場合は凹石として分離した（第100図21・28）。

第99図17は台石とした。板状に整形された片岩の平坦面に窪み状の敲打痕が数カ所で観察される。

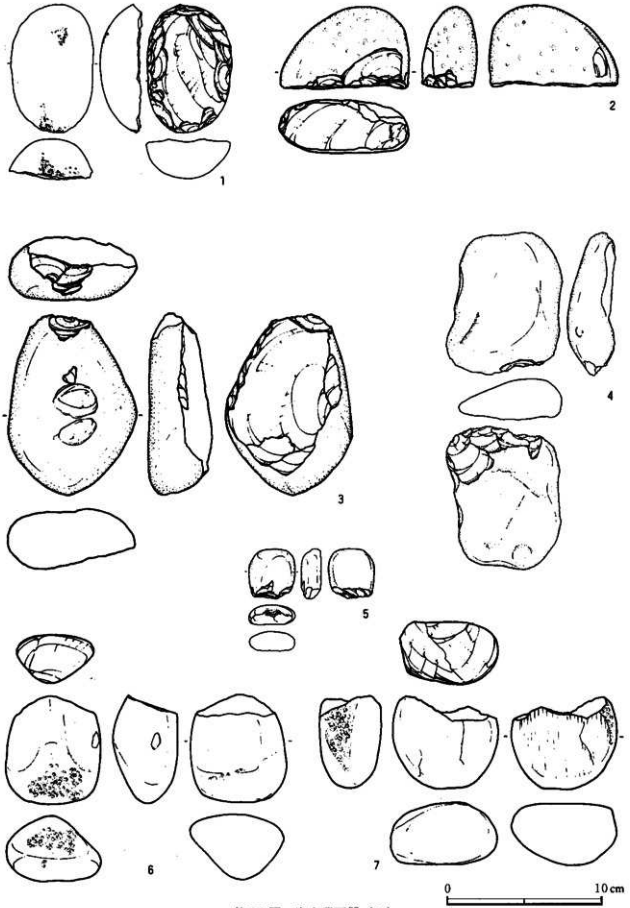
石　材　礫・礫片を含む礫石器として搬入される石材種は、砂岩と流紋岩が主体である。両者で点数にして約65%、重量にして約68%をほぼ同量ずつ占め、他にチャート、安山岩、頁岩、片岩、メノウなどがある。



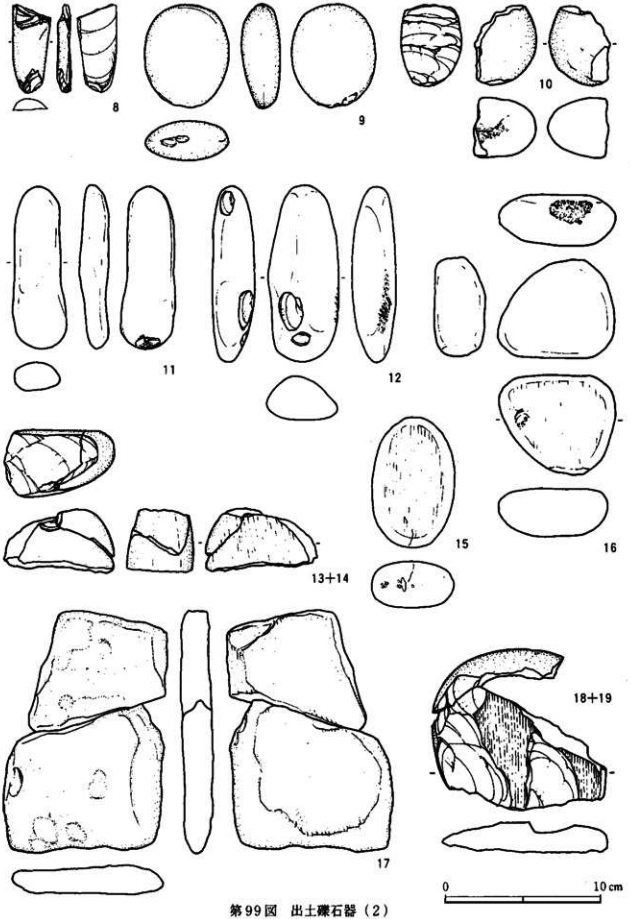
第96図　礫石器のグリッド別出土状況（上：点数，下：重量）



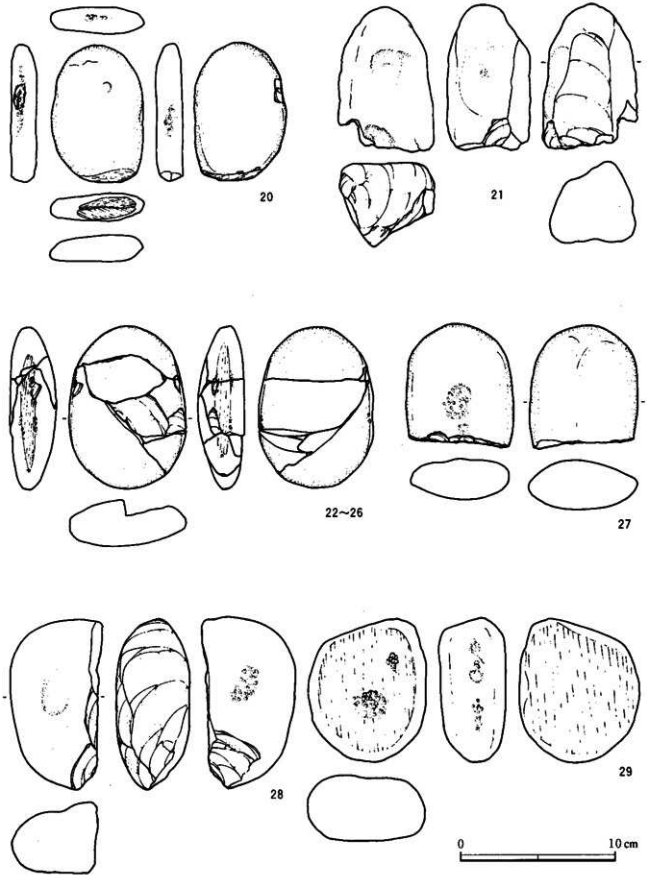
第97図　礫石器の出土状況



第98図　出土礫石器（1）



第99図　出土礫石器（2）



第100図　出土礫石器（3）

第30表　縄文時代　剥片石器観察表(1)

挿図番号	石器集中	グリッド	遺物番号	旧遺物番号	器種	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	被熱	石材	X座標	Y座標	Z座標	備考
1	1	01E10	0001		石鏃	17.1	15.1	3.0	0.56		黒曜石	-22407.046	49702.137	40.006	
2	1	01D48	0004	0001	石鏃	19.7	15.0	3.6	0.96		チャート	-22424.264	49691.096	40.011	
3	1	01D19	0001		石鏃	24.6	15.9	4.0	1.12		チャート	-22408.721	49699.983	40.188	
4	1	01D48	0007	0004	石鏃	27.8	14.9	4.2	1.19		安山岩A	-22423.228	49692.739	40.044	ガラス質黒色安山岩
5	1	01D69	0013		石核	14.0	20.7	14.0	5.16		黒曜石	-22433.906	49698.546	40.168	
6	1	01D99	0014	0009	石核	17.8	30.1	12.7	5.27		メノウ	-22447.992	49699.953	39.818	
7	1	01E50	0007		楔形石器	17.2	12.9	6.9	1.25		チャート	-22427.324	49703.804	40.188	
8	1	01D69	0014		剥片	31.2	18.0	5.2	2.64		チャート	-22430.735	49698.286	40.343	
9	1	01E60	0013	0003	剥片	25.0	31.0	8.9	5.51		珪質頁岩	-22434.603	49701.616	39.868	
10	1	01E90	0015	0011	剥片	26.9	37.6	8.1	6.94		流紋岩	-22446.481	49702.528	39.596	
1	2	02E31	0002		石鏃	12.2	12.2	3.2	0.39		チャート	-22468.306	49706.631	0.000	
2	2	02D57	0004		石鏃	18.0	15.0	3.0	0.54		黒曜石	-22478.875	49686.998	39.980	
3	2	02D77	0003		石鏃	22.2	15.3	4.0	1.05		頁岩	-22485.546	49687.166	40.044	
4	2	02D56	0004	0001	石鏃	19.9	15.1	4.1	1.14		チャート	-22478.154	49682.044	40.073	
5	2	02E40	0003	0002	石鏃	28.3	19.6	4.3	1.69		安山岩A	-22473.404	49703.943	39.821	
6	2	02D68	0005		石核	12.7	19.0	9.4	2.48		黒曜石	-22481.398	49694.591	39.756	
7	2	02D67	0013b	0002b	楔形石器	23.0	20.6	7.3	3.85		安山岩A	-22484.787	49686.663	39.966	
8	2	02D47	0017	0003	石核	19.7	14.7	26.3	6.70		珪質頁岩A	-22472.706	49689.293	39.728	
9	2	02D77	0001		楔形石器	21.2	33.4	6.7	5.27		チャート	-22489.386	49686.288	40.161	
10	2	02D77	0011	0004	石核	47.5	42.4	12.9	35.17		チャート	-22487.899	49686.625	39.868	
11	2	02D57	0014		楔形石器調整剥片	15.0	17.1	6.1	0.88		黒曜石	-22476.070	49689.670	40.122	
1	3	03D33	0002		石鏃	11.7	11.7	2.9	0.30		黒曜石	-22515.208	49669.037	40.267	
2	3	03D32	0054		石鏃	18.0	15.4	4.6	0.89		黒曜石	-22515.104	49664.799	40.286	
3	3	02D92	0001		石鏃	30.1	28.2	5.9	3.05		黒曜石	-22497.948	49680.278	40.241	
4	3	03D14	0001		石鏃	33.1	24.9	4.7	3.11		粘板岩	-22509.211	49672.206	40.241	
5	3	03D03	0042	0032	楔形石器	17.6	19.6	6.2	1.77		チャート	-22503.992	49667.763	40.126	
6	3	03D03	0038	0028	楔形石器	21.6	17.4	7.2	2.68		チャート	-22500.974	49667.940	40.139	
7	3	03D03	0037	0027	楔形石器	27.4	13.7	6.1	2.67		チャート	-22502.094	49668.238	40.146	
8	3	03D03	0041	0031	楔形石器調整剥片	21.4	9.2	5.2	0.62		チャート	-22502.342	49670.001	40.121	
9	3	02D92	0003		楔形石器	23.6	9.7	6.5	1.35		チャート	-22498.697	49663.462	40.236	
10	3	03D03	0018	0008	楔形石器	23.2	34.1	6.7	5.32		チャート	-22503.596	49666.590	40.091	
11	3	03D03	0033	0023	楔形石器	14.4	16.2	11.6	2.10		チャート	-22503.672	49668.076	39.986	
12	3	03D02	0002		楔形石器	17.5	21.4	9.8	2.99		チャート	-22500.496	49662.788	40.181	
13	3	03D03	0024	0014	楔形石器	28.2	36.6	13.0	12.18		チャート	-22502.241	49665.021	40.208	
14	3	03D03	0005		楔形石器	24.0	22.0	9.3	3.99		チャート	-22501.506	49666.737	40.276	
15	3	03D03	0013	0003	楔形石器	34.4	28.3	11.8	10.18		チャート	-22503.637	49665.246	40.219	
16	3	03D03	0034	0024	楔形石器	16.6	13.2	4.3	0.96		チャート	-22503.091	49668.400	40.066	
17	3	03D35	0002		楔形石器	18.2	20.8	6.4	2.20		黒曜石	-22519.845	49677.607	40.119	
18	3	02D93	0005		楔形石器	24.9	18.7	6.7	2.97		珪質頁岩	-22499.280	49667.229	40.220	
19	3	03D03	0016	0006	楔形石器	25.5	27.1	9.1	5.65		チャート	-22503.397	49666.160	40.006	
20	3	03D16	0009		石鏃	42.5	17.3	10.5	6.02		黒曜石	-22509.420	49682.119	40.114	
21	3	03D15	0010		楔形石器	41.5	23.3	13.0	13.12		チャート	-22505.688	49676.913	40.121	
22	3	03D14	0002		石核	12.3	18.2	9.8	2.01		黒曜石	-22506.884	49672.577	40.271	
23	3	03D13	0011		磨製石製品	30.2	11.1	3.6	1.53		その他	-22505.223	49669.235	40.246	
24	3	03D13	0013	0001	打製石斧	19.5	42.2	12.6	9.29		粘板岩	-22506.667	49665.721	40.232	
25	3	03D03	0029	0019	使用痕のある剥片	19.9	16.1	2.9	1.25		チャート	-22504.284	49667.527	40.020	
26	3	02D92	0005		使用痕のある剥片	24.2	15.9	5.2	1.92		チャート	-22499.862	49664.746	40.338	
27	3	03D03	0026	0016	使用痕のある剥片	21.3	12.9	3.8	1.09		チャート	-22501.844	49665.482	40.115	
28	3	03D13	0015	0003	使用痕のある剥片	28.3	13.2	3.5	1.37		チャート	-22507.642	49667.086	40.241	
29	3	02D93	0013	0003	使用痕のある剥片	30.1	30.7	10.4	6.88		チャート	-22498.106	49665.548	40.069	
30	3	03D03	0032	0022	使用痕のある剥片	18.5	16.1	5.7	1.29		チャート	-22503.695	49668.216	40.042	
31	3	03D03	0010		楔形石器調整剥片	17.1	19.6	4.2	0.84		チャート	-22503.082	49669.465	40.223	
32	3	03D43	0018	0013	使用痕のある剥片	37.5	14.4	14.1	5.39		黒曜石	-22523.790	49668.136	40.188	
33	3	03D06	0002		剥片	39.5	42.0	10.5	23.41		その他	-22502.550	49683.371	40.123	
1	4	03C58	0032	0025	石鏃	14.7	12.3	2.3	0.33		黒曜石	-22528.074	49643.853	40.031	
2	4	03C39	0009		石鏃	18.7	12.0	4.0	0.86		黒曜石	-22518.145	49649.763	40.194	
3	4	03C49	0019	0011	石鏃	20.6	13.0	3.4	0.64		黒曜石	-22524.707	49649.937	39.766	
4	4	03D40	0002a		石鏃	23.3	16.3	5.6	1.72		黒曜石	-22523.501	49650.444	40.216	
5	4	03C58	0023b	0016b	楔形石器	13.0	14.5	4.1	0.66		黒曜石	-22527.197	49642.106	40.076	
6	4	03D51	0016	0007	楔形石器	12.8	17.2	6.2	1.04		黒曜石	-22527.329	49656.760	40.081	
7	4	03C68	0076	0046	使用痕のある剥片	20.8	16.0	4.1	0.95		頁岩	-22532.512	49644.210	40.028	
8	4	03C48	0003a	0001a	使用痕のある剥片	19.4	12.0	5.9	0.97		黒曜石	-22521.472	49640.608	39.666	
9	4	03D31	0019	0002	使用痕のある剥片	12.8	19.8	3.5	1.07		黒曜石	-22519.538	49658.475	40.081	
10	4	03D50	0017	0001	剥片	14.2	23.9	2.8	0.76		黒曜石	-22526.201	49650.185	40.163	
11	4	03D41	0019	0005	使用痕のある剥片	16.0	27.3	6.4	2.24		黒曜石	-22523.294	49656.004	40.012	
12	4	03D50	0005		石核	14.8	22.0	9.2	2.16		黒曜石	-22528.101	49652.281	40.233	
13	4	03D40	0008	0004	石核	20.0	37.6	11.0	6.07		黒曜石	-22523.148	49651.282	40.072	
14	4	03C69	0029		石核	27.0	32.0	21.8	18.36		砂岩	-22530.893	49646.914	40.183	
15	4	03D40	0007	0003	石核	23.7	38.0	10.0	8.32		黒曜石	-22522.396	49651.088	40.084	
16	4	03C49	0018	0010	削器	40.7	33.6	8.4	12.37		粘板岩	-22524.220	49649.481	39.752	
17	4	03C39	0002		磨製石製品	27.0	21.5	5.3	2.37		粘板岩	-22518.681	49647.800	40.253	
18	4	03D40	0006	0002	磨製石製品	30.5	19.1	4.7	3.73		粘板岩	-22522.470	49650.891	40.093	
19	4	03C49	0005		磨製石製品	13.2	9.3	3.6	1.04		粘板岩	-22520.693	49648.142	39.775	
20	4	03C49	0007		磨製石製品	19.8	21.8	3.8	6.06		粘板岩	-22522.153	49648.944	39.851	
21	4	03C49	0015	0007	磨製石製品	36.3	40.3	3.2	1.40		粘板岩	-22524.875	49648.335	39.769	
22	4	03C49	0021	0013	磨製石製品	17.6	28.3	3.8	2.34		粘板岩	-22523.435	49649.932	39.814	
23	4	03D40	0001		磨製石製品	37.0	55.5	4.3	12.11		粘板岩	-22523.599	49650.425	40.215	
1	5	03C99	0079	0043	石鏃	16.8	12.5	3.7	0.84		黒曜石	-22547.627	49647.236	39.815	
2	5	04D01	0041	0016	石鏃	22.1	18.1	3.8	1.08		黒曜石	-22553.571	49656.141	39.723	
3	5	03C93	0008	0006	石鏃	19.0	13.6	4.0	0.82		チャート	-22549.724	49615.600	39.973	
4	5	04D22	0015		楔形石器	17.7	11.3	5.2	1.02		黒曜石	-22560.784	49662.687	39.340	
5	5	03D90	0007		楔形石器	24.8	33.6	11.8	10.75		安山岩A	-22545.688	49651.729	40.047	
6	5	03C89	0004		楔形石器	15.6	14.8	8.5	1.40		黒曜石	-22541.802	49645.628	40.178	
7	5	03D70	0061	0027	楔形石器	15.2	20.3	9.0	2.16		黒曜石	-22536.334	49654.571	40.026	
8	5	03D91	0033	0014	楔形石器	35.4	12.6	7.5	2.47		黒曜石	-22547.221	49657.084	39.885	
9	5	04D22	0010		楔形石器	12.1	13.7	3.0	0.54		黒曜石	-22563.606	49661.090	39.050	
10	5	04D01	0035	0010	楔形石器	13.7	16.0	3.8	0.61		黒曜石	-22550.203	49655.572	39.574	
11	5	03D70	0048	0014	石核	28.9	15.5	14.5	5.13		黒曜石	-22536.918	49653.230	40.146	
12	5	03D70	0059	0025	石核	30.7	14.8	12.4	3.70		黒曜石	-22537.650	49654.598	39.979	
13	5	03C88	0023		楔形石器	15.4	19.8	2.7	0.75		黒曜石	-22541.399	49644.728	40.308	
14	5	03C88	0020		楔形石器	19.0	17.3	5.2	1.17		黒曜石	-22542.248	49644.244	40.314	

第31表 縄文時代 剥片石器観察表(2)

挿図番号	石器集中	グリッド	遺物番号	旧遺物番号	器種	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	被熱	石材	X座標	Y座標	Z座標	備考
15	5	03C78	0055		楔形石器	28.0	39.4	10.2	9.03		安山岩	-22537.573	49644.441	40.178	
16	5	03C88	0011		石核	28.0	18.0	13.5	5.99		黒曜石	-22542.588	49643.171	40.169	
17	5	03D71	0069	0041	石核	18.4	19.4	12.7	4.66		黒曜石	-22536.745	49659.052	39.968	
18	5	04D00	0002		使用痕のある剥片	24.4	15.8	8.2	1.87		黒曜石	-22550.705	49650.914	40.009	
19	5	03C89	0019		剥片	32.5	12.4	8.3	2.41		黒曜石	-22541.892	49648.617	40.220	
20	5	04C07	0053	0029	使用痕のある剥片	23.4	32.6	8.0	3.38		黒曜石	-22554.940	49637.385	39.696	
21	5	04D01	0042	0017	使用痕のある剥片	16.9	20.1	6.5	1.63		黒曜石	-22553.678	49656.061	39.717	
22	5	04D00	0042	0007	使用痕のある剥片	20.0	21.8	7.0	2.61		安山岩A	-22551.838	49650.377	39.773	
23	5	03C79	0006		使用痕のある剥片	32.6	44.8	8.8	12.30		安山岩	-22538.313	49645.317	40.166	
24	5	03C87	0021		使用痕のある剥片	16.5	11.7	5.8	0.73		黒曜石				出土位置不明
25	5	03C89	0023		使用痕のある剥片	18.1	28.9	10.7	3.29		安山岩	-22544.079	49648.363	40.289	
26	5	03C75	0019	0003	剥片	28.6	24.6	5.6	1.95		黒曜石	-22537.998	49625.846	39.913	
27	5	04C05	0018	0010	磨製石斧	75.3	42.5	17.0	73.52		安山岩	-22552.922	49628.781	39.800	
28	5	04C19	0022		磨製石斧	92.3	46.5	23.1	131.00		砂岩	-22557.837	49645.284	39.678	
29	5	04D21	0007		磨製石斧	66.4	51.8	20.3	108.27		凝灰岩	-22560.277	49657.335	39.398	
1	6	04B39	0007		石鏃	18.0	15.8	2.4	0.40		珪質頁岩	-22566.846	49598.739	40.025	
2	6	04B39	0022	0013	石鏃	18.8	11.2	1.7	0.41		黒曜石	-22569.325	49595.888	39.874	
3	6	04C20	0014		石鏃	18.3	10.8	2.2	0.44		黒曜石	-22562.139	49603.578	40.128	
4	6	04C30	0012	0008	楔形石器	14.8	12.0	5.7	0.87		黒曜石	-22567.569	49601.759	39.736	
5	6	04B49	0012	0003	楔形石器	17.5	16.0	3.8	1.02		チャート	-22574.831	49595.589	39.894	
6	6	04B39	0003		楔形石器	21.3	16.4	8.0	2.37		黒曜石	-22565.992	49596.034	40.117	
7	6	04B49	0014	0005	楔形石器	18.8	23.6	8.8	4.05		チャート	-22573.216	49596.265	39.799	
8	6	04B39	0050	0041	楔形石器	19.8	21.6	6.2	2.15		黒曜石	-22568.864	49598.482	39.814	
9	6	04B39	0025	0016	楔形石器	28.3	18.3	8.6	4.26		黒曜石	-22569.576	49596.969	39.786	
10	6	04C20	0017	0001	楔形石器	19.1	18.4	6.0	1.87		黒曜石	-22564.168	49600.800	39.899	
11	6	04B39	0013	0004	楔形石器	31.8	35.7	11.1	11.66		流紋岩	-22566.473	49595.473	40.011	
12	6	04B49	0019	0010	楔形石器	21.9	29.3	11.0	4.34		黒曜石	-22571.222	49598.874	39.790	
13	6	04B49	0018	0009	楔形石器	20.0	25.5	11.8	5.52		黒曜石	-22571.036	49598.881	39.815	
14	6	04C31	0006	0002	石核	19.0	43.1	17.9	10.88		黒曜石	-22568.215	49605.948	39.884	
15	6	04B39	0038	0029	調整痕のある剥片	12.0	9.1	4.6	0.58		黒曜石	-22565.396	49597.968	39.879	
16	6	04B39	0046	0037	使用痕のある剥片	15.5	20.4	6.0	1.87		黒曜石	-22567.461	49599.432	39.868	
17	6	04C30	0009	0005	剥片	24.8	21.3	9.4	3.98		黒曜石	-22569.414	49601.111	39.814	
18	6	04C30	0001		剥片	14.4	22.0	7.9	2.38		黒曜石	-22565.111	49600.526	40.042	
19	6	04C30	0021	0017	使用痕のある剥片	26.2	24.1	7.3	2.56		黒曜石	-22567.796	49603.439	39.863	
20	6	04C21	0001		石核	37.0	22.8	9.3	8.54		黒曜石	-22560.880	49605.780	39.916	
1	外	02D15	0002		石鏃	15.6	12.5	4.1	0.65		チャート				
2	外	02D26	0002		石鏃	18.3	15.3	4.8	1.10		黒曜石				
3	外	02B20	0001		石鏃	23.8	15.4	4.0	1.10		チャート				

第32表 縄文時代 礫石器観察表

挿図番号	石器集中	グリッド	遺物番号	旧遺物番号	器種	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	被熱	石材	X座標	Y座標	Z座標	備考
1		03D16	0027		礫器	84.1	55.2	24.5	157.00		砂岩				出土位置不明
2		04C03	0007		礫器	55.5	85.2	38.4	249.50		安山岩	-22553.164	49616.710	40.084	
3		04B39	0005		礫器	112.0	82.3	42.0	446.00		凝灰岩	-22566.939	49596.121	40.105	
4		01E11	0001		礫器	91.5	71.8	30.2	254.50	○	流紋岩	-22407.410	49705.709	39.998	
5		04C02	0014		礫器	32.3	30.3	3.3	20.06		砂岩	-22550.383	49614.934	40.070	
6		03C89	0077	0051	敲石	66.4	61.9	43.1	250.00		砂岩	-22540.089	49646.701	40.129	
7		03D41	0025	0011	敲石	59.2	68.9	41.3	222.00	○	砂岩	-22524.592	49659.230	40.081	
8		04C18	0005		敲石	56.9	25.7	8.8	17.07		凝灰岩	-22555.369	49643.493	39.750	
9		03D50	0047	0031	敲石	67.4	54.3	25.7	133.00		流紋岩	-22525.590	49653.592	40.179	
10		04D02	一括		敲石	51.1	41.1	39.5	105.57		砂岩				出土位置不明
11		04C03	0010		敲石	105.4	35.4	18.8	108.72		頁岩	-22554.185	49616.309	40.012	
12		01E30	0018		敲石	114.4	45.9	29.9	216.00	○	流紋岩	-22417.227	49701.279	40.296	
13		03C86	0072	0047	磨石	27.9	46.7	28.8	17.92	○	流紋岩	-22547.547	49634.233	39.896	
14		03C86	0084	0059	磨石	34.7	73.1	43.5	146.00	○	流紋岩	-22546.945	49631.377	39.916	
15		03C86	0069	0044	敲石	84.6	54.0	31.9	219.00	○	砂岩	-22546.348	49634.161	40.023	
16		04C14	0022	0015	敲石	63.5	75.6	33.5	252.00		流紋岩	-22558.713	49621.242	39.962	
17		03C69	0012		台石	156.6	108.0	20.8	480.00		その他	-22533.965	49647.800	40.204	
18		03C99	0043	0007	磨石	44.0	72.2	21.7	50.40		砂岩	-22548.529	49645.087	40.010	
19		04C13	0022	0013	磨石	84.7	113.0	23.3	221.00		砂岩	-22557.883	49618.300	39.784	
20		04D00	0050	0015	敲石	90.7	59.8	17.8	154.50		砂岩	-22553.896	49651.221	39.735	
21		03D07	0005		凹石	96.9	62.0	53.1	372.00	○	安山岩B	-22504.511	49688.805	40.157	トロトロ石
22		03C95	0002		磨石	28.8	32.5	24.5	11.29		砂岩				出土位置不明
23		04C22	0015	0005	磨石	36.3	66.6	22.6	67.63		砂岩	-22564.219	49614.644	39.625	
24		04C22	0016	0006	磨石	39.0	69.5	28.1	89.43		砂岩	-22564.306	49614.777	39.614	
25		04C22	0017	0007	磨石	30.5	55.6	17.9	25.23		砂岩	-22564.309	49614.907	39.610	
26		04C23	0025	0001	磨石	70.3	71.3	27.2	100.81		砂岩	-22560.219	49616.193	39.770	
27		04C19	0002		敲石	88.7	69.8	32.8	276.00		砂岩				出土位置不明
28		04C19	0010		凹石	108.7	62.0	46.6	449.00		安山岩	-22557.999	49648.407	39.703	
29		01E70	0011		敲石	92.0	78.9	44.5	502.00		流紋岩	-22435.639	49701.543	39.976	

第4章　中・近世

第1節　遺構とその出土遺物

調査によって検出された遺構のうち、中・近世の遺構は、炭窯が1基、炭焼遺構2基、溝状遺構3条である（第50図）。この他、方形竪穴状遺構1基（1Dイ001）を調査したが、針金が出土する等、現代に近い遺構と思われるので割愛した。

1　炭窯

1号炭窯（2Bイ001）（第101図）

2B57グリッドで、縦横に攪乱を受け、かつ掘り込みも浅く床面をかろうじて残した形で検出した。柄鏡形に近い不整な楕円形を呈する。長軸5.85m、短軸2.35m、床は残っているところでも数cmである。焚き出し口、煙道部はピット状をなし、焚き出し口の深さ0.18m、煙道部での深さは0.26mである。炉壁材の砂、炭のブロックが床面に散在していた。遺物は性格の不明な鉄製品が2点あった。

2　炭焼遺構

1号炭焼遺構（1Dイ002）（第101図）

平面形は3.0m×2.7mの南辺が大きい台形状を呈する。上部に少量の木炭・焼土粒を含む層がみられた。床は硬化ローム面で凹凸が激しい。上部の覆土は耕作土に似ており、新しそうである。人為的に埋められている。出土遺物はない。

2号炭焼遺構（1Dイ004）（第101図、図版10）

平面形は2.0m×1.9mの正方形をなす。覆土中にはおびただしい量の木炭、生木が出土した。床は平坦で焼き締まっており、壁は垂直に近い立ち上がりを見せる。底面に内部に木炭片の詰まる「X」字形の浅い溝がみられる。床上の周縁部には焼土が堆積していた。覆土は人為的な堆積と思われる。

3号炭焼遺構（2Dイ001）（第101図、図版10）

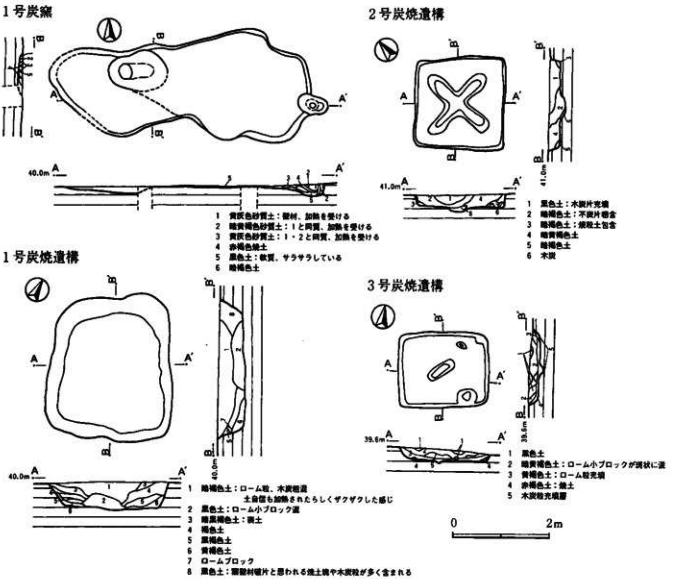
平面形は1.8m×1.6mのやや胴張気味の方形を呈する。床はほぼ平坦で堅く締まる。壁が緩やかに立ち上がり、鍋底状の断面形をなす。ピットは計3個有り、中央のものは浅い溝状のピットで、内部には木炭片が厚く堆積していた。床面周縁部壁際には焼土が薄く堆積していた。覆土下半は褐色土、上部には黒色土、ロームブロック混じりの土が重なってみられた。人為的に埋めたものであろう。

3　溝状遺構

1号溝（溝1）（第102図、図版10）

Ⅱb層上面で検出した。調査区際2B区から4C区台地端部にかけて走る溝である。幅2.0m～1.4m、深さ0.43m、長さ201mである。黒っぽい土がレンズ状に堆積していた。緩やかな弧状の断面形を呈する。覆土中から縄文土器、叩き目を持つ須恵器片、擂鉢、鉄鍋片が出土した。

1号溝とほぼ一致する位置に、国道51号線（香取道）に直交して谷地に向かう道が明治の迅速図に載っている。従って1号溝は、地割りの溝か道に伴う溝で、遺物からみて近世以降のもの思われる。



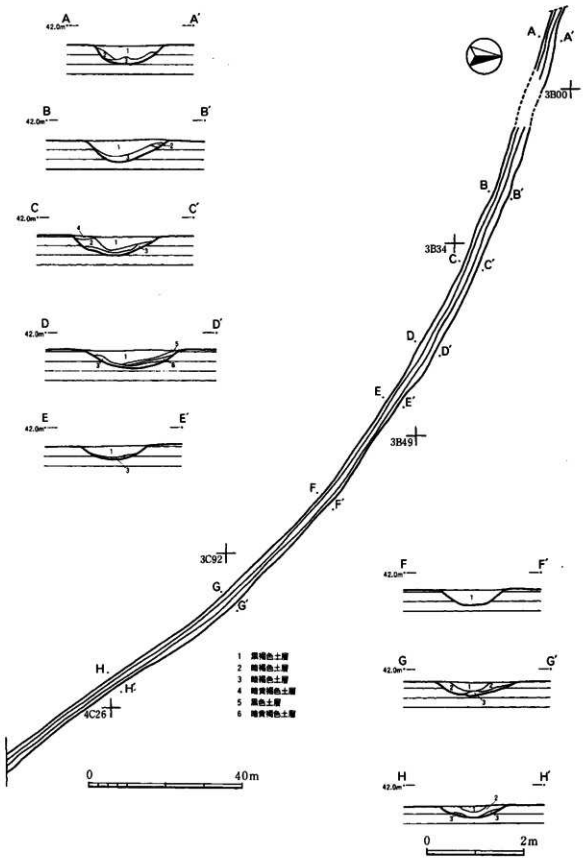
第101図　炭窯・炭焼遺構

2号溝（溝2）（第103図）

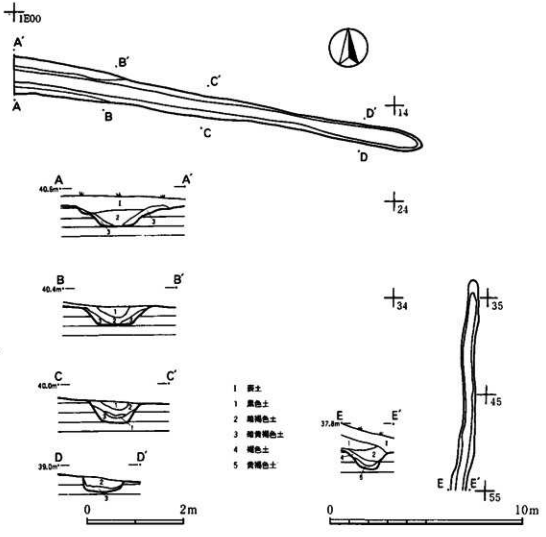
調査区北端部1E区にある。ほぼ東西に走り、高所で幅約2m、深さ0.40m、谷側で約1.5mと細くなり最後は消えている。方向がややずれるが、近い位置に、迅速図上で国道側から谷に向かう地割り線が見られる。この溝は地境に関係するものではなかろうか。

3号溝（溝3）（第103図）

2号溝の先、L字に南下する幅0.6m～0.8m、深さ0.35cmほどの細い溝で、谷に平行し、斜面の肩の部分にある。地境ないし畑の根切り溝と思われるが、水田と牧を区切る馬土手の溝の可能性もある。


A
A'
42.0m
B
B'
C
C'
D
D'
E
E'
F
F'
G
G'
H
H'
3B001
3B34
3B491
3C921
3C26
1 黒褐色土層
2 暗褐色土層
3 暗褐色土層
4 暗黄褐色土層
5 黒色土層
6 暗黄褐色土層
0
40m
0
2m

第102図　1号溝


1800
A'
B'
C'
D'
A
B
C
D
14
24
34
35
45
55
E
E'
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
40.6m
40.4m
40.0m
39.0m
37.8m
1 表土
1 黒色土
2 暗褐色土
3 暗黄褐色土
4 褐色土
5 黄褐色土
0
2m
0
10m

第103図　2号・3号溝

第5章　まとめ

第1節　旧石器時代

十余三稲荷峰西遺跡（空港No.68）からは単独出土を含め13地点から石器群が検出された。石器群は出土層位によって3つの文化層に分離された。

第1文化層はⅨc～Ⅹ層上部を中心とし、3か所の石器集中地点（石器集中1・2・12）と1か所の焼土集中地点が検出された。石器集中12は台形様石器1点を含む、2点のみの小規模地点である。石器集中1・2は小さな石器集中域で形成され、環状を呈した分布形態となっている。いわゆる「環状ブロック」と呼ばれているものである。調査区内から環状ブロックの南半部のみが検出された石器集中1は、5つの集中域に視覚的に分離され、その規模は、推定ながら直径25mである。ブロックの中心部からは遺物は検出されず、空白域となっている。石器集中2は10か所の集中域に分離されそのうち2か所は中心部分を充填するものである。その規模は南北20m・東西16mに広がり、石器集中1と比較してやや小さい。石器集中1がやや散漫なまばらな分布状況であったのに対し、石器集中2は石材種によって数か所に遺物が密に集中し、周辺に粗な集中域が広がる状況である。接合関係も石器集中1は各集中域で収束するが、石器集中2では石材種毎の2つのブロックを主体に展開し、環状を呈する視覚的な集中域にとらわれない関係が特徴である。

両石器集中地点の出土石器は台形様石器を主体としてナイフ形石器、楔形石器、スクレイパー等が伴う、比較的単純な器種構成を示している。Ⅸ層段階に特徴的に検出される局部磨製石斧や砥石類は皆無である。台形様石器の形態は刃部先端側が最大幅をもつ逆三角形状を呈する資料が多い。石器集中1のものは珪質頁岩・メノウを主体とし、素材剥片を横位に設定して片側縁に調整を施したものが多いのに対して、石器集中2のものはすべて安山岩を用いたもので、素材剥片に対して折断による側面形成や裏面への調整などが施されている。剥片剥離はいずれも一般的なものに終始し、残核は柱状となるものと扁平なものの大略2種類がある。利用石材においては両石器集中で明確な違いが見られる。石器集中1は珪質頁岩Bを主体にチャート・メノウ・黒曜石・安山岩等が加わる。石器集中2は安山岩A・安山岩Bを主体にメノウ・珪質頁岩等が若干加わり、対照的なあり方を示している。

編年的には、出土層位・石器群の分布形態・出土石器の様相等から、Ⅸc層段階（第2黒色帯下部）のものといえる。空港予定地内で同層準から石器群が検出された主な遺跡は、木の根拓美遺跡（空港No.6遺跡）・古込遺跡（空港No.14・55・56遺跡）・東峰御幸畑西遺跡（空港No.61遺跡）・東峰御幸畑東遺跡（空港No.62遺跡）・天神峰最上遺跡（空港No.64遺跡）・天神峰奥之台遺跡（空港No.65遺跡）・十余三稲荷峰遺跡（空港No.67遺跡）等が挙げられる。その中で、環状ブロックを呈する石器群は東峰御幸畑西遺跡のみである。このように空港予定地内からは同層準から豊富な石器群が検出されているが、ローム層の堆積が薄い本地域では出土層位による石器群の細かな変遷過程を追うことができない。よって、器種構成・石材構成・剥片剥離技術等からいくつかのグループに分離されるこれらの石器群は、周辺地域や近隣台地における石器群との比較検討によって、今後、明確な編年的位置づけを与えられることとなろう。

第2文化層はⅥ層を主体とし、2か所の石器集中地点が検出された。両石器集中ともチョコレート色を呈した珪質頁岩Aを主体的に用いた石器群で、楔形石器・スクレイパー・石錐・石核・剥片等が出土した。

剥片の中には有樋石刃から剥離された小石刃と同じ特徴を有する資料も数点見られる。

出土層位・石材構成から見ても、石器群は有樋石刃を中心に展開する石器群と位置づけられる蓋然性が高い。しかし、有樋石刃や石刃素材のナイフ形石器等が皆無であり、資料点数的にも制約があることから慎重に扱う必要があろう。空港関連の遺跡では、香山新田中横堀遺跡（空港No. 7遺跡）・天神峰奥之台遺跡・一鍬田甚兵衛山西遺跡（空港No.16遺跡）に、有樋石刃・小石刃・ナイフ形石器・楔形石器・折断石刃・石刃等が出土する典型的な有樋石刃石器群がある。ただ、石刃素材のナイフ形石器以外のナイフ形石器を伴い、本遺跡のように柱状を呈した石核による一般的な剥片剥離がみられる遺跡を近隣地域で挙げると、多古町千田台遺跡や大網白里町一本松遺跡等がある。

第3文化層はⅢ層（ソフトローム層）を主体とし、単独出土を含め石器集中地点は8か所から検出された。いずれも小規模な石器集中地点であるので詳細は本文に譲り、ここでは触れないこととする。

第2節　縄文時代

（1）土器について

縄文土器の出土量は細片も含め5,000点余りに上る。その内、第Ⅲ群の沈線文系土器が5割、第Ⅳ群の条痕文系土器が4割で、両者で全体の9割を占めていた。沈線文系土器は南側、条痕文系土器では全域の台地の縁辺に分布していた。

第Ⅲ群の沈線文系土器では三戸式土器の出土が多かった。多くは単独の横位文様帯を有するものである。貝殻条痕文を持つもの、無文のものも少量みられた。胎土にスコリアを含むものが特徴的にみられたが、この胎土は周辺遺跡での撚糸文系土器はもとより、田戸下層式土器にもほとんどみられないものである。おそらく三戸式の時期に特有の現象であろう。他遺跡での例を見てみなければならないが、この地域の伝統から出た土器胎土ではなく、周辺地域の影響を受けている可能性もあると思われる。

当遺跡では、沈線文系土器最古段階にあたる多段文様帯を持つ竹之内式土器に類似した例はなかった。古い段階になりそうなものは、口縁が横位沈線文、以下が擦痕文になる例（82・83）があるが、破片であり断定できない。三戸式土器では舟塚原例[1]とよばれる、田戸下層式土器によくみられる口縁上端に縦位の太沈線を有する個体（3・4・6・8）がある。また同様に田戸下層式的な太沈線を多用する例（10・11・13~16）が存在する。これらは破片では口唇部が内削ぎであることを除けば、田戸下層式土器と区別が付きがたい。従って、これらの三戸式土器は田戸下層式直前のものとしてとらえてよかろう。逆に口唇が内削ぎでなく田戸下層式とした土器にも少量のスコリアを胎土に含んでいるもの（24）は、きわめて三戸式土器に近いものとの見方ができる。

全体としてみると、当遺跡から出土した三戸式土器は、三戸式の新しい段階、すなわち田戸下層式直前のものという位置づけができよう。

第Ⅳ群の条痕文系土器は鵜ヶ島台式が主である。太い条線で区画を埋めるもので、微隆起線を伴うものも存在し、野島式に近い古い要素を持つのものとみられる。沈線で区画を作り、押し引き条線、円形刺突文を持つ、典型的な鵜ヶ島台式は見あたらなかった。次いで目立つのは、隆帯を持ち、刺突文や沈線文が施文されているもので、茅山下層式と思われるものである。縄文の施文された1号竪穴出土のものもこの類になろう。

（2）遺構について

検出された遺構は竪穴状遺構２基、土坑12基、炉穴10基、陥穴20基である（第104図）。

炉穴は台地縁辺部に位置し、条痕文系土器と重なる分布を見せている。規模が小さく、深くないが、ほとんどに作業面とされる張出部が確保されている。時期的には条痕文期が主体であろう。

住居跡としてもよさそうな竪穴状遺構は調査区中央に沈線文期の長方形のもの（１号竪穴）、条痕文土器の１個体分が出土した円形のもの（２号竪穴）の２基がみられた。両者とも炉や柱穴を持たず小型である。

陥穴はこの地域の特徴的な遺構であり、どこを調査しても検出できるといっても過言ではない。この地域に人が居住していなかった時期には、猟場として長期にわたって利用されていたことを物語るものといえる。形態は長楕円形のものの他に、従来少なかった小型の楕円形を呈し、底面にピットを持つものも存在する。深さが２ｍ以上の深い陥穴は見られなかった。使用時期を示すものは得られていない。長軸方向は等高線に直交するものが多いようである。

（３）小括

当遺跡に隣接する十余三稲荷峰遺跡（空港No.67遺跡）[2]は、沈線文系土器と条痕文系土器が主体となり、状況が似ている遺跡である。規模ははるかに大きく、当該期の良好な住居跡が多数検出され、遺物も大量に出土している。現在整理作業が緒についたばかりであり、把握できていないが、いずれ整理作業が進展すれば、各時期の内容がつまびらかにされることであろう。それにより各種の課題も解決されることが期待される。詳細な考察についてはその後にゆずることとしたい。

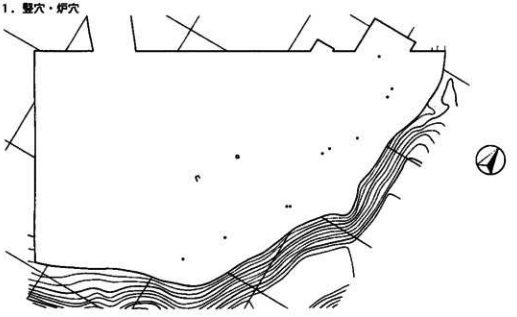
第３節　中・近世遺構

検出された遺構は瓢箪形の炭窯１基、方形炭焼き遺構３基、溝３条であった。江戸時代はこの地域は矢作牧の範囲であった。今回、確実に牧に関係するものは検出されなかったが、それとの関連の可能性も考慮に入れておかなければならないだろう。

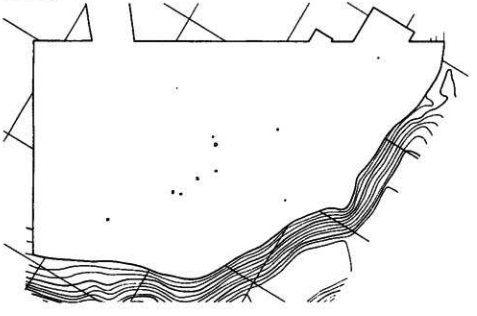
注１　西川博孝　1980「三戸式土器の研究 千葉県舟塚原古墳封土出土土器を中心として」
「古代探叢－滝口宏先生古希記念考古学論集－」早稲田大学出版部

２　石橋宏克　1988「新東京国際空港No.67遺跡出土の三戸式土器」
「研究連絡誌」第22号　(財)千葉県文化財センター

1．竪穴・炉穴



2．土　坑



3．陥　穴

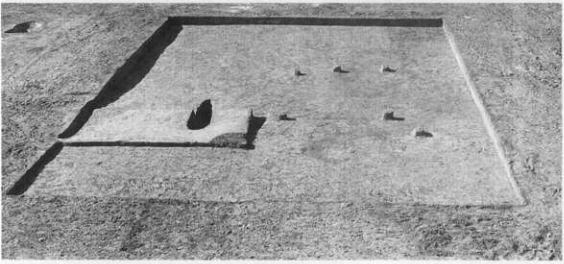
第104図　縄文時代遺構の種別分布図

写　真　図　版

遺跡周辺航空写真

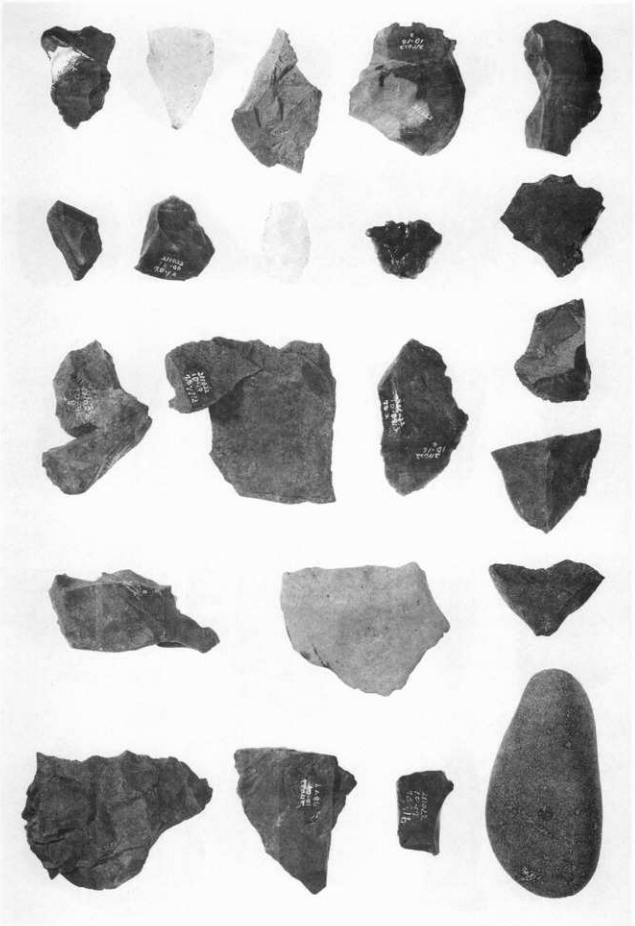
石器集中 1
出土状況（1）

石器集中 1
出土状況（2）

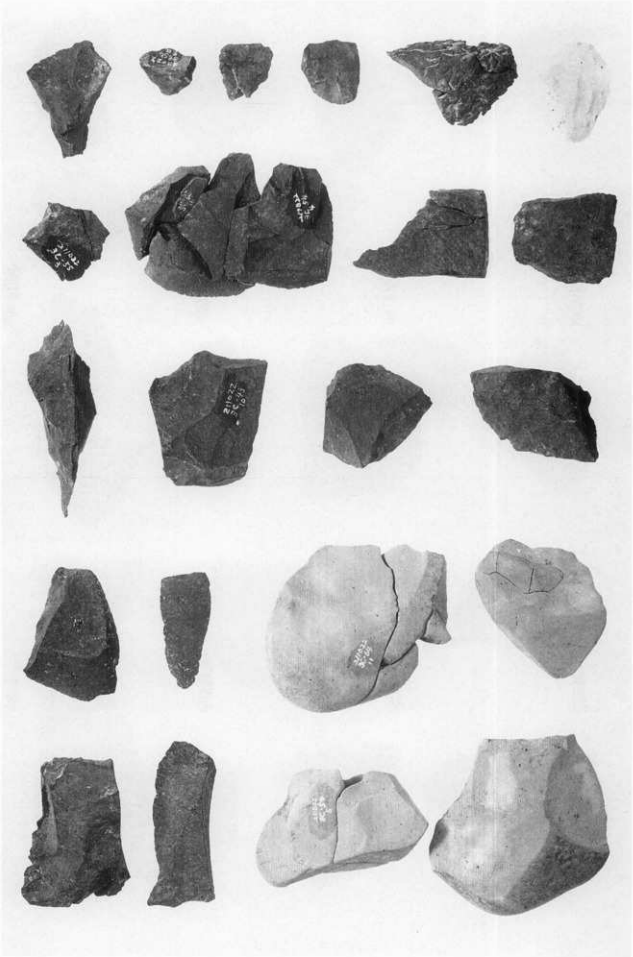


石器集中 4
出土状況

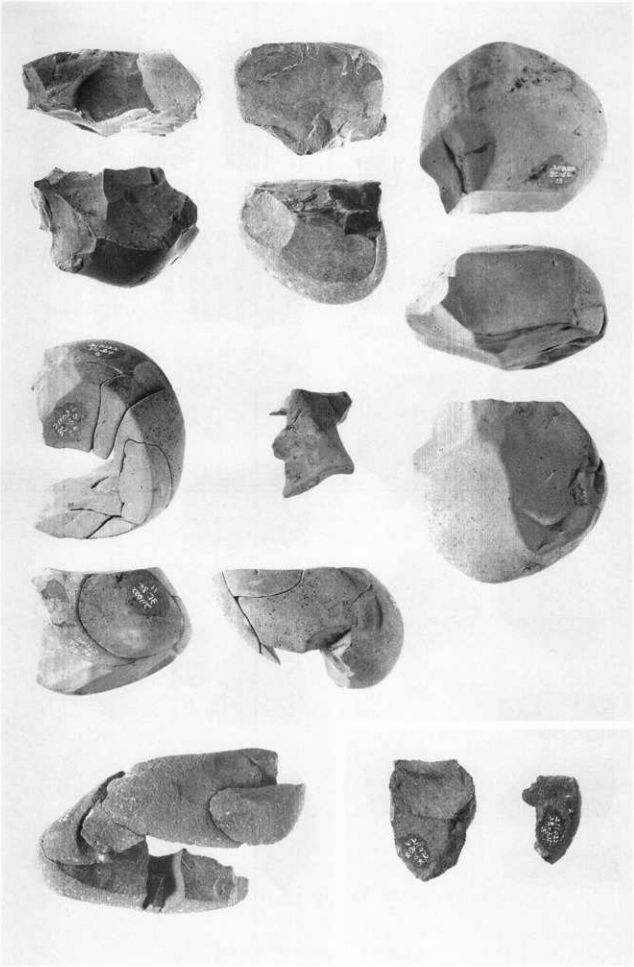
縄文時代遺物包含層
出土状況（3C75グリッド付近）



石器集中1　出土石器



石器集中2　出土石器（1）

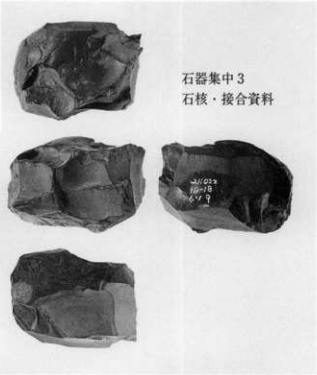


石器集中2　出土石器（2）

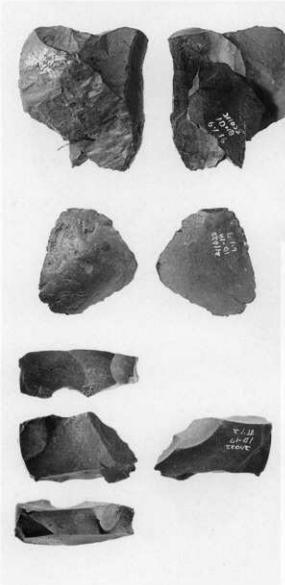
石器集中12　出土石器

石器集中3

石器集中3

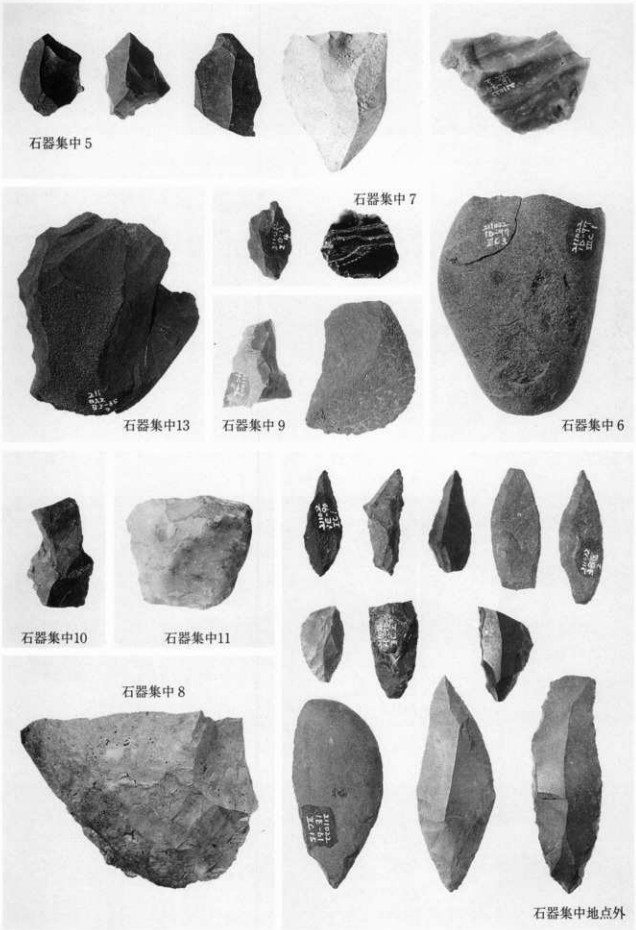


石器集中3
石核・接合資料



石器集中4

石器集中3，石器集中4　出土石器

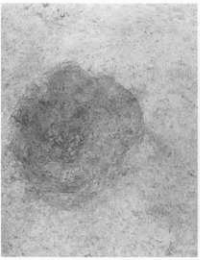


石器集中5～11・13，石器集中地点外　出土石器

図版8

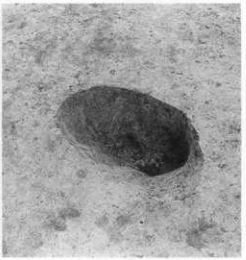
1号竪穴

2号竪穴



3号土坑

4号土坑

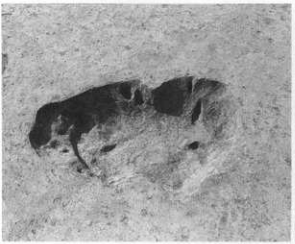


6号土坑

7号土坑

8号土坑

9号土坑



10号土坑

11号土坑

12号土坑

1号炉穴

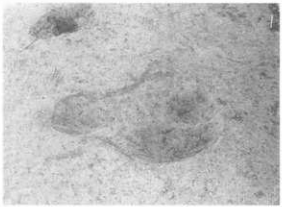
2号炉穴

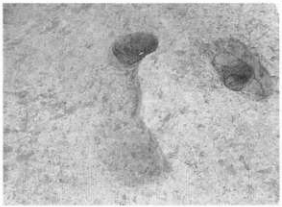
3号炉穴

4号炉穴

5号炉穴

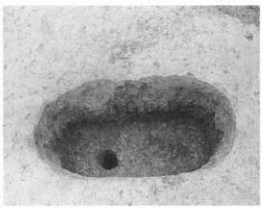
6号炉穴

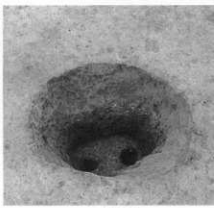

7号炉穴


8号炉穴

9号炉穴

5号陥穴


6号陥穴

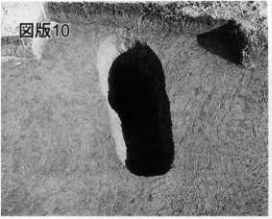

7号陥穴

8号陥穴

9号陥穴

10号陥穴

図版10



11号陥穴

13号陥穴

14号陥穴

15号陥穴

16号陥穴

17号陥穴

18号陥穴

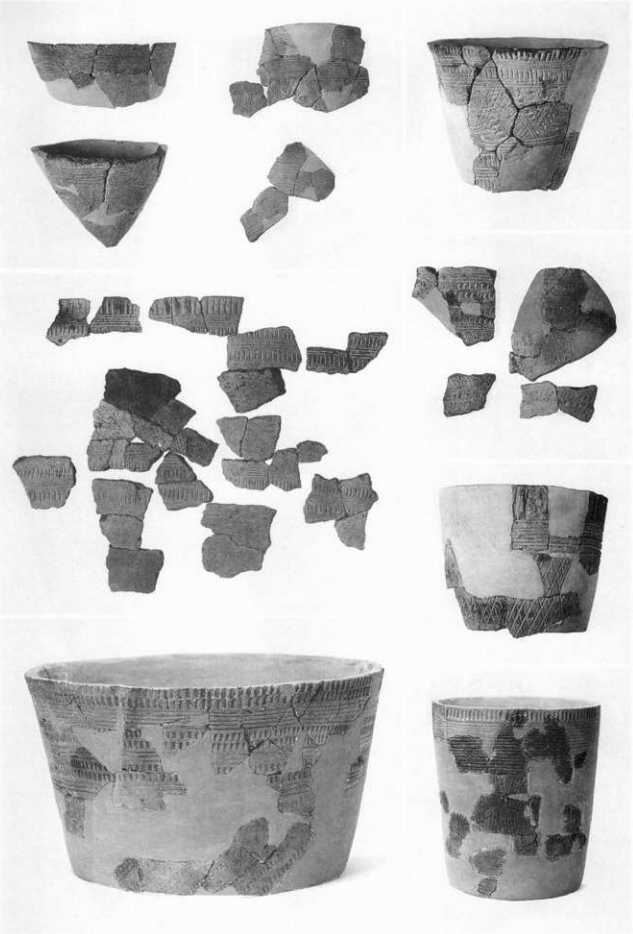
19号陥穴

20号陥穴

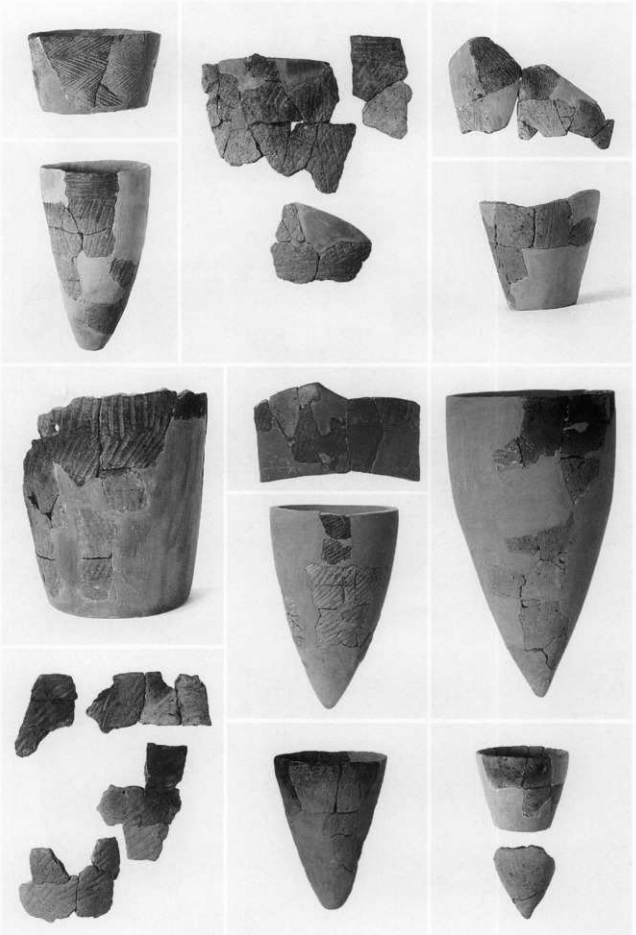
2号炭焼遺構

3号炭焼遺構

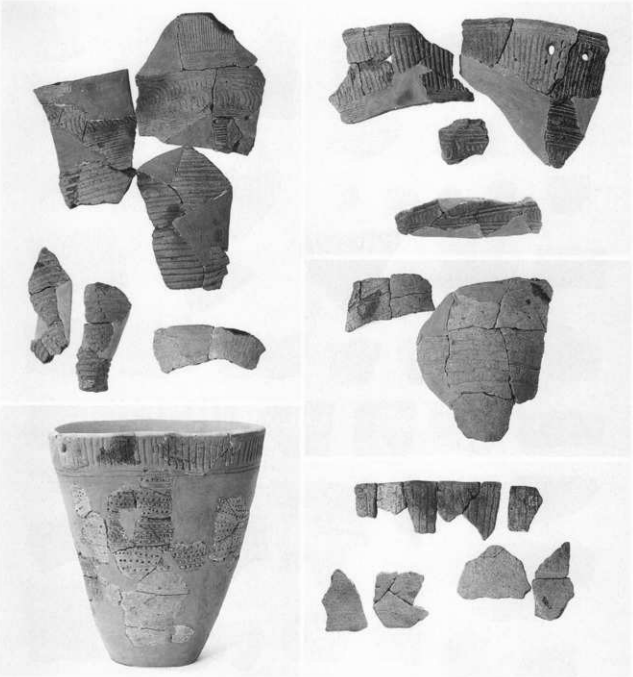
1号溝



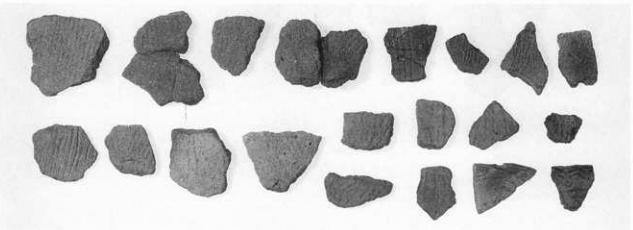
グリッド出土　第Ⅲ群土器（1）



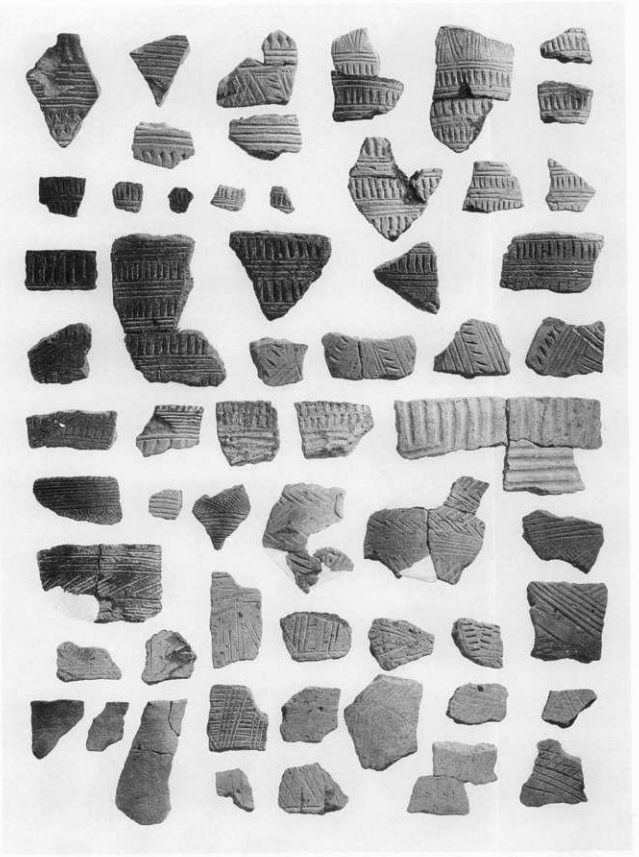
グリッド出土　第Ⅲ群土器（2）



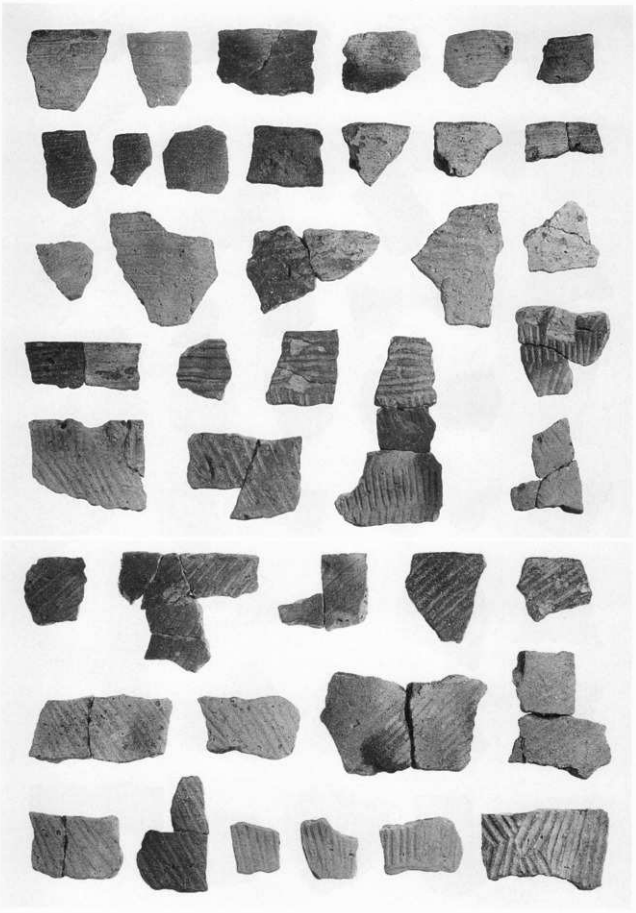
グリッド出土　第Ⅲ群土器（3）



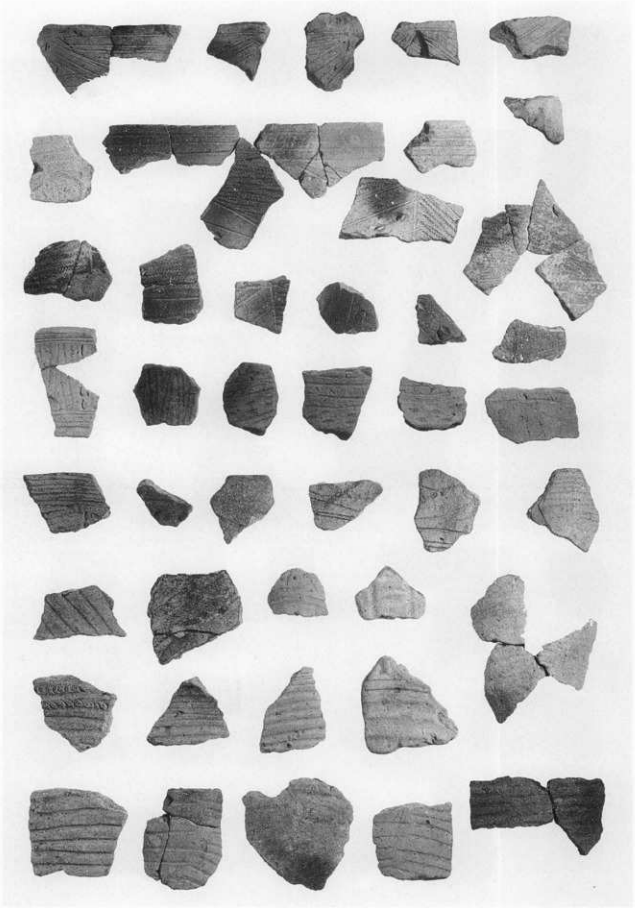
グリッド出土　第Ⅰ・Ⅱ群土器



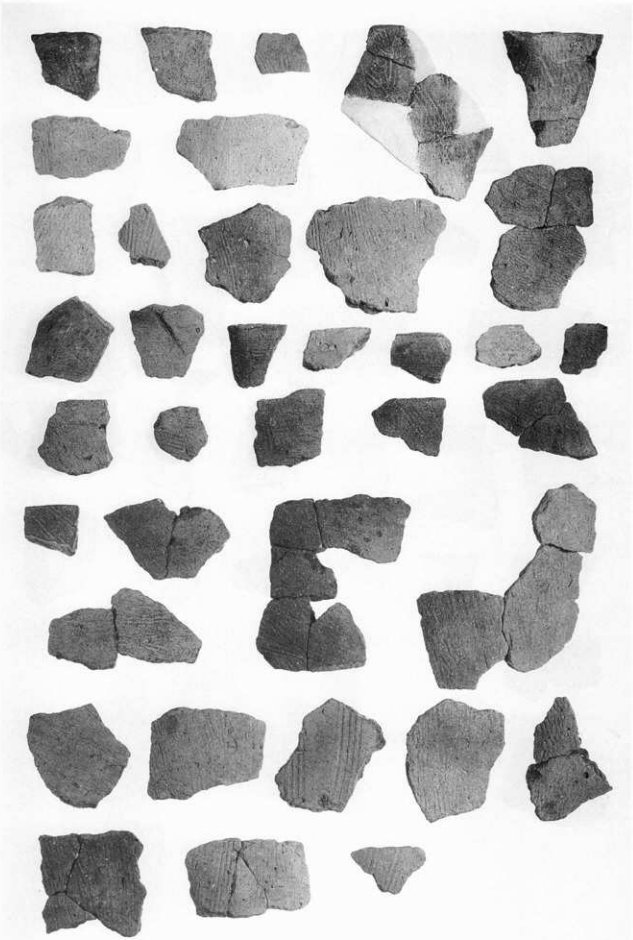
グリッド出土　第Ⅲ群土器（4）



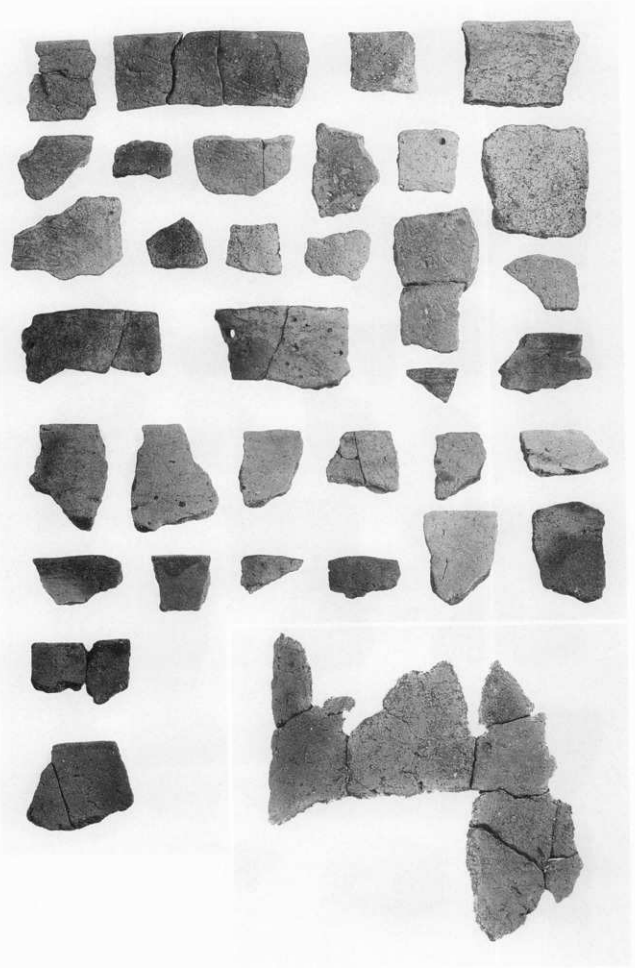
グリッド出土　第Ⅲ群土器（5）



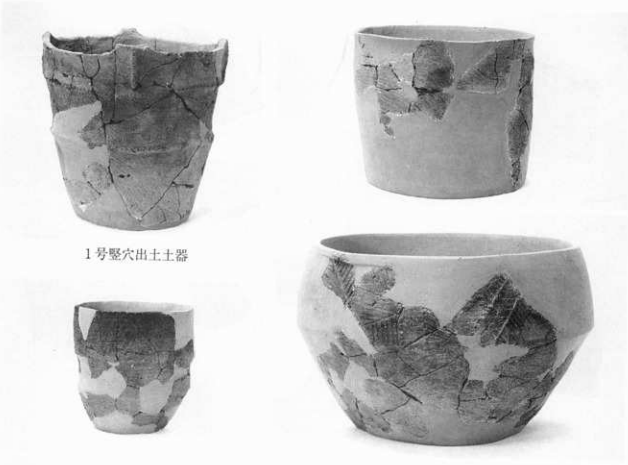
グリッド出土　第Ⅲ群土器（6）



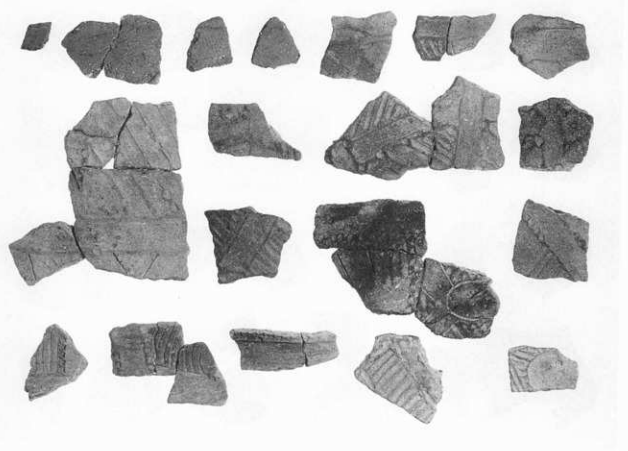
グリッド出土　第Ⅲ群土器（7）



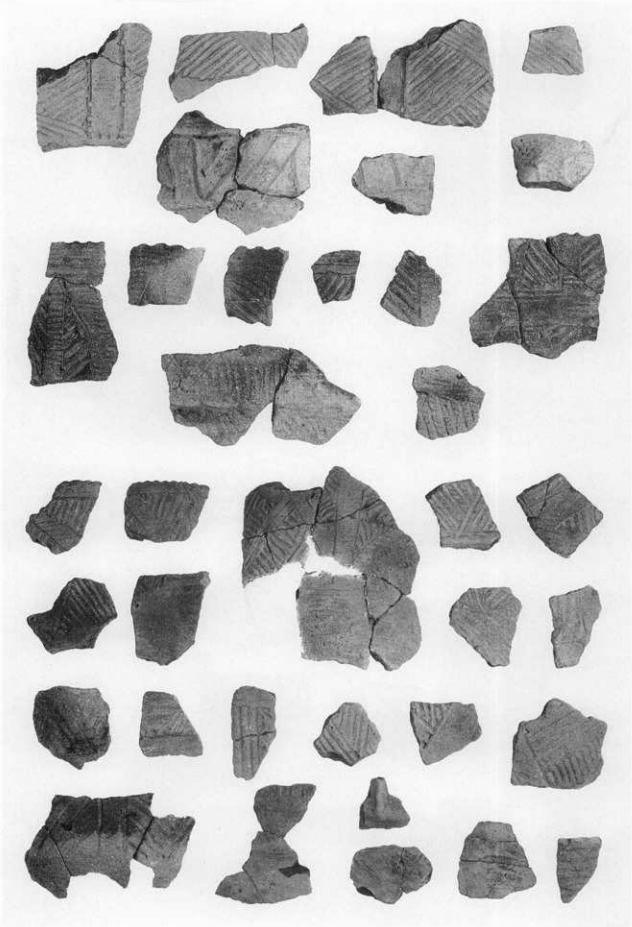
グリッド出土　第Ⅲ群土器（8）



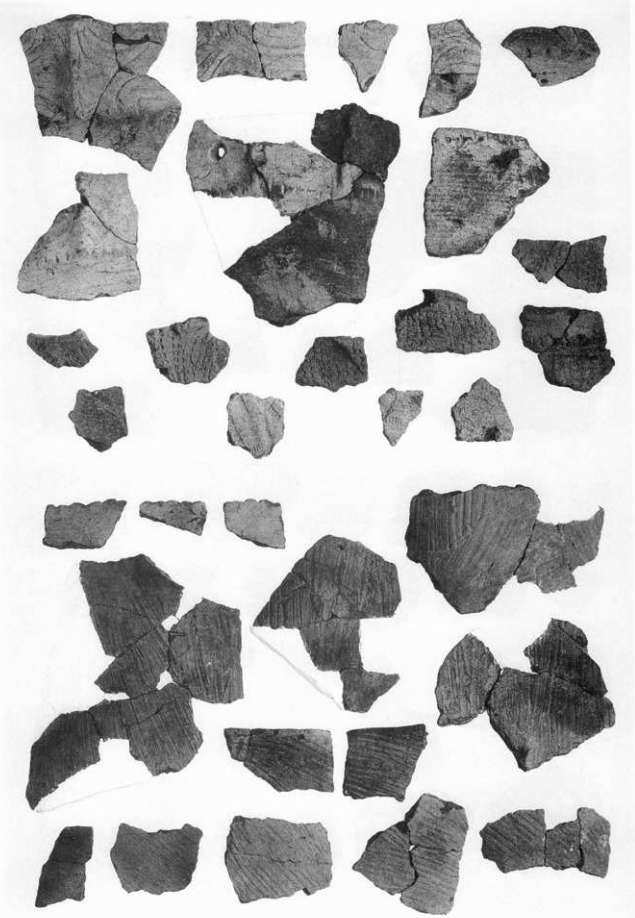
1号竪穴出土土器



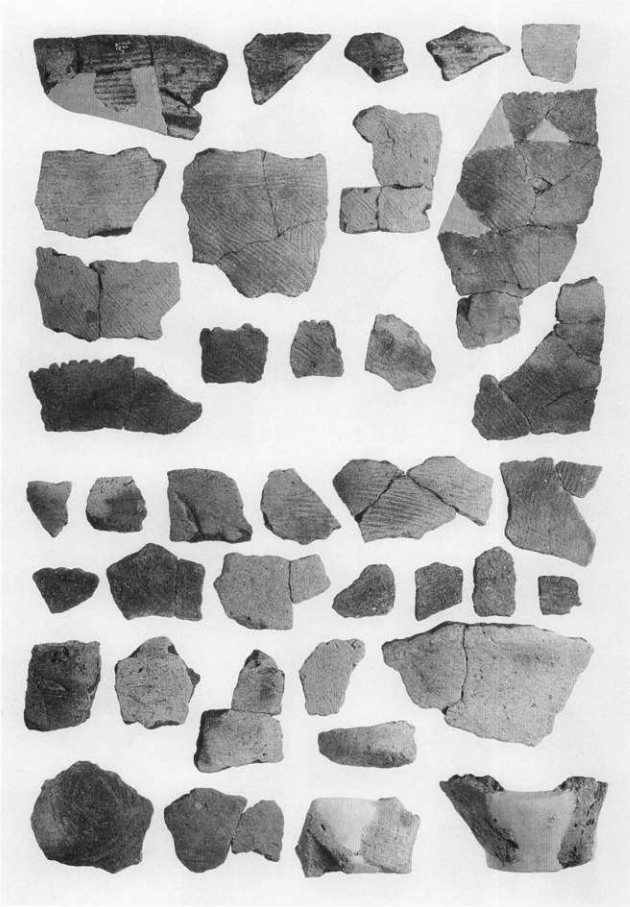
グリッド出土　第Ⅳ群土器（1）



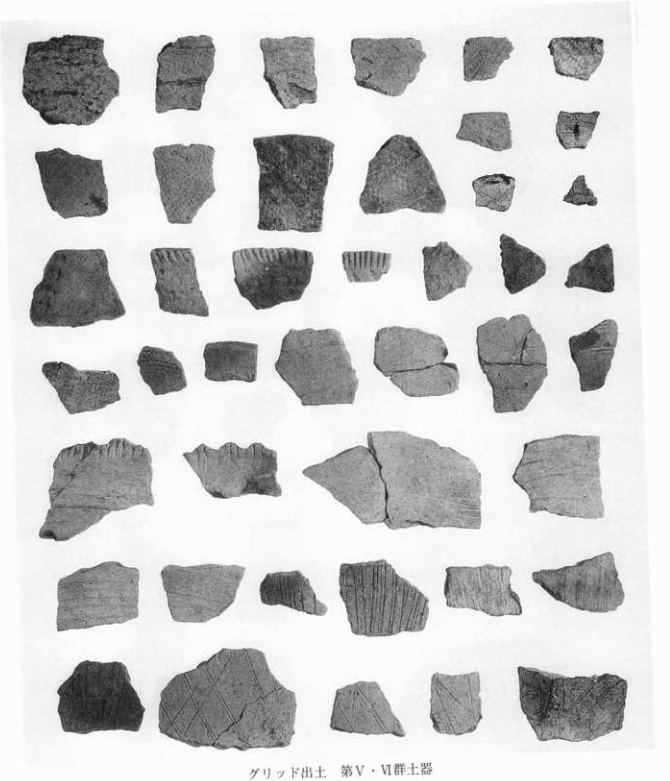
グリッド出土　第Ⅳ群土器（2）



グリッド出土　第Ⅳ群土器（3）

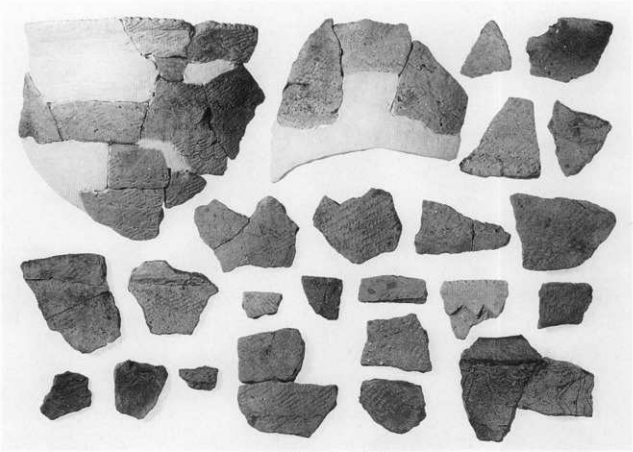


グリッド出土　第Ⅳ群土器（4）

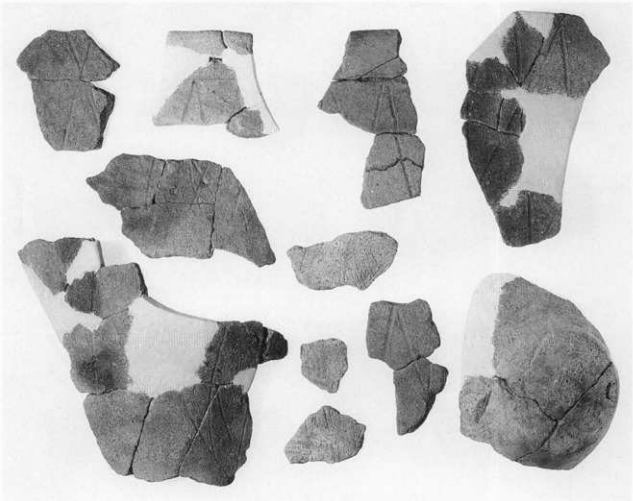


グリッド出土　第Ⅴ・Ⅵ群土器

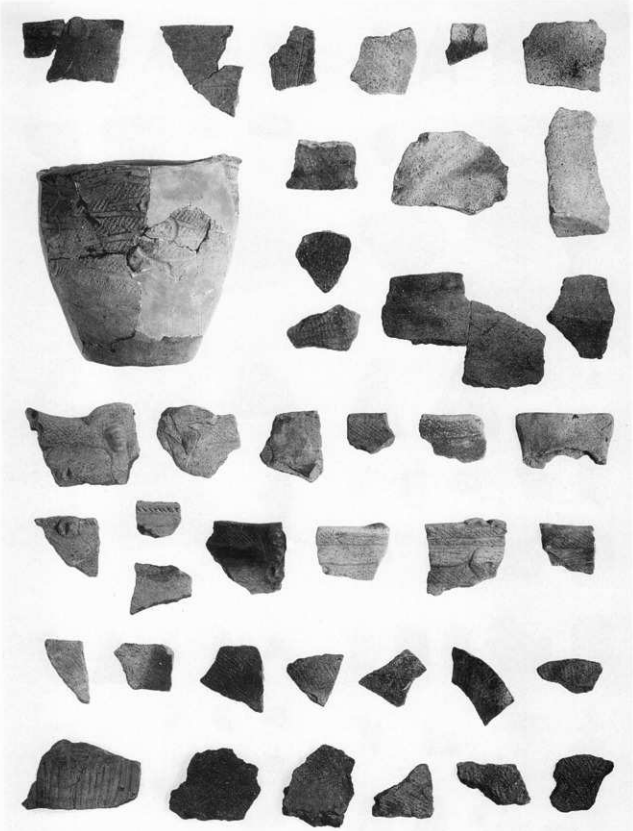
2号竪穴・土坑・炉穴・陥穴出土土器



グリッド出土　第Ⅶ群土器

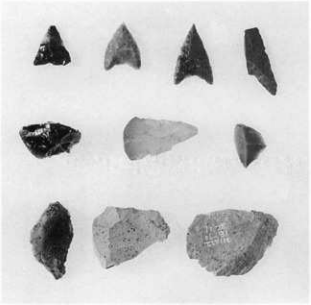


グリッド出土　第Ⅷ群土器（1）

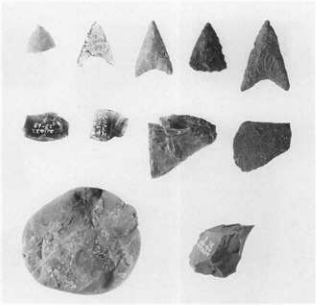


グリッド出土　第Ⅶ群土器（2）

土製品



石器集中1



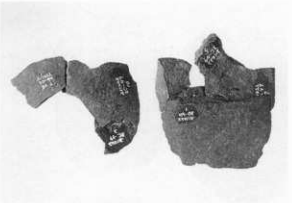
石器集中2

石器集中3（1）

石器集中3（2）

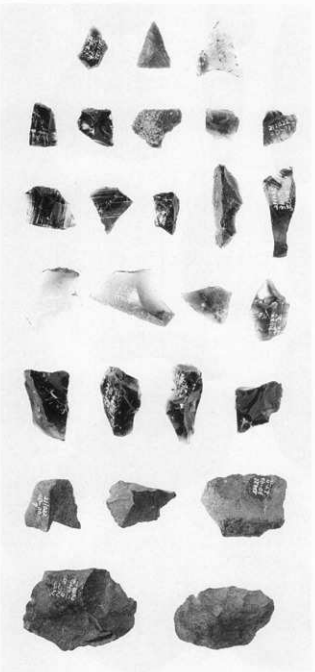
石器集中4（1）

縄文石器集中　出土石器（1）

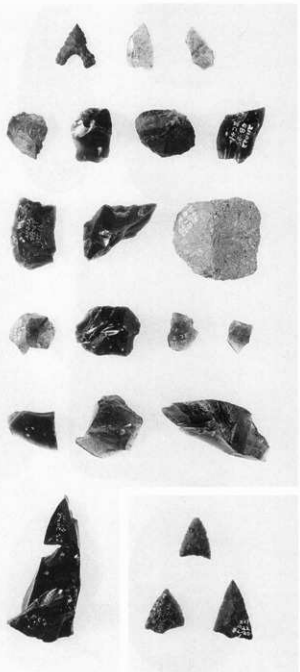


石器集中4（2）

石器集中5（1）



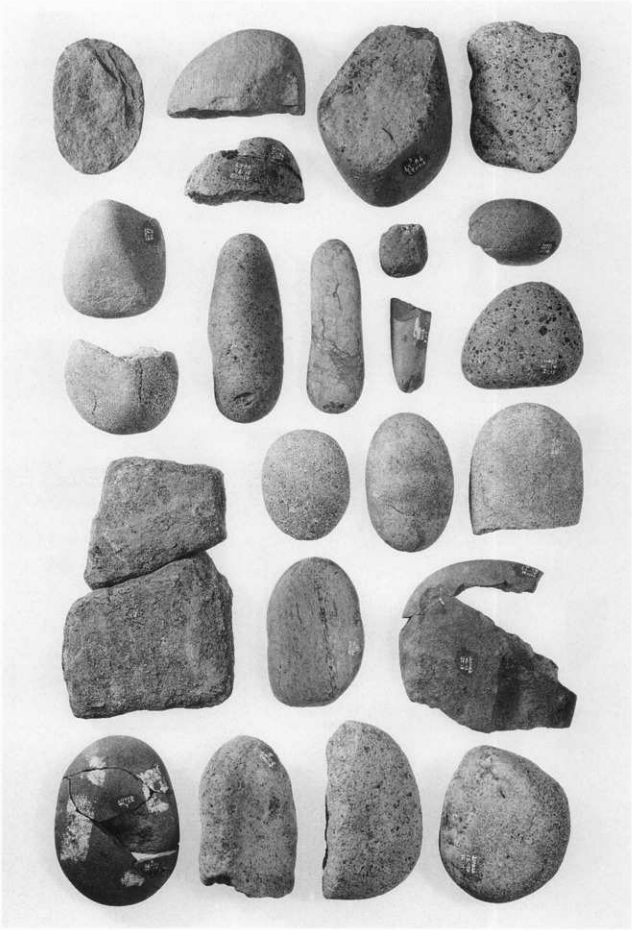
石器集中5（2）



石器集中6

石器集中地点外

縄文石器集中　出土石器（2），石器集中地点外出土石器



礫石器

報告書抄録

ふりがな	しんとうきょうこくさいくうこうまいぞうぶんかざいはっくつちょうさほうこくしょⅡ
書名	新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書ⅩⅡ
副書名	十余三稲荷峰西遺跡（空港No.６８遺跡）
巻次	ⅩⅡ
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告
シリーズ番号	第３８６集
編著者名	宮　重行　麻生正信　永塚俊司
編集機関	財団法人　千葉県文化財センター
所在地	〒284-0003　千葉県四街道市鹿渡809番地２　TEL043-422-8811
発行	西暦　２０００年３月３１日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″		㎡	
十余三稲荷峰西（空港No.68）	千葉県成田市十余三字稲荷峰151 他	12211	022	35度47分43秒	140度22分17秒	19810811～19820116 19910501～19910531	15,000 3,000	新東京国際空港建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
十余三稲荷峰西遺跡（空港No.68遺跡）	包蔵地 集落跡	旧石器	石器集中地点　13地点	ナイフ形石器、台形様石器、尖頭器、楔形石器、掻器、削器、石核、剥片	複数の文化層から石器群が出土 石器集中地点の内、２地点が環状ブロックを形成
		縄文	竪穴状遺構　２基 土坑　12基 炉穴　10基 陥穴　20基 石器集中地点　６地点	撚糸文、押型文、三戸式、田戸下層式、野島式、鵜ヶ島台式、茅山上層式 黒浜式、浮島式、興津式、下小野式 称名寺式、堀之内式、加曽利Ｂ式、安行Ⅱ式、安行Ⅲａ式 石鏃、楔形石器、石斧、磨石、礫器他	沈線文系土器が多量に出土
		中・近世	溝状遺構　３条 炭焼遺構　２基 炭窯　１基	陶器、鉄製品	

千葉県文化財センター調査報告第386集

新東京国際空港埋蔵文化財発掘調査報告書XII

－十余三稲荷峰西遺跡（空港No.68遺跡）－

平成12年３月31日発行

編　集　財団法人　千葉県文化財センター

発　行　新東京国際空港公団
成田市新東京国際空港内
（成田市木の根字神台24）

財団法人　千葉県文化財センター
四街道市鹿渡809－2

印　刷　昭和プリント株式会社
佐原市佐原イ345